



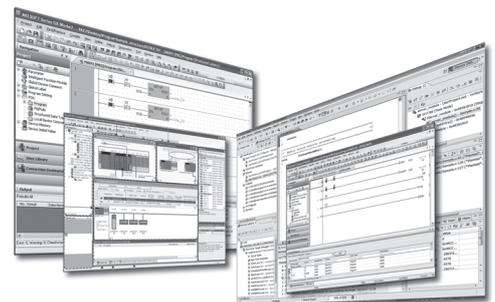
MELSOFT

エンジニアリングソフトウェア

# MX Component Version 4 オペレーティングマニュアル

---

-SW4DNC-ACT-J





# 安全上のご注意

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては、本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては、CPUユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

この「安全上のご注意」では、安全注意事項のランクを「 警告」、「 注意」として区分してあります。

 <b>警告</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
 <b>注意</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

## [設計上の注意事項]

### 警告

- パソコンから運転中のシーケンサに対するデータ変更、状態制御は常にシステム全体が安全側に働くようにシーケンサシステムの外部でインタロック回路を構成してください。  
また、周辺機器からシーケンサCPUへのオンライン操作において、ケーブルの接続不良などによる交信異常発生時のシステムとして処置方法を取り決めておいてください。

## [設計上の注意事項]

### 注意

- パソコンを運転中のCPUユニットに接続して行うオンライン操作(特に強制出力、運転状態の変更)については、マニュアルを熟読し十分に安全を確認の上実施してください。  
操作ミスにより機械の破損や事故の原因になります。

## [セキュリティ上の注意事項]

### 警告

- ネットワーク経由による外部機器からの不正アクセス、DoS攻撃、コンピュータウイルスその他のサイバー攻撃に対して、シーケンサ、およびシステムのセキュリティ(可用性、完全性、機密性)を保つため、ファイアウォールやVPNの設置、コンピュータへのアンチウイルスソフト導入などの対策を盛り込んでください。

## 製品の適用について

---

- (1) 当社シーケンサをご使用いただくにあたりましては、万一シーケンサに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。
- (2) 当社シーケンサは、一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。  
したがって、以下のような機器・システムなどの特殊用途へのご使用については、当社シーケンサの適用を除外させていただきます。万一使用された場合は当社として当社シーケンサの品質、性能、安全に関する一切の責任（債務不履行責任、瑕疵担保責任、品質保証責任、不法行為責任、製造物責任を含むがそれらに限定されない）を負わないものとさせていただきます。
  - ・各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途
  - ・鉄道各社殿および官公庁殿など、特別な品質保証体制の構築を当社にご要求になる用途
  - ・航空宇宙、医療、鉄道、燃焼・燃料装置、乗用移動体、有人搬送装置、娯楽機械、安全機械など  
生命、身体、財産に大きな影響が予測される用途ただし、上記の用途であっても、具体的に用途を限定すること、特別な品質（一般仕様を超えた品質等）をご要求されないこと等を条件に、当社の判断にて当社シーケンサの適用可とする場合もございますので、詳細につきましては当社窓口へご相談ください。
- (3) DoS攻撃、不正アクセス、コンピュータウイルスその他のサイバー攻撃により発生するシーケンサ、およびシステムトラブル上の諸問題に対して、当社はその責任を負わないものとさせていただきます。

# ご使用上の注意事項

本項では下記の順序で注意事項の説明を行っています。

1. 使用するOS, パソコンの注意事項
2. インストール, アンインストール時の注意事項
3. シーケンサCPU関連の注意事項
4. 他MELSOFT製品使用時の注意事項
5. Ethernetユニット使用時の注意事項
6. CC-Linkユニット使用時の注意事項
7. シリアルコミュニケーションユニット使用時の注意事項
8. モデム通信時の注意事項
9. プログラミング時の注意事項
10. Microsoft® Excel®使用時の注意事項
11. Microsoft® Access®使用時の注意事項
12. VBScript使用時の注意事項
13. ロボットコントローラ使用時の注意事項
14. 通信時の注意事項
15. 通信設定ユーティリティの設定保存時の注意事項

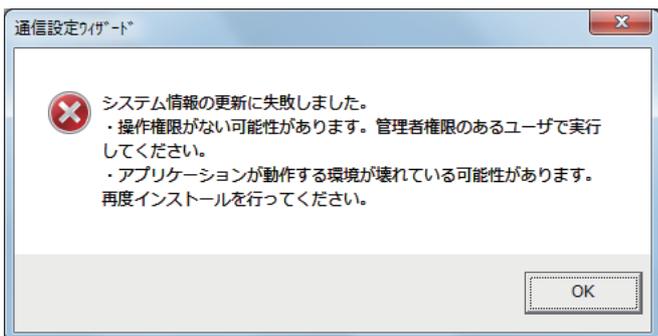
## 使用するOS, パソコンの注意事項

### ■Administrator権限のないユーザでMX Componentを動作させる場合の制約

Administrator権限のないユーザでMX Componentを動作させる場合、下記の制約があります。

項目	制約事項
通信設定ユーティリティ	論理局番の作成, 変更, および削除が行えません。 通信設定のインポートが行えません。 MX Component Version 3.00Aより前のバージョンで通信設定を行っている場合、起動できません。 <sup>*1</sup>
シーケンサモニタユーティリティ	MX Component Version 3.00Aより前のバージョンで通信設定を行っている場合、起動できません。 <sup>*1</sup> デバイス登録モニタで、デバイス登録が行えません。
通信ボード	CC-Link IEコントローラネットワーク, CC-Link IEフィールドネットワーク, MELSECNET/H, CC-Link Ver.2ボードの各ユーティリティで、各種設定が行えません。

\*1 下記のエラーメッセージが表示された場合、一度Administrator権限のあるユーザでユーティリティを起動・終了してください。その後はAdministrator権限のないユーザでも、ユーティリティが起動できるようになります。



### ■パソコンのレジューム機能などについて

パソコンのレジューム機能・サスペンド設定・省電力機能・スタンバイモードを設定してシーケンサCPUと通信すると、通信エラーが発生することがあります。

そのため、シーケンサCPUと通信する場合は、上記機能の設定を行わないでください。

## インストール、アンインストール時の注意事項

### ■インストールについて

上書きインストールを行う場合は、すでにインストールされているフォルダと同じフォルダにインストールしてください。

### ■スタートメニューについて

MX Componentをアンインストールした場合に、スタートメニューに項目が残ることがあります。

その場合は、パソコンを再起動してください。

### ■インストーラをダウンロードして使用する場合

インストーラをダウンロードして使用する場合、スペースを含まないディレクトリに保存し実行してください。

## シーケンサCPU関連の注意事項

### ■USB通信時の注意事項

シーケンサCPUと通信中にUSBケーブルの脱着、シーケンサCPUのリセットおよび電源のOFF/ONを頻繁に行うと、通信エラーが発生し復旧しない場合があります。

その場合は、USBケーブルを一度完全に抜いて5秒以上経過後に再度装着してください。

なお、本操作後も初回通信時にエラーとなる場合がありますが、2回目以降は正常に機能します。

### ■シーケンサCPUの時計データについて

- QCPU(Qモード)、LCPU、およびFXCPUでは、シーケンサCPUがRUN状態でも時計データの設定が可能です。
- QCPU(Qモード)およびLCPUは、時計設定用デバイス"SM1028"のON/OFF状態に関係なく設定を行えます。
- FXCPUは、時計機能内蔵の機種、またはRTCカセット装着時のFX2、FX2C、FX2NCで、時計データが設定できます。
- 時計設定は、転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。

### ■FXCPU使用時の制約事項

- FXCPU使用時のTNデバイス(タイマ現在値)およびCNデバイス(カウンタ現在値)へのアクセスは、デバイス番号199以前からデバイス番号200を越えてアクセスすることはできません。
- FXCPUは、シーケンサCPUとしてPAUSEスイッチを持たないため、SetCpuStatusでリモートPAUSEを指定するとエラーを返します。
- ユニットが存在しない先頭I/O番号を指定してWriteBuffer()メソッドを実行しても、エラーは返りませんので注意してください。
- FXCPUのインデックスレジスタ(Z、V)に対して、WriteDeviceBlock()で2点以上を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書き込み可能です。)

### ■Q00UJ/Q00/Q00U/Q01/Q01U/Q02UCPUのシリアルコミュニケーション機能

本項では、Q00UJ/Q00/Q00U/Q01/Q01U/Q02UCPUをシリアルコミュニケーション機能対応CPUと記載します。

下記の条件をすべて満たすときは、パソコン-シリアルコミュニケーション機能対応CPU間の通信速度は9600bpsです。

- 接続CPUのシリアルコミュニケーション機能が有効になっている。
- パソコン側伝送速度設定とシリアルコミュニケーション機能対応CPU側伝送速度設定が異なっている。

なお、通信速度を向上させたい場合は、パソコン側伝送速度とシリアルコミュニケーション機能対応CPU側伝送速度を一致させてください。

### ■Ethernet内蔵形CPU使用時の注意

- MX Componentを使用してTCP/IPコネクション確立中(Open中)にシーケンサCPUをリセットすると、それ以降の通信時に通信エラーや受信エラーが発生します。  
その場合は、MX Componentを使用するアプリケーション内でクローズ処理をしたあと、再度オープン処理を行ってください。
- 別のパソコンでEthernet直結接続で通信していたCPUに対して、Ethernet直結接続を行う場合に通信エラーとなる場合があります。この場合は、CPUをリセットし再度通信を実行してください。

### ■RnSFCPU使用時の注意

安全シーケンサシステムを保護するため、セーフティモードでの、バッファメモリに対する書込み、安全デバイスに対する書込みを行う関数は実行できません。

### ■QSCPU使用時の注意

安全シーケンサシステムを保護するため、セーフティモードでの、バッファメモリに対する書込み、安全デバイスに対する書込みを行う関数は実行できません。

### ■FX5CPU使用時の注意

- Ethernet直結接続で使用するアダプタを指定し通信する場合は、異なるアダプタを指定した経路で複数同時に通信することはできません。
- 通信設定のパソコン側アダプタの情報は、パソコン環境の変化や他のMELSOFTアプリケーションの設定により、再設定が必要になる場合があります。

## 他MELSOFT製品使用時の注意事項

### ■GX Simulator通信時の注意事項

シーケンサモニタユーティリティ、通信設定ユーティリティおよびユーザプログラムを実行する際は、GX SimulatorおよびGX Developerが起動していることを確認してください。また、ユーザプログラム実行中に、GX SimulatorおよびGX Developerを終了しないでください。

ユーザプログラムが正常に終了できなくなります。

### ■MT Simulator2通信時の注意事項

- MX Componentをインストール後に、MT Developer2をインストールしてください。
- MT Simulator2への接続可能数は、最大4本です。

接続可能数にはMT Developer2を含みます。

MT Developer2を起動し、MT Simulator2を1台起動している場合、MX Componentより3本までの接続が可能です。

## Ethernetユニット使用時の注意事項

### ■TCP/IPコネクション確立中のシーケンサCPUリセット

MX Componentを使用してTCP/IPコネクション確立中(Open中)にシーケンサCPUをリセットすると、それ以降の通信時に通信エラーや受信エラーが発生します。

その場合は、MX Componentを使用するアプリケーション内でクローズ処理をしたあと、再度オープン処理を行ってください。

### ■Ethernetユニットの対象先生存確認開始間隔について

パソコンからクローズ処理(Close)を実行しても、Ethernetユニットがクローズ処理(Close)を実行しない場合があります。このような原因の1つに、ケーブルの断線があげられます。

Ethernetユニットがクローズ処理(Close)を実行しない状態でパソコンからオープン処理(Open)を実行しても、Ethernetユニットが対象先生存確認を行い、Ethernetユニットのクローズ処理(Close)を実行するまでは、パソコンからのオープン処理(Open)は正常終了しません。

パソコンからオープン処理(Open)を早期に終了させたい場合は、Ethernetユニットの対象先生存確認間隔を短く設定してください。

(Ethernetユニットの対象先生存確認開始間隔は、デフォルトでは10分となっています。)

### ■Ethernetユニットの交換

Ethernet通信を行っている際、デバッグや故障などによりEthernetユニットを交換した場合は、他ノード(パソコン)側の再起動が必要となります。

(Ethernetアドレス(MACアドレス)が機器ごとに異なっているためです。)

## ■Qシリーズ対応Ethernetユニット使用時の同時アクセスについて

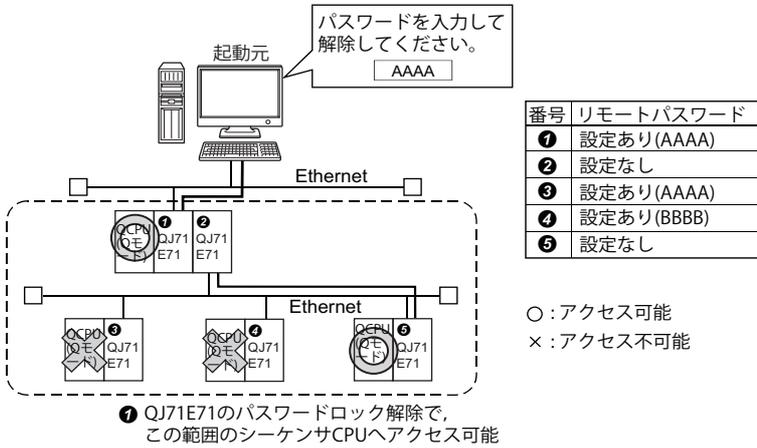
複数のパソコンから同一ユニットにTCP/IPプロトコルを用いて同時に通信を行う場合は、下記の条件を満たしてください。

- ・ シリアルNo.の上5桁が"02122"以降で機能バージョンB以降のQシリーズ対応E71ユニット(QJ71E71-100を除く)を使用する。
- ・ GX Developer Version 6.05F以降を使用して、Ethernetパラメータの[オープン方式]を"MELSOFT接続"に設定する。

## ■QJ71E71使用時のパスワードロック解除について

遠隔操作によりパスワードロックを解除できる範囲は、接続対象局までです。

下位階層側にもパスワードが設定されていると、下位の階層のシーケンサCPUと通信することはできません。

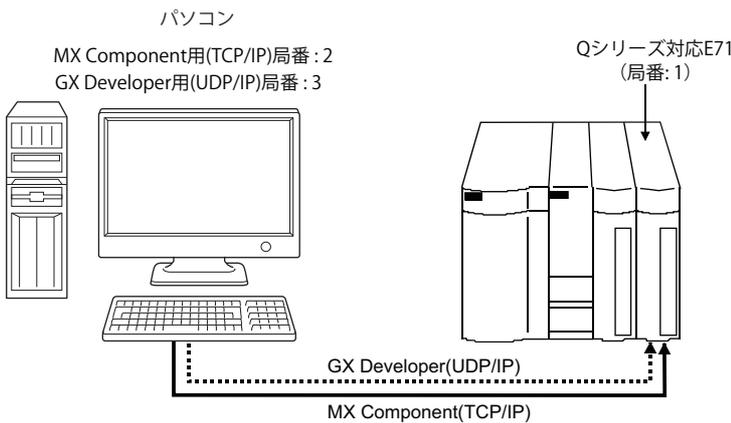


## ■Ethernet通信について

- ・ Ethernet通信(プロトコルがTCP/IPの場合)にCPUダウンまたはEthernetユニットのリセットが発生すると、通信回線が切断されます。  
その場合は回線クローズ処理(Close)を実行後、再オープン処理(Open)を行ってください。
- ・ 1台のパソコンから2種類の通信方式(プロトコル)を使用して1台のQシリーズ対応E71にアクセスを行う場合、TCP/IP用局番とUDP/IP用局番の2通りを設定する必要があります。  
ただし、MX Component Version 3以降とシリアル番号"05051"以降のQシリーズ対応E71を使用する場合は、TCP/IP用局番およびUDP/IP用局番を別々に設定する必要はありません。

### 例

MX ComponentがTCP/IP、GX DeveloperがUDP/IPを使用する場合



MX Component用(TCP/IP)局番とGX Developer用(UDP/IP)用局番は、異なる局番に設定してください。  
同一局番に設定すると、Ethernetユニット側でエラーが発生します。

## CC-Linkユニット使用時の注意事項

### ■CC-Linkマスタ・ローカルユニットのソフトウェアバージョン

CC-Link通信で使用するCC-Linkマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン"N"以降を使用してください。  
"M"以前のソフトウェアバージョンのユニットでは、正常に動作しません。

## シリアルコミュニケーションユニット使用時の注意事項

### ■シリアルコミュニケーション通信について

- ・シリアルコミュニケーションユニットでは、すべての接続でリモート操作"PAUSE"がエラーとなります。
- ・FX0N, FX1S, FX1N(C), FX2N(C), FX3S, FX3G(C), FX3U(C)CPUでシリアルコミュニケーション通信をする場合は、FX拡張ポートが必要です。

### ■パソコンとシリアルコミュニケーションユニットを接続する際の注意事項

- ・QJ71C24-R2の機能バージョンAを使用する場合  
MX Componentアプリケーションは、CH1またはCH2のどちらか一方しか使用できません。  
また、GX Developer, GOTなどのMELSOFT製品が片方のチャンネルを使用している場合は、他方のチャンネルを使用できません。  
ただし、機能バージョンBのQJ71C24-R2を使用している場合は、両チャンネルが使用可能です。

## モデム通信時の注意事項

### ■モデム通信時の他アプリケーションとの共存

モデム通信を行う場合、MX ComponentとGX Developerなどの他アプリケーションは、同時に通信を行うことはできません。

MX Componentでモデム通信を行う場合は、他アプリケーションでモデム通信を行わないようにしてください。

MX Componentと他アプリケーションを使用して同時にモデム通信を行った場合、通信エラー、電話回線の切断などの現象が発生します。

### ■電話回線使用時の注意事項

- ・キャッチホン回線は使用しないでください。  
キャッチホン回線では、割込みの読出し音によりデータの乱れ、電話回線の切断などが発生する場合があります。
- ・親子電話への回線接続は行わないでください。  
親子電話への電話回線接続中に子機などの受話器を上げた場合、電話回線が切断されるおそれがあります。
- ・電話回線はアナログ2線式を使用してください。  
デジタル回線を使用する場合、ターミナルアダプタを使用してください。  
また、電話回線が4線式の場合、モジュラジャックの配線タイプにより回線接続できないことがあります。  
4線式の場合は事前に接続テストを行い、接続可否を確認してください。
- ・通信プロトコルがNTT相当の電話回線を使用してください。

### ■携帯電話使用時の注意事項

- ・携帯電話を使用して無線通信を行う場合のモデムについて  
各メーカーによりモデムの名称が異なりますが、本マニュアルでは携帯電話用通信ユニットと総称します。  
使用する携帯電話に合わせて、携帯電話用通信ユニットの機種を選択してください。  
詳細は、ご使用の携帯電話会社へお問い合わせください。
- ・自動着信機能のない携帯電話について  
自動着信機能のない携帯電話は、ANS/ORG/TEL切換えスイッチがある携帯電話用通信ユニットを使用してください。  
ANS/ORG/TEL切換えスイッチのない携帯電話用通信ユニットを使用した場合、回線接続することができません。  
なお、携帯電話会社および携帯電話の機種により回線接続の手順が異なります。  
詳細は、ご使用のメーカーにお問い合わせください。

## プログラミング時の注意事項

### ■サンプルプログラム、テストプログラム、サンプルシーケンスプログラムについて

- サンプルプログラム、テストプログラム  
サンプルプログラムは、ユーザプログラムを作成する際に参考させていただくために添付しています。  
また、テストプログラムは通信テストを行うために添付しています。  
これらのご使用に関しては、お客様の責任においてご使用ください。
- サンプルシーケンスプログラム  
MX Componentに添付しているサンプルシーケンスプログラムは、システム構成、パラメータの設定によって内容の変更が必要になります。  
システムに最適な内容に修正してください。  
また、サンプルシーケンスプログラムのご使用に関しては、お客様の責任においてご使用ください。

### ■通信中のプロセスの強制終了について

複数のプロセスで同種のコントロールをオープンして通信を行っている場合、タスクマネージャなどによりプロセスを強制終了すると、他プロセスが通信関数実行部分で停止することがあります。

### ■通信開始時のエラーについて

通信診断ボタンの押下時、モニタ開始時、各関数実行時などの通信開始時に、設定されたタイムアウト値以内に通信エラーが発生する場合があります。

これらは、タイムアウトエラー以前にエラーが検出された場合です。

(例: 通信ケーブルが接続されていない、シーケンサ電源OFF時など)

### ■CheckDeviceString

各ACTコントロールにはCheckDeviceStringメソッドがありますが、使用しないでください。

### ■ActUMsgコントロール、ActUWzdコントロール

MX Componentをインストールすると、ActUMsgコントロールおよびActUWzdコントロールが登録されますが、使用しないでください。

### ■Ethernetユニット使用時の注意事項

- Openメソッド実行後、Closeメソッドを実行するまでに、Ethernetユニット装着局のシーケンススキャンタイム以上の間隔をおいてください。
- Closeメソッド実行後、再度Openメソッドを実行するまでに最低500ms以上間隔をおいてください。

### ■Disconnect実行時の注意事項

何らかの原因によりDisconnectを実行しても電話回線が切断できない場合、電話をかけたモデムの電源を切り、強制的に電話回線を切断するようにしてください。

### ■サンプルプログラムをビルドしたときのエラーについて

- 「System.Runtime.InteropServices.COMExceptionはハンドルされませんでした。」というエラーが発生した場合、MX Componentを使用したプログラムを作成するときのターゲットCPUに"x86"(32ビット)を指定してください。
- 64bitプログラムからMX Componentを使用する場合、64bitプログラムと、MX Componentを使用する32bitプログラム間で通信を行う方法を、下記のサンプルプログラムを参考に検討してください。  
(参考) CD-ROM内の"Sample\64bit"

## Microsoft® Excel® 使用時の注意事項

### ■Excelにコントロールの貼付けを行っても、貼り付かない場合

この現象は、Excelのキャッシュファイル(一時ファイル)が残っている場合に発生します。  
その場合は、下記の手順にて操作してください。

#### 操作手順

1. Excelを終了します。
2. tempフォルダのExcel8.0フォルダにある "\*.exd" を削除します。
  - ・ tempフォルダは、OSによって場所が異なります。
  - ・ 該当フォルダ、ファイルが表示されていない場合は、フォルダオプションの設定ですべてのファイルとフォルダを表示するように設定してください。
3. Excelを再起動します。

### ■ACTコントロールのサイズ変更について

ExcelではACTコントロールのサイズ変更ができますが、MX Componentの動作には影響ありません。  
サイズを元に戻す場合は、ACTコントロールのHeightプロパティとWidthプロパティを"24"に設定し直してください。

### ■Excel VBA使用時の注意事項

Excel VBAを使用したアプリケーションに、改ページプレビュー機能を設定しないでください。  
メモリリークの発生、OS基本操作(ファイル操作、印刷など)の異常といった現象が発生するおそれがあります。

## Microsoft® Access® 使用時の注意事項

### ■ACTコントロールをAccessフォームに貼り付けて、ACTコントロールのダブルクリックまたはプロパティ中のカスタムコントロールを選択すると下記のエラーメッセージが表示される

下記のエラーメッセージが表示されますが、ACTコントロールの動作には影響はありません。  
(その他のエラーメッセージが表示される場合もあります。)



### ■ACTコントロールを貼り付けてプロパティの表示を行った場合に、プロパティ名が途切れて表示される

この現象は、表示だけの問題であり、プロパティの機能には問題ありません。

### ■ACTコントロールのサイズ変更について

AccessではACTコントロールのサイズ変更ができますが、MX Componentの動作には影響ありません。  
サイズを元に戻す場合は、ACTコントロールのHeightプロパティとWidthプロパティを"24"に設定し直してください。

## VBScript使用時の注意事項

### ■VBScript使用時のインターネット/イントラネットのセキュリティ

MX Componentには、インターネット/イントラネットのセキュリティ機能はありません。  
セキュリティ機能が必要な場合は、設定を行ってください。

## ロボットコントローラ使用時の注意事項

### ■ロボットコントローラをUSBで接続する場合

ロボットコントローラをUSBで接続する場合の注意事項は下記を参照してください。

📖 CR750/700/500シリーズRT ToolBox2/RT ToolBox2 mini取扱説明書

ロボットコントローラをUSBで接続した場合、ロボットコントローラが使用できない状態でもコントロールのOpenメソッドではエラーが発生しません。

Openを実行後に使用するメソッドでエラーコード106(接続が切断された)が発生した場合は、Closeを実行後、再度Openを実行してください。

### ■多重通信について

1台のロボットコントローラに対して多重通信は行わないでください。

## 通信時の注意事項

### ■通信時にソケット生成エラー (0x01808007)が発生する場合

No.	条件	対処方法
1	GT SoftGOTを使用している場合	アプリケーション起動時に、右クリックで[管理者として実行]を選択してください。
2	上記No.1で解決しない場合	他のアプリケーションによって使用されているポート番号と異なる番号を、パソコン側で使用するポート番号に設定してください。
3	上記No.1, 2で解決しない場合	下記項目を確認し、弊社、電話技術相談窓口へお問い合わせください。 <ul style="list-style-type: none"><li>・システム構成(接続先のシーケンサ形名, ユニットの形名, 使用ネットワーク)</li><li>・パソコンの名称(メーカー名), CPU, メモリサイズ</li><li>・OS, エディション, 32ビット/64ビット</li><li>・MX Componentのバージョン</li><li>・現象が発生するMX Componentの関数と引数</li><li>・通信設定ユーティリティの設定内容</li><li>・現象の発生頻度と発生手順</li></ul>

## 通信設定ユーティリティの設定保存時の注意事項

### ■通信設定ユーティリティで設定を保存するときに発生するエラーとその対処方法について

エラーメッセージ	対処方法	注意事項
システム情報の更新に失敗しました。 <ul style="list-style-type: none"><li>・操作権限がない可能性があります。管理者権限のあるユーザで実行してください。</li><li>・アプリケーションが動作する環境が壊れている可能性があります。再度インストールを行ってください。</li></ul>	スタートメニューの[通信設定ユーティリティ]を選択し、右クリックで[管理者として実行]を選択し、アプリケーションを起動してください。	ラベル管理ユーティリティ実行時は、管理者権限で動作します。ユーザーアカウント制御(UAC)の設定により動作が異なります。

# はじめに

---

このたびは、エンジニアリングソフトウェアMELSOFTに格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

本マニュアルは、MX Componentについてご理解いただくためのマニュアルです。

ご使用前に本マニュアルや関連マニュアルをよくお読みいただき、MX Componentの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用くださるようお願いいたします。

# 目次

安全上のご注意	1
製品の適用について	2
ご使用上の注意事項	3
はじめに	11
関連マニュアル	18
用語	19
用語の意味と内容	22
<b>第1章 概要</b>	<b>23</b>
1.1 MX Componentとは	23
1.2 特長	23
<b>第2章 システム構成</b>	<b>30</b>
2.1 システム構成一覧	30
Windows XP Professional Operating System使用時	30
Windows XP Home Edition Operating System使用時	31
Windows Vista Operating System使用時	32
Windows 7 Operating System使用時	33
Windows 8 Operating SystemおよびWindows 8.1 Operating System使用時	34
Windows 10 Operating System使用時	35
2.2 各通信形態を使用する場合のシステム構成	36
システム構成	36
各通信形態の詳細内容	38
2.3 動作環境	49
2.4 使用可能シーケンサCPU	52
<b>第3章 インストール・アンインストール</b>	<b>53</b>
3.1 インストール	53
3.2 登録されるアイコン	61
3.3 アンインストール	62
<b>第4章 操作手順</b>	<b>64</b>
4.1 ユーティリティについて	64
4.2 開発タイプの選択	64
4.3 ユーザアプリケーションの作成手順	65
Visual Basic .NETを使用する場合	65
Visual C++ .NETを使用する場合	66
Visual C# .NETを使用する場合	67
VBAを使用する場合	68
VBScriptを使用する場合	69
4.4 シーケンサモニタユーティリティの操作手順	70
<b>第5章 システムラベル</b>	<b>71</b>
5.1 システムラベルを使用する	71
MX Componentでシステムラベルを登録して使用する	72
MELSOFT Navigatorで使用するラベルを流用する	79
GX Works2でのデバイス変更をMX Componentへ反映する	82

別のパソコンでシステムラベルを使用する.....	84
<b>第6章 ユーティリティの起動と終了</b> .....	<b>88</b>
6.1 ユーティリティを起動する.....	88
各ユーティリティ実行時の管理者権限について.....	88
6.2 ユーティリティを終了する.....	91
6.3 バージョンを確認する.....	91
<b>第7章 ユーティリティの操作</b> .....	<b>92</b>
7.1 通信設定ユーティリティ.....	92
通信設定画面の操作.....	93
一覧表示画面の操作.....	94
通信テスト画面の操作.....	95
通信設定のインポート.....	96
通信設定のエクスポート.....	97
通信設定ウィザード画面の操作.....	98
回線設定画面の操作.....	102
7.2 シーケンサモニタユーティリティ.....	109
接続先設定画面の操作.....	109
デバイス一括モニタ画面の操作.....	112
バッファメモリモニタ画面の操作.....	114
デバイス登録モニタ画面の操作.....	116
デバイス書き込み画面の操作.....	118
時計設定画面の操作.....	119
電話回線接続、電話回線切断画面の操作.....	120
7.3 ラベル管理ユーティリティ.....	121
ラベル管理画面の操作.....	121
論理局番の登録/削除.....	123
システムラベルリスト.....	124
構造体設定.....	129
ワークスペースの参照登録/解除.....	130
変更通知.....	131
システムラベルデータの最新化.....	132
ラベルスペースのエクスポート.....	132
ラベルスペースのインポート.....	133
<b>第8章 ユーティリティ設定タイプの通信設定例</b> .....	<b>134</b>
8.1 シリアルコミュニケーション通信.....	134
シリアルコミュニケーションユニットの設定.....	134
アクセスまでの手順.....	140
8.2 Ethernet通信(Ethernetユニット使用時).....	144
アクセスまでの手順.....	144
8.3 Ethernet通信(Ethernet内蔵形CPU使用時).....	151
アクセスまでの手順.....	151
8.4 Ethernet通信(Ethernetアダプタユニット使用時).....	157
アクセスまでの手順.....	157
8.5 Ethernet通信(Ethernetアダプタ使用時).....	161
アクセスまでの手順.....	161
8.6 CPU COM通信.....	166
アクセスまでの手順.....	166

8.7	CPU USB通信	170
	アクセスまでの手順	170
8.8	CC-Link通信	174
	アクセスまでの手順	174
8.9	CC-Link G4通信	179
	CC-Link G4ユニットのスイッチ設定	179
	アクセスまでの手順	180
8.10	GX Simulator通信	186
	アクセスまでの手順	186
8.11	GX Simulator2通信	189
	アクセスまでの手順	189
8.12	GX Simulator3通信	192
	アクセスまでの手順	192
8.13	MT Simulator2通信	195
	アクセスまでの手順	195
8.14	MELSECNET/H通信	198
	アクセスまでの手順	198
8.15	CC-Link IEコントローラネットワーク通信	203
	アクセスまでの手順	203
8.16	CC-Link IEフィールドネットワーク通信	208
	アクセスまでの手順	208
8.17	Qシリーズバス通信	213
	アクセスまでの手順	213
8.18	モデム通信	217
	Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24のスイッチ設定	217
	アクセスまでの手順	219
8.19	ゲートウェイ機能通信	235
	アクセスまでの手順	235
8.20	GOTトランスペアレント通信	239
	アクセスまでの手順	239
8.21	インバータCOM通信	244
	アクセスまでの手順	244
8.22	インバータUSB通信	248
	アクセスまでの手順	248
8.23	ロボットコントローラCOM通信	252
	アクセスまでの手順	252
8.24	ロボットコントローラUSB通信	256
	アクセスまでの手順	256
8.25	ロボットコントローラEthernet通信	260
	アクセスまでの手順	260
<b>第9章 プログラム設定タイプの通信設定例</b>		<b>264</b>
<b>第10章 アクセス可能範囲</b>		<b>266</b>
10.1	アクセス時の注意事項	266
10.2	シリアルコミュニケーション通信時	267
	アクセス可能デバイス	267
	アクセス可能範囲	270
10.3	Ethernet通信時	274
	アクセス可能デバイス	274
	アクセス可能範囲(Ethernetユニット使用時)	277

	アクセス可能範囲(Ethernet内蔵形CPU使用時).....	280
	アクセス可能範囲(ログインファイル転送-Ethernet内蔵形CPU使用時).....	284
	アクセス可能範囲(Ethernetアダプタユニット使用時).....	286
	アクセス可能範囲(Ethernetアダプタ使用時).....	288
	アクセス可能範囲(CC-Link IE TSNユニット使用時).....	289
10.4	<b>CPU COM通信時</b> .....	290
	アクセス可能デバイス.....	290
	アクセス可能範囲.....	292
10.5	<b>CPU USB通信時</b> .....	295
	アクセス可能デバイス.....	295
	アクセス可能範囲.....	297
	アクセス可能範囲(ログインファイル転送).....	301
10.6	<b>CC-Link通信時</b> .....	303
	アクセス可能デバイス.....	303
	アクセス可能範囲.....	305
10.7	<b>CC-Link G4通信時</b> .....	307
	アクセス可能デバイス.....	307
	アクセス可能範囲.....	309
10.8	<b>MELSECNET/H通信時</b> .....	311
	アクセス可能デバイス.....	311
	アクセス可能範囲.....	313
10.9	<b>CC-Link IEコントローラネットワーク通信時</b> .....	315
	アクセス可能デバイス.....	315
	アクセス可能範囲.....	317
	アクセス可能範囲(ログインファイル転送).....	319
10.10	<b>CC-Link IEフィールドネットワーク通信時</b> .....	320
	アクセス可能デバイス.....	320
	アクセス可能範囲.....	322
10.11	<b>Qシリーズバス通信時</b> .....	324
	アクセス可能デバイス.....	324
	アクセス可能範囲.....	325
10.12	<b>モデム通信時</b> .....	326
	アクセス可能デバイス.....	326
	アクセス可能範囲(Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24使用時).....	328
	アクセス可能範囲(FXCPU使用時).....	330
10.13	<b>ゲートウェイ機能通信時</b> .....	331
	アクセス可能デバイス.....	331
	アクセス可能範囲.....	331
10.14	<b>GX Simulator接続</b> .....	332
	アクセス可能デバイス.....	332
	アクセス可能範囲.....	332
10.15	<b>GX Simulator2通信時</b> .....	333
	アクセス可能デバイス.....	333
	アクセス可能範囲.....	333
10.16	<b>GX Simulator3通信時</b> .....	334
	アクセス可能デバイス.....	334
	アクセス可能範囲.....	334
10.17	<b>MT Simulator2通信時</b> .....	335
	アクセス可能デバイス.....	335
	アクセス可能範囲.....	335
10.18	<b>GOTトランスペアレント通信時</b> .....	336

アクセス可能デバイス.....	336
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:直結).....	338
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:直結).....	340
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:バス).....	342
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:バス).....	344
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット).....	346
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット).....	349
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート: Ethernetユニット).....	352
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート: Ethernetユニット).....	355
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート: Ethernetポート).....	358
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート: Ethernetポート).....	361
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート: Ethernetアダプタユニット).....	364
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート: Ethernetアダプタユニット).....	366
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート: Ethernetアダプタ/ユニット).....	368
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート: Ethernetアダプタ/ユニット).....	369
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/1000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート:シリアル).....	370
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/1000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット).....	372
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/1000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート:バス).....	374
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/1000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート:Ethernetポート).....	376
アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/1000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート:Qシリーズ対応E71).....	377
<b>10.19 インバータ通信時</b> .....	<b>378</b>
アクセス可能モニタタイプ.....	378
<b>10.20 ロボットコントローラ通信時</b> .....	<b>380</b>
アクセス可能モニタタイプ.....	380
<b>付録</b> .....	<b>381</b>
付1 ルーティングパラメータの考え方.....	381
付2 インターネット/イントラネット環境の立上げ方法.....	383
操作手順.....	383
使用可能なパソコンの条件.....	384
Webサーバのインストール方法.....	385
インターネットアクセスアカウントの設定.....	386
Webページの公開.....	392
Webサーバに正常にアクセスできるかを確認する.....	397
付3 シリアルコミュニケーション通信をする場合のRS-232ケーブルの配線例.....	398

	Qシリーズの場合.....	398
	FXシリーズの場合.....	399
付4	マルチCPUシステムについて.....	400
付5	Q00JCPU, Q00UJCPU, Q00CPU, Q00UCPU, Q01CPU, Q01UCPU使用時のネットワークユニットの 装着可能枚数について.....	401
付6	モデム通信時にアクセスできない場合のフロー.....	402
付7	二重化CPUへの対応について.....	403
	RnPCPU(二重化モード)またはRnPSFCPUの場合.....	403
	QnPRHの場合.....	404
付8	従来品との相違点について.....	410
	MX Component Version 3との比較.....	410
	置き換えについて.....	413
付9	バージョン互換について.....	414
付10	ラベル名で使用できない文字列.....	415
付11	性能.....	417
	MX Component(コントロール)の性能.....	417
	ラベル管理サービスの性能.....	418
	ラベル管理ユーティリティの性能.....	419
付12	USBドライバのインストール.....	421
付13	USBドライバの更新.....	429
付14	Windowsで表示される警告メッセージについて.....	434
	警告メッセージの概要.....	434
	警告メッセージの抑止方法.....	435
付15	トラブルシューティング.....	442
付16	以前のバージョンより追加/変更になった機能.....	443
	改訂履歴.....	447
	購入に関するお問い合わせ.....	448
	サービスのお問い合わせ.....	448
	商標.....	448

# 関連マニュアル

最新のe-ManualおよびマニュアルPDFは、三菱電機FAサイトからダウンロードできます。

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

マニュアル名称[マニュアル番号]	内容	提供形態	価格
MX Component Version 4 オペレーティングマニュアル [SH-081082](本マニュアル)	MX Componentの各ユーティリティの設定、操作方法について記載しています。	製本物	3,000円
		PDF	—
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル [SH-081083]	ACTコントロールのプログラミング手順、詳細説明およびエラーコードについて記載しています。	製本物	4,000円
		PDF	—
Q80BD-J61BT11N/Q81BD-J61BT11形CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボードユーザーズマニュアル (SW1DNC-CCBD2-B対応) [SH-080526]	Q80BD-J61BT11N, Q81BD-J61BT11のシステム構成、仕様、機能、取扱い、配線およびトラブルシューティングについて記載しています。	製本物	3,000円
		PDF	—
MELSECNET/Hインタフェースボードユーザーズマニュアル (SW0DNC-MNETH-B対応) [SH-080129]	MELSECNET/Hボードのシステム構成、仕様、機能、取扱い、配線およびトラブルシューティングについて記載しています。	製本物	3,000円
		PDF	—
CC-Link IEコントローラネットワークインタフェースボードユーザーズマニュアル(SW1DNC-MNETG-B対応) [SH-080690]	CC-Link IEコントローラネットワークボードのシステム構成、仕様、機能、取扱い、配線およびトラブルシューティングについて記載しています。	製本物	3,000円
		PDF	—
CC-Link IEフィールドネットワークインタフェースボードユーザーズマニュアル(SW1DNC-CCIEF-B対応) [SH-080925]	CC-Link IEフィールドネットワークインタフェースボードのシステム構成、仕様、機能、取扱い、配線、およびトラブルシューティングについて記載しています。	製本物	3,000円
		e-Manual PDF	—
C言語コントローラユニットユーザーズマニュアル (ハードウェア設計・機能解説編) [SH-080764]	Q12DCCPU-V(基本機能モード)、Q06CCPU-Vのシステム構成、仕様、機能、取扱い、配線、およびトラブルシューティングについて記載しています。	製本物	4,000円
		PDF	—
MELSEC-QC言語コントローラユニットユーザーズマニュアル [SH-081077]	Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LS, Q12DCCPU-V(機能拡張モード)のシステム構成、仕様、機能、取扱い、配線、トラブルシューティング、および関数とプログラミングについて記載しています。	製本物	4,000円
		PDF	—
GX Simulator Version 7 オペレーティングマニュアル [SH-080467]	GX Simulatorでのデバイスメモリのモニタ、機械側の動作をシミュレーションするための設定、操作方法について記載しています。	製本物	3,000円
		PDF	—
GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル(共通編) [SH-080730]	GX Works2のシステム構成や、パラメータ設定、オンライン機能の操作方法など、シンプルプロジェクトと構造化プロジェクトに共通な機能について記載しています。	製本物	4,000円
		PDF	—
MELSEC iQ-R Ethernetユーザーズマニュアル(応用編) [SH-081253]	Ethernetの機能、パラメータ設定、プログラミング、トラブルシューティング、入出力信号、バッファメモリについて記載しています。	製本物	3,000円
		e-Manual PDF	—

## Point

e-Manualとは、専用のツールを使用して閲覧できる三菱電機FA電子書籍マニュアルです。

e-Manualには下記のような特長があります。

- ・探したい情報を複数のマニュアルから一度に検索可能(マニュアル横断検索)
- ・マニュアル内のリンクから他マニュアルを参照可能
- ・製品のイラストの各パーツから知りたいハードウェア仕様を閲覧可能
- ・頻繁に参照する情報をお気に入り登録可能
- ・サンプルプログラムをエンジニアリングツールにコピー可能

# 用語

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記用語を使用して説明します。

用語	内容
MX Component	製品形名SWnDNC-ACT(-J), SWnDNC-ACT-A(-JA)の総称製品名です。(nはバージョンを意味します。) -Aおよび-JAは複数ライセンス品を意味します。
パソコン	Windows <sup>®</sup> が動作するパーソナルコンピュータの総称です。
パソコンCPUユニット	株式会社コンテック製MELSEC-Qシリーズ対応パソコンCPUユニットの略称です。
GX Developer	製品形名SWnD5C-GPPW, SWnD5C-GPPW-A, SWnD5C-GPPW-V, SWnD5C-GPPW-VAの総称製品名です。(nはバージョンを意味します。) -Aは複数ライセンス品, -Vはバージョンアップ品を意味します。
GX Works3	製品形名SWnDND-GXW3の総称製品名です。(nはバージョンを意味します。)
GX Works2	製品形名SWnDNC-GXW2, SWnDND-GXW2の総称製品名です。(nはバージョンを意味します。)
MT Developer2	製品形名SWnDNC-MTW2の総称製品名です。(nはバージョンを意味します。)
MELSOFT Navigator	製品形名SWnDNC-IQWK(MELSOFT iQ Works)の中の統合開発環境の製品名です。(nはバージョンを意味します。)
GX Simulator	製品形名SWnD5C-LLT, SWnD5C-LLT-A, SWnD5C-LLT-V, SWnD5C-LLT-VAの総称製品名です。(nはバージョンを意味します。) -Aは複数ライセンス品, -Vはバージョンアップ品を意味します。
MELSECNET/Hボード	Q80BD-J71LP21-25, Q80BD-J71LP21S-25, Q81BD-J71LP21-25, Q80BD-J71LP21G, Q80BD-J71BR11の総称です。 MELSECNET/Hインタフェースボードの略称です。
CC-Link IEコントローラネットワークボード	Q80BD-J71GP21-SX, Q80BD-J71GP21S-SX, NZ81GP21-SXの総称です。 CC-Link IEコントローラネットワークインタフェースボードの略称です。
CC-Link IEフィールドネットワークボード	Q81BD-J71GF11-T2形CC-Link IEフィールドネットワークインタフェースボードの略称です。
CC-Link Ver.2ボード	Q80BD-J61BT11N, Q81BD-J61BT11の総称です。 CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボードの略称です。
RCPU	R00, R01, R02, R04, R04EN, R08, R08EN, R08P, R08PSF, R08SF, R16, R16EN, R16P, R16PSF, R16SF, R32, R32EN, R32P, R32PSF, R32SF, R120, R120EN, R120P, R120PSF, R120SFの総称です。
RnCPU	R00, R01, R02, R04, R08, R16, R32, R120の総称です。
RnPCPU	R08P, R16P, R32P, R120Pの総称です。
RnSFPCPU	R08SF, R16SF, R32SF, R120SFの総称です。
RnPSFCPU	R08PSF, R16PSF, R32PSF, R120PSFの総称です。
RnENCPU	R04EN, R08EN, R16EN, R32EN, R120ENの総称です。
LHCPU	L04H, L08H, L16Hの総称です。
QCPU(Qモード)	Q00J, Q00UJ, Q00, Q00U, Q01, Q01U, Q02, Q02H, Q02PH, Q02U, Q03UD, Q03UDE, Q03UDV, Q04UDH, Q04UDEH, Q04UDV, Q04UDPV, Q06H, Q06PH, Q06UDH, Q06UDEH, Q06UDV, Q06UDPV, Q10UDH, Q10UDEH, Q12H, Q12PH, Q12PRH, Q13UDH, Q13UDEH, Q13UDV, Q13UDPV, Q20UDH, Q20UDEH, Q25H, Q25PH, Q25PRH, Q26UDH, Q26UDEH, Q26UDV, Q26UDPV, Q50UDEH, Q100UDEHの総称です。
QnPRH	Q12PRH, Q25PRHの総称です。
Ethernetポート内蔵QCPU	Q03UDE, Q03UDV, Q04UDEH, Q04UDV, Q04UDPV, Q06UDEH, Q06UDV, Q06UDPV, Q10UDEH, Q13UDEH, Q13UDV, Q13UDPV, Q20UDEH, Q26UDEH, Q26UDV, Q26UDPV, Q50UDEH, Q100UDEHの総称です。
LCPU	L02S, L02, L06, L26, L26-BTの総称です。
FX5CPU	FX5U, FX5UC, FX5UJの総称です。
FXCPU	FX0, FX0S, FX0N, FX1, FX1N, FX1NC, FX1S, FX2, FX2C, FX2N, FX2NC, FX3S, FX3G, FX3GC, FX3U, FX3UCの総称です。
Ethernet内蔵形CPU	RCPU, LHCPU, Ethernetポート内蔵QCPU, LCPU, FX5CPUの総称です。
RモーションCPU	R16MT, R32MTの総称です。
QモーションCPU	Q172, Q173, Q172H, Q173H, Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSの総称です。
QSCPU	QS001CPU(安全CPU)の略称です。
C言語コントローラ	R12CCPU-V, Q12DCCPU-V(基本機能モード), Q12DCCPU-V(機能拡張モード), Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSの総称です。
RCCPU	R12CCPU-Vの別称です。
QCCPU	Q12DCCPU-V(基本機能モード), Q12DCCPU-V(機能拡張モード), Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSの総称です。
Q12DCCPU-V(基本機能モード)	Q12DCCPU-Vを基本機能モードで初期化した状態 Q12DCCPU-V(基本機能モード)については、下記を参照してください。 □□C言語コントローラユニットユーザーズマニュアル(ハードウェア設計・機能解説編)

用語	内容
Q12DCCPU-V(機能拡張モード)	Q12DCCPU-Vを機能拡張モードで初期化した状態 Q12DCCPU-V(機能拡張モード)については、下記を参照してください。 □MELSEC-Q C言語コントローラユニットユーザーズマニュアル
シーケンサCPU	RCPU, LHCPU, QCPU(Qモード), LCPU, FX5CPU, FXCPU, RモーションCPU, QモーションCPU, QSCPU, およびC言語コントローラの総称です。
Rシリーズ対応C24	RJ71C24, RJ71C24-R2, RJ71C24-R4の総称です。
Qシリーズ対応C24	QJ71C24, QJ71C24-R2, QJ71C24N, QJ71C24N-R2, QJ71C24N-R4の総称です。
Lシリーズ対応C24	LJ71C24, LJ71C24-R2の総称です。
FX拡張ポート	FX0N-485ADP, FX2NC-485ADP, FX1N-485-BD, FX2N-485-BD, FX3G-485-BD, FX3U-485-BD, FX3U-485ADPの総称です。
シリアルコミュニケーションユニット	Rシリーズ対応C24, Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24, FX拡張ポートの総称です。
Rシリーズ対応E71	RJ71EN71の別称です。
Qシリーズ対応E71	QJ71E71, QJ71E71-B2, QJ71E71-B5, QJ71E71-100の総称です。
Lシリーズ対応E71	LJ71E71の別称です。
Ethernetアダプタユニット	NZ2GF-ETB形CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニットの略称です。
Ethernetアダプタ/ユニット	FX3U-ENET-ADP, FX3U-ENET(-L)の総称です。
Ethernetユニット	Rシリーズ対応E71, Qシリーズ対応E71, Lシリーズ対応E71の総称です。
CC-Link G4ユニット	AJ65BT-G4-S3形GPP機能用周辺機器接続ユニットの略称です。
Qシリーズ対応CMO	QJ71CMO形モデムインタフェースユニットの略称です。
CC-Link IE TSNユニット	RJ71GN11-T2の別称です。
GOT	グラフィックオペレーションターミナルの略称です。
GOT2000	グラフィックオペレーションターミナルGOT2000シリーズの略称です。
GOT1000	グラフィックオペレーションターミナルGOT1000シリーズの略称です。
インバータ	FREQROL-A800シリーズの略称です。
ロボットコントローラ	CR750-D/CRnD-700シリーズの略称です。
ロギングファイル	シーケンサCPUから収集したデバイスデータを格納したファイルを示します。
シリアルコミュニケーション通信	シリアルコミュニケーションユニットを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
Ethernet通信	パソコンとEthernetユニットまたはEthernet内蔵形CPUを接続して通信を行う場合の略称です。
CPU COM通信	パソコンをシーケンサCPUのRS-232コネクタまたはRS-422コネクタに接続して通信を行う場合の略称です。
CPU USB通信	パソコンをシーケンサCPUのUSBコネクタに接続して通信を行う場合の略称です。
MELSECNET/H通信	MELSECNET/Hボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	CC-Link IEコントローラネットワークボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	CC-Link IEフィールドネットワークボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
CC-Link通信	CC-Link Ver.2ボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
CC-Link G4通信	CC-Link G4ユニットを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
Qシリーズバス通信	パソコンCPUユニットを使用して、同一ベース上のシーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
GX Simulator通信	GX Simulatorと通信を行う場合の略称です。
GX Simulator2通信	GX Works2のシミュレーション機能を使用して通信を行う場合の略称です。
GX Simulator3通信	GX Works3のシミュレーション機能を使用して通信を行う場合の略称です。
MT Simulator2通信	MT Developer2のシミュレーション機能を使用して通信を行う場合の略称です。
モデム通信	Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, FXCPUを使用して、モデム経由でシーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
ゲートウェイ機能通信	GOTのゲートウェイ機能を使用して、シーケンサCPUおよび各社シーケンサと通信を行う場合の略称です。
GOTトランスパレント通信	GOTのトランスパレント機能を使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称です。
インバータCOM通信	インバータをパソコンのCOMポートに接続して通信を行う場合の略称です。
インバータUSB通信	インバータをパソコンのUSBポートに接続して通信を行う場合の略称です。
ロボットコントローラCOM通信	ロボットコントローラをパソコンのCOMポートに接続して通信を行う場合の略称です。
ロボットコントローラUSB通信	ロボットコントローラをパソコンのUSBポートに接続して通信を行う場合の略称です。
ロボットコントローラEthernet通信	ロボットコントローラとパソコンをEthernetに接続して通信を行う場合の略称です。
ユーティリティ設定タイプ	通信設定ユーティリティを使用して、ユーザプログラムを作成する開発タイプです。
プログラム設定タイプ	通信設定ユーティリティを使用しないで、ユーザプログラムを作成する開発タイプです。

用語	内容
ACTコントロール	MX Componentが提供するActiveXコントロールの総称です。
.NETコントロール	MX Componentが提供する.NETコントロールの総称です。
二重化CPU	QnPRH, RnPCPU, RnPSFCPUの総称です。
二重化増設ベースユニット	Q65WRB形CPU・電源二重化システム用増設ベースユニットの略称です。
Windows 7以降	Windows 7, Windows 8, Windows 8.1およびWindows 10を指します。
Windows Vista®以降	Windows Vista, Windows 7, Windows 8, Windows 8.1およびWindows 10を指します。
Excel	Microsoft Excel 2003, Microsoft Excel 2007, Microsoft Excel 2010(32ビット版), Microsoft Excel 2013(32ビット版), Microsoft Excel 2016(32ビット版), Microsoft Excel 2019(32ビット版)の略称です。
Access	Microsoft Access 2003, Microsoft Access 2007, Microsoft Access 2010(32ビット版), Microsoft Access 2013(32ビット版), Microsoft Access 2016(32ビット版), Microsoft Access 2019(32ビット版)の略称です。
Visual Basic®.NET	Microsoft Visual Studio® 2005, Microsoft Visual Studio 2008, Microsoft Visual Studio 2010, Microsoft Visual Studio 2012, Microsoft Visual Studio 2013, Microsoft Visual Studio 2015, Microsoft Visual Studio 2017のVisual Basicの総称です。
Visual C++®.NET	.NET Frameworkを使用してアプリケーションを作成する場合の略称です。
Visual C#®.NET	Microsoft Visual Studio 2005, Microsoft Visual Studio 2008, Microsoft Visual Studio 2010, Microsoft Visual Studio 2012, Microsoft Visual Studio 2013, Microsoft Visual Studio 2015, Microsoft Visual Studio 2017のVisual C#の総称です。
ラベル	各デバイスに割付けされた名称です。 デバイスに代わって、プログラムに使用できます。
システムラベル	iQ Works対応製品との間で共有可能なラベル。 MELSOFT Navigatorにより管理されます。 システムラベルVer.1とシステムラベルVer.2があり、システムラベルVer.2にはMX Component Version 4.07H以降およびMX Sheet Version 2.04E以降で対応しています。
GT SoftGOT	GT SoftGOT2000 Version 1, GT SoftGOT1000 Version 2, GT SoftGOT1000 Version 3の総称です。

# 用語の意味と内容

本マニュアルで使用する用語の意味と内容について説明します。

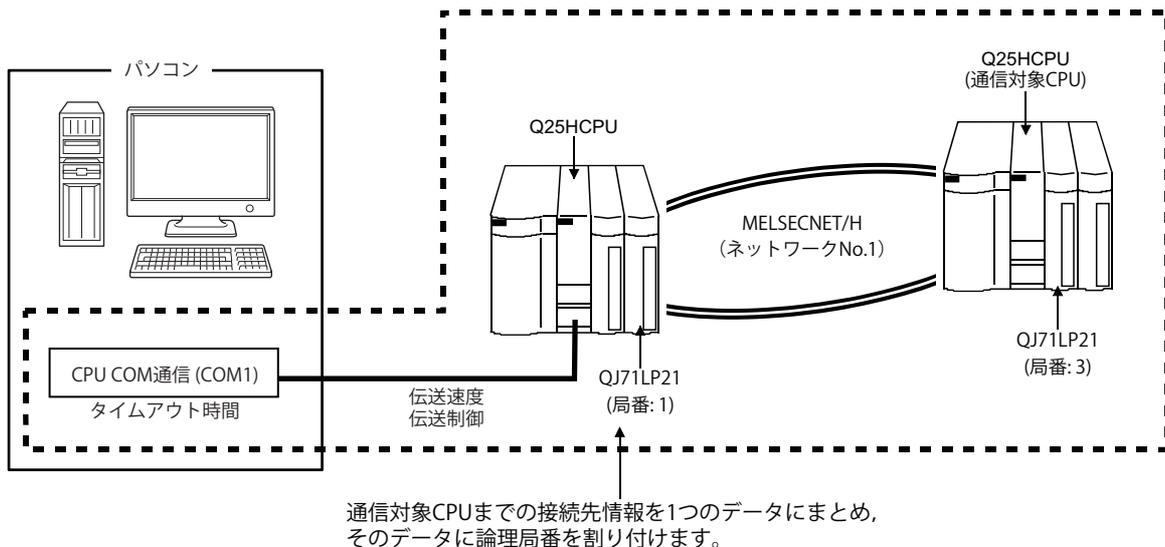
## 論理局番

通信回線をオープンさせるために必要な接続先情報を、通信設定ユーティリティを使用し1つのデータにまとめ、そのデータに論理的な番号を付けたものです。

ユーティリティ設定タイプでのみ使用可能です。

### 例

CPU COM通信時



## ユーティリティ設定タイプ

通信設定ユーティリティ (論理局番)を使用して、ユーザプログラムを作成します。

ユーザプログラムでは、通信設定ウィザードで設定した論理局番を指定するだけで、簡単に通信回線を接続することができます。

## プログラム設定タイプ

通信設定ユーティリティを使用しないで、ユーザプログラムの作成を行います。

各通信を行うためのACTコントロールの設定を、ユーザプログラム内部またはVisual Basic, Visual C++のプロパティページなどで設定を行います。

設定が必要となるプロパティは、各ACTコントロールにより異なります。

# 1 概要

## 1.1 MX Componentとは

MX Componentは、パソコンからシーケンサへの通信を、通信プロトコルやユニットの知識なしに実現するツールです。これまで面倒で複雑だったシリアル通信やEthernet通信のプログラム開発が、共通の関数を使用することにより、とても簡単になりました。

本マニュアルで紹介するプログラム例を実際のシステムへ流用する場合は、対象システムにおける制御に問題がないことを十分検証ください。

## 1.2 特長

### シーケンサに対する通信経路を幅広くサポート

シーケンサへの通信経路を幅広くサポートしていますので、お客様に合わせたシステム構築が可能です。

### ユーザの開発効率を大幅に向上

ウィザード形式の通信設定ユーティリティを用意しています。

画面上で対話形式の設定を行うだけで、通信を行いたいシーケンサCPUにアクセスするための通信設定が実現できます。

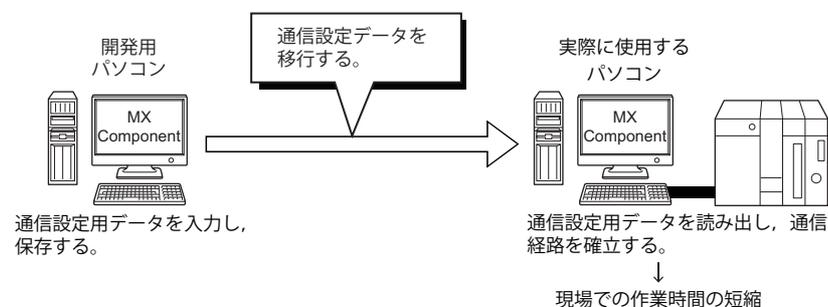
また、一度通信設定を実施すれば、通信設定ユーティリティにて記憶したシーケンサCPUの論理局番を指定するだけでアクセスすることが可能です。

### 通信設定の内容の保存、読出しが可能

通信設定ユーティリティで設定した通信設定の内容をファイルに保存、読出しを行う機能を持っています。

開発用のパソコンから実際に使用するパソコンへ、設定データの移行が簡単に行えます。

開発用パソコンおよび実際に使用するパソコンには、MX Componentがインストールされている必要があります。



## ラベル機能

ラベルを使用したプログラミングが可能です。

デバイスNo.を意識することなくプログラムが作成でき、ラベル名を使用してデバイスを読み書きできます。

'ReadDeviceRandom2関数処理の実行

iReturnCode=

DotUtlType.ReadDeviceRandom2(

"生産量",

3,

objData)

構造体ラベル

D0

ワード

CN200

ワード

D1

ワード

ラベル名を指定

'ReadDeviceRandom2関数処理の実行

iReturnCode=

DotUtlType.ReadDeviceRandom2(

"AlarmArray",

3,

objectValue)

配列型ラベル

[0]: D0

ワード

[1]: D1

ワード

[2]: D2

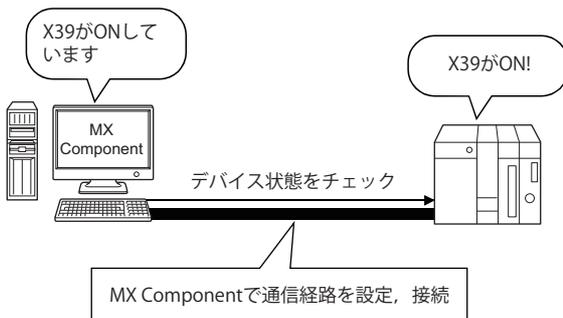
ワード

データ型により使用するメソッドの使い分けが必要ない

## デバイスモニタ機能

シーケンサモニタユーティリティを利用することにより、指定したデバイスの状態の監視やデータ変更が可能です。

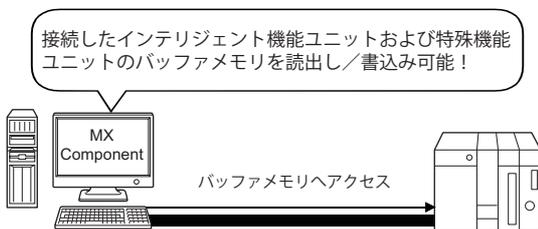
QSCPUのデバイスデータを変更することはできません。



## 特殊機能ユニットのバッファメモリへアクセス可能

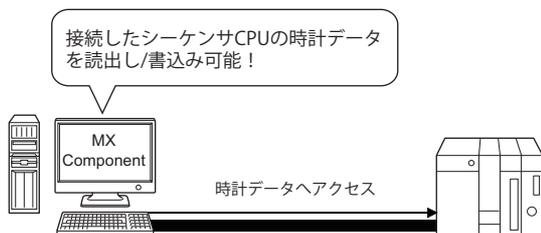
シーケンサCPUのデバイスのみでなく、インテリジェント機能ユニットおよび特殊機能ユニットのバッファメモリへアクセスすることもできます。

QSCPUの場合、バッファメモリの書込みを行うことはできません。



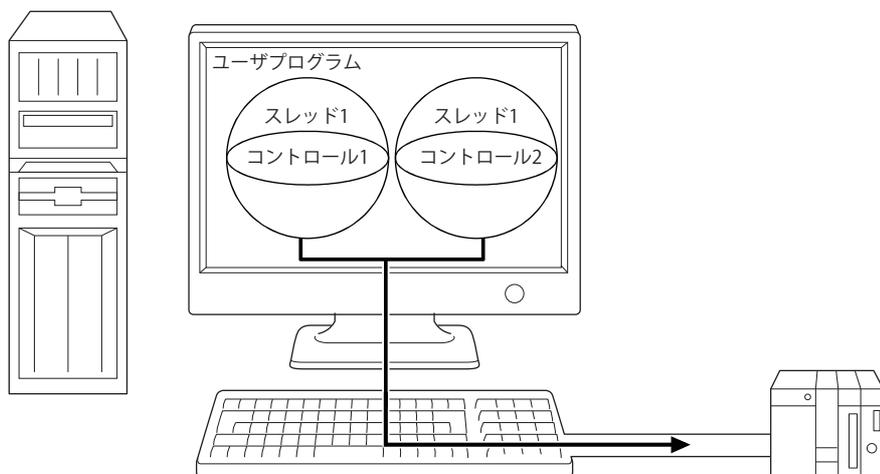
## シーケンサCPUの時計データ読出し/書込みが可能

パソコンと接続したシーケンサCPUの時計データを読み出す/書き込むことができます。  
QSCPUの時計データに書き込みを行うことはできません。



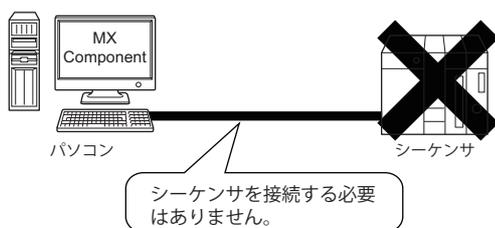
## マルチスレッド通信が可能

複数のスレッドから同時に同じ通信経路に対してアクセスが可能です。



## シミュレーション機能を使用したオフラインでのデバッグが可能

シミュレーション機能を使用することにより、シーケンサを接続せずに、1台のパソコン上でデバッグできます。



### ■シミュレーション機能に必要なソフトウェア

QSCPUは本機能に対応していません。

- GX Simulatorを使用する場合は、GX DeveloperとGX Simulatorが別途必要です。
- GX Simulator2を使用する場合は、GX Works2が別途必要です。  
最大4つのプロジェクトを同時にシミュレーションすることができます。
- GX Simulator3を使用する場合は、GX Works3が別途必要です。  
GX Simulator3が同時にシミュレーションできる数は、GX Works3の起動数に依存します。

### ■MT Developer2のシミュレーション機能(MT Simulator2)を使用した場合

- MT Simulator2を使用する場合は、MT Developer2が別途必要です。
- 最大3つのプロジェクトを同時にシミュレーションすることができます。
- QモーションCPUの場合のみ本機能に対応しています。

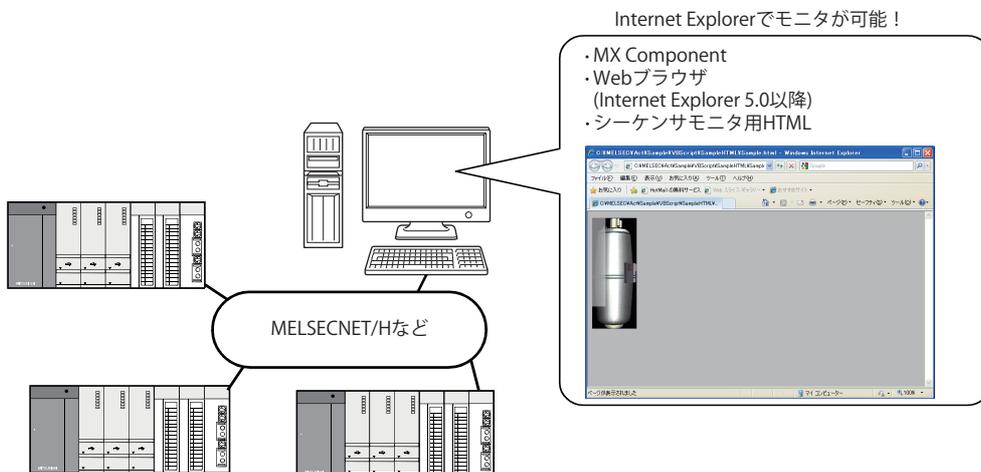
## 多彩なプログラミング言語をサポート

Visual Basic, Visual C++, Visual C#, VBScriptおよびVBAをサポートしています。

### ■VBScriptによるモニタリングページが作成可能

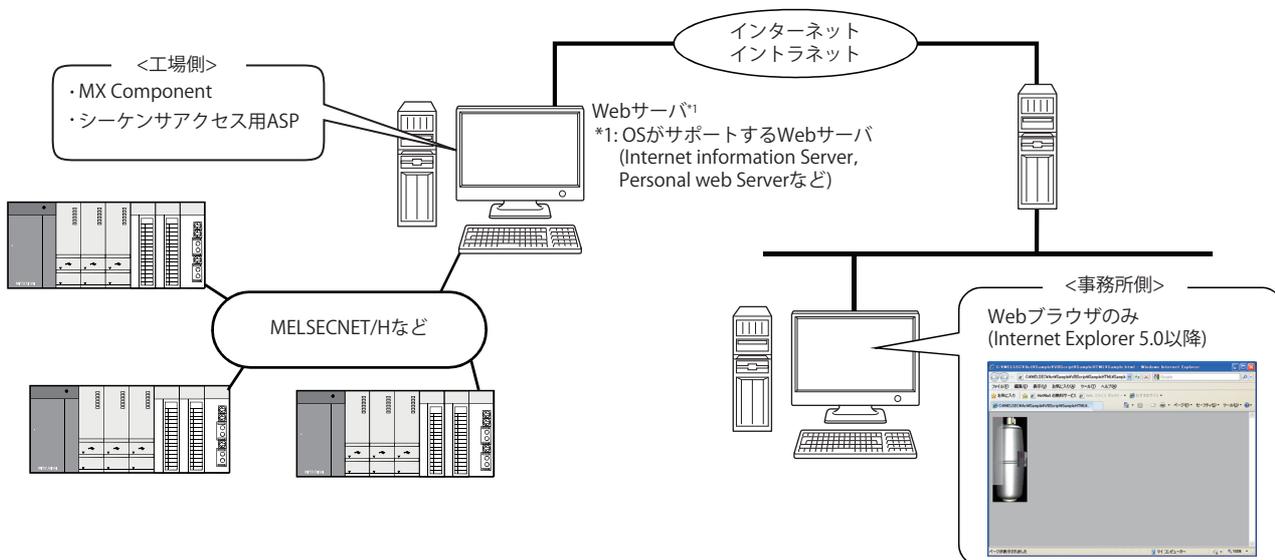
- HTML形式でモニタリングページが作成可能

テキストエディタを使用して、グラフィカルなモニタ用ホームページ(HTML形式)が作成できます。そのため、Visual Basic, Visual C++, Visual C#などを別途購入する必要がありません。



- ASP機能によりインターネット・イントラネット経由でモニタが可能

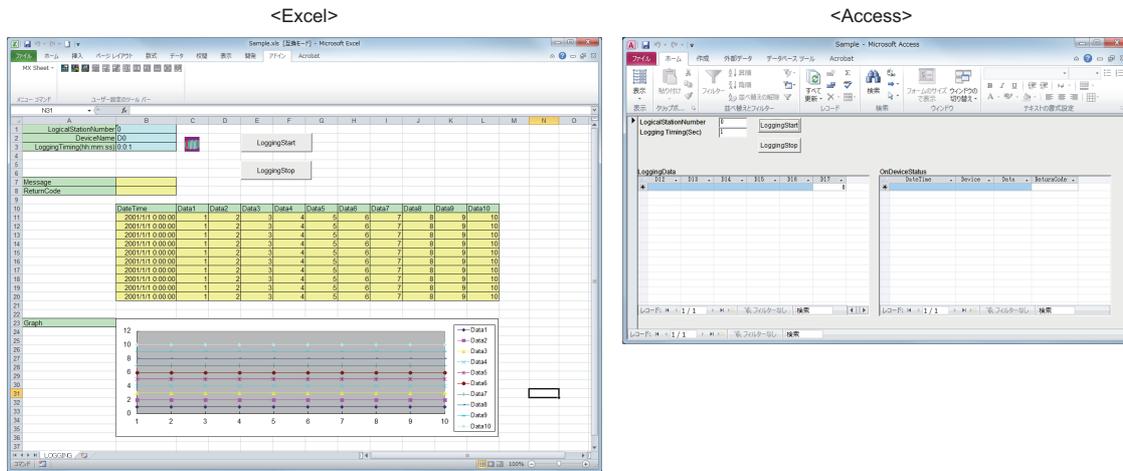
VBScriptのASP機能を利用し、工場側(MX Componentでモニタリングを行っている側)のWebページを公開することにより、Internet Explorer®で工場側のURLを指定するだけで、インターネット/イントラネットを経由して、遠隔地や出張先からでもシーケンサのデバイス状態、異常発生時のリモート操作を行うことが可能です。



## ■VBAによるデータ収集, モニタリング機能

VBAでプログラミングを行うことにより, ExcelおよびAccessの機能を利用し, リアルタイムなグラフ表示を行うアプリケーションが作成できます。

シーケンサのデバイスデータをロギングし, リアルタイムにデバイスデータの収集・保存を行うことが可能です。

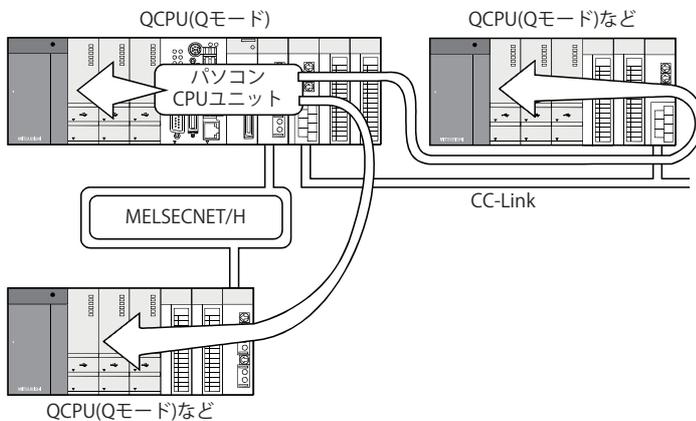


## QCPU(Qモード)のマルチCPUシステムに対応

通信設定ユーティリティまたはコントロールのプロパティを設定することにより, マルチCPUシステムにアクセスすることが可能です。

## パソコンCPUユニット上で動作可能

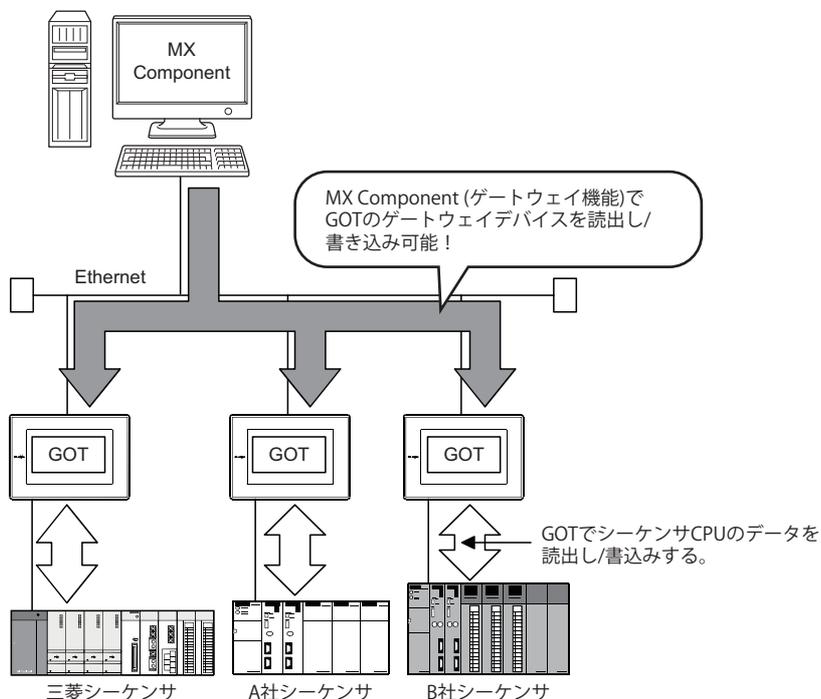
パソコンCPUユニットからQシリーズバス通信にて, 同一ベース上のQCPU(Qモード)にアクセスすることが可能です。また, MELSECNET/H通信用コントロールおよびCC-Link通信用コントロールを使用することにより, パソコンCPUユニットが管理しているMELSECNET/HユニットおよびCC-Linkユニット経由で他局へアクセスすることが可能です。



## GOTのゲートウェイデバイス読み出し/書き込み可能

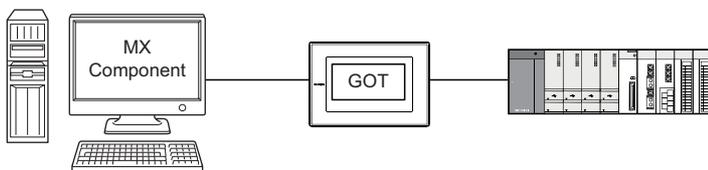
MX Componentのゲートウェイ機能通信を使用することにより、GOTのゲートウェイデバイスを読み出す/書き込むことができます。

GOTのゲートウェイデバイスを読み出す/書き込むことにより、GOTがモニタを行っているシーケンサCPUのデバイスを間接的に読み出す/書き込むことができます。



## GOTトランスペアレント機能に対応

GOTのトランスペアレント機能を使用することにより、GOTを経由してシーケンサCPUにアクセスすることが可能です。



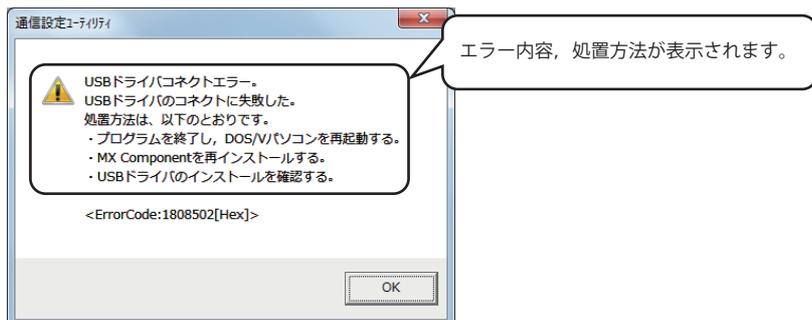
## エラー内容検索時間の短縮

トラブルシュート機能用ActSupportコントロールに対応しています。

エラーコードを指定するだけで、エラー内容や処置方法をユーザアプリケーション内に表示できます。

コントロールにてエラーが発生した場合、プログラミングマニュアルでエラー内容、処置方法を探す必要がありません。

<メッセージボックスにエラー内容を表示された例>



## ロギングファイルの転送に対応

RCPUに装着されているSDメモリカード内のロギングファイルをパソコンに転送できます。  
ロギングファイル転送用のコントロールについては下記のマニュアルを参照してください。  
📖MX Component Version 4 プログラミングマニュアル

# 2 システム構成

MX Componentのシステム構成，動作環境および使用可能CPUについて説明します。

## 2.1 システム構成一覧

オペレーティングシステムごとに構成できるシステムの一覧を示します。

### Windows XP Professional Operating System使用時

Windows XP Professional使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

○: 構成可能，×: 構成不可

項目	内容
シリアルコミュニケーション通信	○
Ethernet通信	○
CPU COM通信	○
CPU USB通信	○
MELSECNET/H通信	○*1
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○*2
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○*3
CC-Link通信	○*4
CC-Link G4通信	○
Qシリーズバス通信(パソコンCPUユニット使用時のみ)	×
GX Simulator通信	○
GX Simulator2通信	○
GX Simulator3通信	○
MT Simulator2通信	○
モデム通信	○
ゲートウェイ機能通信	○
GOTトランスベアレント通信	○
インバータCOM通信	○
インバータUSB通信	○
ロボットコントローラCOM通信	○
ロボットコントローラUSB通信	○
ロボットコントローラEthernet通信	○

\*1 SW0DNC-MNETH-Bのバージョン70H以降品にて対応しています。

\*2 使用可能ボード: CC-Link IEコントローラネットワークボード  
使用可能ドライバ: SW1DNC-MNETG-B以降

\*3 使用可能ボード: CC-Link IEフィールドネットワークボード  
使用可能ドライバ: SW1DNC-CCIEF-J，またはSW1DNC-CCIEF-B以降

\*4 SW4DNF-CCLINK-Bのバージョン40E以降品にて対応しています。

# Windows XP Home Edition Operating System使用時

Windows XP Home Edition使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

○: 構成可能, ×: 構成不可

項目	内容
シリアルコミュニケーション通信	○
Ethernet通信	○
CPU COM通信	○
CPU USB通信	○
MELSECNET/H通信	×
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○*1
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○*2
CC-Link通信	×
CC-Link G4通信	○
Qシリーズバス通信(パソコンCPUユニット使用時のみ)	×
GX Simulator通信	○
GX Simulator2通信	○
GX Simulator3通信	○
MT Simulator2通信	○
モデム通信	○
ゲートウェイ機能通信	○
GOTトランスペアレント通信	○
インバータCOM通信	○
インバータUSB通信	○
ロボットコントローラCOM通信	○
ロボットコントローラUSB通信	○
ロボットコントローラEthernet通信	○

\*1 使用可能ボード: CC-Link IEコントローラネットワークボード  
使用可能ドライバ: SW1DNC-MNETG-B以降

\*2 使用可能ボード: CC-Link IEフィールドネットワークボード  
使用可能ドライバ: SW1DNC-CCIEF-J, またはSW1DNC-CCIEF-B以降



VBScriptのASP機能は使用できません。

# Windows Vista Operating System使用時

Windows Vista使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

○: 構成可能, ×: 構成不可

項目	内容
シリアルコミュニケーション通信	○
Ethernet通信	○
CPU COM通信	○
CPU USB通信	○
MELSECNET/H通信	○
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○
CC-Link通信	○
CC-Link G4通信	○
Qシリーズバス通信(パソコンCPUユニット使用時のみ)	×
GX Simulator通信	○
GX Simulator2通信	○
GX Simulator3通信	○
MT Simulator2通信	○
モデム通信	○
ゲートウェイ機能通信	○
GOTトランスペアレント通信	○
インバータCOM通信	○
インバータUSB通信	○
ロボットコントローラCOM通信	○
ロボットコントローラUSB通信	○
ロボットコントローラEthernet通信	○

## Windows 7 Operating System使用時

Windows 7使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

○: 構成可能, ×: 構成不可

項目	内容	
	32ビット版	64ビット版
シリアルコミュニケーション通信	○	○
Ethernet通信	○	○
CPU COM通信	○	○
CPU USB通信	○	○
MELSECNET/H通信	○	○
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○	○
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○	○
CC-Link通信	○	○
CC-Link G4通信	○	○
Qシリーズバス通信(パソコンCPUユニット使用時のみ)	×	×
GX Simulator通信	○	○
GX Simulator2通信	○	○
GX Simulator3通信	○	○
MT Simulator2通信	○	○
モデム通信	○	○
ゲートウェイ機能通信	○	○
GOTトランスペアレント通信	○	○
インバータCOM通信	○	○
インバータUSB通信	○	○
ロボットコントローラCOM通信	○	○
ロボットコントローラUSB通信	○	○
ロボットコントローラEthernet通信	○	○

# Windows 8 Operating SystemおよびWindows 8.1 Operating System 使用時

Windows 8およびWindows 8.1使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

○: 構成可能, ×: 構成不可

項目	内容	
	32ビット版	64ビット版
シリアルコミュニケーション通信	○	○
Ethernet通信	○	○
CPU COM通信	○	○
CPU USB通信	○	○
MELSECNET/H通信	○*1	○*1
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○*1	○*1
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○*1	○*1
CC-Link通信	○*1	○*1
CC-Link G4通信	○	○
Qシリーズバス通信(パソコンCPUユニット使用時のみ)	×	×
GX Simulator通信	×	×
GX Simulator2通信	○	○
GX Simulator3通信	○	○
MT Simulator2通信	○	○
モデム通信	○	○
ゲートウェイ機能通信	○	○
GOTトランスペアレント通信	○	○
インバータCOM通信	○	○
インバータUSB通信	○	○
ロボットコントローラCOM通信	○	○
ロボットコントローラUSB通信	○	○
ロボットコントローラEthernet通信	○	○

\*1 Windows 8.1使用時は未サポートです。

# Windows 10 Operating System使用時

Windows 10使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

○: 構成可能, ×: 構成不可

項目	内容	
	32ビット版	64ビット版
シリアルコミュニケーション通信	○	○
Ethernet通信	○	○
CPU COM通信	○	○
CPU USB通信	○	○
MELSECNET/H通信	○ <sup>*1*3</sup>	○ <sup>*1*2*3</sup>
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○ <sup>*1*4</sup>	○ <sup>*1*2*4</sup>
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○ <sup>*1*5</sup>	○ <sup>*1*2*5</sup>
CC-Link通信	○ <sup>*1*6</sup>	○ <sup>*1*2*6</sup>
CC-Link G4通信	○	○
Qシリーズバス通信(パソコンCPUユニット使用時のみ)	×	×
GX Simulator通信	×	×
GX Simulator2通信	○	○
GX Simulator3通信	○	○
MT Simulator2通信	○	○
モデム通信	○	○
ゲートウェイ機能通信	○	○
GOTトランスペアレント通信	○	○
インバータCOM通信	×	×
インバータUSB通信	×	×
ロボットコントローラCOM通信	○	○ <sup>*2</sup>
ロボットコントローラUSB通信	○	○ <sup>*2</sup>
ロボットコントローラEthernet通信	○	○ <sup>*2</sup>

\*1 Windows 10 Education使用時は未サポートです。

\*2 Windows 10 IoT Enterprise 2016 LTSB使用時は未サポートです。

\*3 使用可能ボード: MELSECNET/H ボード

使用可能ドライバ: SW0DNC-MNETH-B(バージョン30G)以降

\*4 使用可能ボード: CC-Link IEコントローラネットワークボード

使用可能ドライバ: SW1DNC-MNETG-B(バージョン1.22Y)以降

\*5 使用可能ボード: CC-Link IEフィールドネットワークボード

使用可能ドライバ: SW1DNC-CCIEF-B(バージョン1.10L)

\*6 使用可能ボード: CC-Link Ver.2 ボード

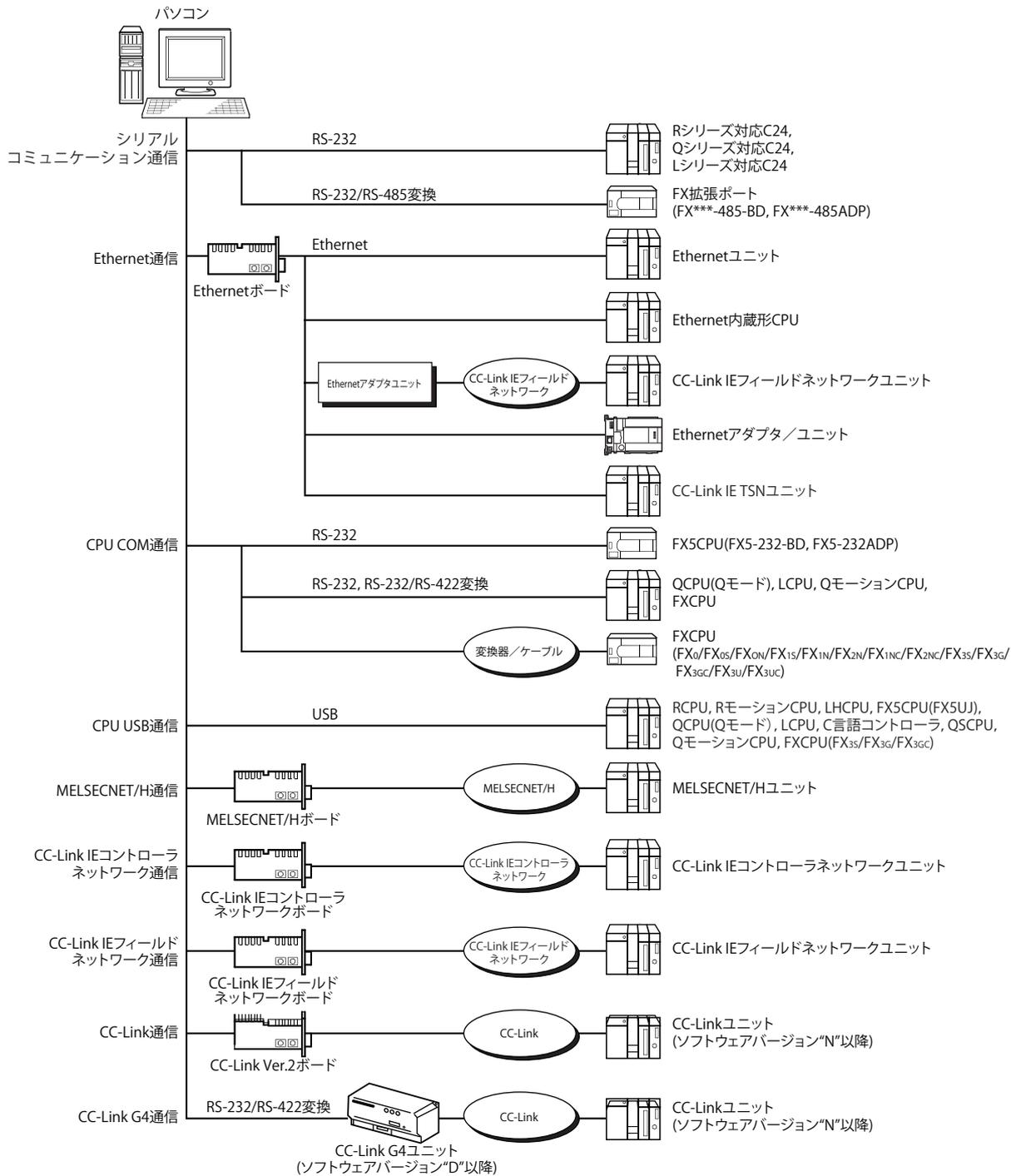
使用可能ドライバ: SW1DNC-CCBD2-B(バージョン1.19V)

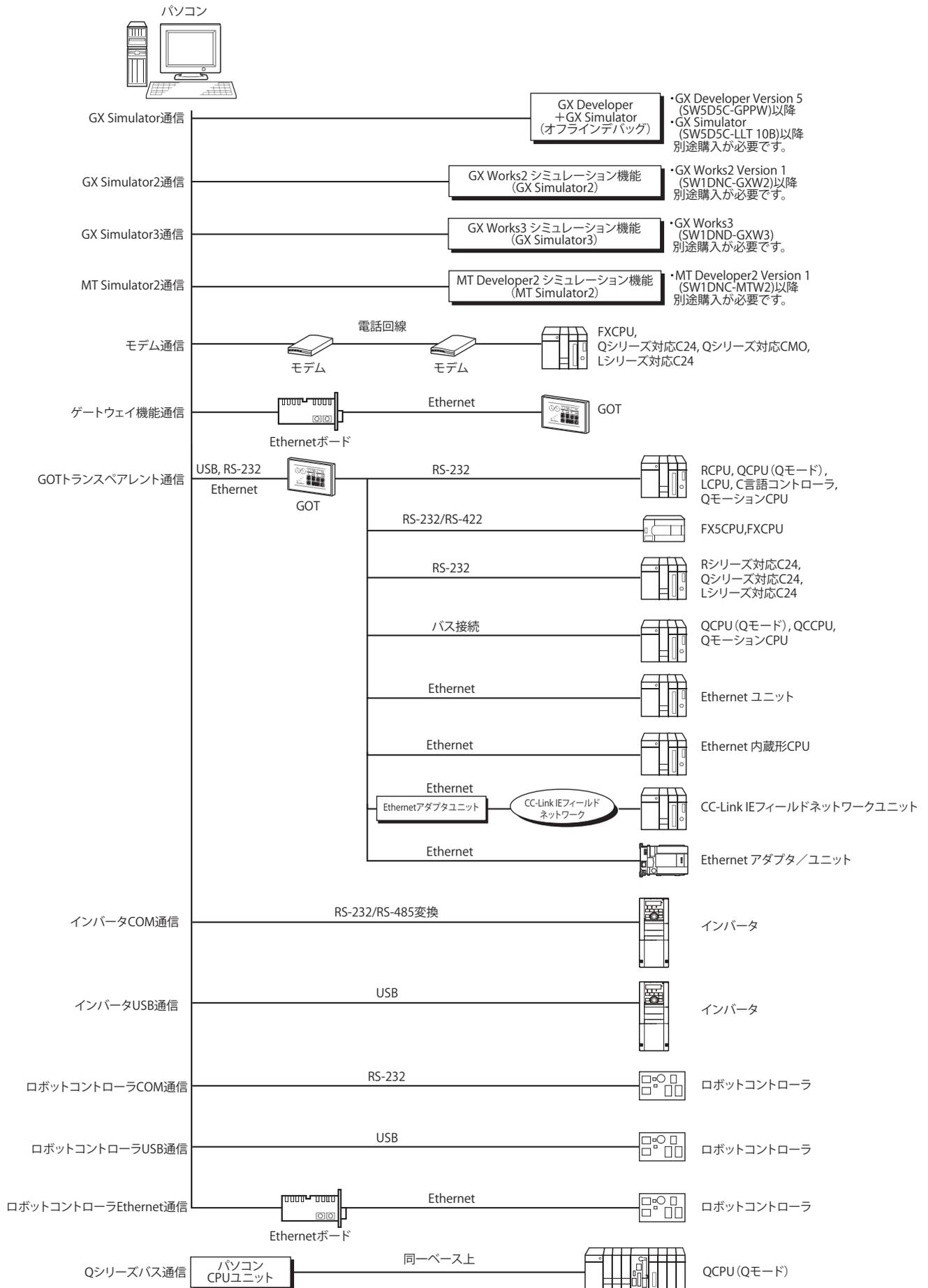
## 2.2 各通信形態を使用する場合のシステム構成

MX Componentを使用する場合のシステム構成を通信形態ごとに示します。  
各通信形態の詳細および注意事項については、下記を参照してください。

☞ 38ページ 各通信形態の詳細内容

### システム構成





## 各通信形態の詳細内容

### シリアルコミュニケーション通信

シリアルコミュニケーションユニットへの接続については、ご使用のシリアルコミュニケーションユニットのマニュアルを参照してください。

#### ■使用可能ユニット

シリアルコミュニケーションユニットにてシーケンサCPUへアクセスする場合に使用可能なユニットを下記に示します。

分類	形名
Rシリーズ対応C24	RJ71C24, RJ71C24-R2, RJ71C24-R4
Qシリーズ対応C24	QJ71C24, QJ71C24-R2, QJ71C24N, QJ71C24N-R2, QJ71C24N-R4
Lシリーズ対応C24	LJ71C24, LJ71C24-R2
FX拡張ポート	FX0N-485ADP, FX2NC-485ADP, FX3U-485ADP, FX1N-485-BD, FX2N-485-BD, FX3G-485-BD, FX3U-485-BD

#### ■使用可能ユニットの接続について

パソコンからシリアルコミュニケーションユニット経由でシーケンサCPUにアクセスする場合、パソコンと直接接続できるユニットが限定されますので注意してください。

また、パソコンと直接接続できない場合でも、マルチドロップ接続のn台目として使用できることがあります。

○: 接続可能, ×: 接続不可

形名	インタフェース	1:1接続	マルチドロップ接続	
			1台目	n台目
RJ71C24	RS-232(CH1)	○	○	×
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
RJ71C24-R2	RS-232(CH1)	○	×	×
	RS-232(CH2)	○	×	×
RJ71C24-R4	RS-422/485(CH1)	×	×	○
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
QJ71C24 QJ71C24N	RS-232(CH1)	○	○	×
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
QJ71C24-R2 QJ71C24N-R2	RS-232(CH1)	○	×	×
	RS-232(CH2)	○ (機能バージョンB以降品)	×	×
QJ71C24N-R4	RS-422/485(CH1)	×	×	○
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
LJ71C24	RS-232(CH1)	○	○	×
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
LJ71C24-R2	RS-232(CH1)	○	×	×
	RS-232(CH2)	○	×	×
FX0N-485ADP FX2NC-485ADP FX3U-485ADP FX1N-485-BD FX2N-485-BD FX3G-485-BD FX3U-485-BD	RS-422/485	○	○	○

#### ■シリアルコミュニケーションユニットのスイッチ設定

MX Componentを使用する際のスイッチ設定については、下記を参照してください。

☞ 134ページ シリアルコミュニケーションユニットの設定

#### ■接続時のケーブル

接続ケーブルについては、ご使用のシリアルコミュニケーションユニットのマニュアルを参照してください。

また、ケーブルのピンアサインについては、下記を参照してください。

☞ 398ページ シリアルコミュニケーション通信をする場合のRS-232ケーブルの配線例

### Point

パソコンとシリアルコミュニケーションユニットの接続は、RS-232コネクタのみ使用可能です。  
RS-422コネクタやRS-422/485端子台は使用できません。

## Ethernet通信(Ethernetユニット使用時)

Ethernetユニットへの接続については、ご使用のEthernetユニットのマニュアルを参照してください。

### ■使用可能ユニット

Ethernetユニット経由でシーケンサCPUへアクセスする場合に使用できるユニットを下記に示します。  
FXシリーズ用のEthernetユニットについては、FXシリーズのユーザーズマニュアルを参照してください。

分類	形名
Rシリーズ対応E71	RJ71EN71
Qシリーズ対応E71	QJ71E71,QJ71E71-B2,QJ71E71-B5,QJ71E71-100
Lシリーズ対応E71	LJ71E71

## Ethernet通信(Ethernet内蔵形CPU使用時)

Ethernet内蔵形CPUへの接続については、ご使用のEthernet内蔵形CPUのマニュアルを参照してください。

## Ethernet通信(Ethernetアダプタユニット使用時)

Ethernetアダプタユニットへの接続については、ご使用のEthernetアダプタユニットのマニュアルを参照してください。

## Ethernet通信(Ethernetアダプタ使用時)

Ethernetアダプタ使用時への接続については、ご使用のEthernetアダプタ使用時のマニュアルを参照してください。

## Ethernet通信(CC-Link IE TSNユニット使用時)

CC-Link IE TSNユニットへの接続については、ご使用のCC-Link IE TSNユニットのマニュアルを参照してください。

## CPU COM通信

### ■QCPU(Qモード), LCPU接続時のケーブル

パソコンとQCPU(Qモード)間で交信を行うためには、下記のケーブルが必要です。  
また、LCPUと接続する場合は、RS-232アダプタ(L6ADP-R2)が必要です。

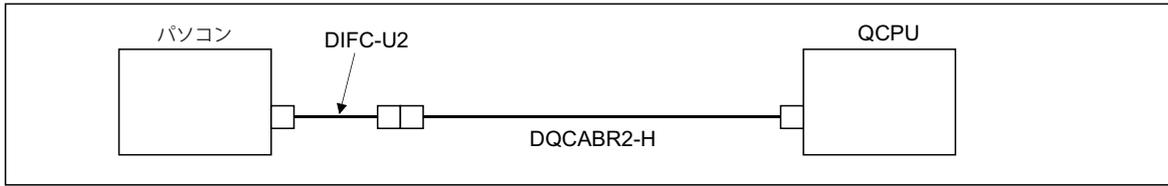
型名	メーカー名
QC30R2 (パソコンのコネクタがDサブ9ピン)	三菱電機製RS-232ケーブル



<ダイヤトレンド製を使用する場合(紹介品)>

### USB/RS-232変換ケーブル, USB/RS-422変換ケーブル

 <p>DIFC-U2 (USB↔Dサブ25ピン)</p>	 <p>DQCABR2-H2 (Dサブ25ピン↔ミニDINGピン)</p>
--	---



**Point**

- 高速通信する場合  
 高速通信(伝送速度: 115.2/57.6kbps)する場合、高速通信に対応しているパソコンを使用してください。  
 通信エラーが発生した場合は、伝送速度の設定を下げて再度通信を行ってください。

**■FX5CPU接続時のケーブル**

パソコンとFX5CPU間で通信を行うためには、下記のケーブルが必要です。

必要になる機能拡張ボードおよび拡張アダプタ	RS-232ケーブル
FX5-232ADP	FX-232CAB-1
FX5-232-BD	

詳細は下記を参照してください。

📖 MELSEC iQ-F FX5Uユーザーズマニュアル(ハードウェア編)

**■FXCPU接続時のケーブル**

パソコンとFXCPU間で通信を行うためには、下記のケーブルが必要です。

<三菱電機製を使用する場合>

パソコン側(RS-232ケーブル)	RS-232/RS-422変換器	シーケンサCPU側(RS-422ケーブル)
 F2-232CAB (Dサブ25ピン↔Dサブ25ピン)	 FX-232AW	FX1/FX2/FX2Cの場合  FX-422CAB (0.3m) FX-422CAB-150 (1.5m)
 F2-232CAB-1 (Dサブ9ピン↔Dサブ25ピン)		 FX-232AWC
 F2-232CAB-2 (ハーフピッチ↔Dサブ25ピン)	 FX-232AWC-H	
 AC30N2A(25ピン↔25ピン)		

**Point**

- 伝送速度について  
 FX3S/FX3G/FX3GC/FX3U/FX3UCにFX-232AWC-Hを用いて接続した場合は、伝送速度9.6kbps, 19.2kbps, 38.4kbps, 57.6kbps, 115.2kbpsのいずれかを選択してください。  
 FX-232AWC, FX-232AWで接続した場合は、伝送速度9.6kbps, 19.2kbpsどちらかを選択してください。
- FXCPUに接続する場合  
 FXCPUに接続する場合には、必ず表に示す機器をご使用ください。

## ■RS-422インタフェース使用時の注意事項

RS-422インタフェース変換ケーブル・変換器の仕様や注意事項などについては、下記および各製品のマニュアルをよくお読みいただき、正しいお取扱いをしていただきますようお願いいたします。

### ・変換ケーブル・変換器の抜き差しについて

RS-422インタフェースから周辺機器、変換ケーブル、変換器を抜き差しする場合は受電の有無にかかわらず、作業前には必ずアースバンドもしくは接地された金属などに触れて、ケーブルや人体などに帯電している静電気を放電してください。その後、下記の操作手順にてお取扱い願います。RS-422インタフェースからDC5V電源を受電する変換ケーブル・変換器を抜き差しする場合は、シーケンサCPU側の電源をOFFしてから操作してください。

## 操作手順

1. パソコン側の電源をOFFします。
2. 変換ケーブル・変換器の電源をOFFします。FG端子がある場合は接地します。
3. パソコンとシーケンサCPU間の変換ケーブル・変換器を抜き差しします。
4. 変換ケーブル・変換器の電源をONします。
5. パソコンの電源をONします。
6. ソフトウェアパッケージを立ち上げます。

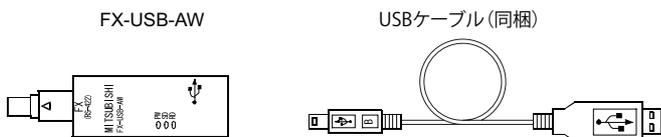
## ■QモーションCPU接続時のケーブル

パソコンとQモーションCPU間で交信を行う場合、下記と同様のケーブルを使用してください。

☞ 39ページ QCPU(Qモード)、LCPU接続時のケーブル

## ■パソコン側USB接続時の変換器/ケーブル(FXCPU対応)

### ・システム構成



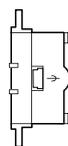
## Point

- USBケーブルを初めて使用する場合  
FX-USB-AWまたは、FX3U-USB-BDに同梱しているCD-ROMのドライバをインストールしてください。
- 注意事項、制約事項について  
FX-USB-AW使用時の注意事項、制約事項は、同梱しているマニュアルを参照してください。

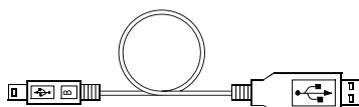
## ■USBケーブルと機能拡張ボード(FX3U/FX3UCCPU対応)

- ・システム構成

FX3U-USB-BD



USBケーブル(同梱)



### Point

- ・USBケーブルを初めて使用する場合  
FX-USB-AWまたは、FX3U-USB-BDに同梱しているCD-ROMのドライバをインストールしてください。
- ・注意事項, 制約事項について  
FX3U-USB-BD使用時の注意事項, 制約事項は、同梱しているマニュアルを参照してください。
- ・PCパラメータについて  
GX Works2で、PCパラメータの[PCシステム設定(2)]タブの"通信設定をする"にチェックを入れると、このポートによるシーケンサCPUとの通信ができなくなります。この場合は、シーケンサCPU内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。  
PCパラメータの設定方法については、下記のマニュアルを参照してください。  
📖GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル (共通編)

## ■USBケーブル(FX3S/FX3G/FX3GCCPU対応)

ケーブルの詳細は下記を参照してください。

- 📖FX3Sシリーズ ユーザーズマニュアル[ハードウェア編]
- 📖FX3Gシリーズ ユーザーズマニュアル[ハードウェア編]
- 📖FX3GCシリーズ ユーザーズマニュアル[ハードウェア編]

### Point

- ・USBケーブルを初めて使用する場合  
USBドライバをインストールしてください。(📖 429ページ USBドライバの更新)

## ■FXCPUのRS-422機能拡張ボード

シリーズ	機能拡張ボード
FX3U, FX3UC(FX3UC-32MT-LT, FX3UC-32MT-LT-2のみ)	FX3U-422-BD
FX3S, FX3G	FX3G-422-BD
FX2N	FX2N-422-BD
FX1S, FX1N	FX1N-422-BD

### Point

- ・PCパラメータについて  
GX Works2で、PCパラメータの[PCシステム設定(2)]タブの"通信設定をする"にチェックを入れると、このポートによるシーケンサCPUとの通信ができなくなります。  
この場合は、シーケンサCPU内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。  
PCパラメータの設定方法については、下記のマニュアルを参照してください。  
📖GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル (共通編)

## ■FXCPUのRS-232ケーブルと機能拡張ボード(特殊アダプタ)

パソコンのシリアルポートの形状	シリーズ	必要になる機能拡張ボードおよび特殊アダプタ	RS-232ケーブル	
Dサブ9ピン	FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD <sup>*1</sup>	FX-232CAB-1	
		機能拡張ボード(FX3U-***-BD) <sup>*2</sup> + FX3U-232ADP		
	FX3G, FX3GC	FX3G-232-BD <sup>*3</sup>	FX-232CAB-1	
		FX3G-CNV-ADP <sup>*4</sup> + FX3U-232ADP		
	FX3S	FX3G-232-BD	FX-232CAB-1	
		FX3S-CNV-ADP + FX3U-232ADP		
	FX2N	FX0N-232ADP + FX2N-CNV-BD	F2-232CAB-1	
		FX2N-232-BD	FX-232CAB-1	
		FX2NC-232ADP + FX2N-CNV-BD		
	FX1NC, FX2NC	FX0N-232ADP	F2-232CAB-1	
		FX2NC-232ADP	FX-232CAB-1	
	FX1S, FX1N	FX0N-232ADP + FX1N-CNV-BD	F2-232CAB-1	
		FX1N-232-BD	FX-232CAB-1	
		FX2NC-232ADP + FX1N-CNV-BD		
	ハーフピッチ14ピン	FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD	FX-232CAB-2
			機能拡張ボード(FX3U-***-BD) <sup>*2</sup> + FX3U-232ADP	
		FX3G, FX3GC	FX3G-232-BD <sup>*3</sup>	FX-232CAB-2
			FX3G-CNV-ADP <sup>*4</sup> + FX3U-232ADP	
FX3S		FX3G-232-BD	FX-232CAB-2	
		FX3S-CNV-ADP + FX3U-232ADP		
FX2N		FX0N-232ADP + FX2N-CNV-BD	F2-232CAB-2	
		FX2N-232-BD	FX-232CAB-2	
		FX2NC-232ADP + FX2N-CNV-BD		
FX1NC, FX2NC		FX0N-232ADP	F2-232CAB-2	
		FX2NC-232ADP	FX-232CAB-2	
FX1S, FX1N		FX0N-232ADP + FX1N-CNV-BD	F2-232CAB-2	
		FX1N-232-BD	FX-232CAB-2	
		FX2NC-232ADP + FX1N-CNV-BD		
Dサブ25ピン		FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD	F2-232CAB-1
			機能拡張ボード(FX3U-***-BD) <sup>*2</sup> + FX3U-232ADP	
		FX3G, FX3GC	FX3G-232-BD <sup>*3</sup>	F2-232CAB-1
			FX3G-CNV-ADP <sup>*4</sup> + FX3U-232ADP	
	FX3S	FX3G-232-BD	F2-232CAB-1	
		FX3S-CNV-ADP + FX3U-232ADP		
	FX2N	FX0N-232ADP + FX2N-CNV-BD	F2-232CAB	
		FX2N-232-BD	F2-232CAB-1	
		FX2NC-232ADP + FX2N-CNV-BD		
	FX1NC, FX2NC	FX0N-232ADP	F2-232CAB	
		FX2NC-232ADP	F2-232CAB-1	
	FX1S, FX1N	FX0N-232ADP + FX1N-CNV-BD	F2-232CAB	
		FX1N-232-BD	F2-232CAB-1	
		FX2NC-232ADP + FX1N-CNV-BD		

\*1 FX3UCシリーズは、FX3UC-32MT-LT, FX3UC-32MT-LT-2のみ接続可能です。

\*2 機能拡張ボード(FX3U-\*\*\*-BD)の\*\*\*には、232, 485, 422, USB, CNV, 8AVが入ります。

機能拡張ボード(FX3U-\*\*\*-BD)は、FX3UC(D, DS, DSS)シリーズには不要です。

なお、FX3U-485-BDについては、シリアルコミュニケーション通信も行えます。シリアルコミュニケーション通信時の設定については、下記を参照してください。

☞ 137ページ FX拡張ポート

\*3 FX3GCシリーズは、接続できません。

\*4 FX3Uアダプタ接続用ADP(FX3G-CNV-ADP)は、FX3GCシリーズには不要です。

## Point

- PCパラメータについて  
GX Works2で、PCパラメータの[PCシステム設定(2)]タブの"通信設定をする"にチェックを入れると、このポートによるシーケンサCPUとの通信ができなくなります。この場合は、シーケンサCPU内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。  
PCパラメータの設定方法については、下記のマニュアルを参照してください。  
📖 GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル (共通編)

## CPU USB通信

### ■USBケーブル

弊社で動作確認したUSBケーブルを下記に示します。

製品名	形名	メーカー名
USBケーブル(USB Aタイプ—USB Bタイプ)	AU230	株式会社バッファロー
USBケーブル(USB Aタイプ—USB miniBタイプ)	KU-AMB530	サンワサプライ株式会社
	U2C-M30BK	エレコム株式会社
	MR-J3USBCBL3M	三菱電機株式会社
	GT09-C30USB-5P	三菱電機システムサービス株式会社

### ■使用可能CPUユニット

下記の表内の「アクセス先」を参照してください。

📖 295ページ アクセス可能デバイス

## Point

- USBケーブルを初めて使用する場合  
USBドライバをインストールしてください。USBドライバのインストール方法については、下記を参照してください。  
📖 421ページ USBドライバのインストール
- 注意事項・制約事項について  
シーケンサCPUにアクセスする場合の注意事項・制約事項については、下記を参照してください。  
📖 4ページ シーケンサCPU関連の注意事項

## MELSECNET/H通信

### ■注意事項

- 通信ドライバは、必ずSW0DNC-MNETH-B以降を使用してください。  
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細については、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

## CC-Link IEコントローラネットワーク通信

### ■注意事項

- 通信ドライバは、必ずSW1DNC-MNETG-B以降を使用してください。  
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細については、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

## CC-Link IEフィールドネットワーク通信

### ■注意事項

- 通信ドライバは、必ずSW1DNC-CCIEF-J、またはSW1DNC-CCIEF-B以降を使用してください。  
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細については、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

## CC-Link通信

### ■注意事項

- 通信ドライバは、必ずSW1DNC-CCBD2-B以降を使用してください。  
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細については、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。
- CC-Linkマスタ局のユニットは、ソフトウェアバージョン"N"以降を使用してください。

### ■使用可能CPUユニット

QCPU(Qモード), LCPU, RCPU

## CC-Link G4通信

### ■注意事項

- 使用するCC-Link G4ユニットは、ソフトウェアバージョン"D"以降を使用してください。
- CC-Linkマスタ局のユニットは、ソフトウェアバージョン"N"以降を使用してください。

### ■CC-Link G4ユニットのスイッチ設定

MX Componentを使用する際のスイッチ設定については、下記を参照してください。

☞ 179ページ CC-Link G4ユニットのスイッチ設定

### ■ケーブル

パソコンとCC-Link G4ユニット間で交信を行うためには、CPU COM通信と同様のRS-232/RS-422変換ケーブルが必要です。  
詳細は下記を参照してください。

☞ 40ページ FXCPU接続時のケーブル

## Qシリーズバス通信(パソコンCPUユニット使用時のみ)

### ■注意事項

パソコンCPUユニットが管理しているMELSECNET/HユニットおよびCC-Linkユニット経由で他局へアクセスを行う場合、MELSECNET/H通信およびCC-Link通信用コントロールを使用してください。

## GX Simulator通信

### ■注意事項

GX Simulator通信を行う場合は、GX Developer Version 8(SW8D5C-GPPW)以降、およびGX Simulator Version 7(SW7D5C-LLT)以降が必要です。

#### Point

GX DeveloperとGX Simulatorは別途購入する必要があります。

## GX Simulator2通信

### ■注意事項

GX Simulator2通信を行う場合は、GX Works2 Version 1(SW1DNC-GXW2)以降が必要です。

#### Point

GX Works2は別途購入する必要があります。

## GX Simulator3通信

### ■注意事項

GX Simulator3通信を行う場合は、GX Works3(SW1DND-GXW3)以降が必要です。

#### Point

GX Works3は別途購入する必要があります。

## MT Simulator2通信

### ■注意事項

MT Simulator2通信を行う場合は、MT Developer2 Version 1(SW1DNC-MTW2)以降が必要です。

#### Point

MT Developer2は別途購入する必要があります。

## モデム通信

### ■注意事項

- FXCPUを使用したモデム通信を行う場合、FX1S、FX1N、FX1NC、FX2N、FX2NC、FX3S、FX3G、FX3GC、FX3U、FX3UCが使用できます。
- パソコンとモデム間の接続には、モデムに付属のRS-232ケーブルを使用してください。

### ■ユニットの設定に使用するソフトウェア

モデム通信を行う場合は、接続を行うユニットに対して、パラメータおよびシーケンスプログラムで設定を行う必要があります。

各ユニットの設定には、下記に示すソフトウェアを使用してください。

ユニット	ソフトウェア	
	GX Developer <sup>*1</sup>	GX Works2 <sup>*2</sup>
FXCPU	Version 3 (SW3D5C-GPPW/SW3D5F-GPPW)以降	Version 1.07H (SW1DNC-GXW2)以降 <sup>*3</sup>
Qシリーズ対応C24	Version 4 (SW4D5C-GPPW)以降	Version 1.01B (SW1DNC-GXW2)以降
QJ71CMO	Version 7 (SW7D5C-GPPW)以降	Version 1.01B (SW1DNC-GXW2)以降
Lシリーズ対応C24	Version 8.88S (SW8D5C-GPPW)以降	Version 1.20W (SW1DNC-GXW2)以降

\*1 各ユニットの対応バージョンの詳細については、GX Developerのマニュアルを参照してください。

\*2 各ユニットの対応バージョンの詳細については、GX Works2のマニュアルを参照してください。

\*3 FX3GCはVersion 1.77F以降、FX3SはVersion 1.492N以降で対応しています。

### ■モデム仕様

モデム通信を行う場合は、下記に示す仕様を満たすモデムを選定してください。

- ATコマンド対応(初期化コマンド)
- DR端子を単独でON(High)できること  
(<例> DR端子のみをONしたとき、CD端子が同時にONするモデムは使用不可)
- 通信規格: ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21/V.FC, Bell 212A/103

### Point

- MX Componentは、手動回線接続(交換手を介しての接続)に対応していません。  
加入者電話回線または構内電話回線を使用してモデム通信を行ってください。
- パソコン内蔵モデムおよびPCカード(PCMCIA)を使用してモデム通信を行う場合、COMポートの設定が必要となります。  
パソコン内蔵モデムおよびPCカード(PCMCIA)のCOMポートについては、該当製品のマニュアルを参照してください。
- モデム通信を行う場合、一部のモデムで標準のATコマンドが使用できません。  
通信設定ユーティリティにて"ATコマンド"を"モデム標準"に選択して回線接続できない場合は、ATコマンドを指定してください。  
通信設定ユーティリティの"ATコマンド"の設定については、下記を参照してください。  
 102ページ 回線設定画面
- コールバック機能の詳細については、ご使用になるユニットのマニュアルを参照してください。

## ゲートウェイ機能通信

### ■ゲートウェイ機能対応GOT

ゲートウェイ機能対応のGOTについては、ご使用になるGOTシリーズのゲートウェイ機能マニュアルを参照してください。

### ■GOTの設定およびGOTとシーケンサ間の設定

GOTの設定およびGOTとシーケンサ間の設定については、ご使用になるGOTシリーズのゲートウェイ機能マニュアルを参照してください。

## GOTトランスペアレント通信

### ■注意事項

GOTの設定およびGOTとシーケンサ間の設定については、下記のマニュアルを参照してください。

📖 GOT2000シリーズの各接続マニュアル

(三菱電機機器接続編, 他社機器接続編1, 他社機器接続編2, マイコン・MODBUS/フィールドバス・周辺機器接続編)

📖 GOT1000シリーズの各接続マニュアル

(三菱電機機器接続編, 他社機器接続編1, 他社機器接続編2, マイコン・MODBUS・周辺機器接続編)

## インバータ(COM/USB)通信

### ■接続時のケーブル

接続ケーブルについては、ご使用になるインバータのマニュアルを参照してください。

## ロボットコントローラ(COM/USB/Ethernet)通信

### ■接続時のケーブル

接続ケーブルについては、下記を参照してください。

📖 CR750/700/500シリーズRT ToolBox2/RT ToolBox2 mini取扱説明書

## 2.3 動作環境

### MX Componentの動作環境

MX Componentの動作環境を下記に示します。

項目	内容	
パソコン本体	Microsoft Windowsが動作するパーソナルコンピュータ	
	CPU	Intel®Core™2 Duo 2GHz以上推奨
	必要メモリ	1GB以上推奨*1
パソコンCPUユニット	株式会社コンテック製MELSEC-Qシリーズ対応パソコンCPUユニット*2	
ハードディスク空き容量	インストール時: 300MB以上*3 動作時: 仮想メモリの空き容量512MB以上	
ディスプレイ	解像度1024 × 768ドット以上	
OS*5*6 (日本語版) (32ビット版/64ビット版)	Microsoft Windows 10 (Home, Pro, Enterprise, Education, IoT Enterprise 2016 LTSB*7) Microsoft Windows 8.1, Microsoft Windows 8.1 (Pro, Enterprise) Microsoft Windows 8, Microsoft Windows 8 (Pro, Enterprise) Microsoft Windows 7 (Starter, Home Premium, Professional, Ultimate, Enterprise) Microsoft Windows Vista (Home Basic SP2, Home Premium SP2, Ultimate SP2, Business SP2, Enterprise SP2)*4 Microsoft Windows XP (Professional SP3, Home Edition SP3)*4	

\*1 Windows 7以降の64ビット版を使用する場合は2GB以上必要です。

\*2 パソコンCPUユニットは2011年3月に生産中止しています。

\*3 .NET Frameworkをインストールする場合に、空き容量が約1GB必要です。

\*4 32ビット版にのみ対応しています。

\*5 下記の機能を使用した場合、本製品は正常に動作しない可能性があります。

Windows互換モードでのアプリケーション起動

ユーザ簡易切替え

リモートデスクトップ

Windows XP Mode

WindowsタッチまたはWindowsのタッチ

Modern UI

クライアントHyper-V

仮想デスクトップ

タブレットモード

Windowsの休止およびスタンバイ

統合書き込みフィルター

\*6 下記の場合、本製品の画面が正常に動作しない場合があります。

画面上のテキストやその他の項目のサイズが100%(96DPI, 9ptなど)以外の場合

\*7 64ビット版にのみ対応しています。

### 注意事項

MX Componentのユーティリティでは、サロゲートペア文字および環境依存文字を使用できません。

## MX Componentの開発環境

MX Componentの開発環境を下記に示します。

プログラミング言語*1	内容
Visual Basic	Microsoft Visual Studio 2005 Visual Basic(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2008 Visual Basic(日本語版)*3 Microsoft Visual Studio 2010 Visual Basic(日本語版) Microsoft Visual Studio 2012 Visual Basic(日本語版) Microsoft Visual Studio 2013 Visual Basic(日本語版)*4 Microsoft Visual Studio 2015 Visual Basic(日本語版)*4 Microsoft Visual Studio 2017 Visual Basic(日本語版)*4
Visual C++	Microsoft Visual Studio 2005 Visual C++(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2008 Visual C++(日本語版)*3 Microsoft Visual Studio 2010 Visual C++(日本語版) Microsoft Visual Studio 2012 Visual C++(日本語版) Microsoft Visual Studio 2013 Visual C++(日本語版)*4 Microsoft Visual Studio 2015 Visual C++(日本語版)*4 Microsoft Visual Studio 2017 Visual C++(日本語版)*4
Visual C#	Microsoft Visual Studio 2005 Visual C#(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2008 Visual C#(日本語版)*3 Microsoft Visual Studio 2010 Visual C#(日本語版) Microsoft Visual Studio 2012 Visual C#(日本語版) Microsoft Visual Studio 2013 Visual C#(日本語版)*4 Microsoft Visual Studio 2015 Visual C#(日本語版)*4 Microsoft Visual Studio 2017 Visual C#(日本語版)*4
VBScript*5*6	テキストエディタおよび市販のHTMLツール
VBA	Microsoft Excel 2003(日本語版)*7 Microsoft Excel 2007(日本語版) Microsoft Excel 2010(32ビット版)(日本語版)*8 Microsoft Excel 2013(32ビット版)(日本語版)*9 Microsoft Excel 2016(32ビット版)(日本語版)*10 Microsoft Excel 2019(32ビット版)(日本語版)*11 Microsoft Access 2003(日本語版)*7 Microsoft Access 2007(日本語版) Microsoft Access 2010(32ビット版)(日本語版)*8 Microsoft Access 2013(32ビット版)(日本語版)*9 Microsoft Access 2016(32ビット版)(日本語版)*10 Microsoft Access 2019(32ビット版)(日本語版)*11

\*1 日本語環境にて作成したユーザプログラムは、日本語環境のみで使用可能です。英語環境では使用できません。

\*2 Windows VistaにてVisual Studio 2005を使用時は、Visual Studio 2005 Service Pack 1またはVisual Studio 2005 Service Pack 1 Update for Windows Vistaが必要です。

\*3 Windows 7にてVisual Studio 2008を使用時は、Visual Studio 2008 Service Pack 1が必要です。

\*4 Windows 7以降に対応しています。

\*5 VBScriptを動作させるには、下記のバージョンのInternet Explorerを使用してください。  
バージョン5.00.2919.6307以降

\*6 Windows XP Home Edition使用時は、ASP機能は使用できません。

\*7 Windows 7にてMicrosoft Excel 2003およびMicrosoft Access 2003を使用時は、Microsoft Office 2003 Service Pack 3以上が必要です。

\*8 Microsoft Excel 2010(64ビット版)およびMicrosoft Access 2010(64ビット版)には対応していません。

\*9 Microsoft Excel 2013(64ビット版)およびMicrosoft Access 2013(64ビット版)には対応していません。

\*10 Microsoft Excel 2016(64ビット版)およびMicrosoft Access 2016(64ビット版)には対応していません。

\*11 Microsoft Excel 2019(64ビット版)およびMicrosoft Access 2019(64ビット版)には対応していません。

## ロギングファイル転送用コントロールの開発環境

ロギングファイル転送用のコントロール(ActUtilDataLogging, ActProgDataLogging)は下記の開発環境に対応しています。

プログラミング言語*1	内容
Visual Basic	Microsoft Visual Studio 2010 Visual Basic(日本語版) Microsoft Visual Studio 2012 Visual Basic(日本語版) Microsoft Visual Studio 2013 Visual Basic(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2015 Visual Basic(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2017 Visual Basic(日本語版)*2
Visual C++ (MFC)	Microsoft Visual Studio 2010 Visual C++(日本語版) Microsoft Visual Studio 2012 Visual C++(日本語版) Microsoft Visual Studio 2013 Visual C++(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2015 Visual C++(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2017 Visual C++(日本語版)*2
Visual C#	Microsoft Visual Studio 2010 Visual C#(日本語版) Microsoft Visual Studio 2012 Visual C#(日本語版) Microsoft Visual Studio 2013 Visual C#(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2015 Visual C#(日本語版)*2 Microsoft Visual Studio 2017 Visual C#(日本語版)*2

\*1 日本語環境にて作成したユーザプログラムは、日本語環境のみで使用可能です。英語環境では使用できません。

\*2 Windows7以降に対応しています。

### Point

- ユーザプログラムを作成する場合、ターゲットCPUは"x86"(32ビット)を選択してください。
- ユーザプログラムは以下の形式で作成してください。  
Windowsフォームアプリケーション  
コンソールアプリケーション  
(WindowsサービスアプリケーションからMX Componentを使用することはできません。)

## 2.4 使用可能シーケンサCPU

使用可能なシーケンサCPUを下記に示します。

シーケンサCPU	形名
RCPU	R00CPU, R01CPU, R02CPU, R04CPU, R04ENCPU, R08CPU, R08ENCPU, R08PCPU, R08PSFCPU, R08SFCPU, R16CPU, R16ENCPU, R16PCPU, R16PSFCPU, R16SFCPU, R32CPU, R32ENCPU, R32PCPU, R32PSFCPU, R32SFCPU, R120CPU, R120ENCPU, R120PCPU, R120PSFCPU, R120SFCPU
RCCPU	R12CCPU-V
RモーションCPU	R16MTCPU, R32MTCPU
LHCPU	L04HCPU, L08HCPU, L16HCPU
FX5CPU	FX5UCPU, FX5UCCPU, FX5UJCPU
QCPU(Qモード)	Q00JCPU, Q00UJCPU, Q00CPU, Q00UCPU, Q01CPU, Q01UCPU, Q02CPU, Q02HCPU, Q02PHCPU, Q02UCPU, Q03UDCPU, Q03UDECPU, Q03UDVCPU, Q04UDHCPU, Q04UDEHCPU, Q04UDVCPU, Q04UDPVCPU, Q06HCPU, Q06PHCPU, Q06UDHCPU, Q06UDEHCPU, Q06UDVCPU, Q06UDPVCPU, Q10UDHCPU, Q10UDEHCPU, Q12HCPU, Q12PHCPU, Q12PRHCPU, Q13UDHCPU, Q13UDEHCPU, Q13UDVCPU, Q13UDPVCPU, Q20UDHCPU, Q20UDEHCPU, Q25HCPU, Q25PHCPU, Q25PRHCPU, Q26UDHCPU, Q26UDEHCPU, Q26UDVCPU, Q26UDPVCPU, Q50UDEHCPU, Q100UDEHCPU
LCPU	L02SCPU, L02CPU, L06CPU, L26CPU, L26CPU-BT
QCCPU	Q12DCCPU-V(基本機能モード)*1, Q12DCCPU-V(機能拡張モード), Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LS
QSCPU	Q5001CPU
QモーションCPU	Q172CPU, Q173CPU, Q172HCPU, Q173HCPU, Q172DCPU, Q173DCPU, Q172DSCPU, Q173DSCPU
FXCPU	FX0CPU, FX0SCPU, FX0NCP, FX1CPU, FX1NCP, FX1NCCPU, FX1SCPU, FX2CPU, FX2CCPU, FX2NCP, FX2NCCPU, FX3SCPU, FX3GCCPU, FX3GCCPU, FX3UCPU, FX3UCCPU

\*1 シリアルNo.の上5桁が"12042"以降品のみ対応しています。

# 3 インストール・アンインストール

MX Componentのインストール、アンインストールの手順を説明します。

## 3.1 インストール

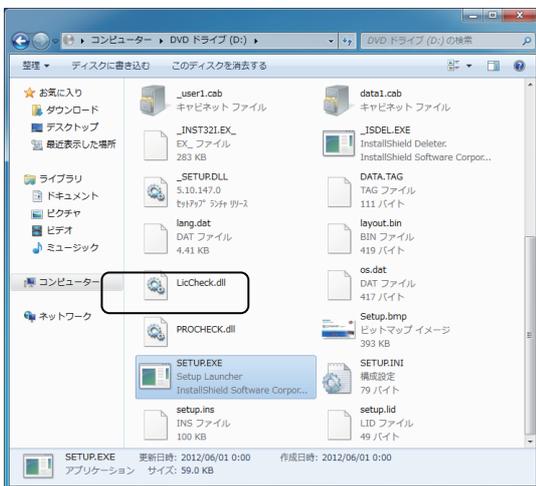
インストールの操作手順を下記に示します。OSにより操作が異なる場合を除き、Windows 7の画面で説明します。

### Point

- インストールを行う前に、Windowsで動作させているほかのアプリケーションをすべて終了させてください。
- Windows UpdateやJava®のアップデートなど、OSや他社ソフトウェアの更新プログラムが自動で起動し、インストーラが正常に動作しない場合があります。更新プログラムが自動で起動しないよう、設定を変更した後、インストールを行ってください。
- インストール時は、Administrator権限(管理者権限)を持つユーザとしてログオンしてください。
- インストール時に必要なパソコンの動作環境については下記を参照してください。  
☞ 49ページ 動作環境
- Windows 8, Windows 8.1, およびWindows 10の場合、コントロールパネルの"Windows の機能の有効化または無効化"で".NET Framework 3.5(.NET 2.0 および 3.0 を含む)"を有効化している必要があります。
- リムーバブルメディアからアップデートを行う場合は、インストール前にMelfaRXM Japaneseをアンインストールしてください。
- ラベルを使用しない場合は、下記を参照してください。  
☞ 414ページ ACT版インストール

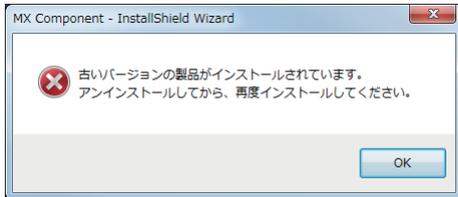
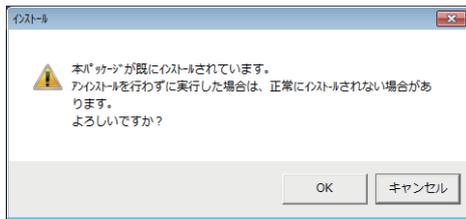
## 製品のインストール

### 操作手順



1. [スタート]を右クリックし、[エクスプローラを開く]を選択します。  
CD-ROM が挿入されているドライブをクリックし、"SETUP.EXE"をダブルクリックします。  
ユーザーアカウント制御が有効な場合は下記の画面が表示されます。  
[はい]ボタンをクリックしてください。(Windows Vistaの場合は"許可")





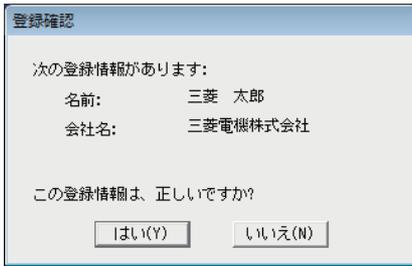
2. 左記のメッセージが表示された場合は、[キャンセル]ボタンをクリックして、MX Componentのアンインストールを実施後、再インストールを行ってください。

左記のメッセージが表示された場合は、[OK]ボタンをクリックして、MX Componentのアンインストールを実施後、再インストールを行ってください。  
(左記のメッセージは、MX Component Version 4.10L以前をインストールしている状態で、MX Component Version 4.11M以降の"SETUP.EXE"を実行した場合に表示されます。)

3. 左記のメッセージが表示された場合は、EnvMELのインストール(58ページ)インストール開始時に、"本パッケージが動作可能な環境になっておりません。"というメッセージが表示された場合を行ってください。作業が終了したら、再度インストールを行ってください。

4. すべてのアプリケーションが終了していることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。アプリケーションが動作している場合は、動作しているアプリケーションをすべて終了してください。USB 接続機器を接続している場合は、その電源を切る、またはUSB ケーブルを抜いてください。

5. セットアップが開始されます。名前と会社名を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



6. 登録された名前と会社名を確認します。  
登録された名前が正しいことを確認し、[はい]ボタンをクリックします。  
変更する場合は、[いいえ]ボタンをクリックし、前画面に戻ります。

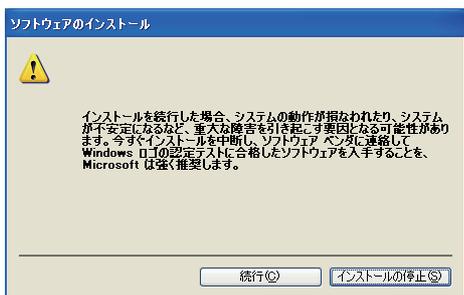
7. 製品のプロダクトIDを登録します。  
製品のプロダクトIDを入力し、[次へ]ボタンをクリックします。  
プロダクトIDは、製品に同梱されている「ライセンス許諾書」に記載されています。

8. インストール先のフォルダを指定します。  
変更しない場合は、[次へ]ボタンをクリックします。  
変更する場合は、[参照...]ボタンをクリックして、変更先のドライブ、フォルダを指定してください。

<Windows Vista以降使用時>



<Windows XP使用時>



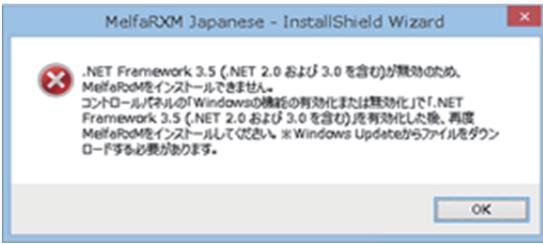
9. インストール中に左記の画面が表示されることがあります。インストールを続けるには、[インストール]ボタンをクリックしてください。

Windows XPの場合は、[続行]ボタンをクリックしてください。

(使用するOSによって、一部画面表示が異なる場合がありますが、操作に影響はありません。)

(弊社にて、動作確認を実施しています。インストール後に、問題が発生することはありません。)

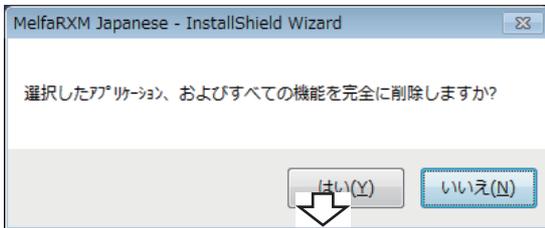
ACT版(☞ 414ページ ACT版インストール)をインストールしている場合、左記の画面が表示されることがあります。"このインストールをスキップする"を選択し、インストールを続行してください。



<MelfaR XM Japaneseをインストールする場合>



<MelfaR XM Japaneseをアップデートする場合>



インストールの完了

ACT版(☞ 414ページ ACT版インストール)をインストールしている場合、左記の画面が表示されることがあります。[OK]ボタンをクリックし、インストールを続行してください。

## 10. MelfaR XM Japaneseをインストールします。

左記の画面が表示された場合は、[次へ]ボタンをクリックします。

左記の画面が表示された場合は、[はい]ボタンをクリックします。

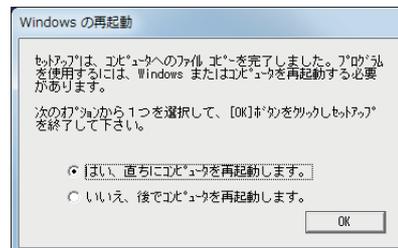
警告メッセージが表示された場合は、インストールを中断して、MelfaR XM Japaneseのアンインストールの実施後に、再インストールを行ってください。(☞ 59ページ リムーバブルメディアからのインストール中に、MelfaR XM Japaneseの警告メッセージが表示された場合)

左記の画面が表示された場合は、[いいえ]ボタンをクリックします。

MelfaR XM Japaneseのインストールまたはアップデートの完了画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。左記の画面が表示され、インストールが完了します。

## 11. [OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

下記の画面が表示された場合は、"はい、直ちにコンピュータを再起動します。"を選択してください。



## インストーラ起動時にメッセージが表示された場合

本製品のインストーラ起動時に、メッセージが表示された場合の対処について説明します。

### ■インストール開始時に、"本パッケージが動作可能な環境になっておりません。"というメッセージが表示された場合

本製品のインストール開始時に、"本パッケージが動作可能な環境になっておりません。"というメッセージが表示され、インストールが正常に完了しない場合があります。

その場合はすべてのアプリケーションを終了し、下記の操作を行ってください。

#### 操作手順

1. 本製品CD-ROMの"EnvMEL"フォルダ内にあるSETUP.EXEを実行してください。  
ユーザーアカウント制御が有効な場合は下記の画面が表示されます。  
[はい]ボタンをクリックしてください。(Windows Vistaの場合は"許可")



#### Point

下記のOSを使用するときは、対応するテクニカルニュースを参照してください。

- Windows Vista使用時  
テクニカルニュースNo. FA-D-0008
- Windows 7使用時  
テクニカルニュースNo. FA-D-0091
- Windows 8, 8.1使用時  
テクニカルニュースNo. FA-D-0153
- Windows 10使用時  
テクニカルニュースNo. FA-D-0207

2. 再度製品のインストールを実行してください。  
本製品のインストールが正しく実施されない場合は、パソコンを再起動してください。

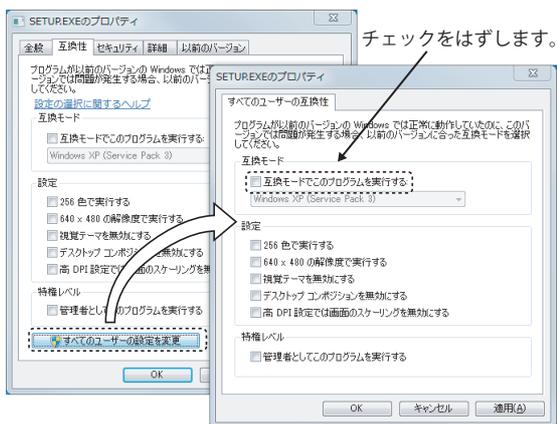
## ■インストール完了後に、"プログラム互換性アシスタント"画面が表示された場合

インストール完了後に、"プログラム互換性アシスタント"画面が表示されることがあります。

"このプログラムは正しくインストールされました"を選択し、パソコンを再起動してください。



"推奨の設定を使用して再インストールする"を選択すると、"Windows XP SP2互換モード"が自動的に設定されます。下記の手順に従って"Windows XP SP2互換モード"を解除し、再インストールを実行してください。



1. エクスプローラでSETUP.EXEを右クリックし、"SETUP.EXEのプロパティ"画面を開きます。
2. [互換性]タブを開き、[すべてのユーザーの設定を変更]ボタンをクリックします。
3. [すべてのユーザーの互換性]タブを開き、互換モードの"互換モードでこのプログラムを実行する"のチェックをはずし、[OK]ボタンをクリックします。
4. "SETUP.EXEのプロパティ"画面の[OK]ボタンをクリックします。
5. インストール(☞ 53ページ 製品のインストール)を再度、実行します。

## ■リムーバブルメディアからのインストール中に、MelfaRXM Japaneseの警告メッセージが表示された場合

リムーバブルメディアからのインストール中に、MelfaRXM Japaneseの警告メッセージが表示される場合があります。

その場合は下記の操作を行ってください。



1. [キャンセル]ボタンをクリックします。
2. インストールを中断します。
3. MelfaRXM Japaneseをアンインストールします。
4. MX Componentのインストール(☞ 53ページ 製品のインストール)を再度、実行します。

## インストーラ起動時に画面が表示されない場合

本製品のインストーラ起動時に画面が表示されない(インストールが開始されない)場合の対処について説明します。

### ■下記の方法でインストーラを起動してください。

- インストーラを"C:\temp"などの階層の浅いディレクトリへコピーした後、起動する。
- SETUP.EXEを右クリックし、[管理者として実行]を選択して起動する。
- キーボード/マウス用常駐ソフトウェアを終了させた後、再度インストーラを起動する。

### ■上記の対処方法で解決しない場合、ご使用のパソコンが下記の条件に該当するか確認してください。

- タスクマネージャにて"ntvdm.exe"が高負荷となっている(CPUコア1つの使用率が最大となっている)
- 第6世代インテル® Core™ プロセッサ搭載のパソコンである。
- オンボードビデオ(CPU内蔵)を利用して映像出力をしている。
- Microsoft Windows 7(32ビット版)のいずれかのエディションを使用している。

上記のいずれかの条件に該当する場合、パソコン側BIOSコードの不備により、Windowsのシステムモジュール"ntvdm.exe"が異常動作することが、正しくインストールできないことの原因となります。

ご使用のパソコンメーカーにお問合わせのうえ、対策済のBIOSを入手、適用してください。

## インストーラ実行時に自己登録されない場合

ローカルセキュリティポリシーの「ユーザーアカウント制御」の一部ポリシーについては、Windows Vista以降のOSで正しくインストールができなくなる設定があります。

下記のポリシーの設定を確認してください。

### ■アプリケーションのインストールを検出し、昇格をプロンプトする

[有効]を設定してください。

[無効]にすると、インストールの途中で自己登録エラーが発生する場合があります。

### ■署名され検証された実行ファイルのみを昇格する

[無効]を設定してください。

[有効]にすると、署名のない実行ファイルが実行できなくなるため、インストーラが正しく起動できなくなります。

### ■標準ユーザーに対する昇格時のプロンプトの動作

[セキュリティで保護されたデスクトップで資格情報を要求する]、または[資格情報を要求する]を設定してください。

[昇格の要求を自動的に拒否する]を設定すると昇格ができなくなり、インストーラが正しく起動できなくなります。

## 3.2 登録されるアイコン

MX Componentをインストールすると、[スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]<sup>\*1</sup>に下記のアイコンが登録されます。

<sup>\*1</sup>Windows 8以降では表示されません。

アイコン	名称	内容
	ラベル管理ユーティリティ	ラベル管理ユーティリティを起動します。
	シーケンサモニタユーティリティ	シーケンサモニタユーティリティを起動します。
	通信設定ユーティリティ	通信設定ユーティリティを起動します。

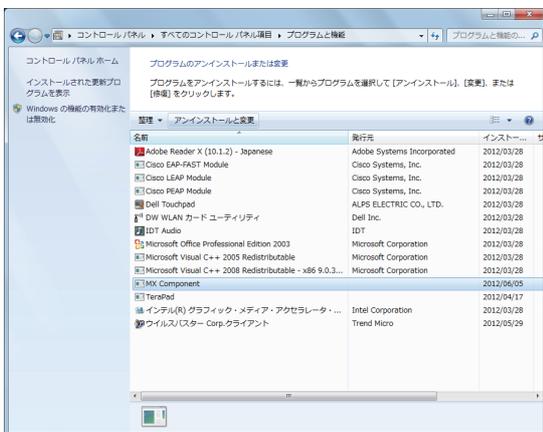
# 3.3 アンインストール

アンインストールの操作手順を下記に示します。  
OSにより操作が異なる場合を除き、Windows 7の画面で説明します。

## Point

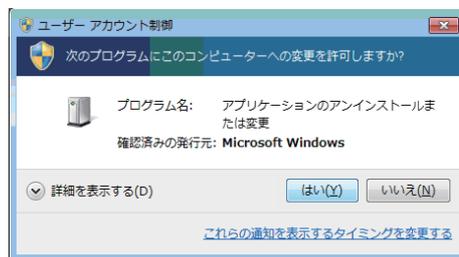
通信設定ユーティリティの設定内容は、アンインストールを行うとすべて消去されます。  
通信設定ユーティリティの設定内容を保存しておきたい場合は、ファイルのエクスポートを行ってください。

## 操作手順



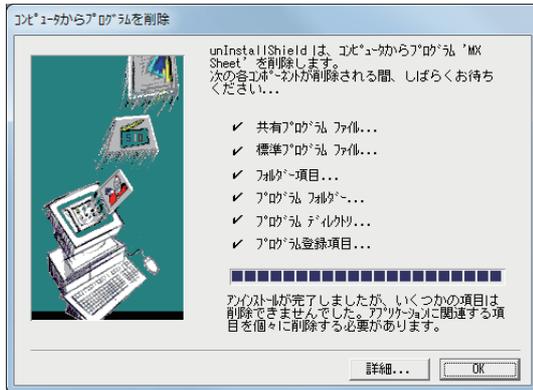
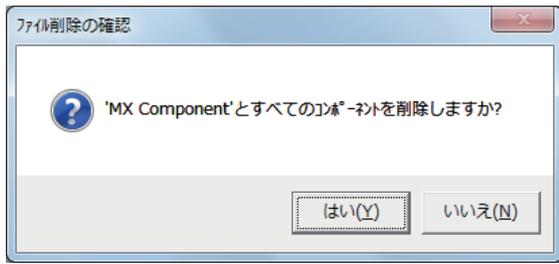
- 1. [スタート]⇒[コントロールパネル]⇒"プログラムのアンインストール"を選択します。  
〈Windows XP使用時〉  
[スタート]⇒[コントロールパネル]⇒"プログラムの追加と削除"を選択します。

- 2. プログラムの中から"MX Component"を選択し、"アンインストールと変更"を選択します。  
〈Windows XP使用時〉  
プログラムの中から"MX Component"を選択し、[変更と削除]ボタンをクリックします。  
ユーザーアカウント制御が有効な場合は下記の画面が表示されます。  
[はい]ボタンまたは[続行]ボタンをクリックします。  
〈Windows 7以降使用時〉



〈Windows Vista使用時〉





アンインストールの完了

#### Point

ロボットコントローラとの通信に使用するMelfaRXM Japaneseは、MX Componentをアンインストールしても、アンインストールされません。

MelfaRXM Japaneseは以下のいずれかの方法で、アンインストールできます。

- MX Componentと同様の手順で、コントロールパネルからアンインストールします。プログラムの中からMelfaRXM Japaneseを選択してください。
- 本製品CD-ROMの"EZSocketRc"フォルダ内にあるSetupRXM.exeを実行してください。インストール時と同じバージョンのソフトウェアパッケージを使用してください。

3. [はい]ボタンをクリックします。  
アンインストールを実行しない場合は[いいえ]ボタンをクリックし、前画面に戻ります。  
コンポーネントとはインストールしたアイコンとファイルを示します。

左記の画面が表示され、アンインストールが完了します。

4. [OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます
5. パソコンを再起動してください。

# 4 操作手順

MX Componentのユーティリティ、開発タイプの選択、およびユーザアプリケーションの作成手順について説明します。

## 4.1 ユーティリティについて

MX Componentには、下記のユーティリティがあります。

項目	内容	参照
通信設定ユーティリティ	通信を行うための設定をウィザード形式で行うユーティリティです。	92ページ 通信設定ユーティリティ
シーケンサモニタユーティリティ	通信設定ユーティリティで設定した論理局番を用いて接続先を設定し、シーケンサのデバイスおよびバッファメモリをモニタするときに使用するユーティリティです。	109ページシーケンサモニタユーティリティ
ラベル管理ユーティリティ	システムラベルを登録したり、流用したりするユーティリティです。	121ページラベル管理ユーティリティ

## 4.2 開発タイプの選択

MX Componentを使用してユーザアプリケーションを作成する場合、ユーティリティ設定タイプまたはプログラム設定タイプのどちらかを選択してください。

ユーティリティ設定タイプおよびプログラム設定タイプについて説明します。

### ユーティリティ設定タイプ

通信を行うための設定を、通信設定ウィザードを使用して行います。

通信設定ユーティリティを使用することにより、各通信の複雑なパラメータを意識することなくユーザプログラムの作成が行えます。

ユーザプログラムでは、通信設定ウィザードで設定した論理局番をACTコントロールおよび.NETコントロールのプロパティ、またはユーザプログラム内部に設定するだけで通信回線が接続できます。

### プログラム設定タイプ

通信設定ユーティリティを使用しないで、ユーザプログラムの作成を行います。

各通信を行うためのACTコントロールの設定を、プロパティウィンドウで直接入力またはユーザプログラム内部で行います。

なお、設定が必要となるプロパティは、各ACTコントロールにより異なります。

### 比較

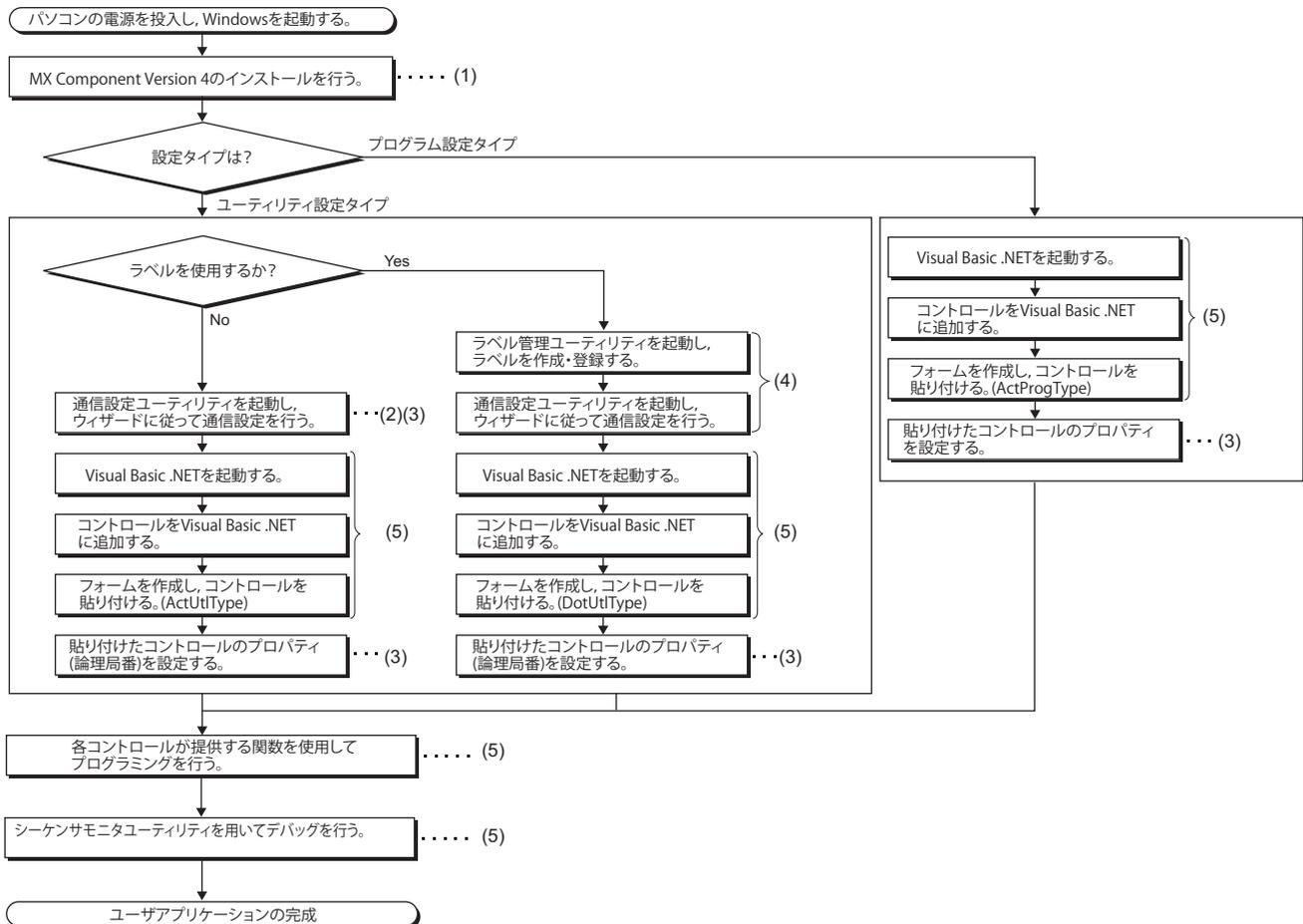
ユーティリティ設定タイプとプログラム設定タイプの比較表を下記に示します。

項目	ユーティリティ設定タイプ	プログラム設定タイプ
特長	通信設定ウィザードを使用して、通信設定が簡単に行えます。 ユーザプログラムの作成では、通信設定ウィザードの設定(論理局番)を指定するだけで通信が可能です。(開発工数を削減できます。)	ユーザプログラムにて、すべての通信設定が行えます。 ユーザプログラムにて、柔軟に通信設定の変更が行えます。
使用ACTコントロール	ActUtilType, ActMLUtilType, ActUtilDataLogging(ロギングファイル転送使用時)	ActProgType, ActMLProgType, ActProgDataLogging(ロギングファイル転送使用時)
使用.NETコントロール	DotUtilType(ラベル使用時)	—
通信設定ユーティリティの使用可否	使用します。	使用しません。
シーケンサモニタユーティリティの接続方法	論理局番を選択します。	接続するごとに設定内容を変更します。(ウィザードを使用)

## 4.3 ユーザアプリケーションの作成手順

### Visual Basic .NETを使用する場合

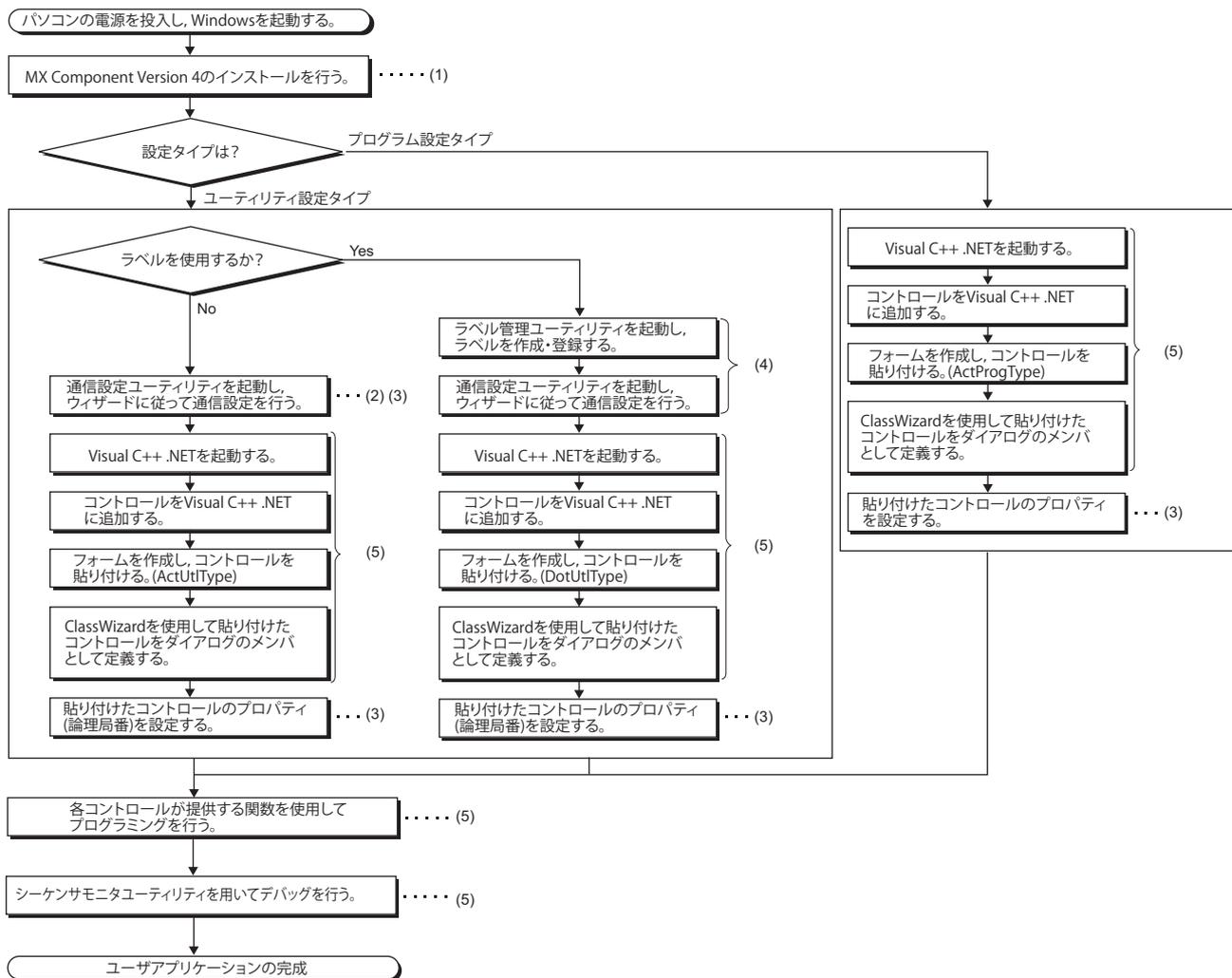
Visual Basic .NETを使用する場合の作成手順を下記に示します。



- (1) 53ページ インストール・アンインストール
- (2) 92ページ 通信設定ユーティリティ
- (3) 134ページ ユーティリティ設定タイプの通信設定例
- (4) 121ページ ラベル管理ユーティリティ
- (5) MX Component Version 4 プログラミングマニュアル

# Visual C++ .NETを使用する場合

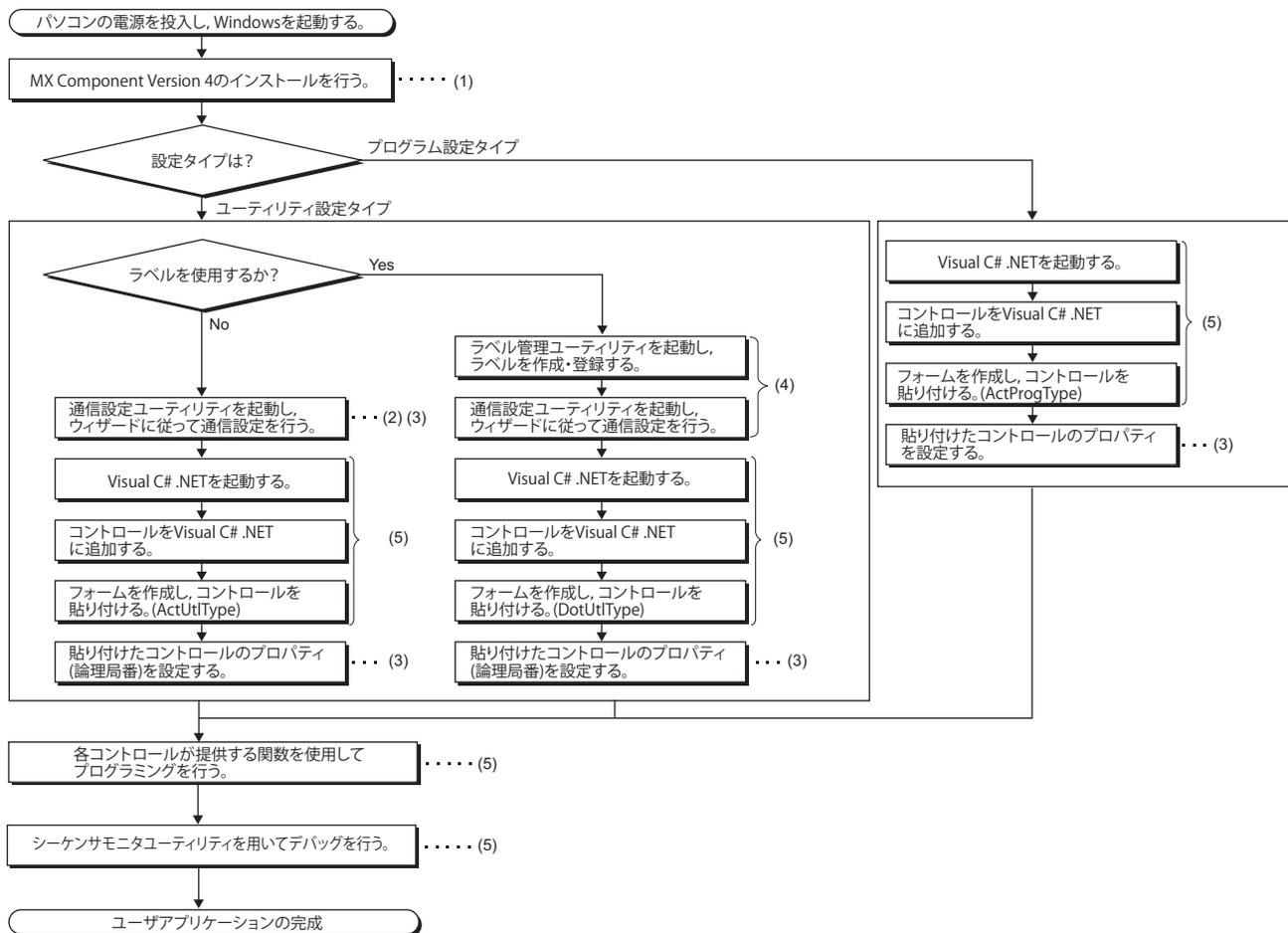
Visual C++ .NETを使用する場合の作成手順を下記に示します。



- (1) 53ページ インストール・アンインストール
- (2) 92ページ 通信設定ユーティリティ
- (3) 134ページ ユーティリティ設定タイプの通信設定例
- (4) 121ページ ラベル管理ユーティリティ
- (5) MX Component Version 4 プログラミングマニュアル

# Visual C# .NETを使用する場合

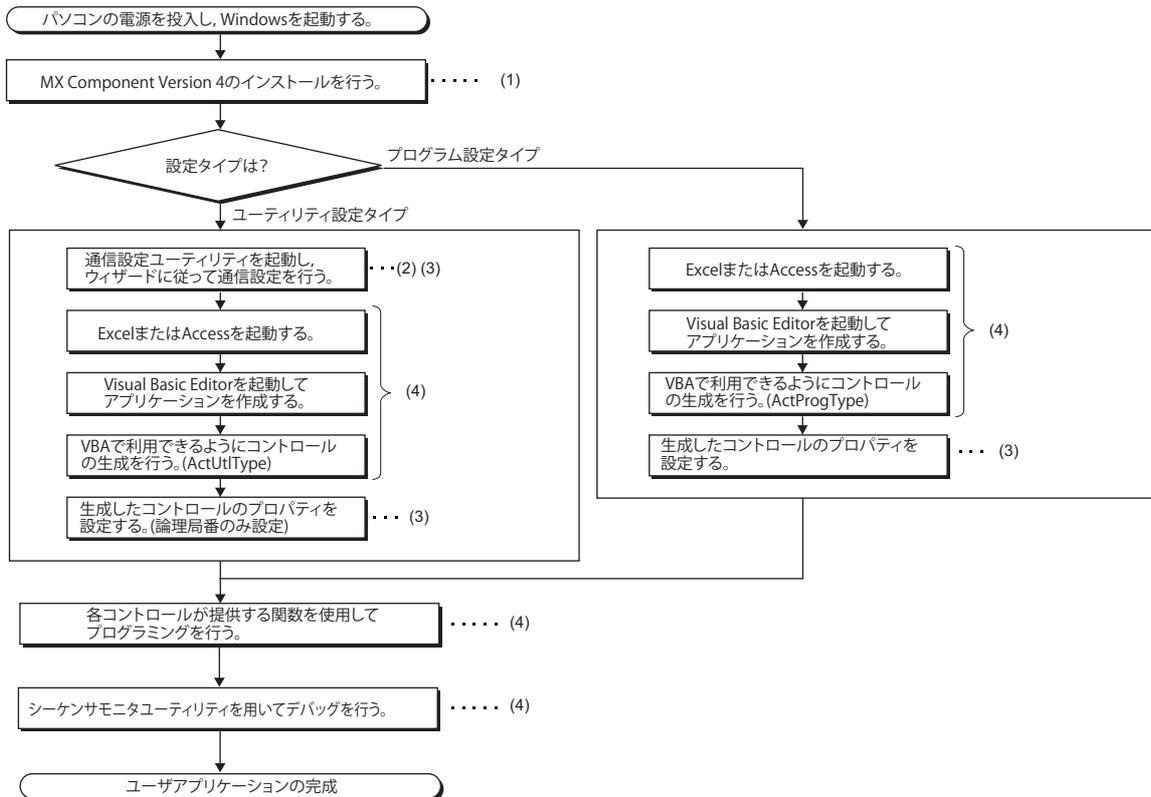
Visual C# .NETを使用する場合の作成手順を下記に示します。



- (1) 53ページ インストール・アンインストール
- (2) 92ページ 通信設定ユーティリティ
- (3) 134ページ ユーティリティ設定タイプの通信設定例
- (4) 121ページ ラベル管理ユーティリティ
- (5) MX Component Version 4 プログラミングマニュアル

# VBAを使用する場合

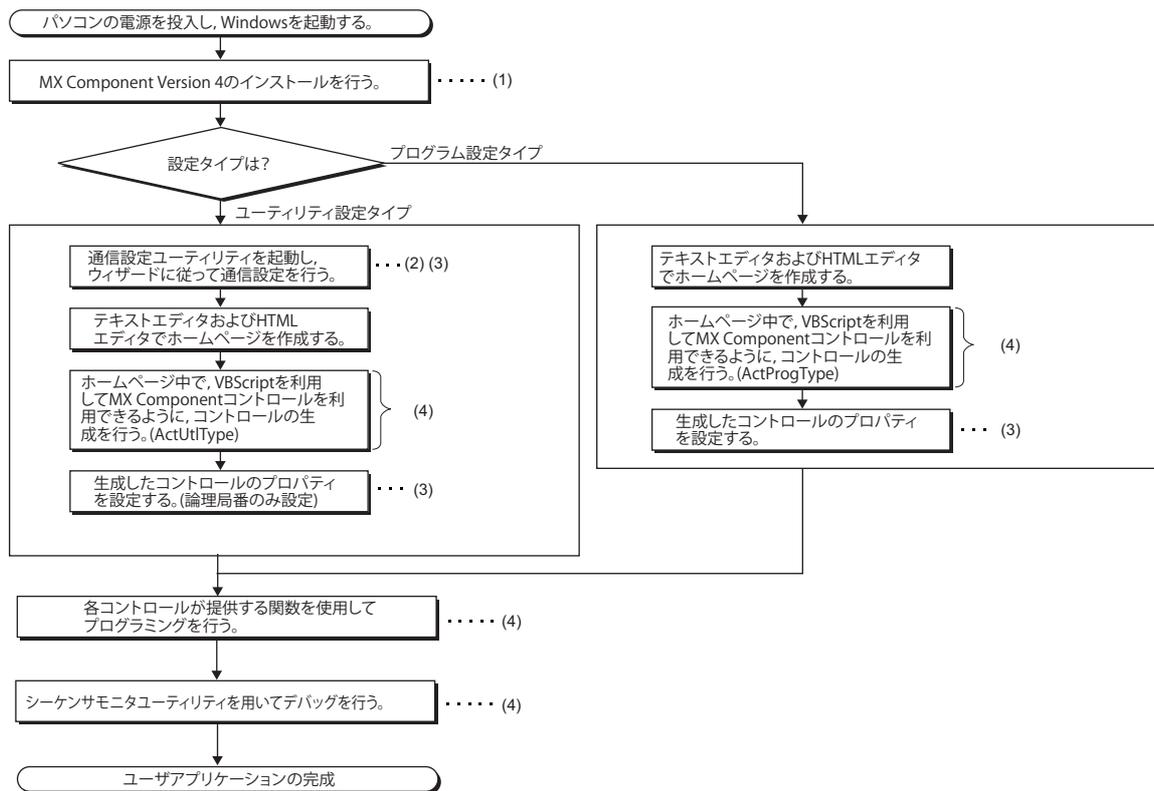
VBAを使用する場合の作成手順を下記に示します。



- (1) 53ページ インストール・アンインストール
- (2) 92ページ 通信設定ユーティリティ
- (3) 134ページ ユーティリティ設定タイプの通信設定例
- (4) MX Component Version 4 プログラミングマニュアル

# VBScriptを使用する場合

VBScriptを使用する場合の作成手順を下記に示します。



- (1) 53ページ インストール・アンインストール
- (2) 92ページ 通信設定ユーティリティ
- (3) 134ページ ユーティリティ設定タイプの通信設定例
- (4) MX Component Version 4 プログラミングマニュアル

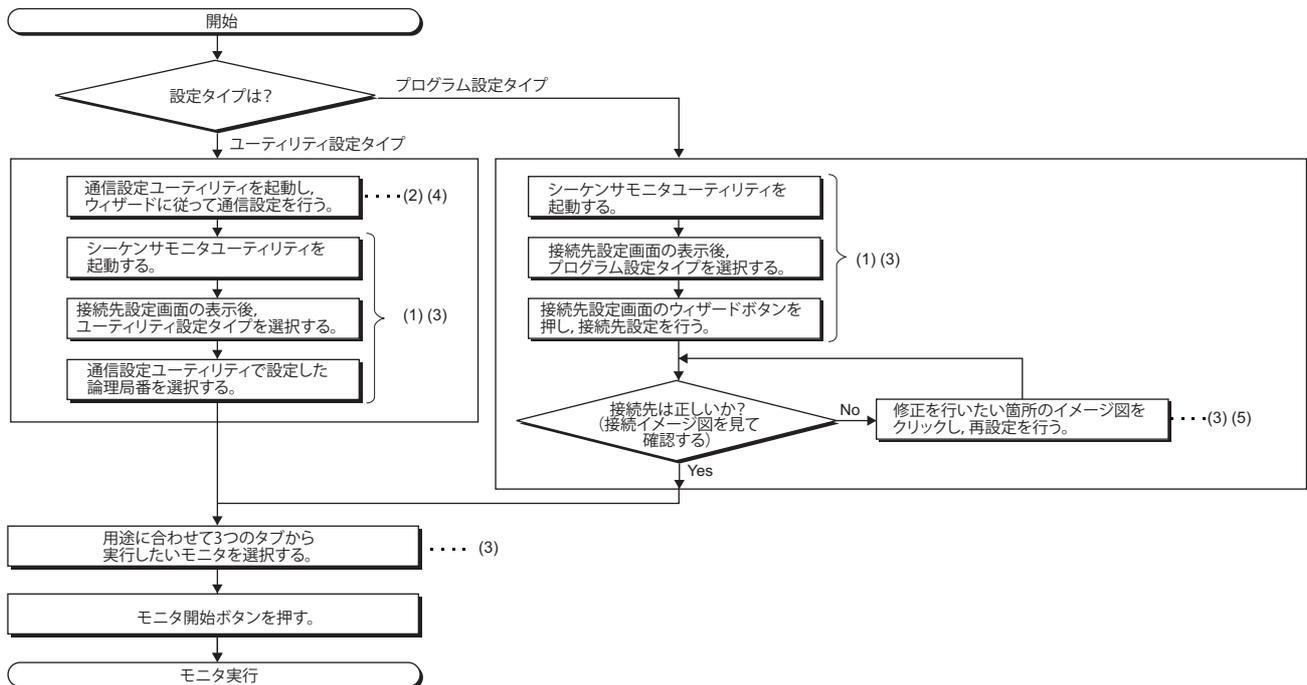
## Point

インターネット/イントラネット環境の立上げ方法については、下記を参照してください。

- 383ページ インターネット/イントラネット環境の立上げ方法

## 4.4 シーケンサモニタユーティリティの操作手順

シーケンサモニタユーティリティの操作手順を下記に示します。



- (1) 88ページ ユーティリティの起動と終了
- (2) 92ページ 通信設定ユーティリティ
- (3) 109ページ シーケンサモニタユーティリティ
- (4) 134ページ ユーティリティ設定タイプの通信設定例
- (5) 264ページ プログラム設定タイプの通信設定例

# 5 システムラベル

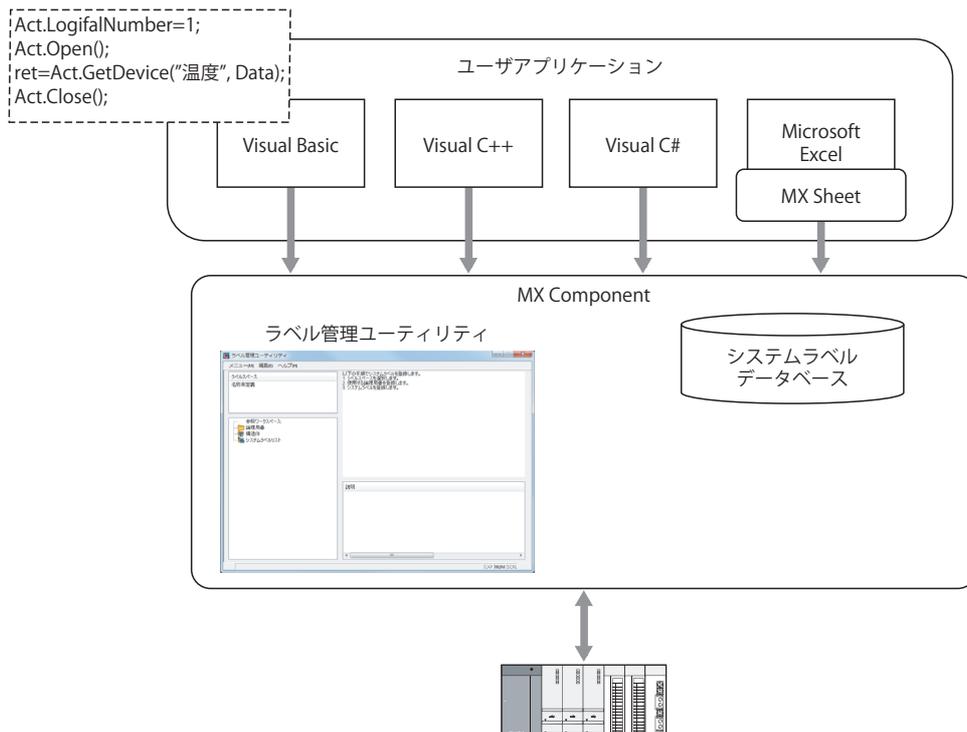
システムラベルとは、シーケンサやモーションコントローラのデバイスをシステムラベルとして公開することにより、複数のアプリケーションで共有して使用することができるラベルです。

これにより、プログラミング効率が向上します。

また、デバイスの設定が一括して変更されるため、アプリケーションでのデバイスの変更は不要です。

## 5.1 システムラベルを使用する

MX Componentのラベル管理ユーティリティを使用してラベルを登録し、コントロールから使用します。



システムラベルの使用方法を次に示します。

OSにより操作が異なる場合を除き、Windows 7の画面で説明します。

### Point

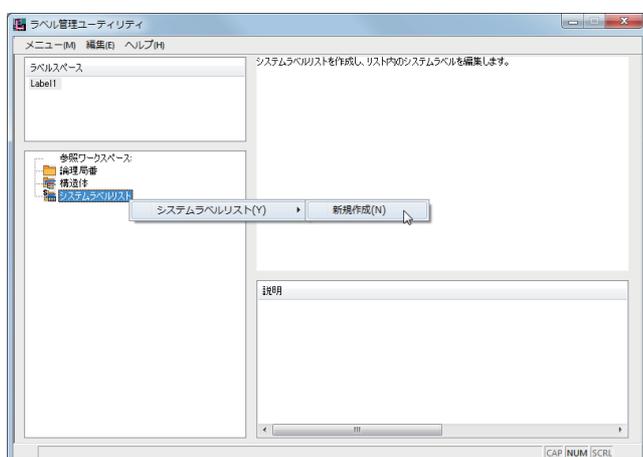
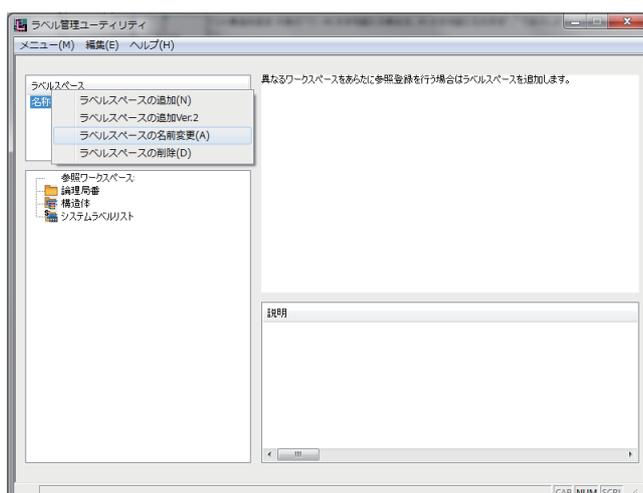
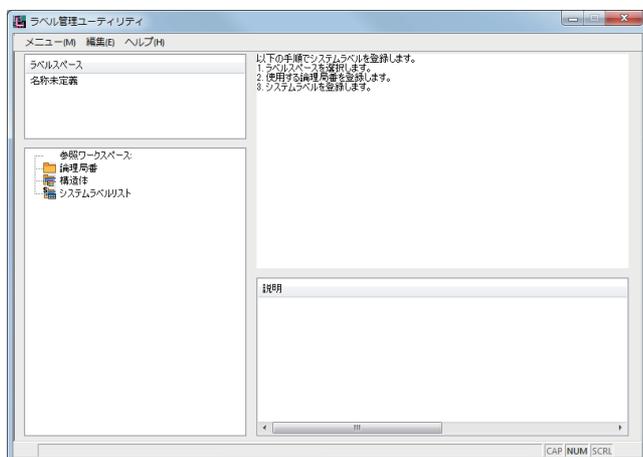
- システムラベルについて  
デバイスと1対1で定義し、登録します。  
構造体を使用できます。構造体とは、いろいろなデバイスを1つの集合体にまとめたものです。  
データ型を設定します。データ型は、すべて配列にすることができます。  
MELSOFT Navigatorで使用するシステムラベルを流用することができます。
- システムラベルデータベースについて  
システムラベルデータベースは、システムラベルを管理するためのデータベースです。
- システムラベルVer.2について  
MX Component Version 4.07H以降にて、システムラベルVer.2へ登録できます。  
構造体型、配列型のシステムラベルも登録できます。  
構造体型のシステムラベルは、MX Component Version 4.11M以降にて、5階層の構造体まで使用できます。

# MX Componentでシステムラベルを登録して使用する

ラベル管理ユーティリティでシステムラベルを登録します。

## システムラベルを登録する

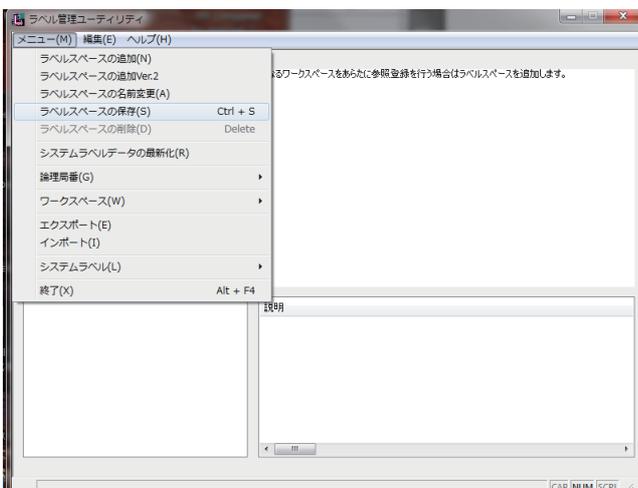
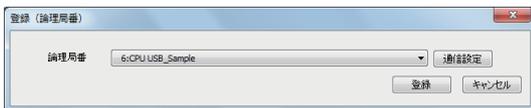
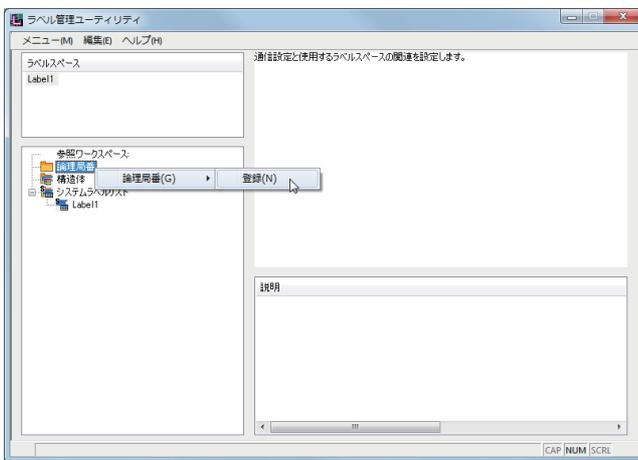
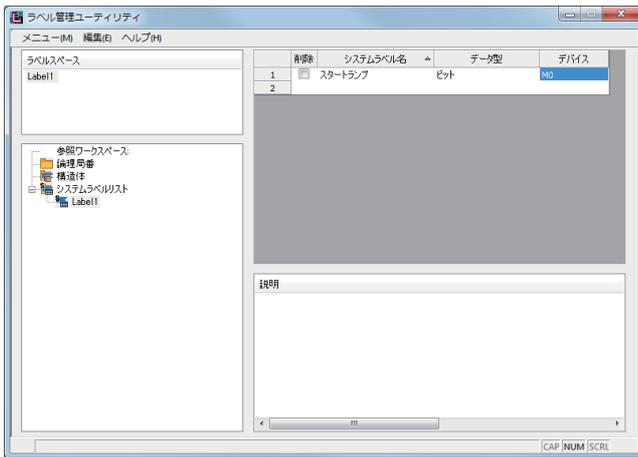
### 操作手順



1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]⇒[ラベル管理ユーティリティ]を選択します。  
ラベル管理ユーティリティが起動します。

2. ラベルスペース一覧の"名称未定義"を選択して右クリックし, [ラベルスペースの名前変更]を選択します。(121ページ ラベル管理画面の操作)  
ラベルスペース名を変更します。

3. ナビゲーションウィンドウの"システムラベルリスト"を選択して右クリックし, [システムラベルリスト]⇒[新規作成]を選択します。(124ページ システムラベルリスト)  
システムラベルリスト名を設定します。



設定したシステムラベルリスト名を選択すると、システムラベルリストが表示されます。

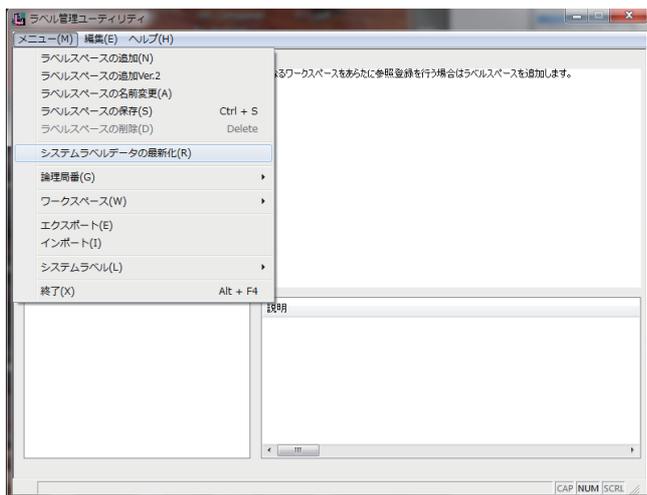
4. システムラベル名，データ型，デバイス名を設定します。(☞ 124ページ システムラベルリスト)

5. ナビゲーションウィンドウの"論理局番"を選択して右クリックし，[論理局番]⇒[登録]を選択します。(☞ 123ページ 論理局番の登録/削除)

6. 論理局番を選択し，[登録]ボタンをクリックします。(☞ 123ページ 論理局番の登録/削除)  
通信設定を行う場合は，[通信設定]ボタンをクリックし，通信設定ウィザードで設定を行ってください。(☞ 98ページ 通信設定ウィザード画面の操作)

論理局番がナビゲーションウィンドウに表示されます。

7. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。(☞ 121ページ ラベル管理画面の操作)  
システムラベルが登録されます。

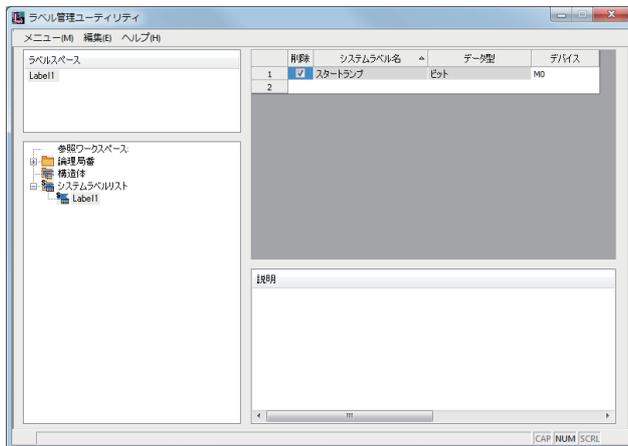


登録完了

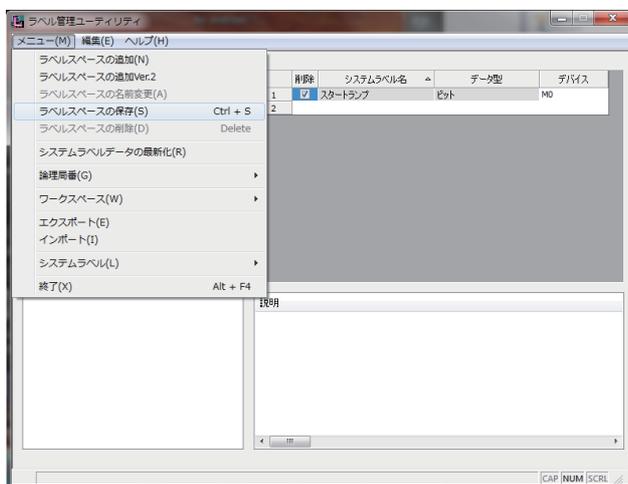
8. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。  
(132ページ システムラベルデータの最新化)  
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

# システムラベルを削除する

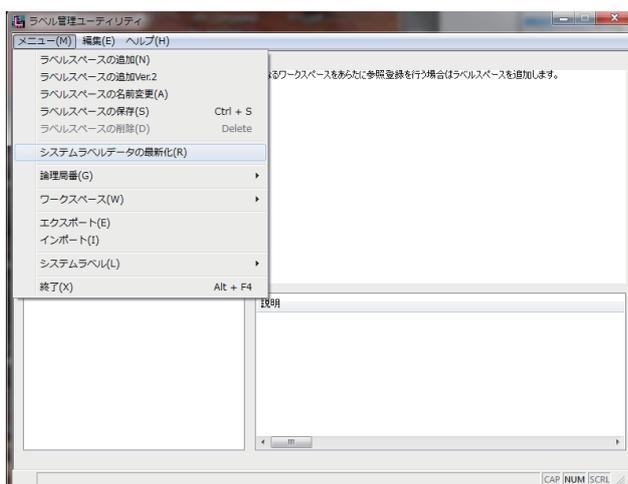
## 操作手順



1. 削除するシステムラベルの"削除"にチェックを入れます。



2. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。  
(☞ 121ページ ラベル管理画面の操作)  
システムラベルが削除されます。



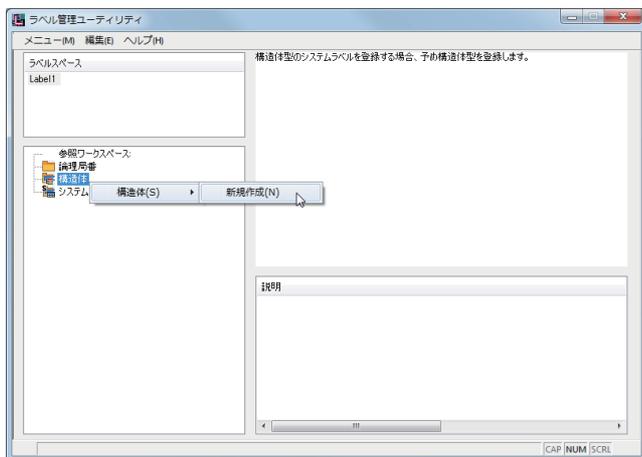
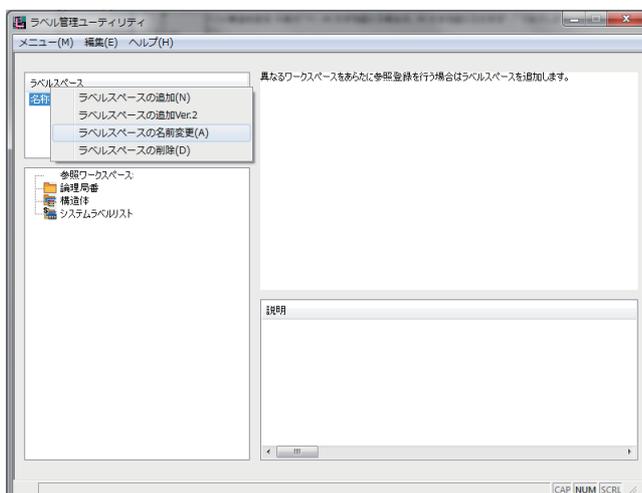
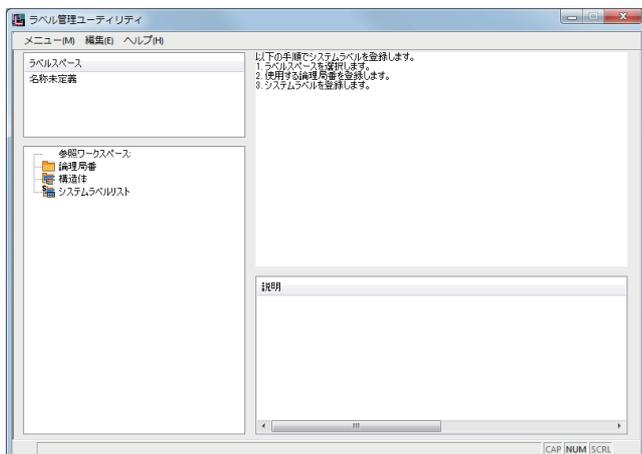
3. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。  
(☞ 132ページ システムラベルデータの最新化)  
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。



削除完了

## システムラベルを登録する(構造体型)

### 操作手順

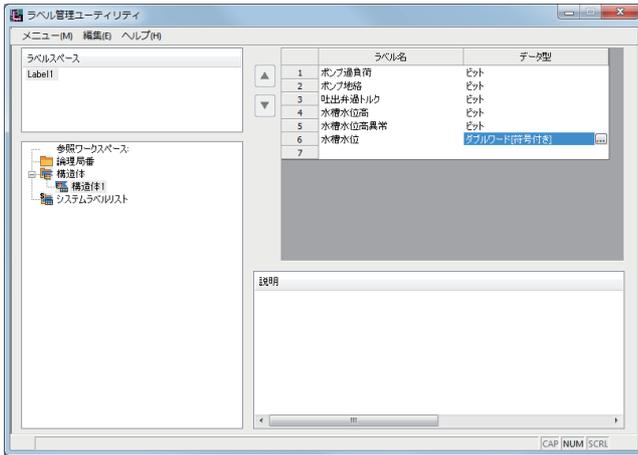


1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]⇒[ラベル管理ユーティリティ]を選択します。

ラベル管理ユーティリティが起動します。

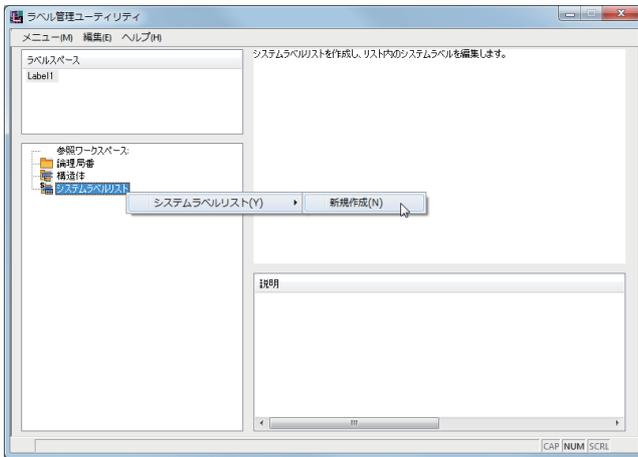
2. ラベルスペース一覧の"名称未定義"を選択して右クリックし、[ラベルスペースの名前変更]を選択します。  
(☞ 121ページ ラベル管理画面の操作)  
ラベルスペース名を変更します。

3. ナビゲーションウィンドウの"構造体"を選択して右クリックし、[構造体]⇒[新規作成]を選択します。  
(☞ 129ページ 構造体設定)  
構造体名を設定します。

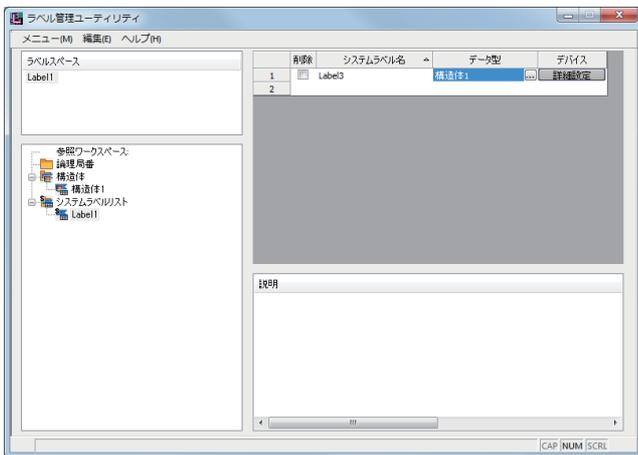


設定した構造体名を選択すると、構造体設定の一覧が表示されます。

4. 構造体メンバのラベル名，データ型を設定します。  
(☞ 129ページ 構造体設定)



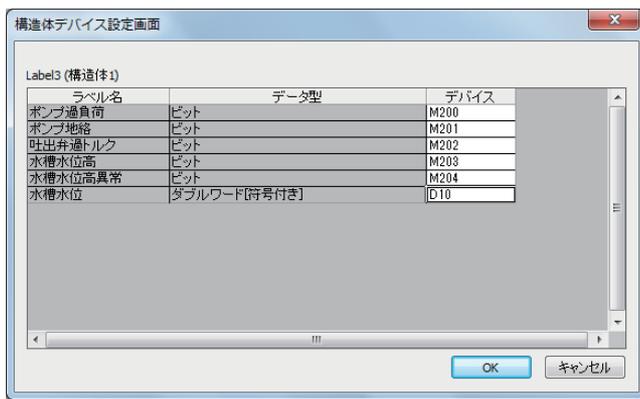
5. ナビゲーションウィンドウの"システムラベルリスト"を選択して右クリックし，[システムラベルリスト]⇒[新規作成]を選択します。(☞ 124ページ システムラベルリスト)  
システムラベルリスト名を設定します。



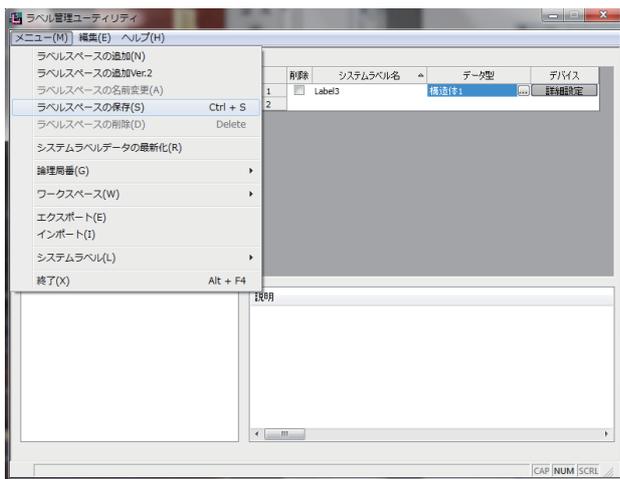
設定したシステムラベルリスト名を選択すると、システムラベルリストが表示されます。

6. システムラベル名，データ型を設定します。  
(☞ 124ページ システムラベルリスト)  
システムラベルリストのデバイス欄で"詳細設定"をクリックします。

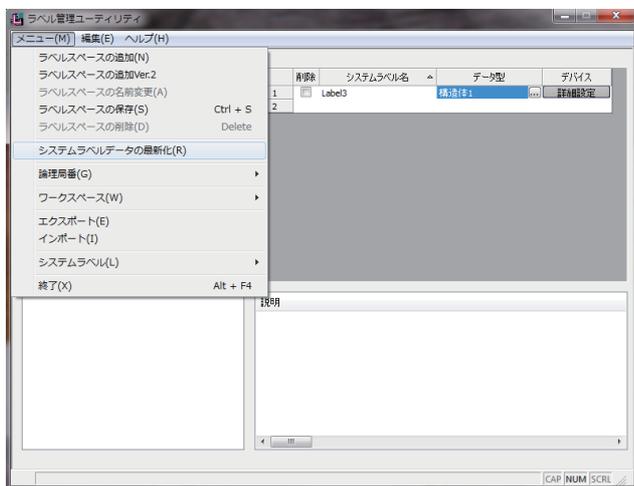




7. デバイスを指定します。



8. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。  
(☞ 121ページ ラベル管理画面の操作)  
システムラベルが登録されます。



9. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。  
(☞ 132ページ システムラベルデータの最新化)  
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

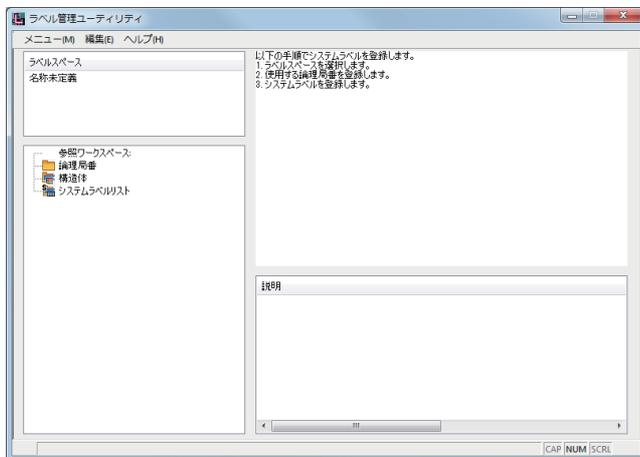


登録完了

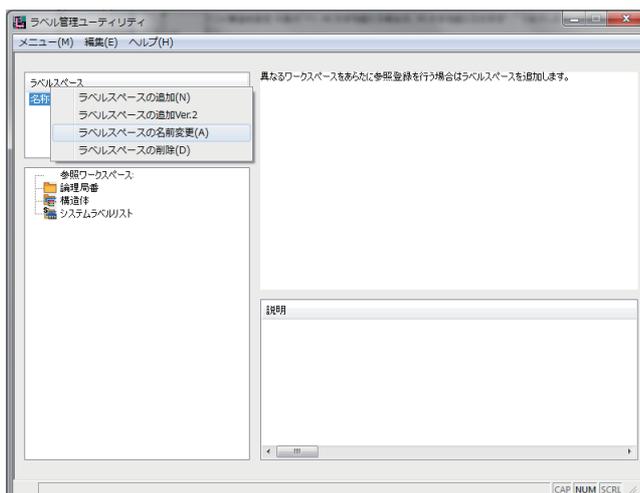
# MELSOFT Navigatorで使用するラベルを流用する

ラベル管理ユーティリティで、既存のワークスペースからシステムラベルを参照し登録します。

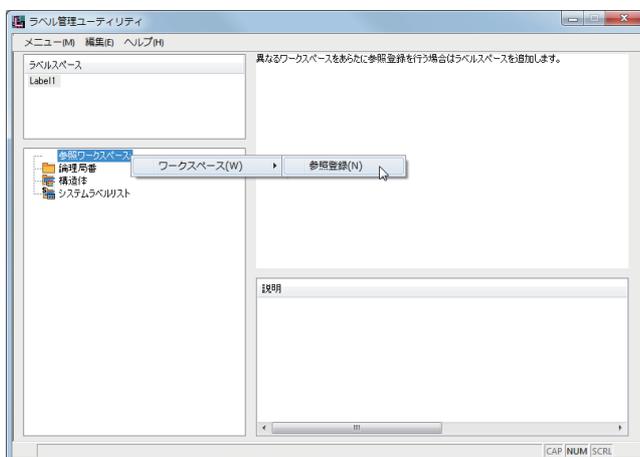
## 操作手順



1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]⇒[ラベル管理ユーティリティ]を作成します。  
ラベル管理ユーティリティが起動します。

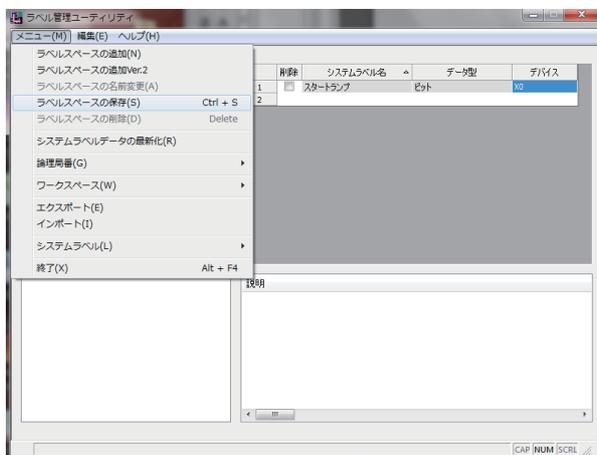
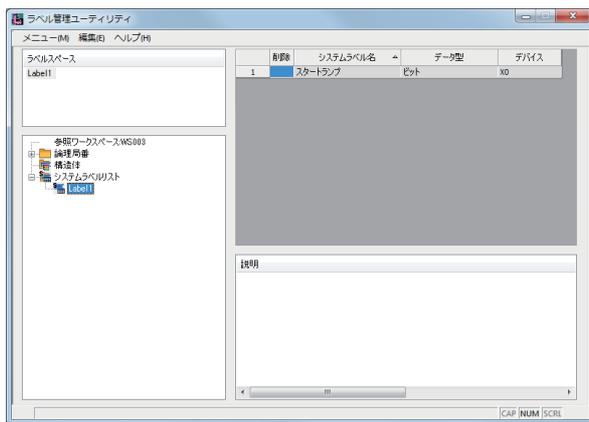
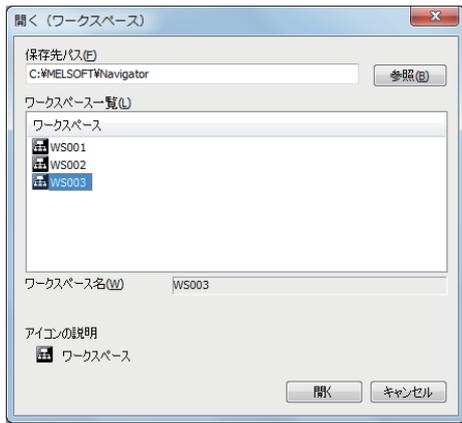


2. ラベルスペース一覧の"名称未定義"を選択して右クリックし、[ラベルスペースの名前変更]を選択します。  
(☞ 121ページ ラベル管理画面の操作)  
ラベルスペース名を変更します。



3. ナビゲーションウィンドウの"参照ワークスペース"を選択して右クリックし、[ワークスペース]⇒[参照登録]を選択します。  
(☞ 130ページ ワークスペースの参照登録/解除)

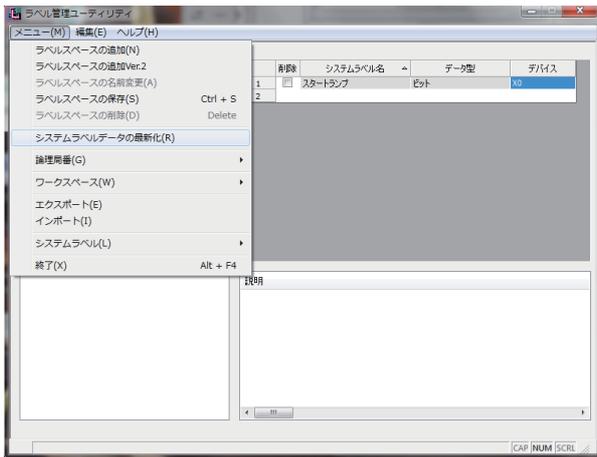




4. 参照登録するワークスペースを選択します。  
(☞ 130ページ ワークスペースの参照登録/解除)

ナビゲーションウィンドウに参照登録したワークスペース名が表示されます。  
システムラベルリスト名を選択すると、参照しているシステムラベルの一覧が表示されます。

5. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。  
(☞ 121ページ ラベル管理画面の操作)  
システムラベルが登録されます。  
複数のワークスペースを参照する場合は、ラベルスペースを追加後、手順2.~4.を行ってください。



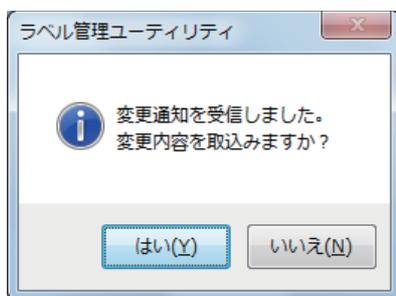
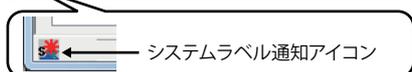
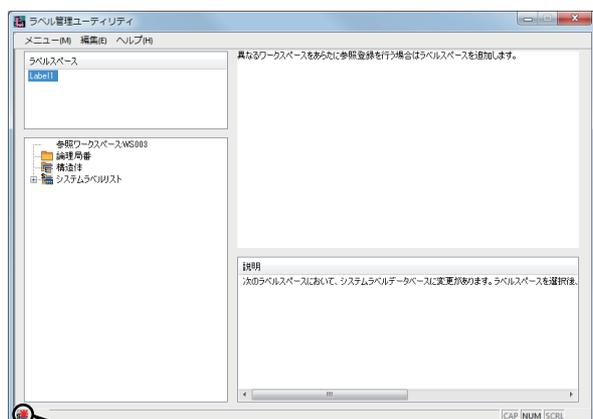
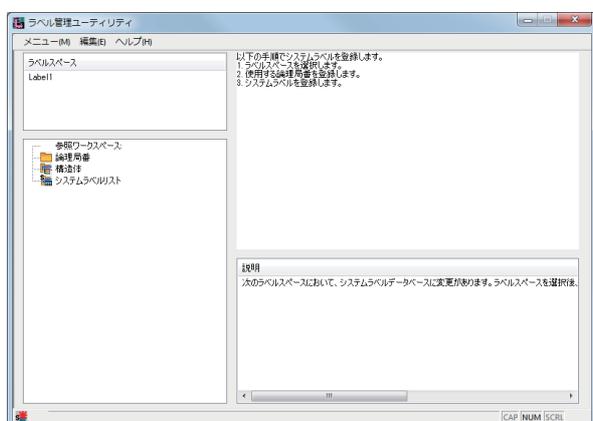
登録完了

6. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。  
(132ページ システムラベルデータの最新化)  
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

# GX Works2でのデバイス変更をMX Componentへ反映する

参照登録したシステムラベルのデバイス割付をGX Works2で変更後、ラベル管理ユーティリティで変更内容を反映します。

## 操作手順



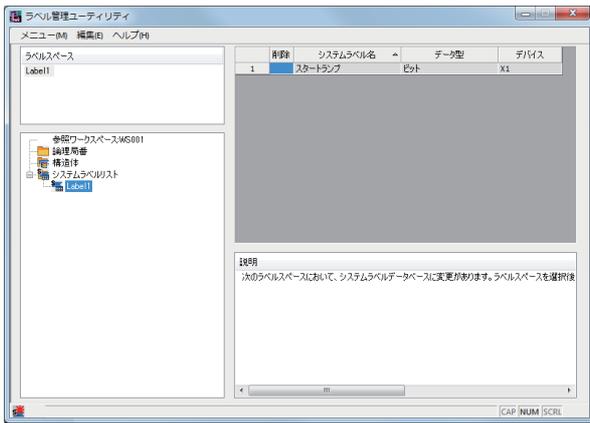
1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]⇒[ラベル管理ユーティリティ]を選択します。  
ラベル管理ユーティリティが起動します。

ラベル管理ユーティリティのステータスバーにシステムラベル通知アイコンが表示されます。

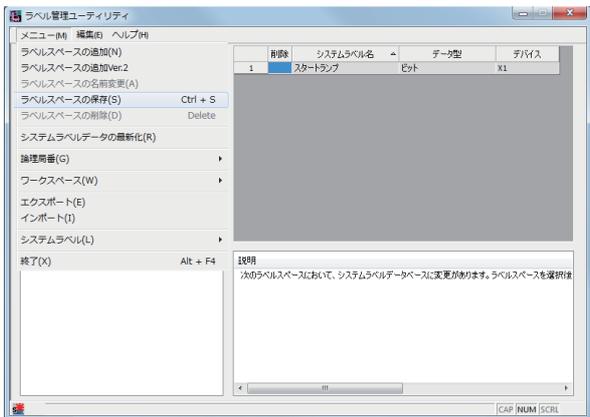
2. ラベルスペース名を選択します。

3. システムラベル通知アイコンを右クリックし、[システムラベルデータベースの変更内容]を選択します。  
([P.131](#) ページ 変更通知)

4. [はい]ボタンをクリックします。

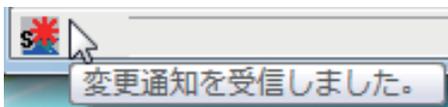


システムラベルリスト名を選択すると、システムラベルリストが表示されます。

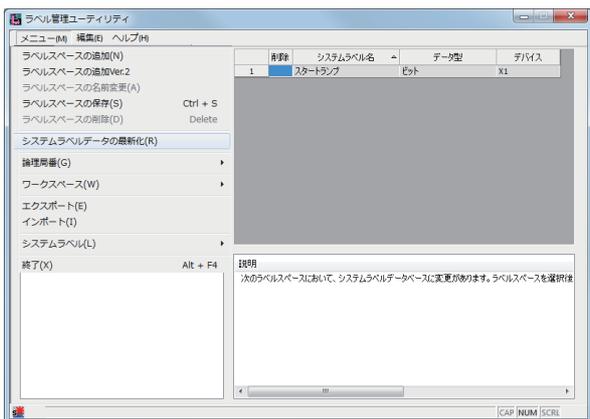


5. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。  
 (☞ 121ページ ラベル管理画面の操作)  
 システムラベルが登録されます。  
 複数のワークスペースを参照する場合は、ラベルスペース一覧よりほかのラベルスペース名を選択後、手順2.~4.を行ってください。

5



複数のワークスペースを参照している場合は、システムラベル通知アイコンが表示されたままとります。



6. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。  
 (☞ 132ページ システムラベルデータの最新化)  
 コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。



登録完了



ワークスペースの参照登録を行わずにシステムラベルを使用している場合、変更通知は表示されません。

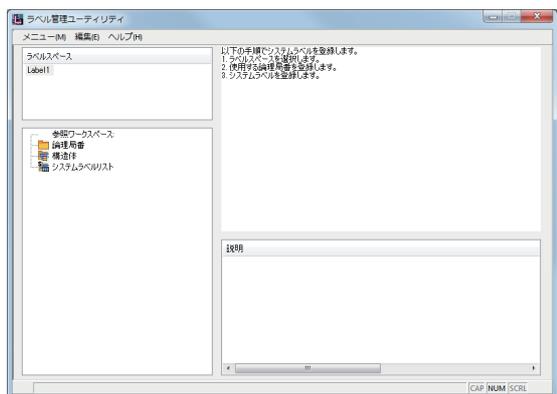
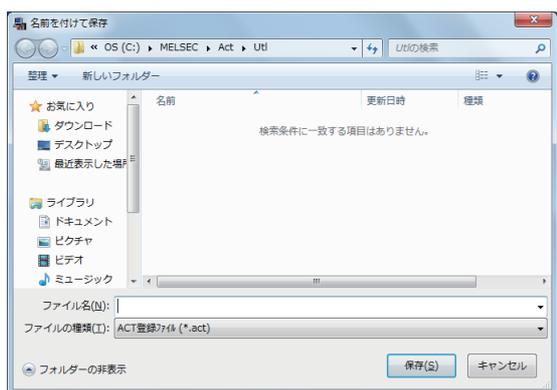
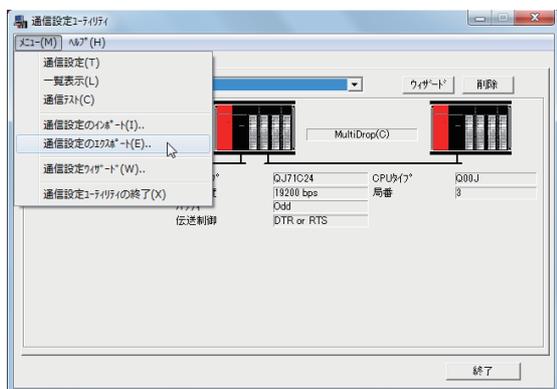
# 別のパソコンでシステムラベルを使用する

エクスポートを行うパソコンとは別のパソコンでシステムラベルを使用します。

## ラベルスペースのエクスポート

ラベルスペースのエクスポートを行い、ファイルを作成します。

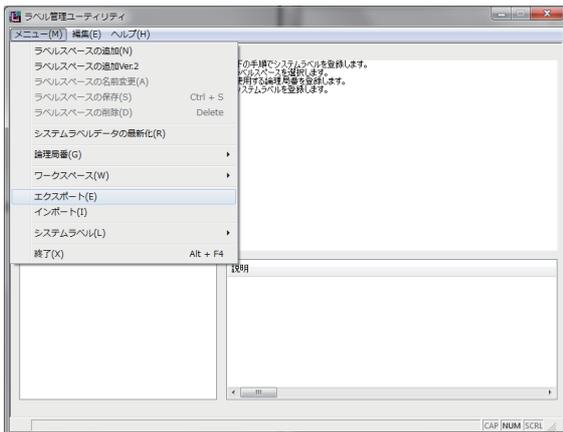
### 操作手順



1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]⇒[通信設定ユーティリティ]を選択します。  
通信設定ユーティリティが起動します。
2. [メニュー]⇒[通信設定のエクスポート]を選択します。  
(☞ 97ページ 通信設定のエクスポート)

3. 保存するファイル名を入力します。

4. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]⇒[ラベル管理ユーティリティ]を選択します。  
ラベル管理ユーティリティが起動します。



5. [メニュー]⇒[エクスポート]を選択します。  
(132ページ ラベルスペースのエクスポート)



6. 保存するファイル名を入力します。



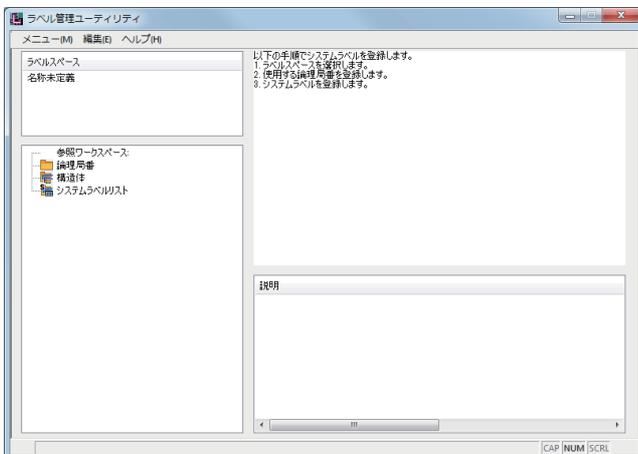
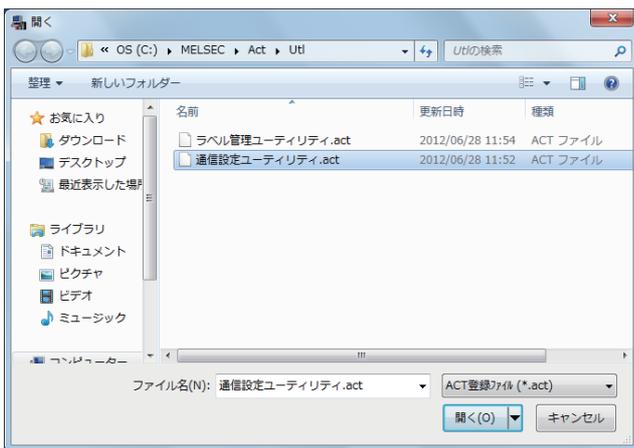
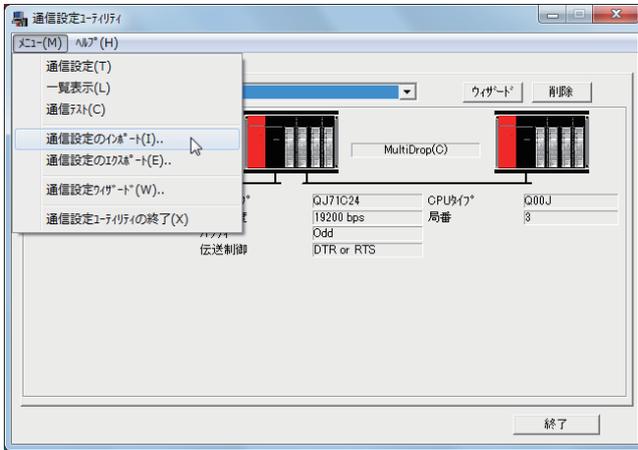
登録完了

## ラベルスペースのインポート

インポート先のパソコンで、ラベルスペースのインポートを行います。

通信設定のエクスポートファイルとラベルスペースのエクスポートファイルを、あらかじめインポート先のパソコンにコピーしておいてください。

### 操作手順

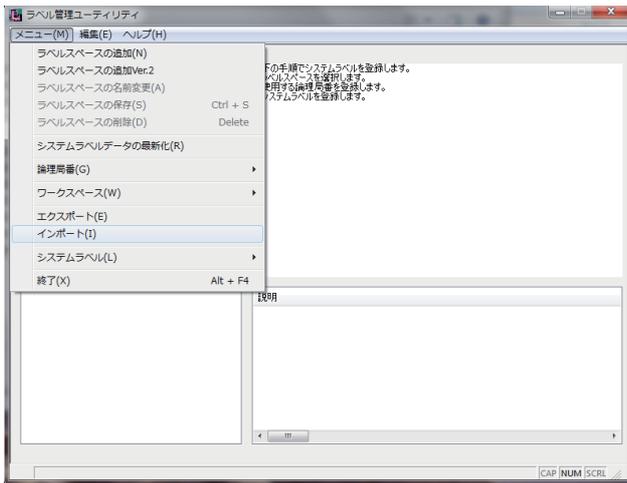


1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]⇒[通信設定ユーティリティ]を選択します。  
通信設定ユーティリティが起動します。

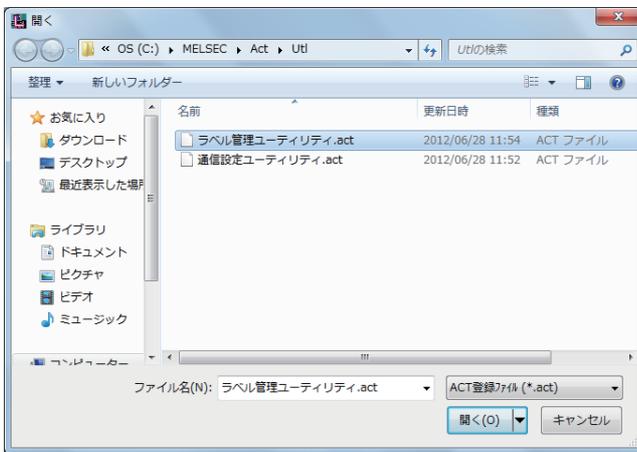
2. [メニュー]⇒[通信設定のインポート]を選択します。  
(☞ 96ページ 通信設定のインポート)

3. インポートする通信設定のファイル名を指定します。

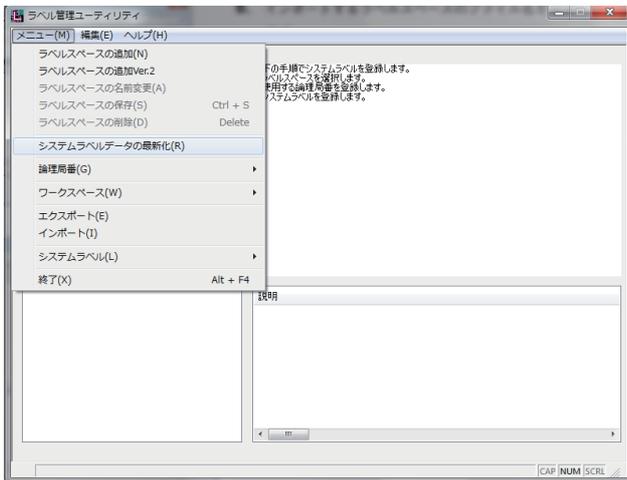
4. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]⇒[ラベル管理ユーティリティ]を選択します。  
ラベル管理ユーティリティが起動します。



5. [メニュー]⇒[インポート]を選択します。  
(☞ 133ページ ラベルスペースのインポート)



6. インポートするラベルスペースのファイル名を指定します。



7. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。  
(☞ 132ページ システムラベルデータの最新化)  
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。



登録完了

# 6 ユーティリティの起動と終了

各ユーティリティの起動と終了について説明します。

## 6.1 ユーティリティを起動する

### 操作手順

[スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSOFT]⇒[MX Component]<sup>\*1</sup>を選択します。

<sup>\*1</sup>Windows 8以降では表示されません。

登録されるアイコンについては、下記を参照してください。

☞ 61ページ 登録されるアイコン

### 画面表示

-  シークンサモニタユーティリティ ← シークンサモニタユーティリティを起動します。
-  ラベル管理ユーティリティ ← ラベル管理ユーティリティを起動します。
-  通信設定ユーティリティ ← 通信設定ユーティリティを起動します。

## 各ユーティリティ実行時の管理者権限について

### 管理者権限

ラベル管理ユーティリティ実行時は、管理者権限で動作します。

通信設定ユーティリティおよびシークンサモニタユーティリティ実行時は、ユーザーアカウント制御(UAC)の設定により動作が異なります。

#### ■ユーザーアカウント制御(UAC)が有効の場合

管理者を含むすべてのユーザが既定で、「標準ユーザ」として動作します。

管理者権限でプログラムを実行するためには、[管理者として実行]を指定してください。

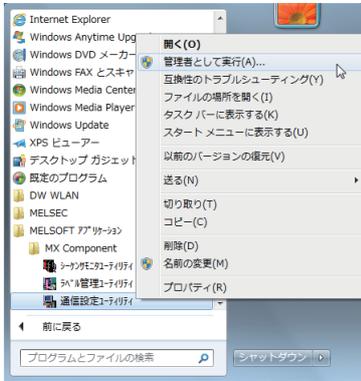
#### ■ユーザーアカウント制御(UAC)が無効の場合

ログインユーザの権限でプログラムを実行できます。

## 管理者権限での実行手順

UACが有効な場合に、通信設定ユーティリティを管理者権限で実行する手順を下記に示します。  
(シーケンサモニタユーティリティも同様です。)

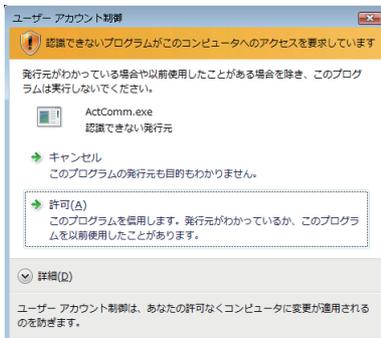
### 操作手順



<Windows 7以降使用時>



<Windows Vista使用時>



設定完了

1. [通信設定ユーティリティ]を選択し、右クリックで[管理者として実行]を選択します。

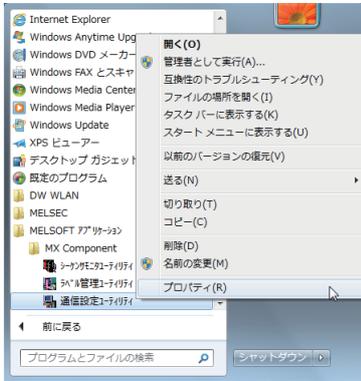
管理者ユーザの場合は、左記の画面が表示されます。

2. [はい]ボタンまたは"許可"をクリックすると、管理者権限で実行できます。  
[いいえ]ボタンまたは"キャンセル"をクリックした場合は実行できません。

## 常に管理者として実行するための設定

常に"管理者として実行"するためには、下記の設定を行ってください。  
(シーケンサモニタユーティリティも同様です。)

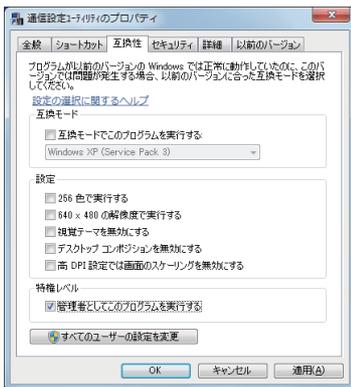
### 操作手順



1. [通信設定ユーティリティ]を選択し、右クリックで[プロパティ]を選択します。



<Windows 7以降使用時>



2. [互換性]タブをクリックし、"特権レベル"の"管理者としてこのプログラムを実行する"にチェックします。



設定完了

## 6.2 ユーティリティを終了する

### 通信設定ユーティリティ

#### 操作手順

- [メニュー]⇒[通信設定ユーティリティの終了]を選択します。
- 画面右下の[終了]ボタンをクリックします。

### シーケンサモニタユーティリティ

#### 操作手順

- [メニュー]⇒[シーケンサモニタユーティリティの終了]を選択します。
- 画面右下の[終了]ボタンをクリックします。

### ラベル管理ユーティリティ

#### 操作手順

[メニュー]⇒[終了]を選択します。

## 6.3 バージョンを確認する

#### 操作手順

[ヘルプ]⇒[バージョン情報]を選択します。

# 7 ユーティリティの操作

---

各ユーティリティの操作方法について説明します。

## Point

通信設定ユーティリティを使用した各通信の設定例については、下記を参照してください。

 134ページ ユーティリティ設定タイプの通信設定例

---

## 7.1 通信設定ユーティリティ

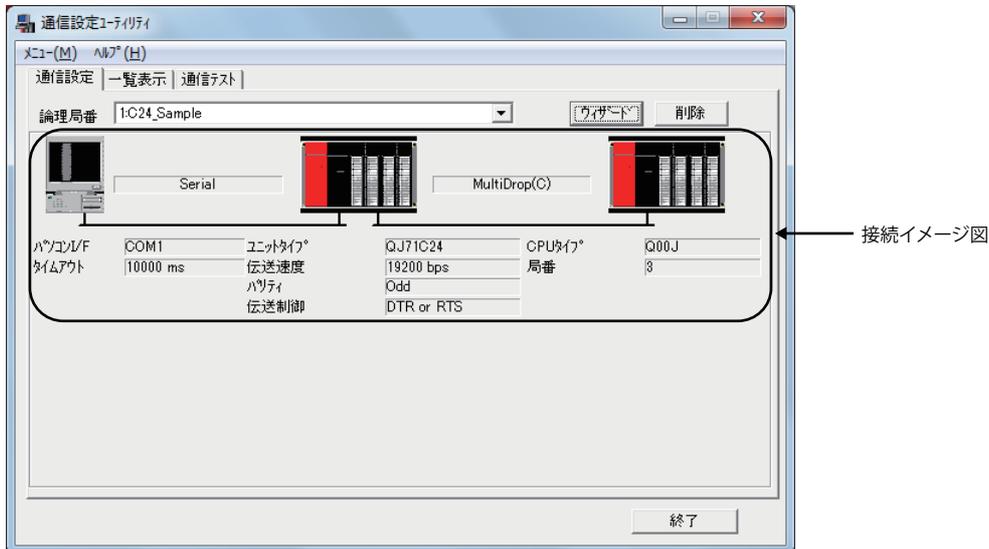
---

ユーティリティ設定タイプで通信を行う際に使用する、通信設定ユーティリティの操作や設定方法について説明します。

# 通信設定画面の操作

通信設定ウィザードにて設定した論理局番の設定内容の詳細表示および編集を行います。

## 画面表示



項目	内容
論理局番	通信設定ウィザードで設定した内容の詳細表示や、編集を行う論理局番を選択します。
[ウィザード]ボタン	通信設定ウィザードを起動し、論理局番の設定を行います。
[削除]ボタン	設定した論理局番を削除します。
接続イメージ図	選択した論理局番の接続イメージ図を表示します。 接続イメージ図の絵(パソコン, シーケンサCPU)をクリックすると通信設定ウィザードが起動し、設定内容が変更できます。

### Point

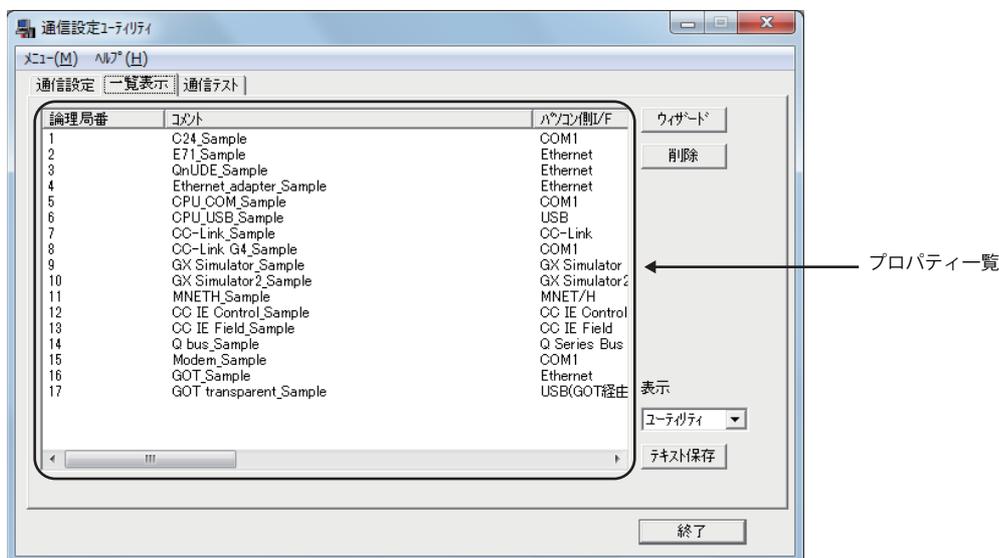
通信設定ウィザードの詳細は、下記を参照してください。

📖 98ページ 通信設定ウィザード画面の操作

## 一覧表示画面の操作

登録されている論理局番の一覧表示、論理局番の編集およびプログラム設定タイプにて必要なプロパティの一覧表示を行います。

### 画面表示



項目	内容
プロパティ一覧	登録されている論理局番の設定内容を表示します。 論理局番をダブルクリックすると、通信設定ウィザードが起動します。
[ウィザード]ボタン	通信設定ウィザードを起動し、論理局番の設定を行います。
[削除]ボタン	設定した論理局番を削除します。
表示	ユーティリティ: 論理局番で設定した内容をプロパティ一覧に表示します。 プログラム: プログラム設定タイプで設定に必要なプロパティ一覧を表示します。
[テキスト保存]ボタン	プロパティ一覧の内容を.txt形式でファイルに保存します。

### Point

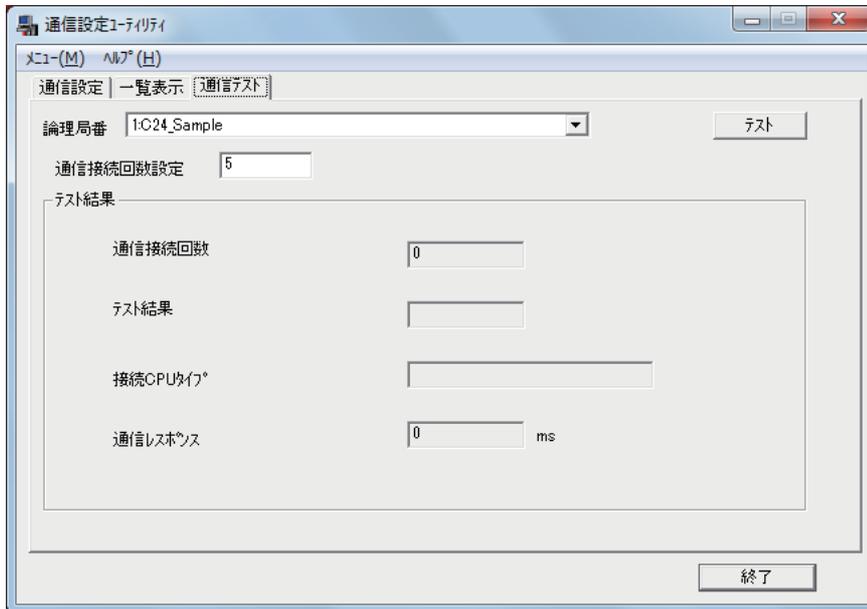
通信設定ウィザードの詳細は、下記を参照してください。

📄 98ページ 通信設定ウィザード画面の操作

# 通信テスト画面の操作

登録されている論理局番の通信テストを行います。

## 画面表示



項目	内容	
論理局番	通信テストを行う論理局番を選択します。	
通信接続回数設定	指定した論理局番に対し、通信テストを何回(1~32767)繰り返すか設定します。	
[テスト]ボタン([キャンセル]ボタン)	通信テストを開始(中止)します。 モデム通信の内容が設定されている論理局番を選択した場合、[テスト]ボタンをクリック後に下記の画面が表示されます。 パスワードが設定されている場合、パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。 <div data-bbox="544 1220 927 1406" data-label="Image"> </div>	
テスト結果	通信接続回数	通信テスト中の接続回数を表示します。
	テスト結果	テスト結果を表示します。エラー発生時はエラーコードを表示します。正常終了時は0、異常終了時は0以外を表示します。
	接続CPUタイプ	接続CPUタイプを表示します。
	通信レスポンス	1回の通信テストが成立するまでの平均時間(単位:ms)を表示します。

## 通信設定のインポート

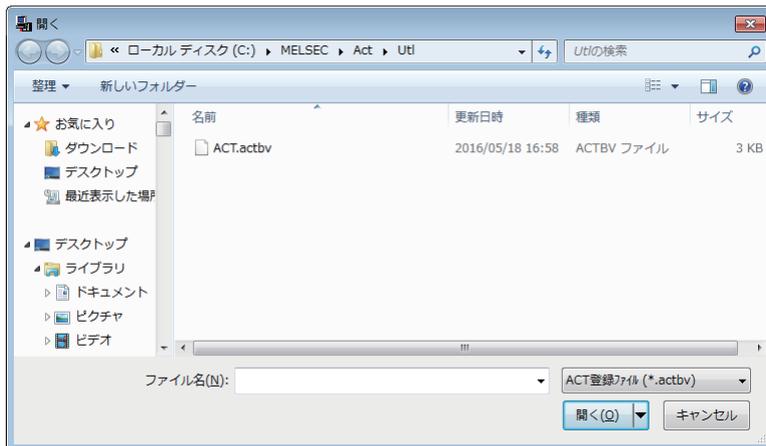
通信設定のエクスポート( 97ページ 通信設定のエクスポート)でファイルに保存した設定をユーティリティに反映します。

別のパソコンで設定した通信設定を、使用しているパソコンに反映する場合に使用します。

### 操作手順

[メニュー]⇒[通信設定のインポート]を選択します。

### 画面表示



### Point

通信設定のインポートを行う場合は、エクスポート時のバージョン以降のMX Componentを使用してください。

エクスポート時のMX Componentのバージョンより前のバージョンを使用した場合、正しくインポートされないことがあります。

## 通信設定のエクスポート

パソコンに設定中の通信設定をファイルに保存します。(保存したファイルはACT登録ファイルと呼びます。)  
別のパソコンに通信設定を反映したい場合に使用します。

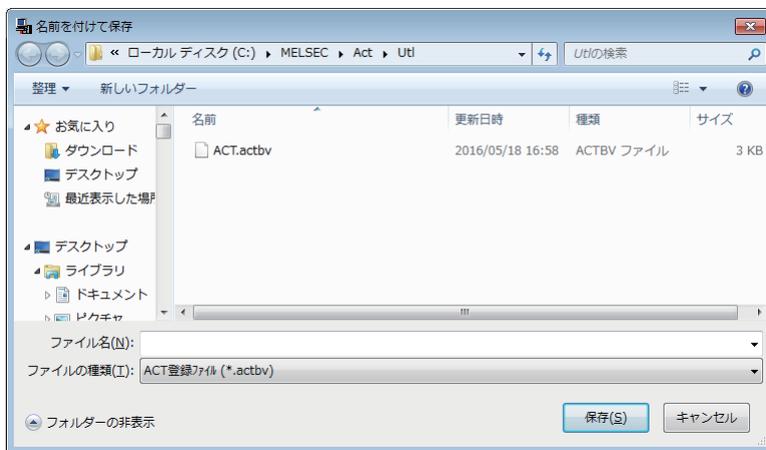
### Point

- 通信設定ユーティリティの設定内容は、アンインストールを行うとすべて消去されます。
- 通信設定ユーティリティの設定内容を保存しておきたい場合、ファイルのエクスポートを行ってください。
- MX Component Version 4.11M以前の通信設定ユーティリティでインポートする場合はファイルの種類で\*.actを選択し、保存したファイルを使用します。

### 操作手順

[メニュー]⇒[通信設定のエクスポート]を選択します。

### 画面表示



# 通信設定ウィザード画面の操作

ユーティリティ設定タイプで通信を行うために必要な論理局番の設定を行います。

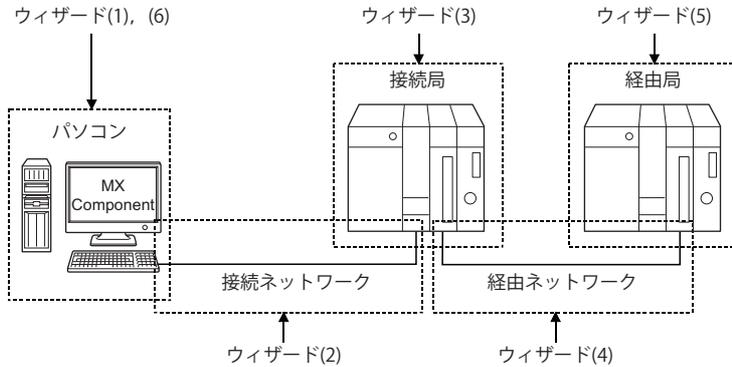
## 通信設定ウィザードの概要

ユーティリティ設定タイプで通信を行うために必要な論理局番の設定を、ウィザード形式にて行います。

通信設定ウィザードの各画面で設定を行う箇所および内容を下記に示します。

各ウィザード画面の設定内容は、下記を参照してください。

☞ 99ページ 通信設定ウィザード画面の説明



画面名	内容
ウィザード(1)	論理局番を設定します。
ウィザード(2)	パソコン・接続局(シーケンサCPUおよびユニット)間の接続ネットワークを設定します。
ウィザード(3)	接続局(シーケンサCPUおよびユニット)を設定します。
ウィザード(4)	接続局(シーケンサCPUおよびユニット)・経由局(シーケンサCPUおよびユニット)間の経由ネットワークを設定します。
ウィザード(5)	経由局シーケンサCPUを設定します。
ウィザード(6)	論理局番にコメントを付けます。

## 起動手順

### 操作手順

- [メニュー]⇒[通信設定ウィザード]を選択します。
- ユーティリティ画面の[ウィザード]ボタンをクリックします。

## 通信設定ウィザード画面の説明

通信設定ウィザード画面は、ウィザード(1)から順にウィザード(6)まで表示されます。  
通信設定ウィザード画面が表示される順に沿って説明します。

### Point

- 通信設定ウィザード画面は、通信のための設定内容によって表示または設定可能項目の内容が異なります。  
表示されている設定可能項目をすべて設定してください。
- 通信設定ウィザード画面は、設定内容によって表示されない画面もあります。

## 操作手順

通信設定ウィザードを起動



ウィザード(1)



1. 論理局番を入力または選択し、[次へ]ボタンをクリックします。  
論理局番は、0～1023まで登録可能です。



ウィザード(2)



2. 通信を行う"パソコン側I/F"を選択してください。  
"通信設定"に表示される項目は、"パソコン側I/F"の設定内容により異なります。  
設定可能な項目をすべて設定し、[次へ]ボタンをクリックします。  
"パソコン側I/F"の各通信に対応した選択項目を下記に示します。  
📖 101ページ パソコン側I/Fの各通信に対応した選択項目



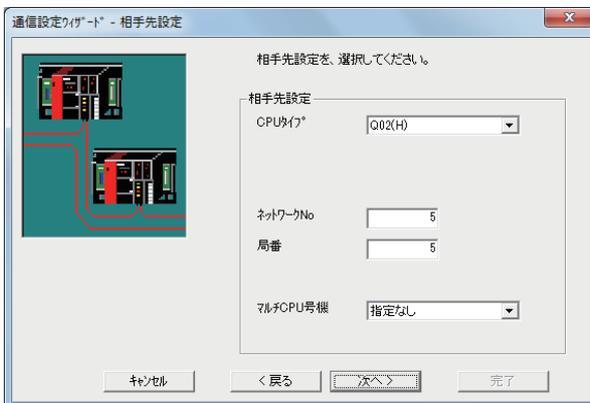
### ウィザード(3)



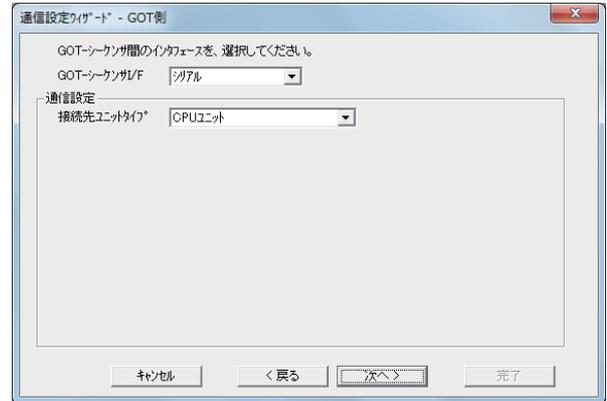
### ウィザード(4)



### ウィザード(5)



3. ウィザード(3)はウィザード(2)の設定内容により、設定可能な項目が異なります。  
設定可能な項目をすべて設定し、[次へ]ボタンをクリックします。  
ウィザード(2)にてGOT経由を選択した場合、下記の画面が表示されます。(ウィザード(2)の設定内容により、設定可能な項目が異なります。)  
設定可能な項目をすべて設定し、[次へ]ボタンをクリックします。



4. ウィザード(4)は、ウィザード(2)およびウィザード(3)の設定内容により、設定可能な項目が異なります。  
設定可能な項目をすべて設定し、[次へ]ボタンをクリックします。  
ウィザード(2)にてモデムを選択した場合、ウィザード(3)とウィザード(4)との間に"回線設定"画面が表示されます。  
"回線設定"画面の詳細については、下記を参照してください。

☞ 102ページ 回線設定画面の操作

5. ウィザード(5)は、ウィザード(2)、ウィザード(3)およびウィザード(4)の設定内容により、設定可能な項目が異なります。  
設定可能な項目をすべて設定し、[次へ]ボタンをクリックします。

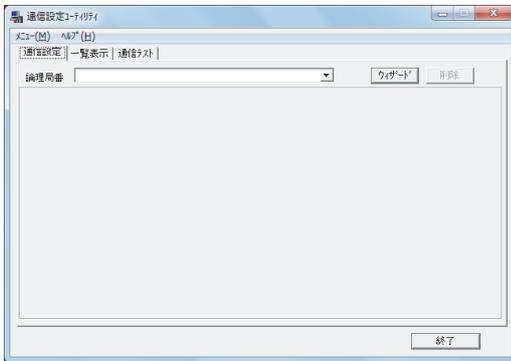
## ウィザード(6)



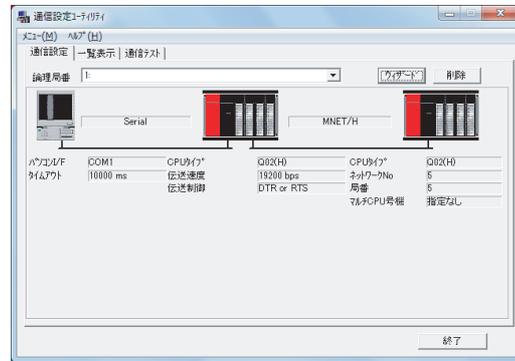
### 登録完了

通信設定ウィザードで論理局番の登録が完了すると、通信設定画面に設定内容が表示されます。

<登録前>



<登録後>



- 設定を行った論理局番にコメントを付けます。コメントは半角で32文字まで入力可能です。コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。コメントを付ける必要がない場合は、入力を行わず[完了]ボタンをクリックしてください。

## ■パソコン側I/Fの各通信に対応した選択項目

設定項目	通信名
USB	USB通信
USB(GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
シリアル	シリアルコミュニケーション通信, CPU COM通信, CC-Link G4通信
シリアル(GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
Ethernetボード	Ethernet通信, ゲートウェイ機能通信
Ethernetボード(GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
モデム	モデム通信
CC IE Controlボード	CC-Link IEコントローラネットワーク通信
MELSECNET/Hボード	MELSECNET/H通信
CC IE Fieldボード	CC-Link IEフィールドネットワーク通信
CC-Linkボード	CC-Link通信
Qシリーズバス	Qシリーズバス通信
GX Simulator3	GX Simulator3通信
GX Simulator2	GX Simulator2通信
GX Simulator	GX Simulator通信
MT Simulator2	MT Simulator2通信

# 回線設定画面の操作

通信設定ユーティリティで、モデム通信の設定を行う際に必要な電話回線の設定を行います。

## 回線設定画面

回線接続方式、電話回線およびATコマンドなどの設定を行います。

### 画面表示

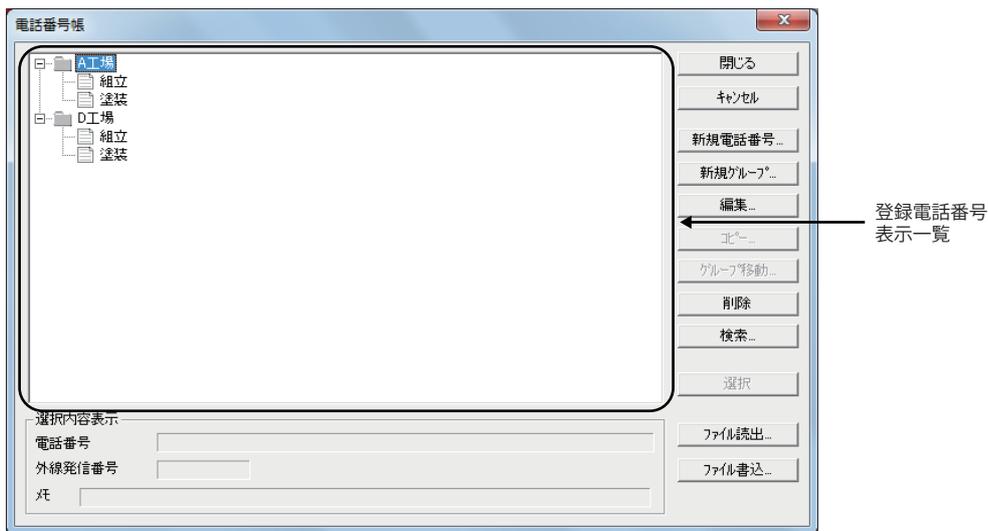
項目	内容	参照	
回線接続方式	回線接続方式を設定します。 Qシリーズ対応C24、Qシリーズ対応CMOおよびLシリーズ対応C24使用時は、下記の項目が選択可能です。(FXCPU使用時は"自動"固定です。) ☞ 103ページ 回線接続方式の選択項目	—	
コールバック番号	Qシリーズ対応C24、Qシリーズ対応CMOおよびLシリーズ対応C24のコールバック機能で使用する電話番号を設定します。 回線接続方式で"自動(コールバック番号指定時)", "コールバック接続(番号指定時)", "コールバック要求(番号指定時)"を選択した場合のみ設定可能です。	—	
回線	回線種別	トーン、パルス、ISDNを選択します。	—
	外線発信番号	外線に電話する場合、必要に応じて設定します。	—
	ポート	モデムと接続しているCOMポートNo.を選択します。	—
接続先	相手先の電話番号を設定します。 また、電話番号帳であらかじめ電話番号を設定しておく[参照]ボタンより相手先の電話番号を設定できます。	104ページ 電話番号帳を作成する	
ATコマンド	モデム標準	モデムの中に設定されているATコマンドを使用します。	—
	ATコマンド指定	標準のATコマンドを使用しうまく回線が接続しない場合は、[ATコマンドヘルプ]の内容とご使用になるモデムのマニュアルを参考にしてATコマンドを作成してください。	106ページ ATコマンドを登録する
[詳細設定]ボタン	"詳細設定"画面を表示します。	108ページ 詳細設定画面	

## ■回線接続方式の選択項目

項目	内容
自動	コールバック機能が設定されていない場合に選択します。
自動(コールバック固定時)	各コールバック機能の接続形式については、下記のマニュアルを参照してください。 ☐IMX Component Version 4 プログラミングマニュアル
自動(コールバック番号指定時)	
コールバック接続(固定時)	
コールバック接続(番号指定時)	
コールバック要求(固定時)	
コールバック要求(番号指定時)	
コールバック受信待ち	

## 電話番号帳を作成する

"回線設定"画面で使用する電話番号の設定を行います。

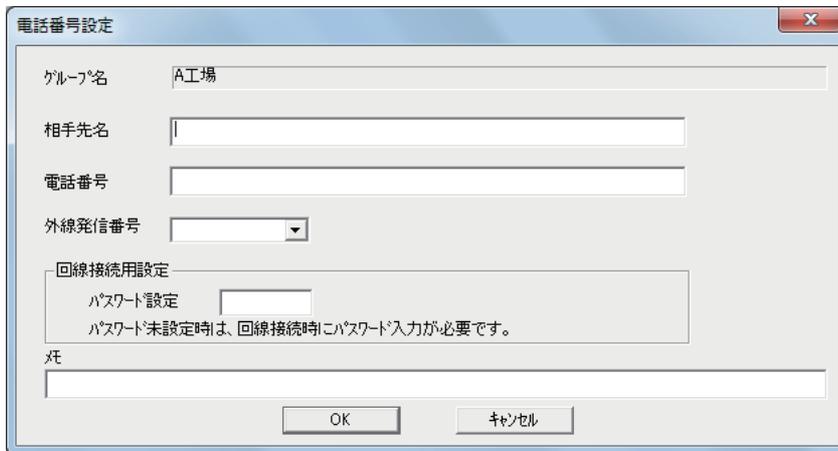


### 表示内容

項目	内容
登録電話番号表示一覧	グループ名、電話番号の相手先名を表示します。
選択内容表示	登録電話番号表示一覧で選択したデータの登録内容を表示します。
[新規グループ]ボタン	新規にグループを作成します。 [新規グループ]ボタンをクリックすると"グループ設定"画面が表示されます。 グループ名を入力して設定します。設定文字数は半角50文字(全角25文字)以内です。
[編集]ボタン	登録済みデータを編集します。 "登録電話番号表示一覧"で編集したい登録済みデータを選択します。 [編集]ボタンをクリックすると"電話番号設定"画面が表示されます。 各データを編集します。
[コピー]ボタン	登録済みの電話番号をほかのグループにコピーします。 "登録電話番号表示一覧"でコピーしたい登録済みデータを選択します。 [コピー]ボタンをクリックすると"グループ指定"画面が表示されます。 コピー先グループを選択し、[OK]ボタンをクリックします。
[グループ移動]ボタン	登録済みの電話番号をほかのグループに移動します。 "登録電話番号表示一覧"で移動したい登録済みデータを選択します。 [グループ移動]ボタンをクリックすると"グループ指定"画面が表示されます。 移動先グループを選択し、[OK]ボタンをクリックします。
[削除]ボタン	登録済みのグループ、電話番号を削除します。グループ単位での一括削除はできません。
[検索]ボタン	登録済み電話番号を検索します。検索一致条件は部分一致です。 登録されているすべてのデータから検索します。検索相手先、検索電話番号の両方に検索条件を入力する場合、両方の検索条件を満たすデータを検索します。
[選択]ボタン	"回線設定"画面から参照した場合に、電話番号設定の選択処理を行います。
[ファイル読出]ボタン	指定したファイルから電話番号データを読み出して追加します。 読み出した電話番号データに置き換えたい場合は、グループおよび電話番号をすべて削除してからファイル読出を実行してください。
[ファイル書込]ボタン	"ATコマンド登録"画面で設定したデータを、指定ファイルへ書き込みます。

## 操作手順

1. "登録電話番号表示一覧"で電話番号を登録したいグループを選択します。
2. [新規電話番号]ボタンをクリックします。  
"電話番号設定"画面が表示されます。



3. 画面上の項目を設定します。

項目	内容
グループ名	登録先のグループ名を表示します。
相手先名	設定する電話番号の相手先を入力します。 設定文字数は半角50文字(全角25文字)以内です。
電話番号	電話番号を入力します。設定文字数は半角50文字以内です。
外線発信番号	外線発信番号を設定します。設定文字数は半角10文字以内です。
回線接続用設定	Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, およびLシリーズ対応C24にパスワードが設定されている場合、本設定を行うと自動でパスワードの処理を行い、回線接続します。
メモ	登録内容に対するメモを入力します。 設定文字数は半角60文字(全角30文字)以内です。

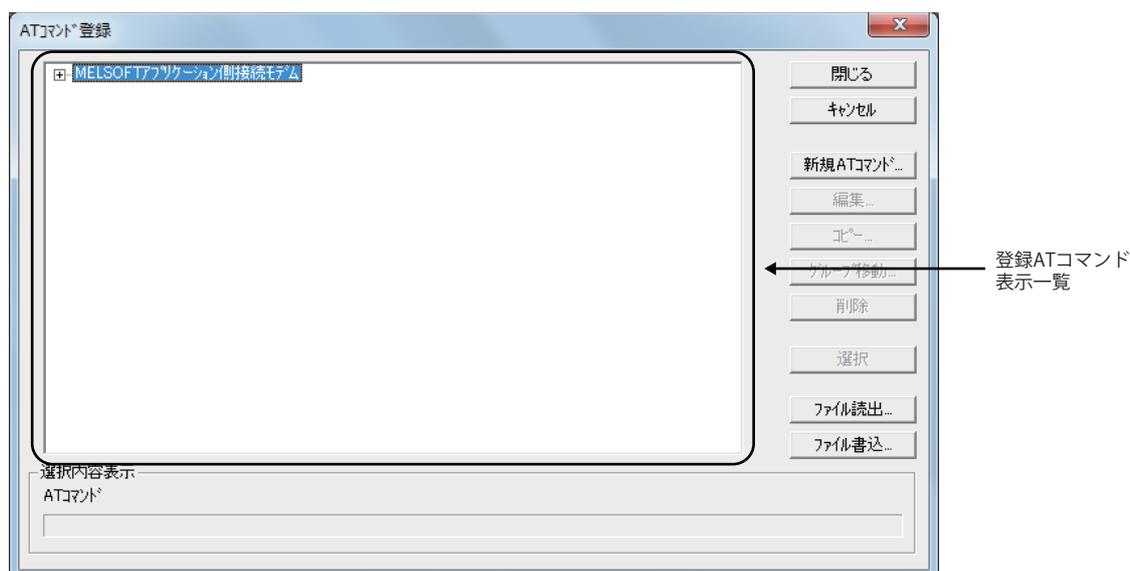
4. [OK]ボタンをクリックします。  
電話番号が登録されます。

### Point

MX Componentでは、GX Developerにて作成を行った電話番号帳を読み出すことが可能です。  
GX Developerの電話番号帳は、下記のフォルダに格納されています。  
[ユーザ指定フォルダ]-[Gppw]

## ATコマンドを登録する

"回線設定"画面で使用するATコマンドの設定を行います。



### 表示内容

項目	内容
登録ATコマンド表示一覧	ATコマンドの見出し文を表示します。
選択内容表示	登録ATコマンド表示一覧において選択したデータの登録内容を表示します。
[編集]ボタン	登録済みデータを編集します。 "登録ATコマンド表示一覧"で編集したい登録済みデータを選択します。 [編集]ボタンをクリックすると"ATコマンド登録"画面が表示されます。 各データを編集します。
[コピー]ボタン	登録済みのATコマンドを各相手側にコピーします。 "登録ATコマンド表示一覧"でコピーしたい登録済みデータを選択します。 [コピー]ボタンをクリックすると"グループ指定"画面が表示されます。 コピー先(各相手側)を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
[グループ移動]ボタン	登録済みのATコマンドを各相手側に移動します。 "登録ATコマンド表示一覧"で移動したい登録済みデータを選択します。 [グループ移動]ボタンをクリックすると"グループ指定"画面が表示されます。 移動先(各相手側)を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
[削除]ボタン	登録済みのATコマンドを削除します。
[選択]ボタン	"回線設定"画面から参照した場合に、ATコマンドの選択処理を行います。
[ファイル読出]ボタン	指定したファイルからATコマンドを読み出して追加します。 読み出したATコマンドに置き換えたい場合は、ATコマンドをすべて削除してからファイル読出を実行してください。
[ファイル書込]ボタン	"ATコマンド登録"画面で設定したデータを、指定ファイルへ書き込みます。

## 操作手順

1. 登録ATコマンド表示一覧で"MELSOFTアプリケーション側接続モデム"を選択します。
2. [新規ATコマンド]ボタンをクリックします。  
"ATコマンド登録"画面が表示されます。

3. 画面の項目を設定します。

項目	内容
グループ名	新規作成のグループ名を表示します。
見出し文	登録するATコマンドに対する見出し文を入力します。
ATコマンド	モデム初期化時のコマンドを設定します。ASCIIコードで70文字まで入力可能です。

4. [OK]ボタンをクリックします。  
ATコマンドが登録されます。

### Point

MX Componentでは、GX Developerにて作成を行ったATコマンドを読み出すことが可能です。  
GX DeveloperのATコマンドは、下記のフォルダに格納されています。  
[ユーザ指定フォルダ]-[Gppw]

## 詳細設定画面

電話回線接続時の詳細設定を行います。  
使用するモデムに合わせて設定を行ってください。

### 画面表示

項目	値	単位
回線接続CD信号確認時間	90	(s)
回線接続モデム通知待ち時間	5	(s)
回線切断CD信号確認時間	5	(s)
回線切断遅延時間	3	(s)
データ送信遅延時間	0	(s)
ATコマンド送信レスポンス待ち時間	1	(s)
パスワード解除レスポンス待ち時間	5	(s)
ATコマンド/パスワード解除送信リトライ回数	3	回
コールバック回線切断待ち時間	90	(s)
コールバック実施遅延時間	20	(s)
コールバック受信待ち用タイムアウト	120	(s)

項目	内容
回線接続CD信号確認時間	回線接続CD信号確認時間(1~999s)を設定します。 回線接続する地域(例: 海外)によって設定時間内にCD信号がONしない場合は、設定時間を大きくしてください。
回線接続モデム通知待ち時間	回線接続モデム通知待ち時間(1~999s)を設定します。 モデムの応答速度が遅い場合は、設定時間を大きくしてください。
回線切断CD信号確認時間	回線切断CD信号確認時間(1~999s)を設定します。 回線切断する地域(例: 海外)によって設定時間内にCD信号がOFFしない場合は、設定時間を大きくしてください。
回線切断遅延時間	回線切断遅延時間(1~999s)を設定します。 モデムの応答速度が遅い場合は、設定時間を大きくしてください。
データ送信遅延時間	データ送信遅延時間(1~999s)を設定します。 モデムの応答速度が遅い場合は、設定時間を大きくしてください。
ATコマンド送信レスポンス待ち時間	ATコマンド送信レスポンス待ち時間(1~999s)を設定します。 モデムの応答速度が遅い場合は、設定時間を大きくしてください。
パスワード解除レスポンス待ち時間	パスワード解除レスポンス待ち時間(1~999s)を設定します。 相手先との回線の品質が悪い場合は、設定時間を大きくしてください。
ATコマンド/パスワード解除送信リトライ回数	ATコマンド/パスワード解除送信リトライ回数(1~999回)を設定します。 ATコマンドの送信およびパスワードの解除ができない場合は、設定回数を増やしてください。
コールバック回線切断待ち時間	コールバック回線切断待ち時間(1~180s)を設定します。 回線接続する地域(例: 海外)によって相手先(Qシリーズ対応C24側)の回線が設定時間内に切断されない場合は、設定時間を大きくしてください。
コールバック実施遅延時間	コールバック実施遅延時間(1~999s)を設定します。 回線への接続を中継する機器(例: モデムなど)が、回線の切断後の再接続に一定の時間を空ける必要がある場合は、設定時間を大きくしてください。
コールバック受信待ち用タイムアウト	コールバック受信待ち用タイムアウト時間(1~3600s)を設定します。 コールバック受信待ち状態時にタイムアウトが発生する場合は、設定時間を大きくしてください。

## 7.2 シーケンサモニタユーティリティ

シーケンサモニタユーティリティの操作や設定方法について説明します。

### 接続先設定画面の操作

パソコンからシーケンサまでの接続設定を行います。

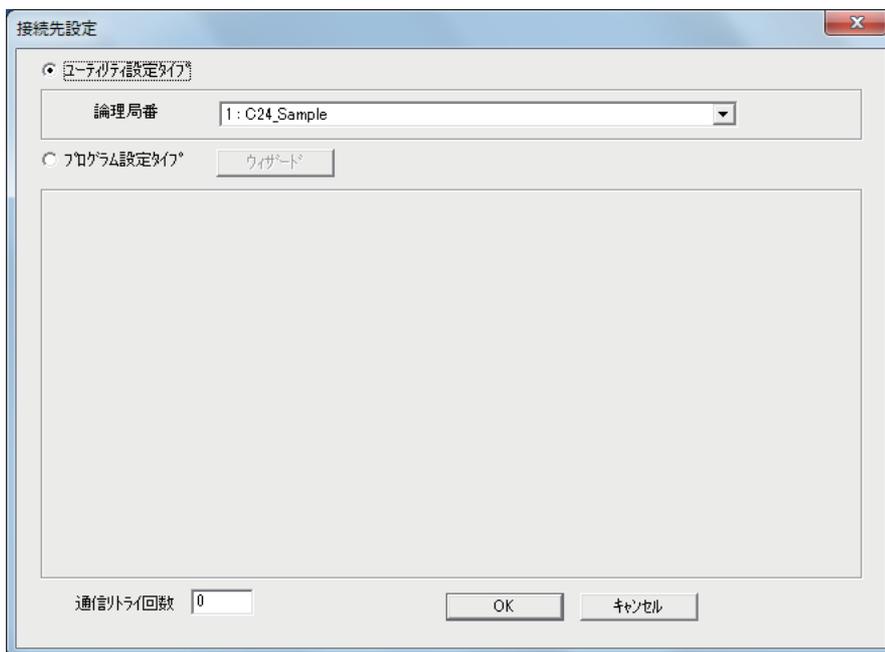
#### 操作手順

[オンライン]⇒[接続先設定]を選択します。

(シーケンサモニタユーティリティ起動時にも表示されます。)

#### ユーティリティ設定タイプ選択時

##### 画面表示



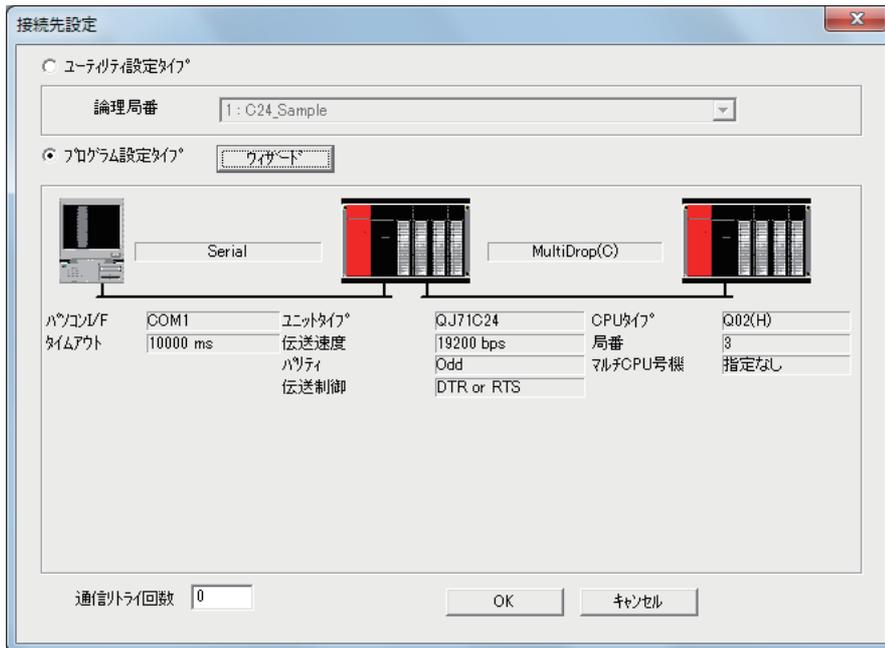
項目	内容
ユーティリティ設定タイプ	通信設定ユーティリティにて設定した論理局番を用いて接続先設定を行うときに選択します。
論理局番	通信設定ユーティリティにて設定した論理局番を選択します。 モデム通信の内容が設定されている論理局番を選択した場合、[OK]ボタンをクリック後に下記の画面が表示されます。 パスワードが設定されている場合、パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。
通信リトライ回数	シーケンサモニタユーティリティでモニタ中にエラーが発生した際に行うリトライ回数(0~9)を設定します。

#### Point

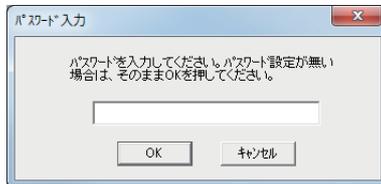
論理局番を指定する際は、通信設定ユーティリティにてCPUタイプ、局番などの論理局番の設定内容を確認してから行ってください。

## プログラム設定タイプ選択時

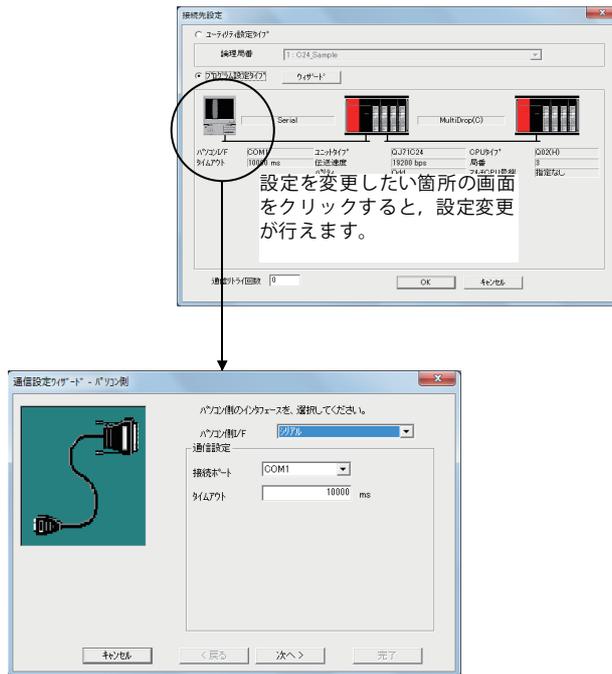
### 画面表示



項目	内容
プログラム設定タイプ	プログラム設定タイプでプログラムを作成しているときに選択します。
[ウィザード]ボタン	<p>通信設定ウィザードを起動し、接続先設定を行います。</p> <p>通信設定ウィザードにてモデム通信の内容を設定した場合、[OK]ボタンをクリック後に下記の画面が表示されます。パスワードが設定されている場合、パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。</p>
通信リトライ回数	シーケンサモニタユーティリティでモニタ中にエラーが発生した際に行うリトライ回数(0~9)を設定します。



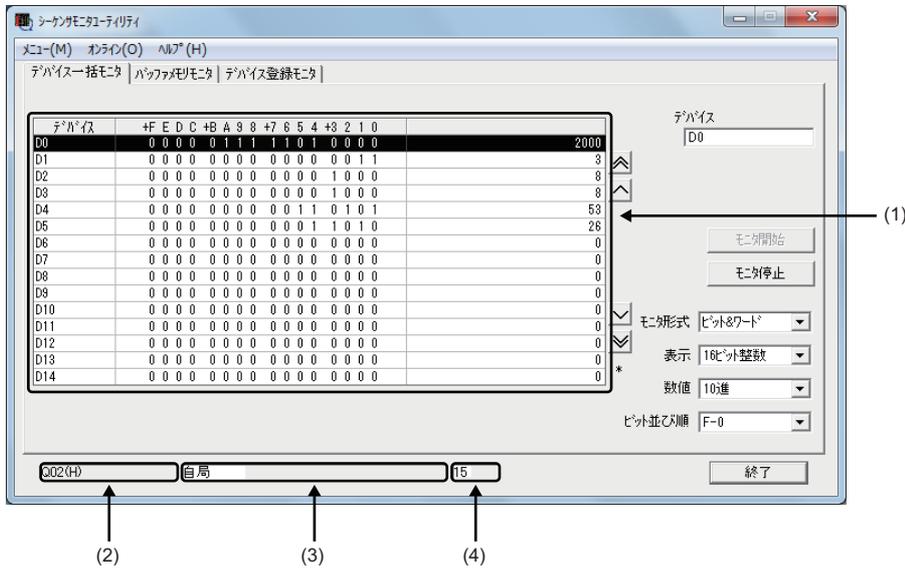
プログラム設定タイプ選択時、画面のシーケンサまたはパソコン図をクリックすることにより、接続先設定の詳細を変更することができます。



# デバイス一括モニタ画面の操作

指定した1種類のデバイスのみをモニタします。

## 画面表示



項目	内容
デバイス	デバイス一括モニタを行うデバイス名を入力します。 FXCPU, FX5CPUのX, Yデバイスは、デバイス番号を8進数で入力してください。
[モニタ開始]ボタン([モニタ停止]ボタン)	モニタの開始(停止)を行います。
モニタ形式	モニタ形式を設定します。 ■項目 ビット&ワード: モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。 ビット多点: モニタ画面をビット表示のみに設定します。 ワード多点: モニタ画面をワード表示のみに設定します。
表示	モニタ形式が"ビット&ワード"または"ワード多点"時に、表示するデバイス値の表示形式を設定します。 ■項目 16ビット整数: 16ビット整数表示に設定します。 32ビット整数: 32ビット整数表示に設定します。 実数(単精度): 実数(単精度)表示に設定します。 実数(倍精度): 実数(倍精度)表示に設定します。 ASCII文字列: ASCII文字列表示に設定します。
数値	表示が"16ビット整数"または"32ビット整数"時の基数を設定します。 ■項目 10進: 10進数表示に設定します。 16進: 16進数表示に設定します。
ビット並び順	モニタ中のビットデバイスの並び順を設定します。 ■項目 F-0: 左からF,E,...1,0の順に並びます。 0-F: 左から0,1,...E,Fの順に並びます。
(1)モニタ画面	デバイスの状態を表示します。 ・ビットデバイスの状態は、1がON状態、0がOFF状態として表示されます。 ・ビットデバイスは、16点単位でモニタを行います。 16点単位中にシーケンサCPUがサポートする範囲外のデバイスが含まれる場合、値は"0"と表示されます。 ・FXCPUのCデバイスは、C0~C199(16ビット)とC200以降(32ビット)に分かれて表示されます。 デバイス名をクリックすることにより、"デバイス書き込み"画面(118ページ デバイス書き込み画面の操作)を表示します。 モニタ中は、スクロールボタンの下に"*"が点滅表示されます。
(2)対象CPU名	通信設定ウィザードにて指定した通信相手先のCPU名を表示します。
(3)通信経路情報	ネットワーク種別、ネットワーク番号、先頭I/Oアドレス、局番などの情報を表示します。
(4)論理局番	ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。 プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。

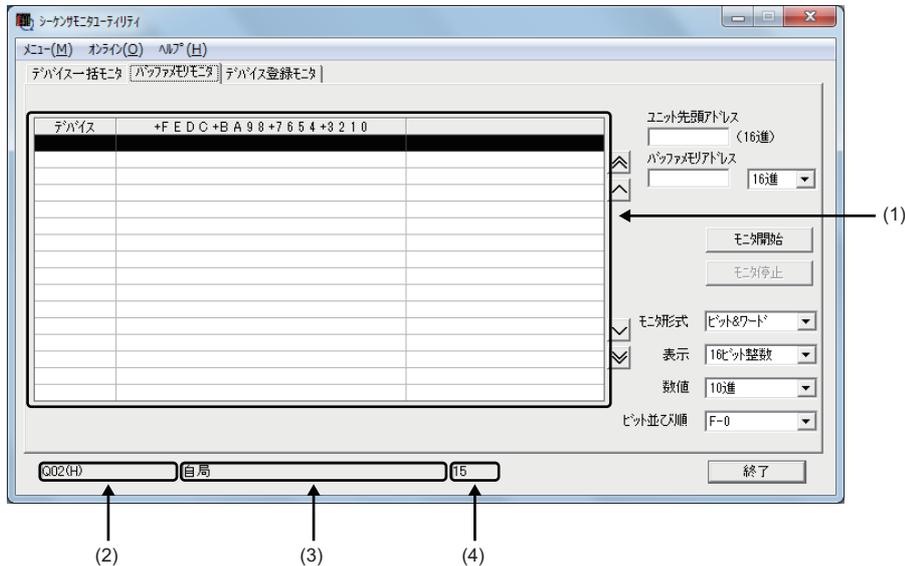
## Point

- U\*¥G形式でデバイスメモリを指定すると、バッファメモリのモニタが可能になります。
- タイマおよびカウンタの設定値をモニタする場合、データレジスタを間接指定してください。
- 接続先が確立されていない場合、モニタを行うことはできません。
- モニタ中に接続先設定を行うことはできません。

# バッファメモリモニタ画面の操作

指定した1種類のバッファメモリのみをモニタします。

## 画面表示



項目	内容
ユニット先頭アドレス	モニタを行うユニットの先頭アドレスを入力します。 FXCPUへのアクセス時は、特殊増設機器のブロックNo.を入力してください。
バッファメモリアドレス	モニタを行うバッファメモリのアドレスを16進数または10進数で入力します。
[モニタ開始]ボタン([モニタ停止]ボタン)	モニタの開始(停止)を行います。
モニタ形式	モニタ形式を設定します。 <b>■項目</b> ビット&ワード: モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。 ビット多点: モニタ画面をビット表示のみに設定します。 ワード多点: モニタ画面をワード表示のみに設定します。
表示	モニタ形式が"ビット&ワード"または"ワード多点"時に、表示するデバイス値の表示形式を設定します。 <b>■項目</b> 16ビット整数: 16ビット整数表示に設定します。 32ビット整数: 32ビット整数表示に設定します。 実数(単精度): 実数(単精度)表示に設定します。 実数(倍精度): 実数(倍精度)表示に設定します。 ASCII文字列: ASCII文字列表示に設定します。
数値	表示が"16ビット整数"または"32ビット整数"時の基数を設定します。 <b>■項目</b> 10進: 10進数表示に設定します。 16進: 16進数表示に設定します。
ビット並び順	モニタ中のビットデバイスの並び順を設定します。 <b>■項目</b> F-0: 左からF,E,...,1,0の順に並びます。 0-F: 左から0,1,...,E,Fの順に並びます。
(1)モニタ画面	バッファメモリの状態を表示します。 ビットデバイスの状態は、1がON状態、0がOFF状態として表示されます。 モニタ中は、スクロールボタンの下に"*"が点滅表示されます。
(2)対象CPU名	通信設定ウィザードにて指定した通信相手先のCPU名を表示します。
(3)通信経路情報	ネットワーク種別、ネットワーク番号、先頭I/Oアドレス、局番などの情報を表示します。
(4)論理局番	ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。 プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。

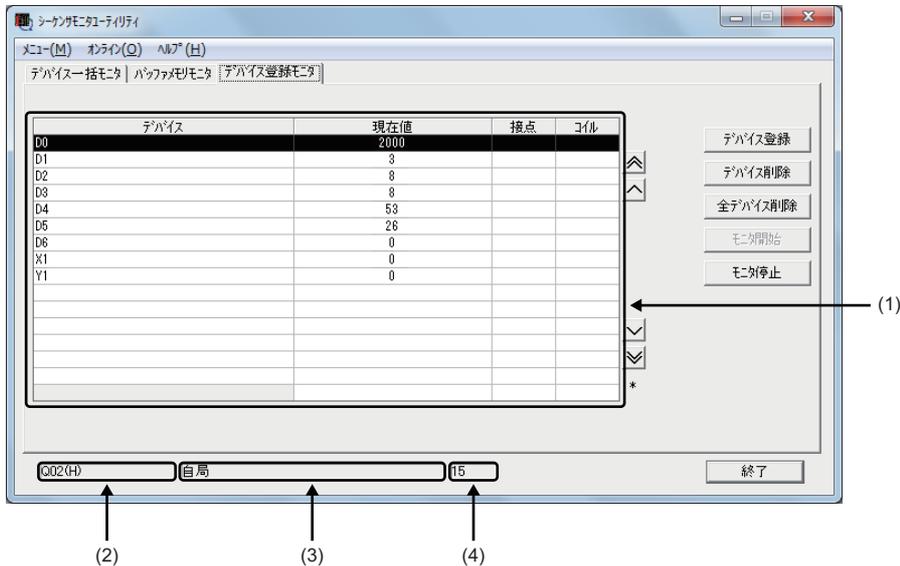
**Point** 

- 接続先が確立されていない場合、モニタを行うことはできません。
- モニタ中に接続先設定を行うことはできません。
- FX5CPUに対してのモニタは、サポートしていません。
- ゲートウェイ機能通信時は、モニタを行うことはできません。

# デバイス登録モニタ画面の操作

指定したデバイスを1画面で同時にモニタします。

## 画面表示



項目	内容
[デバイス登録]ボタン	モニタを行うデバイスを登録します。 [デバイス登録]ボタンをクリックすると、下記の画面が表示されます。 ☞ 117ページ デバイス登録画面
[デバイス削除]ボタン	モニタを行うデバイスを削除します。
[全デバイス削除]ボタン	デバイス登録モニタに登録されているすべてのデバイスをモニタ画面から削除します。
[モニタ開始]ボタン([モニタ停止]ボタン)	モニタの開始(停止)行います。
(1)モニタ画面	登録されているデバイスの状態を表示します。 デバイス名をクリックすることにより、"デバイス書き込み"画面(☞ 118ページ デバイス書き込み画面の操作)を表示します。 モニタ中は、スクロールボタンの下に"*"が点滅表示されます。
(2)対象CPU名	通信設定ウィザードにて指定した通信相手先のCPU名を表示します。
(3)通信経路情報	ネットワーク種別、ネットワーク番号、先頭I/Oアドレス、局番などの情報を表示します。
(4)論理局番	ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。 プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。

## デバイス登録画面

[デバイス登録]ボタンをクリックすると表示されます。  
モニタを行うデバイスを登録します。

### 画面表示

項目	内容
デバイス	登録するデバイスを入力します。
数値	ワードデバイス指定時の入力する数値を設定します。 ■項目 10進: 10進数に設定します。 16進: 16進数に設定します。
表示	ワードデバイス指定時の表示形式を設定します。 ■項目 16ビット整数: 16ビット整数表示に設定します。 32ビット整数: 32ビット整数表示に設定します。 実数(単精度): 実数(単精度)表示に設定します。 実数(倍精度): 実数(倍精度)表示に設定します。 ASCII文字列: ASCII文字列表示に設定します。
[登録]ボタン	デバイスを登録します。
[閉じる]ボタン	ダイアログボックスを閉じます。

### Point

- ・ タイマおよびカウンタの設定値をモニタする場合、データレジスタを間接指定してください。
- ・ 接続先が確立されていない場合、モニタを行うことはできません。
- ・ モニタ中に接続先設定を行うことはできません。

# デバイス書き込み画面の操作

ビットデバイスのON/OFFおよびワードデバイスやバッファメモリの現在値を変更します。

## 操作手順

- [オンライン]⇒[デバイス書き込み]を選択します。
- QSCPUの場合は、[デバイス書き込み]を選択することはできません。
- シーケンサモニタユーティリティの各タブのモニタ画面上をダブルクリックします。

## 画面表示

項目		内容
ビットデバイス	デバイス	デバイス名を入力します。
	[強制ON]ボタン	指定したデバイスを強制的にON状態に変更します。
	[強制OFF]ボタン	指定したデバイスを強制的にOFF状態に変更します。
	[強制ON/OFF反転]ボタン	指定したデバイスを強制的にON→OFF/OFF→ON状態に変更します。
ワードデバイス/バッファメモリ	デバイス	"デバイス"を選択することにより、書き込みを行うワードデバイスを入力できます。
	バッファメモリ	"バッファメモリ"を選択することにより、ユニットの先頭アドレスおよびバッファメモリのアドレスを入力できます。
	設定する値	書き込みを行う値を入力します。 入力範囲を下記に示します。 ■項目 16ビット整数: -32768～32767 32ビット整数: -2147483648～2147483647 実数(単精度), 実数(倍精度): -9999999999999999～9999999999999999 小数点以下有効桁数13桁
	[実行]ボタン	設定したデータを書き込みます。

## Point

RnSFCPUを使用した場合、セーフティモードでは安全デバイスへの書き込みはできません。

📖 MX Component Version 4 プログラミングマニュアル

## 時計設定画面の操作

シーケンサの時計データ読出しおよび変更を行います。

### 操作手順

[オンライン]⇒[時計設定]を選択します。

### 画面表示



QSCPUでは時計データの変更はできません。

項目	内容
パソコン時刻	パソコンの時刻を表示します。(書き込みはできません。)
シーケンサ時刻	シーケンサCPUの時刻を表示します。
[実行]ボタン	"シーケンサ時刻"の情報をシーケンサCPUに書き込みます。
[閉じる]ボタン	"時計設定"画面を終了します。

7

### Point

下記の通信を選択している場合、時刻設定は使用できません。

- GX Simulator通信(パソコンの時刻のみ表示されます。)
- ゲートウェイ機能通信(エラーが発生します。)

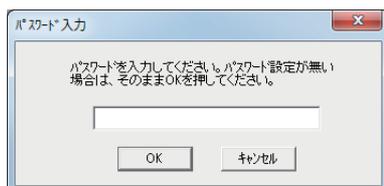
## 電話回線接続，電話回線切断画面の操作

モデム通信時の電話回線接続および電話回線切断を行います。

### 電話回線接続

#### 操作手順

1. [オンライン]⇒[電話回線接続]を選択します。  
RnSFCPU/QSCPUの場合は，[電話回線接続]を選択することはできません。
2. 電話回線接続時，下記の画面が表示されます。  
パスワードを入力し，[OK]ボタンをクリックしてください。



### 電話回線切断

- [オンライン]⇒[電話回線切断]を選択します。  
RnSFCPU/QSCPUの場合は，[電話回線切断]を選択することはできません。

# 7.3 ラベル管理ユーティリティ

ラベル管理ユーティリティの操作や設定方法について説明します。

## ラベル管理画面の操作

### 画面表示



項目	内容	参照
ラベルスペースウィンドウ	ラベルスペースの一覧を表示します。 リストには、作成日時の昇順にラベルスペース名を表示します。	—
ナビゲーションウィンドウ	ラベルスペースに対する論理局番、構造体およびシステムラベルリストをツリー形式で表示します。	—
ワークウィンドウ	システムラベルリストおよび構造体設定画面を表示します。	124ページ システムラベルリスト 129ページ 構造体設定
タスクウィンドウ	処理結果をリスト形式で表示します。	—
ステータスバー	現在の情報を表示します。	131ページ 変更通知

## 基本操作

### 操作手順

#### ■新規追加

- [メニュー]⇒[ラベルスペースの追加]を選択します。
  - ラベルスペースウィンドウを選択して右クリックし、[ラベルスペースの追加]を選択します。
- システムラベルVer.1時は[ラベルスペースの追加]、システムラベルVer.2時は[ラベルスペースの追加Ver.2]を選択します。

#### Point

ラベルスペースは、最大8個まで追加できます。ただし、参照するワークスペースと合わせて16個までです。

#### ■名前変更

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[ラベルスペースの名前変更]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択して右クリックし、[ラベルスペースの名前変更]を選択します。

#### Point

システムラベルVer.2でラベルスペース名を変更する場合、使用できる文字数は半角64文字(全角32文字)以内です。

#### ■保存

- [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。
- ラベル管理ユーティリティを終了します。

#### ■削除

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[ラベルスペースの削除]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択して右クリックし、[ラベルスペースの削除]を選択します。

# 論理局番の登録/削除

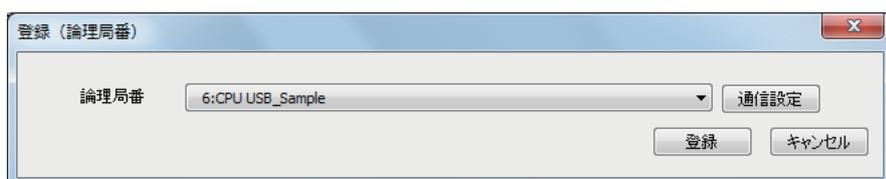
## 登録

ラベルスペースに論理局番を登録します。

### 操作手順

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[論理局番]⇒[登録]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、ナビゲーションウィンドウの"論理局番"を選択して右クリックし、[論理局番]⇒[登録]を選択します。

### 画面表示



項目	内容
論理局番	通信設定ユーティリティで定義されている論理局番をリストボックスから選択します。他のラベルスペースに登録済みの論理局番は表示されません。
[通信設定]ボタン	通信設定ユーティリティを起動します。
[登録]ボタン	論理局番を登録し、画面を閉じます。
[キャンセル]ボタン	論理局番を登録せず、画面を閉じます。

## 削除

ラベルスペースに登録されている論理局番を削除します。

### 操作手順

- ナビゲーションウィンドウ内の削除する局番を選択し、[メニュー]⇒[論理局番]⇒[登録削除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウ内の削除する局番を選択して右クリックし、[論理局番]⇒[登録削除]を選択します。

### Point

- 論理局番の登録後はラベルスペースの保存を実施してください。
- 論理局番とラベルスペースは1対1で登録します。  
他のラベルスペースに登録済みの論理局番を登録する場合、登録済みの論理局番をラベルスペースから削除したあと、新たに登録してください。

# システムラベルリスト

システムラベルの登録、編集および閲覧を行います。

## 画面表示

<システムラベルVer.1時>

	削除	システムラベル名 ▲	データ型	デバイス
1	<input type="checkbox"/>	LABEL.11	ビット	
2	<input type="checkbox"/>	LABEL.12	ワード[符号付き]	D0
3	<input type="checkbox"/>	LABEL.13	ダブルワード[符号付き]	
4	<input type="checkbox"/>	LABEL.14	単精度実数	
5				

<システムラベルVer.2時>

	削除	システムラベル名 ▲	データ型	ラベル名
1	<input type="checkbox"/>	LABEL.5	ビット	SLABEL.5
2	<input type="checkbox"/>	LABEL.6	ダブルワード[符号付き]	SLABEL.6
3	<input type="checkbox"/>	LABEL.7	ロングタイム	SLABEL.7
4	<input type="checkbox"/>	LABEL.8	文字列[UNICODE]	
5				

項目	内容	最大文字数	
		Ver.1	Ver.2
削除	削除するシステムラベルにチェックします。	—	—
システムラベル名	任意のシステムラベル名を入力します。 使用できない文字については、(☞ 415ページ ラベル名で使用できない文字列)を参照してください。	32文字	256文字
データ型	データ型を[...]で表示される"データ型選択"画面で設定します。(☞ 125ページ データ型を選択する) 直接入力することもできます。	128文字	512文字
デバイス	システムラベルVer.1に割り付けるデバイスを設定します。 ワードデバイスのビット指定(D0.1)も可能です。 データ型に構造体を設定している場合、"詳細設定"と表示されます。 "詳細設定"をクリックすると表示される"構造体デバイス設定"画面で設定します。 (☞ 1127ページ 構造体型のラベルにデバイスを割り付ける、128ページ 構造体配列型のラベルにデバイスを割り付ける)	50文字	—
ラベル名	システムラベルVer.2として管理するラベル名を入力します。	—	587文字

## 基本操作

### 操作手順

#### ■新規作成

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルリスト]⇒[新規作成]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、ナビゲーションウィンドウの"システムラベルリスト"を選択して右クリックし、[新規作成]を選択します。

#### ■名前の変更

- ナビゲーションウィンドウのシステムラベルリスト名を選択し、[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルリスト]⇒[名前の変更]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウのシステムラベルリスト名を選択して右クリックし、[システムラベルリスト]⇒[名前の変更]を選択します。

### Point

システムラベルVer.2でラベルスペース名を変更する場合、使用できる文字数は半角64文字(全角32文字)以内です。

## ■削除

- ナビゲーションウィンドウ内の削除するシステムラベルリスト名を選択し、[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルリスト]⇒[削除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウ内の削除するシステムラベルリスト名を選択して右クリックし、[システムラベルリスト]⇒[削除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウ内の削除するシステムラベルリスト名を選択し、Delete キーを押します。

## データ型を選択する

使用可能なデータ型を下表に示します。

○: 対応, —: 非対応

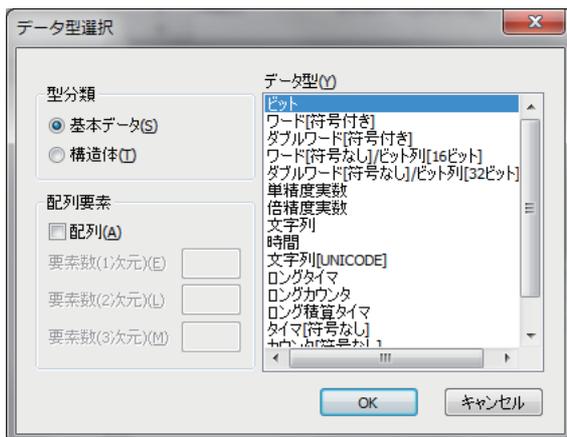
データ型	システムラベル		MX Component	
	Ver.2	Ver.1	基本データ	構造体
ビット	○	○	○	○
ワード[符号付き]	○	○	○	○
ダブルワード[符号付き]	○	○	○	○
ワード[符号なし]/ビット列[16ビット]	○	○	○	○
ダブルワード[符号なし]/ビット列[32ビット]	○	○	○	○
単精度実数	○	○	○	○
倍精度実数	○	○	○	○
文字列	○	○	○	○
文字列[Unicode]*1	○	—	○	○
時間	○	○	○	○
タイム*1	—	○	○	○
タイム[符号なし]*1	○	—	○	○
ロングタイム*1	○	—	○	○
カウンタ*1	—	○	○	○
カウンタ[符号なし]*1	○	—	○	○
ロングカウンタ*1	○	—	○	○
積算タイム*1	—	○	○	○
積算タイム[符号なし]*1	○	—	○	○
ロング積算タイム*1	○	—	○	○
ポインタ	○	○	—	—
構造体	○	○	○	○*2

\*1 配列化する場合は、"基本データ"を選択してください。  
"構造体"を選択した場合、使用時にエラーが発生します。

\*2 MX Component Version 4.11M以降にて、5階層の構造体まで使用できます。

## 画面表示

システムラベルリストおよび構造体設定のデータ型入力欄で, [...]をクリックします。



## 操作手順

1. "型分類"を選択します。

項目	内容
基本データ	ビット, ワードなどの基本型からデータ型を選択する場合に指定します。
構造体	定義された構造体からデータ型を選択する場合に指定します。 (構造体設定では表示されません。)

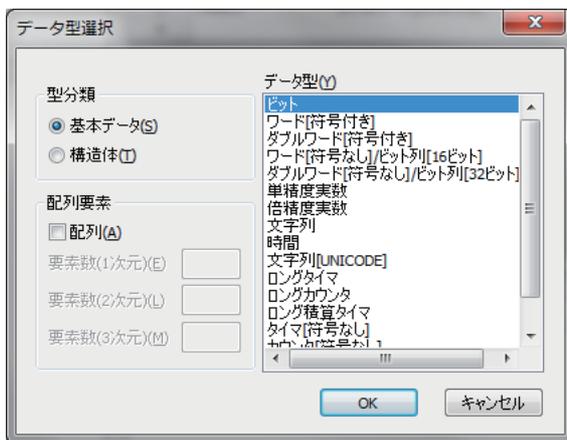
2. "データ型"欄で, データ型や構造体を選択します。

3. [OK]ボタンをクリックします。  
設定した内容が"データ型"欄に表示されます。

### ■データ型に配列を設定する

データ型を配列として定義します。

データ型を配列として定義する場合は, "データ型選択"画面で"配列要素"欄を入力します。



## 操作手順

1. システムラベルリストおよび構造体設定のデータ型入力欄で, [...]をクリックします。
2. "配列要素"欄のチェックボックスをチェックします。
3. "要素数(1次元)", 必要に応じて"要素数(2次元)"および"要素数(3次元)"を設定します。
4. 配列要素のデータ型を, 通常のデータ型設定と同様に設定します。

## 構造体型のラベルにデバイスを割り付ける

### 画面表示

システムラベルリストのデバイス欄で"詳細設定"をクリックします。



### 操作手順

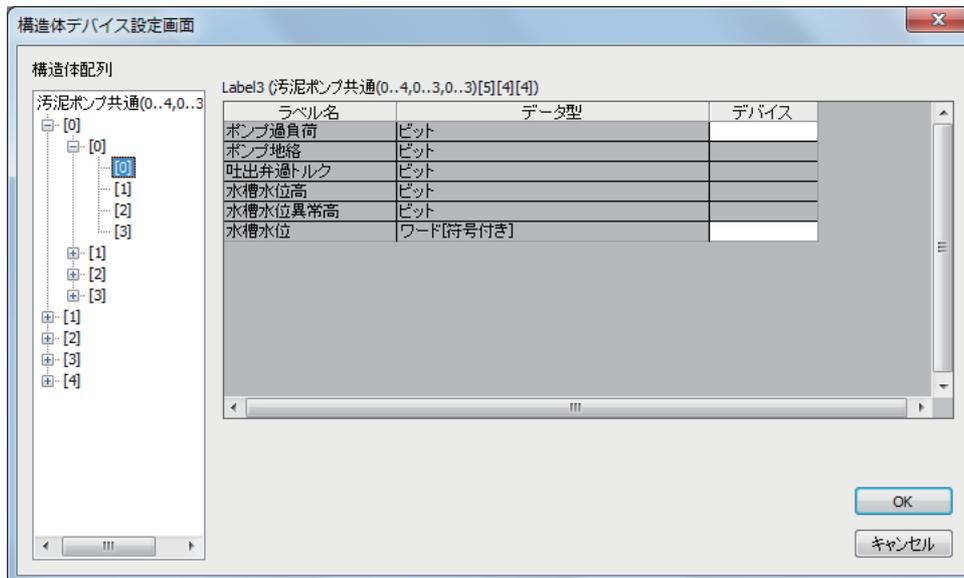
画面の項目を設定します。

項目	内容
ラベル名	構造体に定義されているラベル名を表示します。
データ型	ラベル名に設定されているデータ型を表示します。
デバイス	割り付けるデバイス名を設定します。

## 構造体配列型のラベルにデバイスを割り付ける

### 画面表示

システムラベルリストのデバイス欄で"詳細設定"をクリックします。



### 操作手順

画面の項目を設定します。

項目	内容
構造体配列	構造体の配列の要素がツリー表示されます。 ツリーで選択した要素に関するデバイス設定が画面右に表示されます。
ラベル名	構造体に定義されているラベル名を表示します。
データ型	ラベル名に設定されているデータ型を表示します。
デバイス	割り付けるデバイス名を設定します。 配列の先頭要素でのみ、デバイス名が入力できます。

# 構造体設定

ラベルスペースで管理する構造体の構成する各データ(要素)の登録, 編集および閲覧を行います。

## 画面表示

	ラベル名	データ型
1	ST_data1	ビット
2	ST_data2	ビット
3	ST_data3	ビット
4	ST_data4	ビット
5	ST_data5	ビット
6	ST_data6	ビット
7	ST_data7	ビット
8	ST_data8	ビット
9	ST_data9	ビット
10	ST_data10	ビット
11		

項目	内容	参照
ラベル名	ラベル名を表示します。	—
データ型	ラベルのデータ型を表示します。 [...]で表示される"データ型選択"画面で設定できます。	125ページ データ型を選択する

## 基本操作

### 操作手順

#### ■新規作成

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し, [メニュー]⇒[システムラベル]⇒[構造体]⇒[新規作成]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し, ナビゲーションウィンドウの"構造体"を選択して右クリックし, [構造体]⇒[新規作成]を選択します。

#### ■名前の変更

- ナビゲーションウィンドウの構造体名を選択し, [メニュー]⇒[システムラベル]⇒[構造体]⇒[名前の変更]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウの構造体名を選択して右クリックし, [構造体]⇒[名前の変更]を選択します。

#### Point

システムラベルVer.2でラベルスペース名を変更する場合, 使用できる文字数は半角64文字(全角32文字)以内です。

#### ■削除

- ナビゲーションウィンドウ内の削除する構造体名を選択し, [メニュー]⇒[システムラベル]⇒[構造体]⇒[削除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウ内の削除する構造体名を選択して右クリックし, [構造体]⇒[削除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウ内の削除する構造体名を選択し,  キーを押します。

# ワークスペースの参照登録/解除

## 参照登録

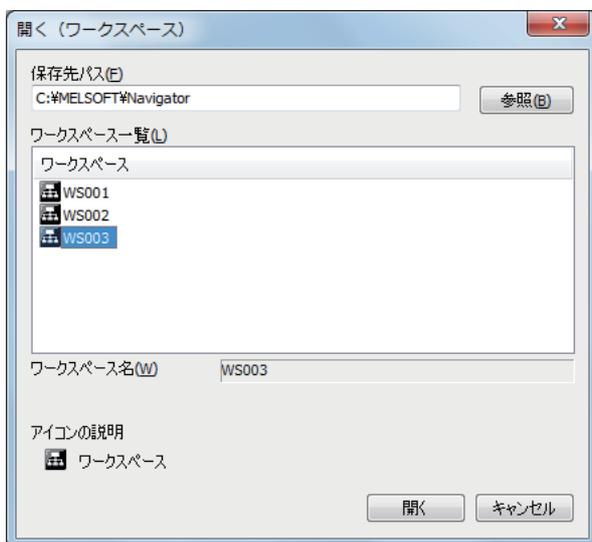
システムラベルを取り込む場合、参照するワークスペースを登録します。

- 参照を解除し、MX単独でシステムラベルを使用できます。
- 参照を解除後に再度参照登録した場合、新規に参照登録されます。(参照の復旧はありません。)
- 参照登録後、ラベルスペース内のラベル情報は編集できません。(論理局番の登録は可能です。)

## 操作手順

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[ワークスペース]⇒[参照登録]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウの"参照ワークスペース"を選択して右クリックし、[ワークスペース]⇒[参照登録]を選択します。

## 画面表示



項目	内容
保存先パス	[参照]ボタンをクリックし、"フォルダの参照"画面でフォルダを選択します。
ワークスペース一覧	ワークスペースの一覧を表示します。

## Point

自動デバイス割付、ビット指定を行っている構造体配列のラベルは正常に参照登録できません。  
システムラベルリストで新規に登録してください。

## 解除

システムラベルを取り込む場合に登録したワークスペースの参照を解除します。

- 参照登録を解除後、ラベルスペース内のラベル情報が編集可能になります。

## 操作手順

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[ワークスペース]⇒[参照登録を解除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウの"参照ワークスペース"を選択して右クリックし、[ワークスペース]⇒[参照登録を解除]を選択します。

# 変更通知

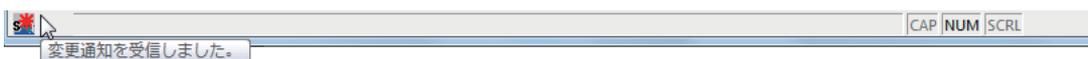
## 変更通知

ワークスペースの参照登録を行っている場合、変更確認を行った際に影響を受けたラベルがあるとき、システムラベル通知アイコンがステータスバーに表示されます。

### 操作手順

[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルデータベースの変更確認]を選択します。  
(ラベル管理ユーティリティ起動時に変更確認を行います。)

### 画面表示



### Point

- 変更通知機能を使用する場合は、MELSOFT Navigator Version 1.39R以降品を使用してください。
- 参照先のワークスペースで下記の操作が行われた場合に、変更通知を受信します。  
(システムラベルの新規作成時には通知されません。)
  - ・システムラベルに対する変更(コメントおよび備考の変更を含みます。)
  - ・システムラベルの削除

## 変更内容の反映

ワークスペースの参照登録を行っている場合、変更確認を行った際に影響を受けたラベル情報を反映します。  
複数のワークスペースを参照している場合は、ラベルスペースごとに反映されます。

### 操作手順

- [メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルデータベースの変更内容]を選択します。
- システムラベル通知アイコン()を右クリックし、[システムラベルデータベースの変更内容]を選択します。

## システムラベルデータの最新化

システムラベルデータを最新の状態に更新します。

### 操作手順

[メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。

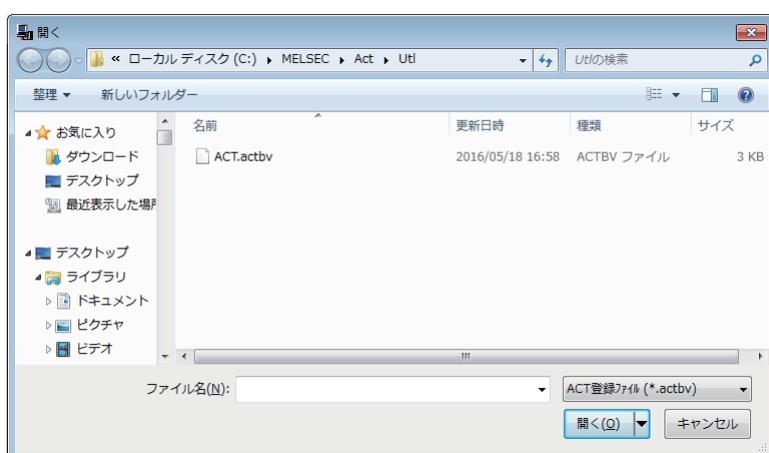
## ラベルスペースのエクスポート

ラベル管理ユーティリティで使用する情報を保存します。

### 操作手順

[メニュー]⇒[エクスポート]を選択します。

### 画面表示



### Point

エクスポートした情報には論理局番の割り付け情報は含まれていません。  
エクスポートした情報をインポートして使用する際には、論理局番の割り付けを行う必要があります。

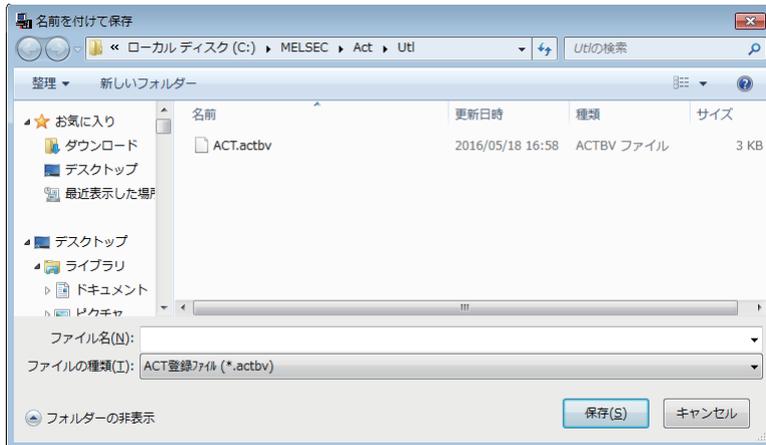
# ラベルスペースのインポート

ラベルスペースのエクスポート(132ページ ラベルスペースのエクスポート)でファイルに保存した情報をラベル管理ユーティリティに反映します。

## 操作手順

[メニュー]⇒[インポート]を選択します。

## 画面表示



# 8 ユーティリティ設定タイプの通信設定例

各通信経路に対して、ユーティリティ設定タイプでプログラミングを行う際の設定手順、および設定例について説明します。

## Point

- MX Component Version 4では、MX Component Version 3で使用するプログラムを動作させることができるようにするため、通信設定の登録や変更が行えます。
- 表中の"ユーザ任意"以外の設定については、表中の値を設定してください。
- MX Componentにおいて初めて通信を行う場合、GX Developerにて正常に通信が行えるか確認してからMX Componentで通信を行ってください。通信が行えない場合の原因を容易に発見できます。
- ユニットの設定に関する詳細な説明については、各ユニットのマニュアルを参照してください。

## 8.1 シリアルコミュニケーション通信

ユーティリティ設定タイプで、シリアルコミュニケーション通信を行う手順、および設定例について説明します。

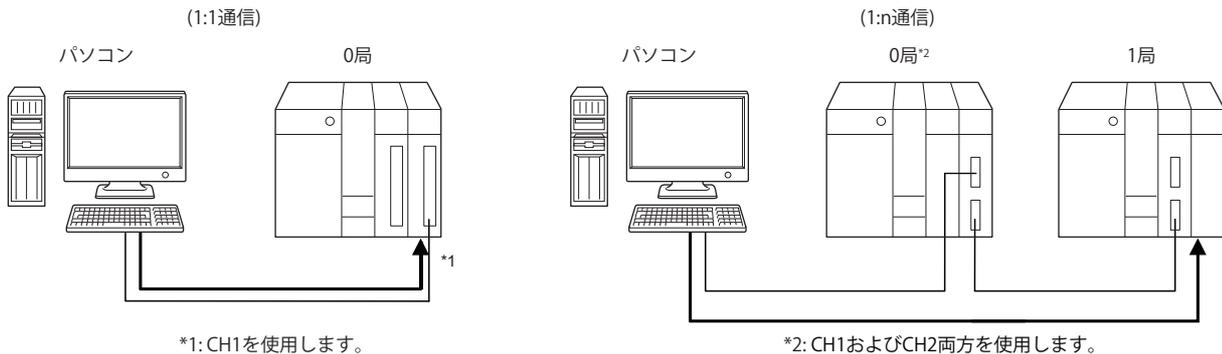
### シリアルコミュニケーションユニットの設定

MX Componentを使用する際の、シリアルコミュニケーションユニットの設定について説明します。

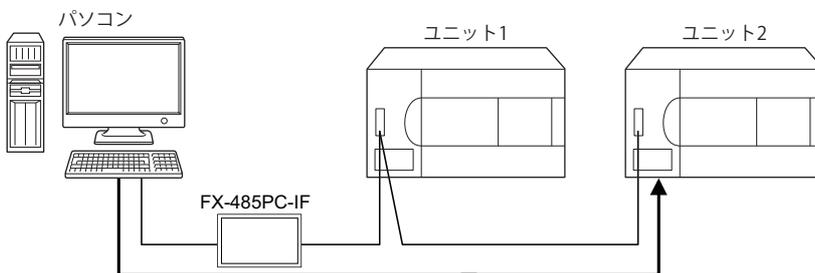
MX Component側の設定はユニット側の設定に合わせます。

各ユニットの説明は、下図を用いて行います。

<Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24使用時>



<FX拡張ポート使用時>



## Rシリーズ対応C24

詳細は、下記マニュアルを参照してください。

📖 MELSEC iQ-R シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル(応用編)

## Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24

### Point

Q/LシリーズのC24と1対1で接続する場合、Q/LシリーズのC24のスイッチ設定を行うことなく通信ができます。スイッチ設定を行わない場合は、下記のGX Developer/MELSOFT接続として動作します。

### ■1:1通信時

項目	設定内容		設定値
	b15~b8	b7~b0	
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	0000H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0000H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	0000H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000H
スイッチ5	ユニット局番		0000H

交信プロトコルを00H(GX Developer/MELSOFT接続)に設定すると、以下の設定値で動作します。

詳細は、下記マニュアルを参照してください。

📖 Q対応シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル(基本編)

📖 MELSEC-L シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル(基本編)

伝送設定	設定内容
データビット	8
パリティビット	あり
奇数/偶数パリティ	奇数
ストップビット	1
サムチェックコード	あり
RUN中書込	許可

## ■1:n通信時

### ①0局

項目	設定内容		設定値
	b15~b8	b7~b0	連動動作
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	07E6H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0008H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	07E7H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000H
スイッチ5	ユニット局番		0000H(ユーザ任意)

### ②1局

項目	設定内容		設定値
	b15~b8	b7~b0	独立動作
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	CH1の用途に合わせる
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	07E6H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0005H
スイッチ5	ユニット局番		0000H(ユーザ任意)

以下の設定値で動作します。

伝送設定	設定内容	
動作設定	0局	連動
	1局	独立
データビット	8	
パリティビット	あり	
奇数/偶数パリティ	奇数	
ストップビット	1	
サムチェックコード	あり	
RUN中書込	許可	
伝送速度設定	19200bps	

## FX拡張ポート

FX拡張ポートを使用して通信する前に、GX Works2でFXCPUのパラメータを設定します。

設定方法には、下記の2通りがあります。参照先に従って操作してください。

- PCパラメータにより設定する(☞ 137ページ PCパラメータ設定)
- シーケンスプログラムで特殊データレジスタ(D8120, D8121, D8129)に値を書き込む(FX0NCPU使用時はこの方法のみ)  
(☞ 138ページ シーケンスプログラムで特殊データレジスタに値を書き込む設定)

### ■PCパラメータ設定

#### 操作手順

1. GX Works2を起動します。
2. プロジェクト一覧の[パラメータ]⇒[PCパラメータ]をクリックします。
3. "FXパラメータ設定"画面の[PCシステム設定(2)]タブをクリックします。

4. 画面上の項目を設定します。

項目	内容
通信設定をする	チェックボックスにチェックを入れます。
プロトコル <sup>*1</sup>	通信プロトコルを設定します。
データ長 <sup>*1</sup>	7bit/8bit
パリティ <sup>*1</sup>	なし/奇数/偶数
ストップビット <sup>*1</sup>	1bit/2bit
伝送速度 <sup>*1</sup>	300bps/600bps/1200bps/2400bps/4800bps/9600bps/19200bps
H/Wタイプ <sup>*1</sup>	通信を行うケーブルの種類を設定します。
サムチェック <sup>*1</sup>	なし/あり
伝送制御手段 <sup>*1</sup>	伝送制御する形式を設定します。
局番設定 <sup>*1</sup>	局番を設定します。
タイムアウト判定時間 <sup>*1</sup>	タイムアウト時間を設定します。

\*1 "通信設定をする"がOFFのときは、設定できません。

#### Point

- 通信設定を行った場合、PC書込を行った後にFXCPUの電源を再投入してください。
- マルチドロップ接続する場合、各機器の通信設定は同じ内容にしてください。  
ただし、局番設定は重複しないように設定してください。

## ■シーケンスプログラムで特殊データレジスタに値を書き込む設定

### ①D8120(通信フォーマット)

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
D8120																

ビット	内容	設定内容
b0	データ長	0:7ビット 1:8ビット
b1	パリティ	なし: b2=0, b1=0 奇数: b2=0, b1=1 偶数: b2=1, b1=1
b2		
b3	ストップビット	0:1ビット 1:2ビット
b4	伝送速度	伝送速度を設定します。*1
b5		
b6		
b7		
b8	—	0
b9	—	0
b10	H/Wタイプ	RS-485: b11=0, b10=0
b11		
b12	—	0
b13	サムチェック	0: なし 1: あり
b14	通信プロトコル	1: シリアルコミュニケーション
b15	伝送制御手順	0: 形式1

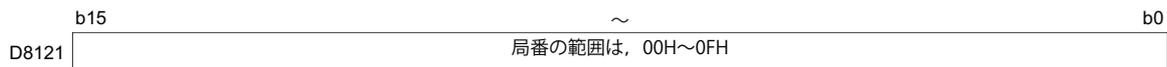
\*1 伝送速度の設定内容を以下に示します。

伝送速度	b7	b6	b5	b4
300bps	0	0	1	1
600bps	0	1	0	0
1200bps	0	1	0	1
2400bps	0	1	1	0
4800bps	0	1	1	1
9600bps	1	0	0	0
19200bps	1	0	0	1

## ②D8121(局番指定)

使用する局番号を設定します。

局番号の範囲は、00H～0FHです。



## ③D8129(タイムアウト判定時間設定)

FXCPUのタイムアウト判定時間を10ms単位で指定します。

FX0N, FX1S, FX1N, FX1NC, FX3S, FX3G, FX3GC, FX3U, FX3UCは1～255(10～2550ms), FX2N, FX2NCは1～3276(10～32760ms)となります。

0が格納されている場合は、100msとなります。

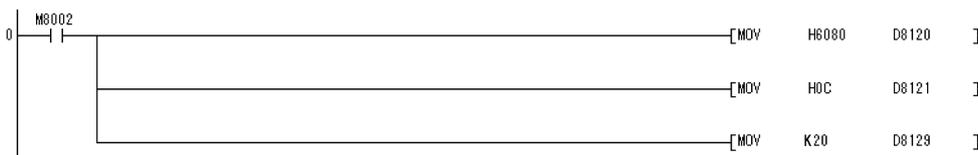


### Point

- 通信設定を行った場合、PC書込を行った後にFXCPUの電源を再投入してください。
- マルチドロップ接続する場合、各機器の通信設定は同じにしてください。  
ただし、局番設定は重複しないように設定してください。

### Point

特殊データレジスタに値を設定するシーケンスプログラムの例を下記に示します。

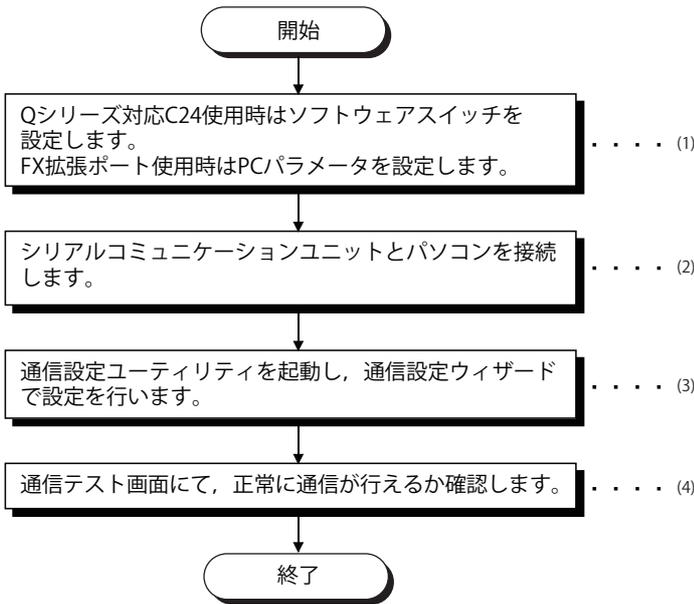


上記プログラムの各特殊データレジスタの設定内容を示します。

- D8120  
伝送制御手段: 形式1  
通信プロトコル: シリアルコミュニケーション  
サムチェック: あり  
H/Wタイプ: RS-485  
転送速度: 9600bps  
ストップビット: 1ビット  
パリティ: なし  
データ長: 7ビット
- D8121  
局番: 12
- D8129  
タイムアウト時間: 200ms

# アクセスまでの手順

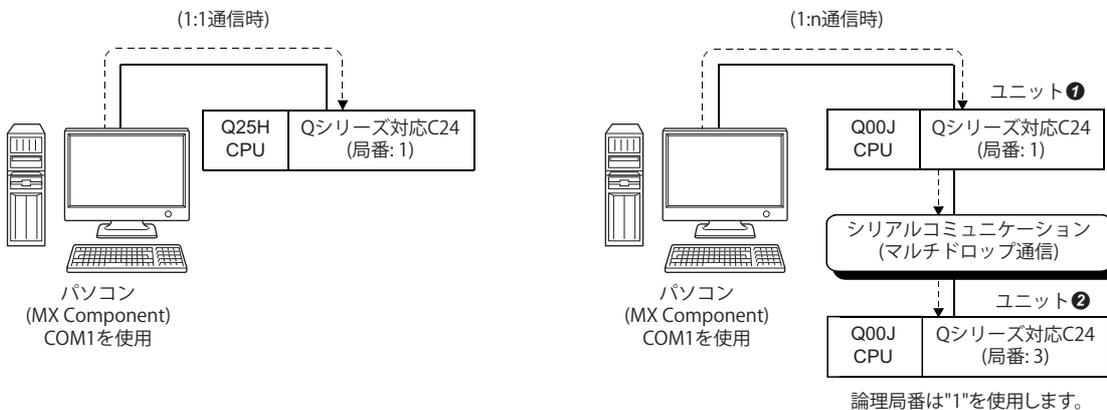
シリアルコミュニケーション通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 134ページ シリアルコミュニケーションユニットの設定
- (2) 30ページ システム構成
- (3) 141ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (4) 143ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

## システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



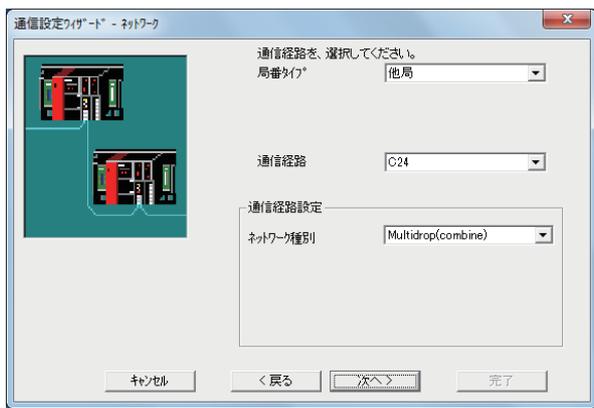
## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(140ページシステム例)を使用し、1:n通信時の論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"1"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: シリアル  
接続ポート: COM1  
タイムアウト: 10000
4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサ側I/F: C24ユニット  
ユニットタイプ: QJ71C24  
局番: 1  
伝送速度: 19200  
パリティ: Odd  
伝送制御: DTR or RTS Control



5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 局番タイプ: 他局  
 通信経路: C24  
 ネットワーク種別: Multidrop(combine)



6. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 CPUタイプ: Q00J  
 局番: 3



7. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

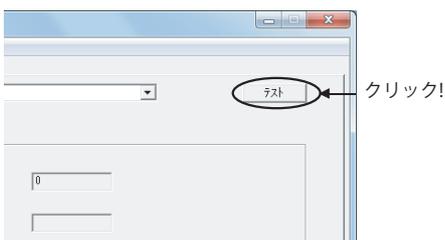
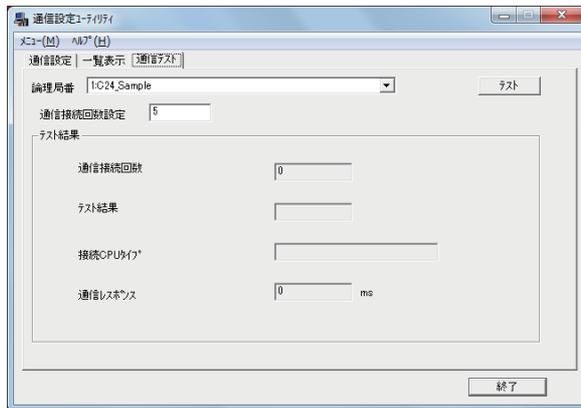
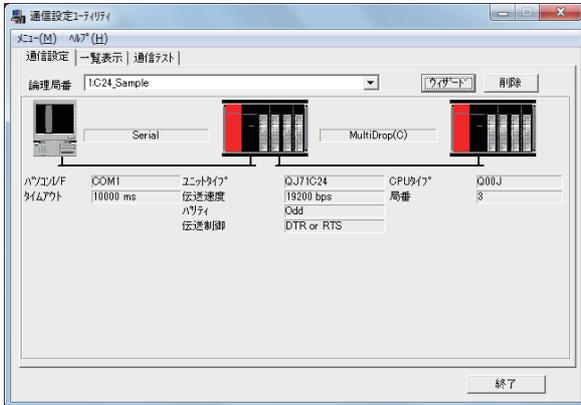


登録完了

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(141ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、シリアルコミュニケーション通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"1"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"1"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

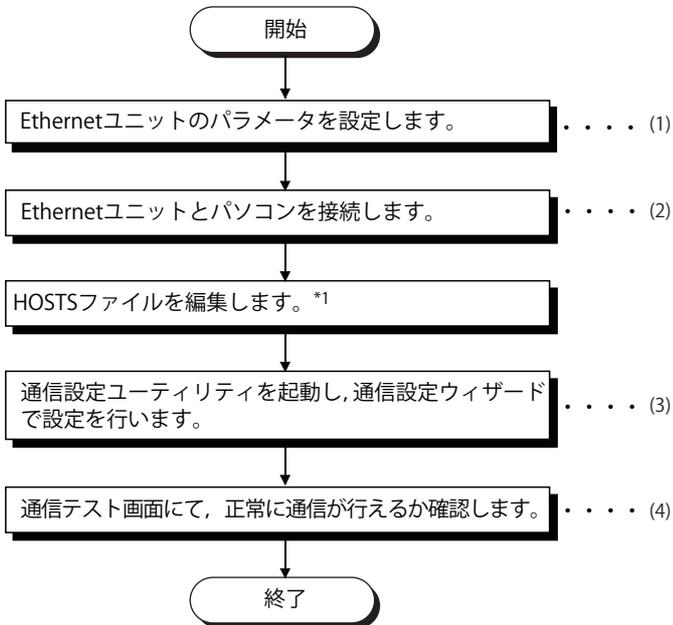
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.2 Ethernet通信(Ethernetユニット使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernetユニットを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

Ethernet通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。

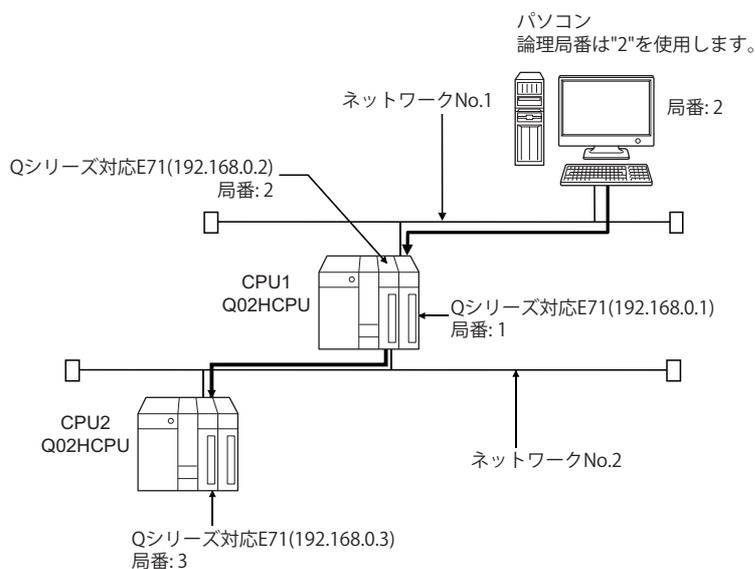


\*1 通信設定ユーティリティのホスト名(IPアドレス)およびActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

- (1) 145ページ パラメータ設定を行う、 147ページ ルーチングパラメータ設定を行う
- (2) 30ページ システム構成
- (3) 148ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (4) 150ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## パラメータ設定を行う

GX Works2のネットワークパラメータEthernet/CC IE/MELSECNET枚数設定画面にて、ネットワーク種別、先頭/ONo., ネットワークNo., 局番, モードの設定および動作設定を行います。

設定を行うCPU	設定画面例																																																
CPU 1	<p>Ethernet/パラメータ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ユニット1</th> <th>ユニット2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワーク種別</td> <td>Ethernet</td> <td>Ethernet</td> </tr> <tr> <td>先頭/ONo.</td> <td>0000</td> <td>0020</td> </tr> <tr> <td>ネットワークNo.</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>総(子)局数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グループNo.</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>局番</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>モード</td> <td>オンライン</td> <td>オンライン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>動作設定</td> <td>動作設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>イニシャル設定</td> <td>イニシャル設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オープン設定</td> <td>オープン設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ルータ中継/パラメータ</td> <td>ルータ中継/パラメータ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>局番&lt;-&gt;IP関連情報</td> <td>局番&lt;-&gt;IP関連情報</td> </tr> <tr> <td></td> <td>FTPパラメータ</td> <td>FTPパラメータ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>電子メール設定</td> <td>電子メール設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>書込み設定</td> <td>書込み設定</td> </tr> </tbody> </table> <p>動作設定</p>		ユニット1	ユニット2	ネットワーク種別	Ethernet	Ethernet	先頭/ONo.	0000	0020	ネットワークNo.	2	1	総(子)局数			グループNo.	0	0	局番	2	1	モード	オンライン	オンライン		動作設定	動作設定		イニシャル設定	イニシャル設定		オープン設定	オープン設定		ルータ中継/パラメータ	ルータ中継/パラメータ		局番<->IP関連情報	局番<->IP関連情報		FTPパラメータ	FTPパラメータ		電子メール設定	電子メール設定		書込み設定	書込み設定
	ユニット1	ユニット2																																															
ネットワーク種別	Ethernet	Ethernet																																															
先頭/ONo.	0000	0020																																															
ネットワークNo.	2	1																																															
総(子)局数																																																	
グループNo.	0	0																																															
局番	2	1																																															
モード	オンライン	オンライン																																															
	動作設定	動作設定																																															
	イニシャル設定	イニシャル設定																																															
	オープン設定	オープン設定																																															
	ルータ中継/パラメータ	ルータ中継/パラメータ																																															
	局番<->IP関連情報	局番<->IP関連情報																																															
	FTPパラメータ	FTPパラメータ																																															
	電子メール設定	電子メール設定																																															
	書込み設定	書込み設定																																															
CPU 2	<p>Ethernet/パラメータ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ユニット1</th> <th>ユニット2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワーク種別</td> <td>Ethernet</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>先頭/ONo.</td> <td>0000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ネットワークNo.</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総(子)局数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グループNo.</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>局番</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>モード</td> <td>オンライン</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>動作設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>イニシャル設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>オープン設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ルータ中継/パラメータ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>局番&lt;-&gt;IP関連情報</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>FTPパラメータ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>電子メール設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>書込み設定</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>動作設定</p>		ユニット1	ユニット2	ネットワーク種別	Ethernet	なし	先頭/ONo.	0000		ネットワークNo.	2		総(子)局数			グループNo.	0		局番	3		モード	オンライン			動作設定			イニシャル設定			オープン設定			ルータ中継/パラメータ			局番<->IP関連情報			FTPパラメータ			電子メール設定			書込み設定	
	ユニット1	ユニット2																																															
ネットワーク種別	Ethernet	なし																																															
先頭/ONo.	0000																																																
ネットワークNo.	2																																																
総(子)局数																																																	
グループNo.	0																																																
局番	3																																																
モード	オンライン																																																
	動作設定																																																
	イニシャル設定																																																
	オープン設定																																																
	ルータ中継/パラメータ																																																
	局番<->IP関連情報																																																
	FTPパラメータ																																																
	電子メール設定																																																
	書込み設定																																																

**Point** 

---

RCPUの場合、GX Works3でパラメータ設定を行います。  
パラメータ設定の詳細は、下記のマニュアルを参照してください。  
 MELSEC iQ-R Ethernetユーザズマニュアル(応用編)

---

## ルーティングパラメータ設定を行う

GX Works2のネットワークパラメータEthernet/CC IE/MELSECNETルーティング情報設定画面にて、下記の設定を行います。ルーティングパラメータについては、下記を参照してください。

☞ 381ページ ルーティングパラメータの考え方

設定を行うCPU	設定画面例																
CPU 1	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>転送先 ネットワークNo.</th><th>中継先 ネットワークNo.</th><th>中継先 局No.</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>		転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.	1	1	2	2	2	2	1	1	3			
	転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.														
1	1	2	2														
2	2	1	1														
3																	
CPU 2	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>転送先 ネットワークNo.</th><th>中継先 ネットワークNo.</th><th>中継先 局No.</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>		転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.	1	1	2	2	2				3			
	転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.														
1	1	2	2														
2																	
3																	

### Point

RCPUの場合、GX Works3でルーティングパラメータ設定を行います。  
ルーティングパラメータ設定の詳細は、下記のマニュアルを参照してください。  
📖 MELSEC iQ-R Ethernetユーザズマニュアル(応用編)

## 交信確認を行う

Ethernet通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで交信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

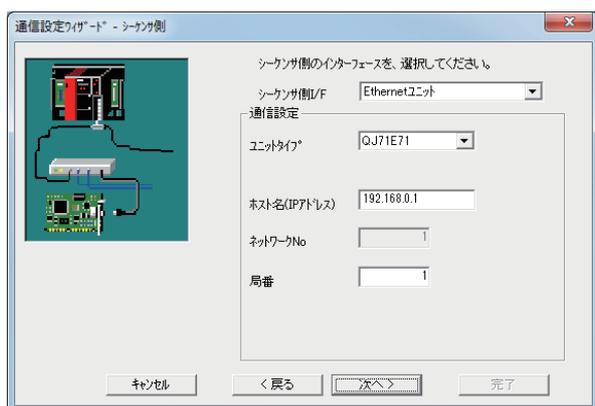
- 正常時の場合  
C:¥>ping 192.168.0.2  
Reply from 192.168.0.2:bytes=32 time<10ms TTL=32
- 異常時の場合  
C:¥>ping 192.168.0.2  
Request timed out.

pingが通らない場合は、ケーブルおよびユニットの接続や、Windows側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(144ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



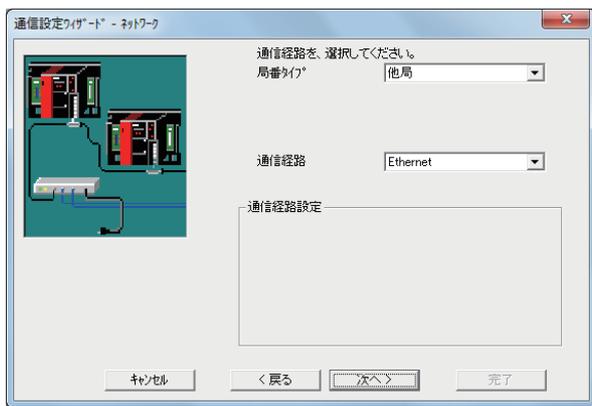
1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"2"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

パソコン側/IF: Ethernetボード  
接続先ユニットタイプ: QJ71E71  
プロトコル: TCP  
ネットワークNo.: 1  
局番: 2  
タイムアウト: 60000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

シーケンサ側/IF: Ethernetユニット  
ユニットタイプ: QJ71E71  
ホスト名(IPアドレス): 192.168.0.1  
局番: 1



登録完了

5. 下記のように設定を行い, [次へ]ボタンをクリックします。  
局番タイプ: 他局  
通信経路: Ethernet

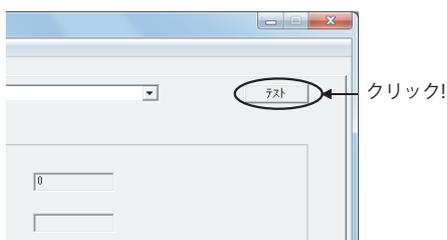
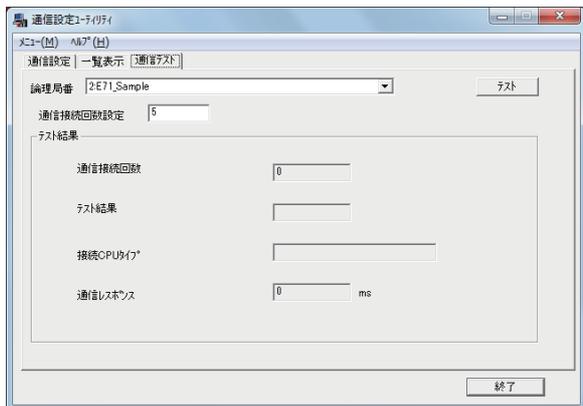
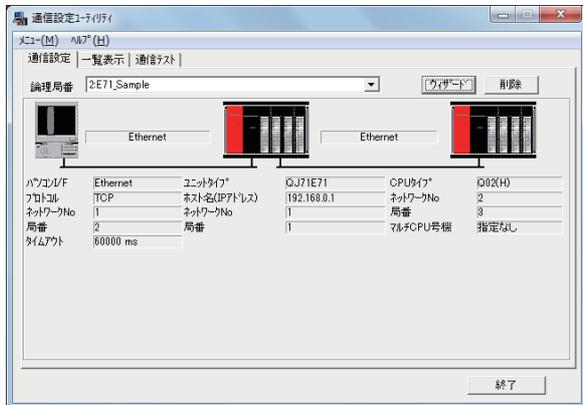
6. 下記のように設定を行い, [次へ]ボタンをクリックします。  
CPUタイプ: Q02(H)  
ネットワークNo.: 2  
局番: 3  
マルチCPU号機: 指定なし

7. コメントを入力し, [完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(148ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、Ethernet通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"2"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"2"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

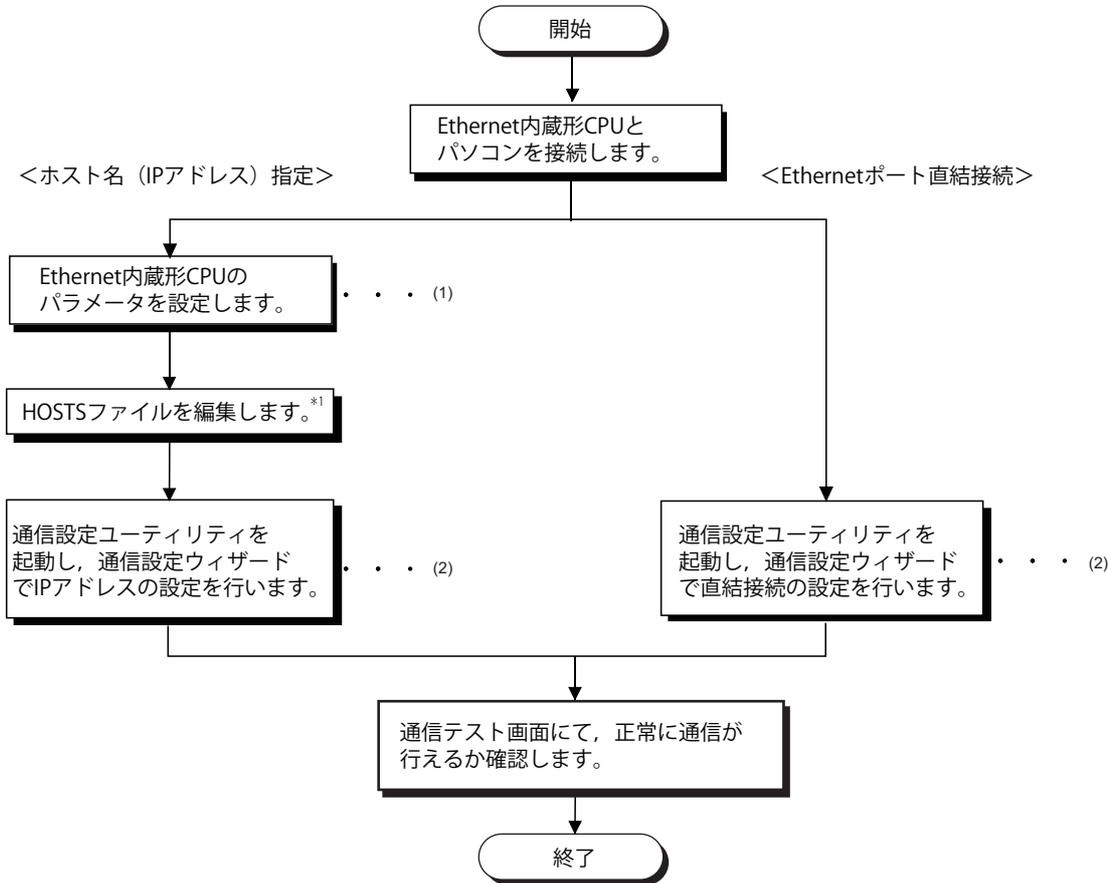
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.3 Ethernet通信(Ethernet内蔵形CPU使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernet内蔵形CPUを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

Ethernet通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。

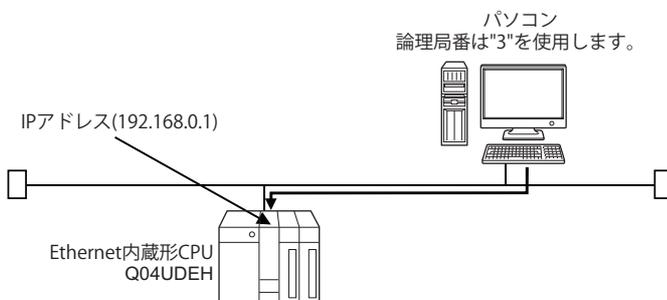


\*1 通信設定ユーティリティのホスト名(IPアドレス)およびActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

- (1) 152ページ パラメータ設定を行う(ホスト名(IPアドレス)指定の場合のみ)
- (2) 153ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## パラメータ設定を行う(ホスト名(IPアドレス)指定の場合のみ)

GX Works2のPCパラメータから行います。

PCパラメータの[内蔵Ethernetポート設定]タブをクリックし、IPアドレスなどの通信設定を行います。

Qパラメータ設定

PCネーム設定 | PCシステム設定 | PCファイル設定 | PC RAS設定 | ブートファイル設定 | プログラム設定 | SFC設定 | デバイス設定

I/O割付設定 | マルチCPU設定 | 内蔵Ethernetポート設定

IPアドレス設定

入力形式 10桁

IPアドレス 192 168 0 1

サブネットマスク 255 255 255 0

デフォルトルータIPアドレス 192 168 0 254

オープン設定

FTP設定

時刻設定

通信データコード設定

バイナリコード通信

ASCIIコード通信

RUN中書き込みを許可する(FTPとMCプロトコル)

MELSOFTとの直結接続を禁止する

ネットワーク上のEthernet内蔵形CPU検索に応答しない

IPパケット中継設定

IPパケット中継設定

必要に応じ設定( デフォルト / 変更あり )

表示画面印刷... 表示画面プレビュー X/Y割付確認 デフォルト チェック 設定終了 キャンセル

### Point

RCPUおよびLHCPUの場合、GX Works3でパラメータ設定を行います。

パラメータ設定の詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MELSEC iQ-R Ethernetユーザーズマニュアル(応用編)

## 通信確認を行う

Ethernet通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで通信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

- 正常時の場合  
C:¥>ping 192.168.0.1  
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=1ms TTL=64
- 異常時の場合  
C:¥>ping 192.168.0.1  
Request timed out.

pingが通らない場合は、ケーブルおよびユニットの接続や、Windows側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(151ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



手順3.または手順5.へ

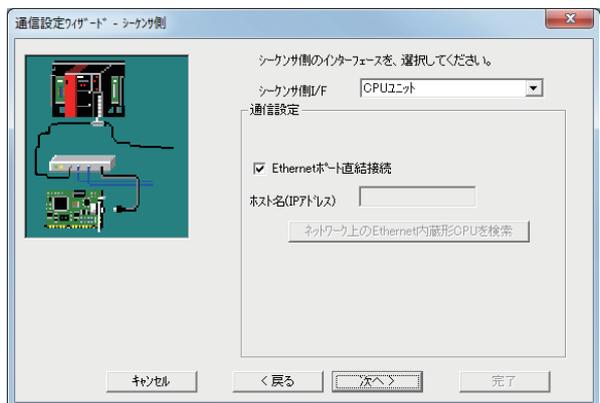


手順7.へ

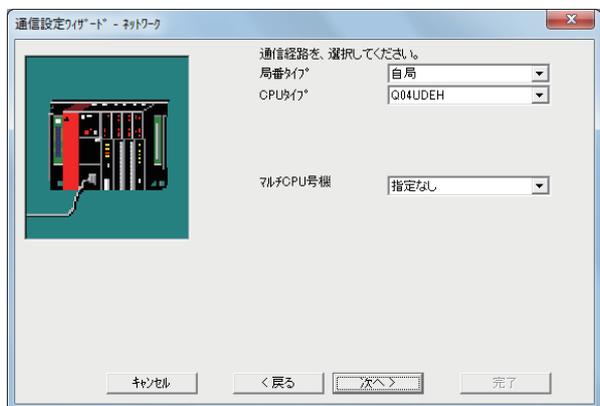
1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"3"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサとの接続には、下記の2通りの手順があります。  
ホスト名(IPアドレス)指定の場合: 手順3. 4.へ  
Ethernetポート直結接続の場合: 手順5. 6.へ
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: Ethernetボード  
接続先ユニットタイプ: CPUユニット  
プロトコル: TCP  
タイムアウト: 60000
4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサ側I/F: CPUユニット  
ホスト名(IPアドレス): 192.168.0.1



5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: Ethernetボード  
接続先ユニットタイプ: CPUユニット  
プロトコル: UDP  
タイムアウト: 60000



6. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
"Ethernetポート直結接続"のチェックボックスにチェックを入れます。



7. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
局番タイプ: 自局  
CPUタイプ: Q04UDEH  
マルチCPU号機: 指定なし





登録完了

Ethernet内蔵形CPU検索を使用する場合、[ネットワーク上のEthernet内蔵形CPUを検索]ボタンをクリックして表示される下記の画面で行ってください。

検索対象は、同一ネットワーク上のEthernet内蔵形CPUです。



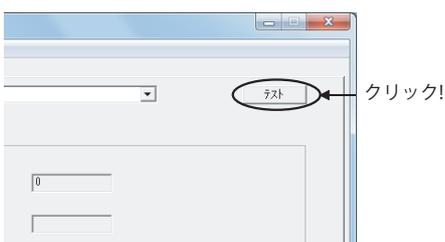
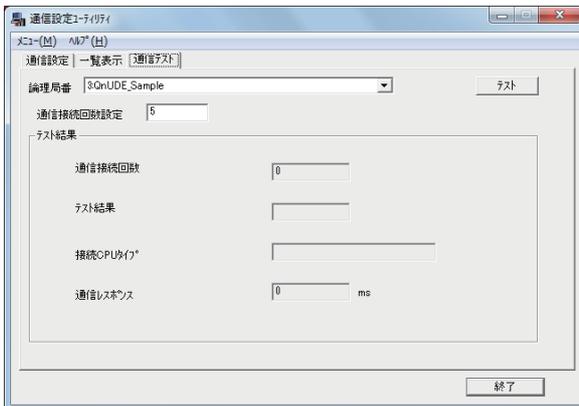
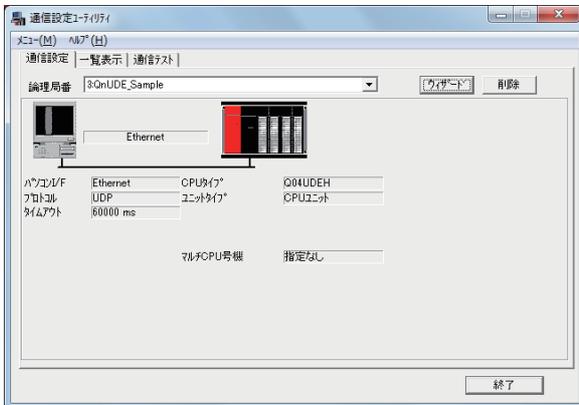
8. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

表示一覧の中から対象のCPUを選択し、[OK]ボタンをクリックすることで、「通信設定ウィザード - シーケンサ側」設定にIPアドレスを反映させることができます。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(153ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、Ethernet通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"3"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"3"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

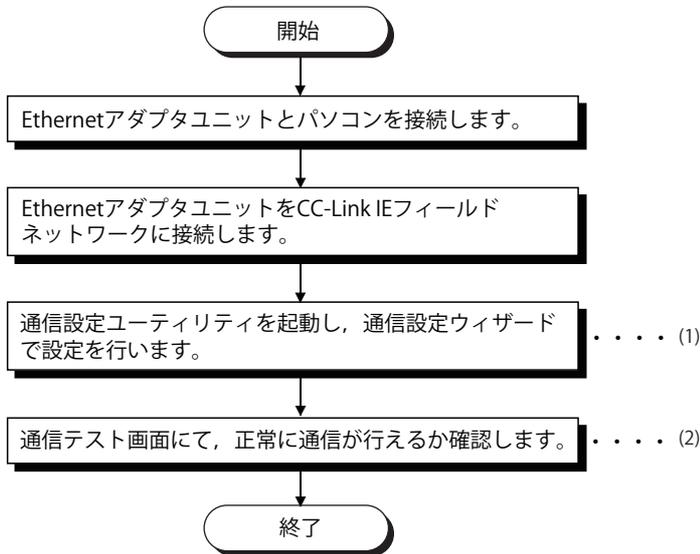
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.4 Ethernet通信(Ethernetアダプタユニット使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernetアダプタユニットを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

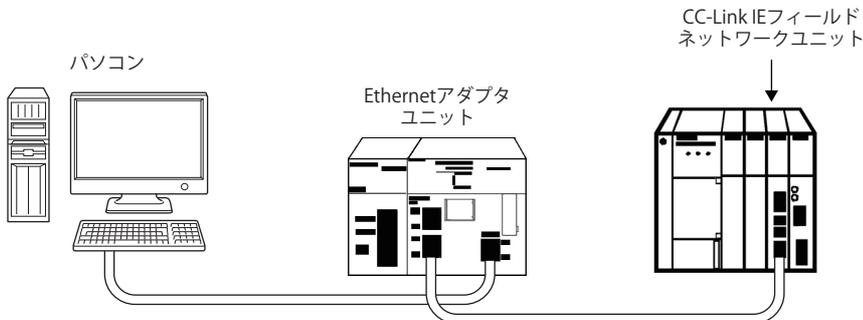
Ethernet通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 158ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (2) 160ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(157ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"4"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

パソコン側I/F: Ethernetボード

接続先ユニットタイプ: CC IE Field Ethernetアダプタ

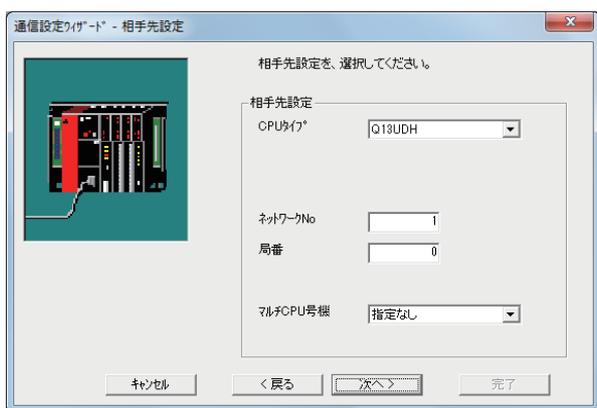
プロトコル: TCP

タイムアウト: 60000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

シーケンサ側I/F: CC IE Field Ethernetアダプタ

ホスト名(IPアドレス): 192.168.3.30



登録完了

5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
局番タイプ: 他局(単一ネットワーク)

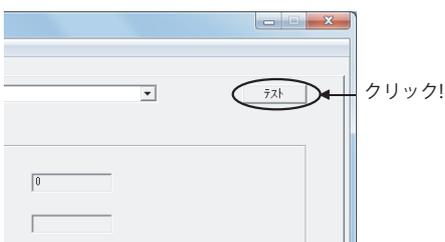
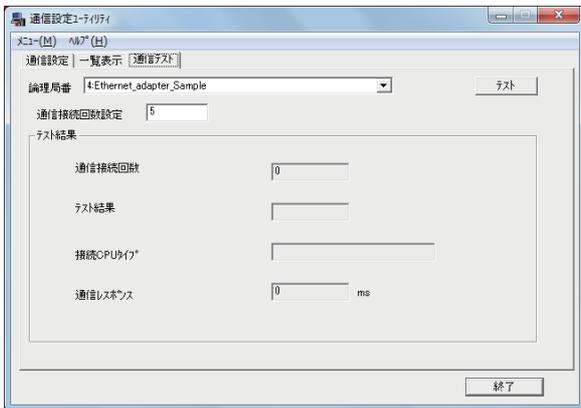
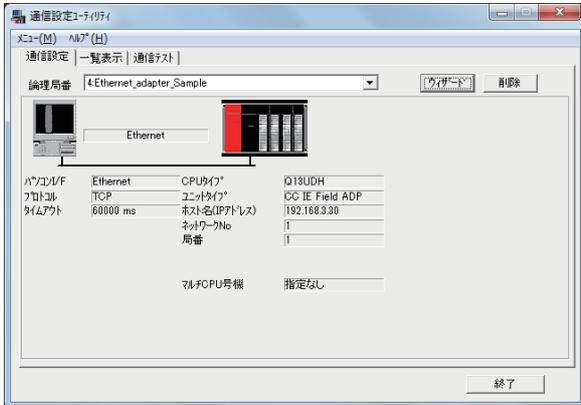
6. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
CPUタイプ: Q13UDH  
ネットワークNo.: 1  
局番: 0  
マルチCPU号機: 指定なし

7. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(158ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、Ethernet通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"4"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"4"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

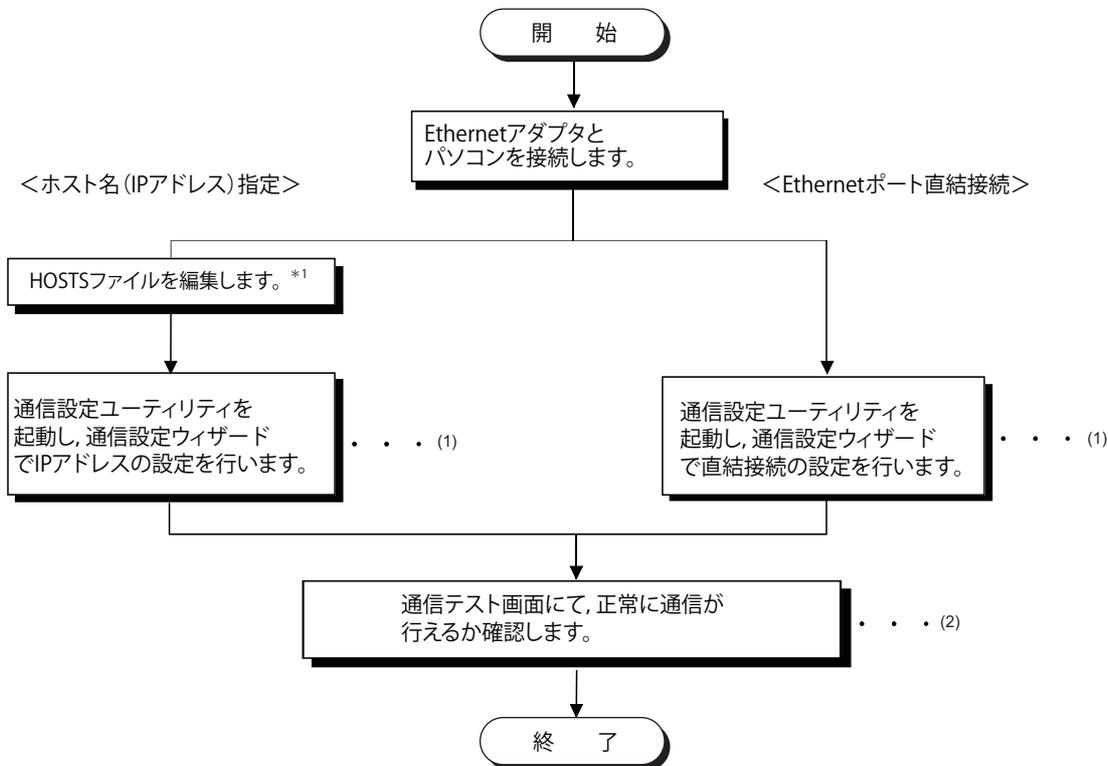
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

# 8.5 Ethernet通信(Ethernetアダプタ使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernetアダプタを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。

## アクセスまでの手順

Ethernet通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。

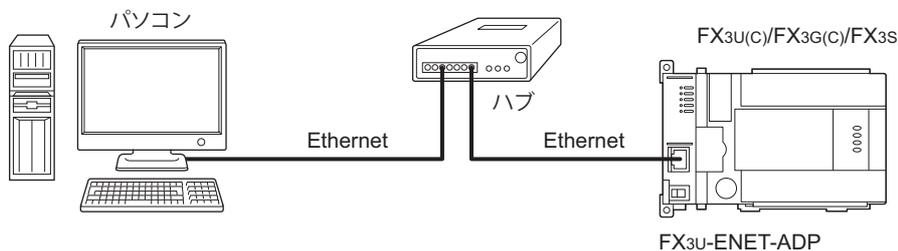


\*1 通信設定ユーティリティのホスト名(IPアドレス)およびActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

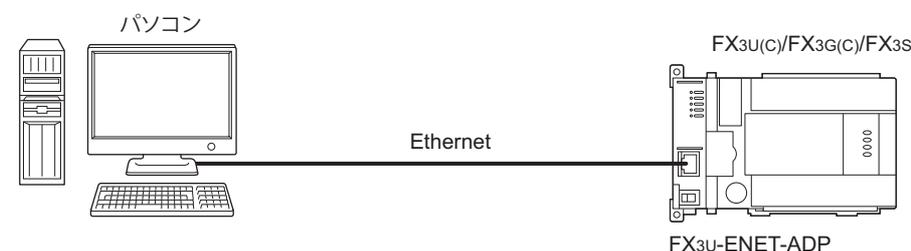
- (1) 162ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (2) 165ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

#### ■IP指定通信時のシステム例



#### ■直結通信時のシステム例



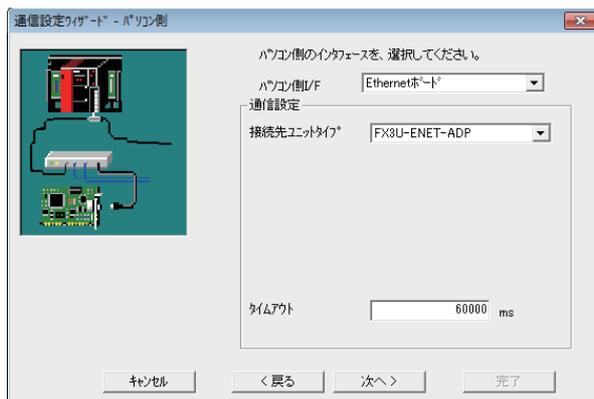
## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(161ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



手順3.または手順5.へ

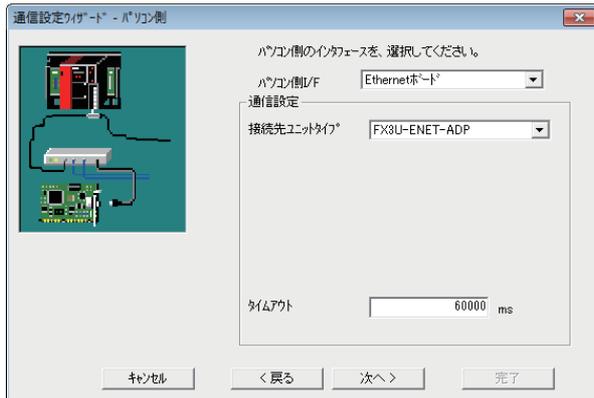


手順7.へ

1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"18"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサとの接続には、下記の2通りの手順があります。  
ホスト名(IPアドレス)指定の場合: 手順3. 4.へ  
Ethernetポート直結接続の場合: 手順5. 6.へ

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: Ethernetボード  
接続先ユニットタイプ: FX3U-ENET-ADP  
タイムアウト: 60000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサ側I/F: FX3U-ENET-ADP  
ホスト名(IPアドレス): 192.168.0.101



5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: Ethernetボード  
接続先ユニットタイプ: FX3U-ENET-ADP  
タイムアウト: 60000



6. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
"Ethernetポート直結接続"のチェックボックスにチェックを入れます。



7. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
局番タイプ: 自局  
CPUタイプ: FX3U(C)

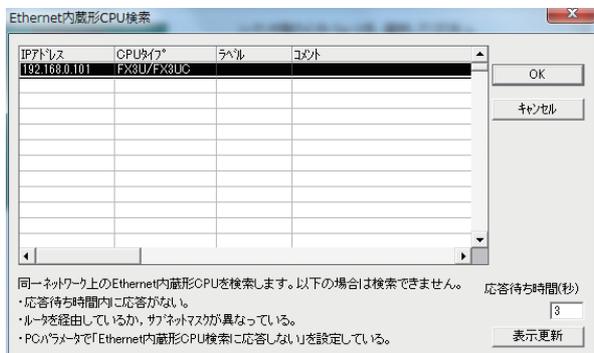




登録完了

Ethernet内蔵形CPU検索を使用する場合、[ネットワーク上のEthernet内蔵形CPUを検索]ボタンをクリックして表示される下記の画面で行ってください。

検索対象は、同一ネットワーク上のFX3U(C)/FX3G(C)/FX3SCPUです。



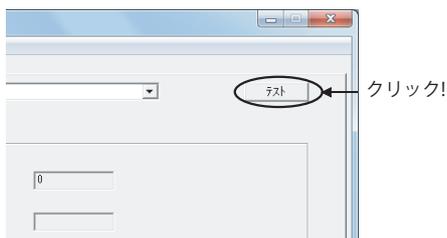
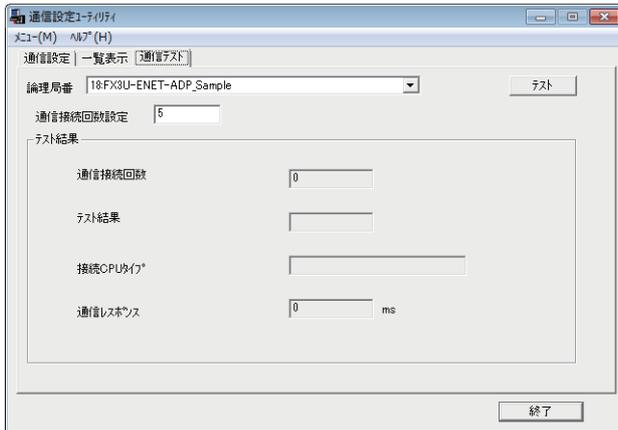
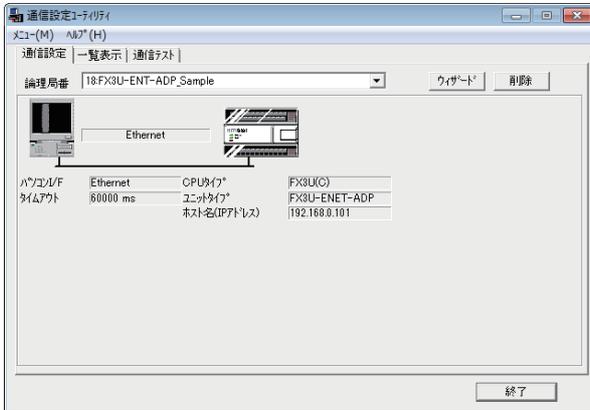
8. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

表示一覧の中から対象のCPUを選択し、[OK]ボタンをクリックすることで、「通信設定ウィザード - シーケンサ側」設定にIPアドレスを反映させることができます。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(162ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、Ethernet通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"18"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"18"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。

ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。

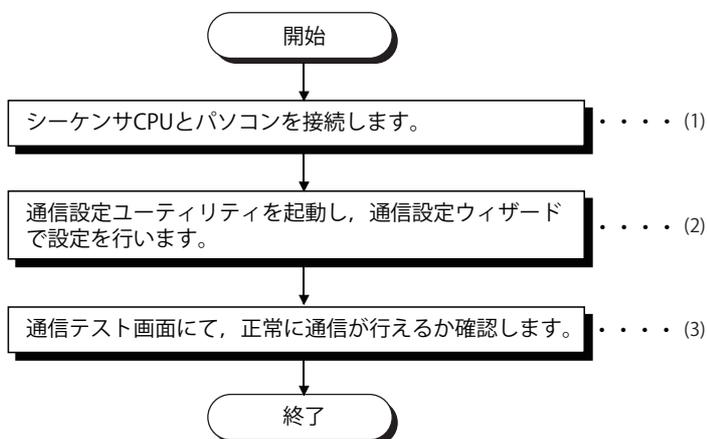
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.6 CPU COM通信

ユーティリティ設定タイプで、CPU COM通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

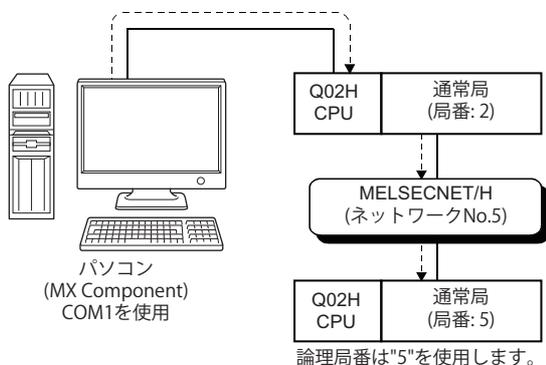
CPU COM通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 167ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 169ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(166ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"5"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

パソコン側I/F: シリアル  
接続ポート: COM1  
タイムアウト: 10000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

シーケンサ側I/F: CPUユニット  
CPUタイプ: Q02(H)  
伝送速度: 19200  
伝送制御: DTR or RTS Control



5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 局番タイプ: 他局  
 通信経路: MELSECNET/10(H)  
 モード: MELSECNET/H



6. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 CPUタイプ: Q02(H)  
 ネットワークNo.: 5  
 局番: 5  
 マルチCPU号機: 指定なし



7. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

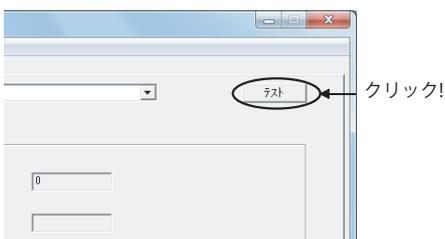
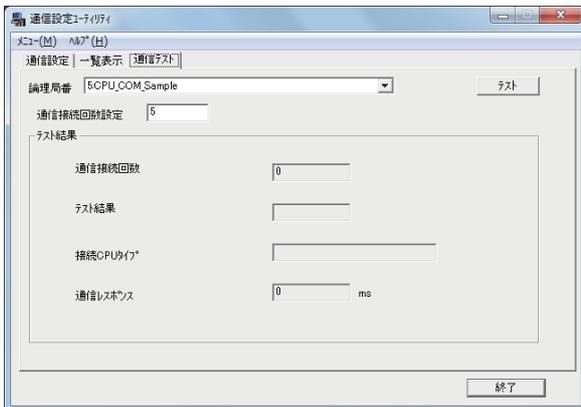
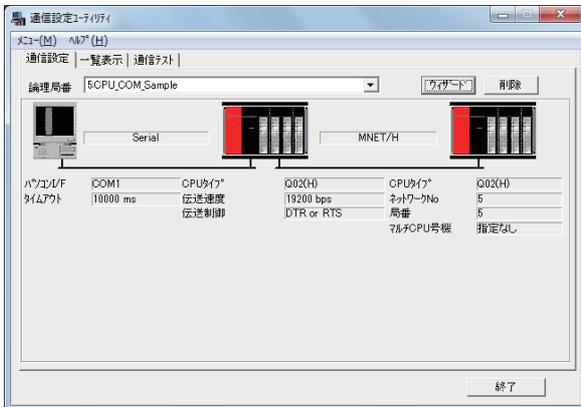


登録完了

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(167ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、CPU COM通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"5"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"5"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

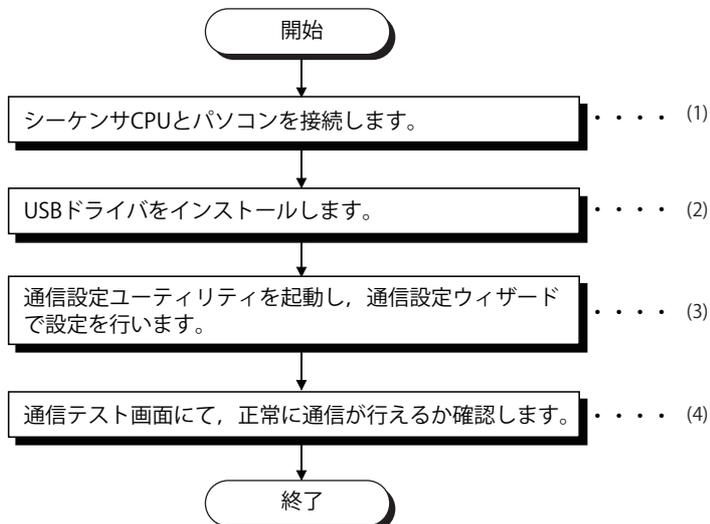
IMX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.7 CPU USB通信

ユーティリティ設定タイプで、CPU USB通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

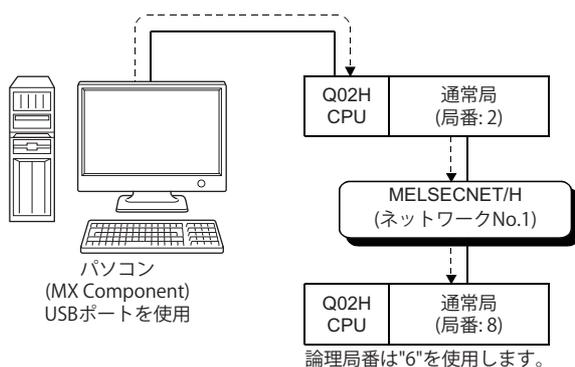
CPU USB通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 421ページ USBドライバのインストール
- (3) 171ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (4) 173ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

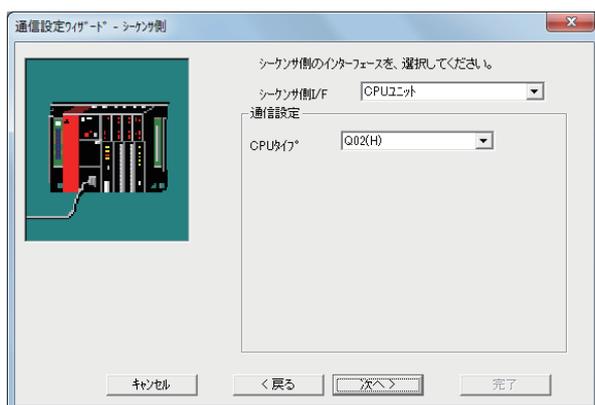
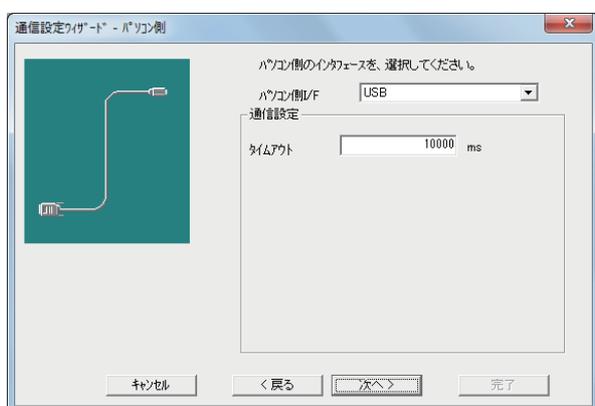
本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(170ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします
2. 論理局番に"6"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: USB  
タイムアウト: 10000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサ側I/F: CPUユニット  
CPUタイプ: Q02(H)



5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 局番タイプ: 他局  
 通信経路: MELSECNET/10(H)  
 モード: MELSECNET/H



6. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 CPUタイプ: Q02(H)  
 ネットワークNo.: 1  
 局番: 8  
 マルチCPU号機: 指定なし



7. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

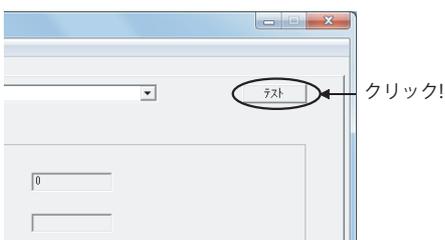
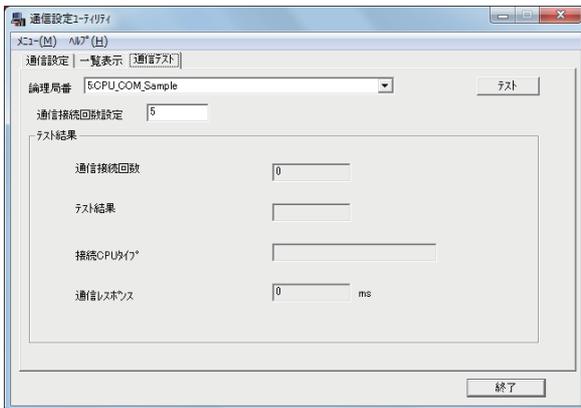
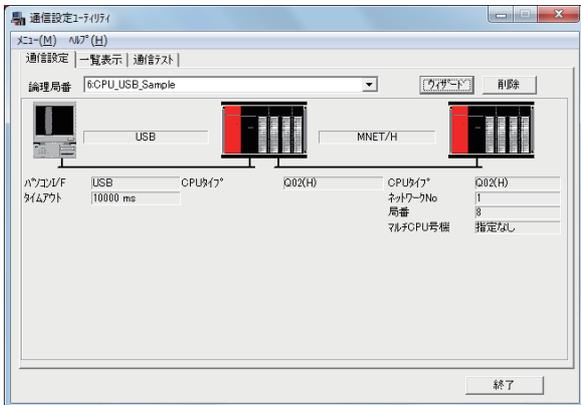


登録完了

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(171ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、CPU USB通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"6"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"6"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

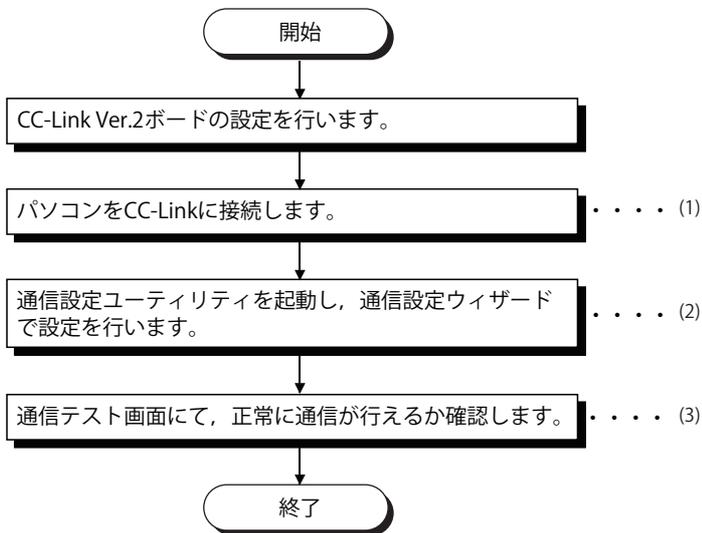
IMX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.8 CC-Link通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

CC-Link通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



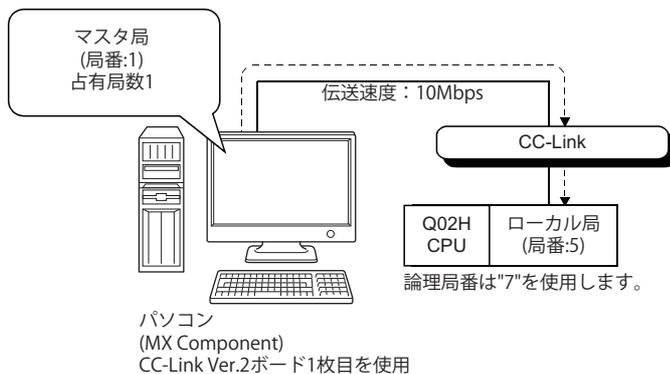
(1) 30ページ システム構成, 175ページ CC-Link Ver.2ボードの確認

(2) 176ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

(3) 178ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



・FXCPUのCC-Link接続は、QCPUのシリアル・USB経由、またはQシリーズ対応C24経由のみアクセス可能です。FXCPUのCC-Link接続においてサポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

CC-Linkユニット	対応CPU	局番
FX3U-64CCL	FX3G, FX3GC, FX3U, FX3UC	1~63

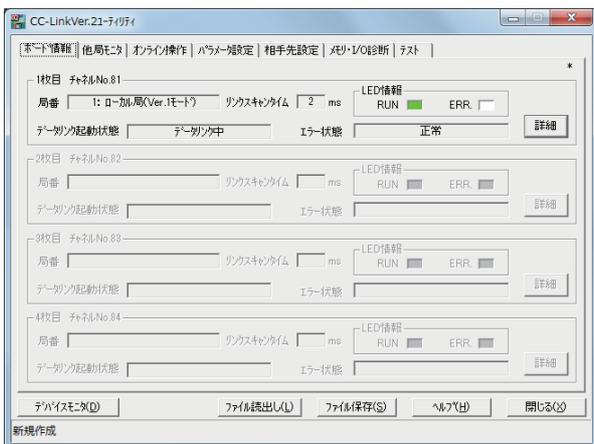
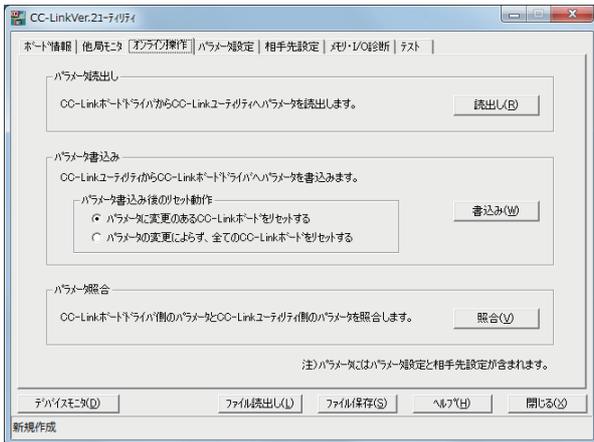
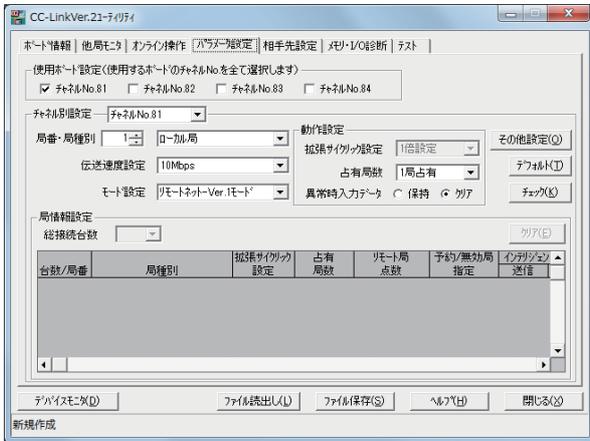
RCPUのパソコンボード経由のCC-Link接続において、サポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

CC-Linkユニット	対応CPU	局番
RJ61BT11	RCPU	0~64

## CC-Link Ver.2ボードの確認

パソコンがCC-Linkに正しく接続されているか確認します。

### 操作手順



確認完了

1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSEC]⇒[MELSEC CC-Link Ver.2 Utility]を選択します。
2. [パラメータ設定]タブをクリックし、下記のように設定を行います。  
チャンネル別設定: チャンネルNo.81  
局番: 1  
局種別: ローカル局  
伝送速度設定: 10Mbps  
モード設定: リモートネット-Ver.1モード  
占有局数: 1局占有  
異常時入力データ: クリア

3. [オンライン操作]タブをクリックし、[書込み]ボタンをクリックします。

4. [ボード情報]タブをクリックします。  
自局の回線が正常であることを確認してください。

5. [閉じる]ボタンをクリックし、CC-Linkユーティリティを終了します。

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(174ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"7"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: CC-Linkボード  
ボード番号: 1st unit
4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
局番タイプ: 他局(単一ネットワーク)



登録完了

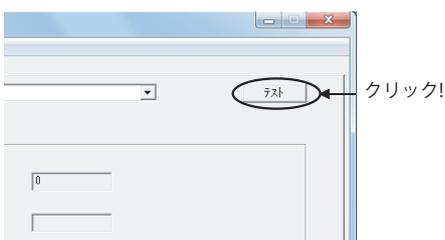
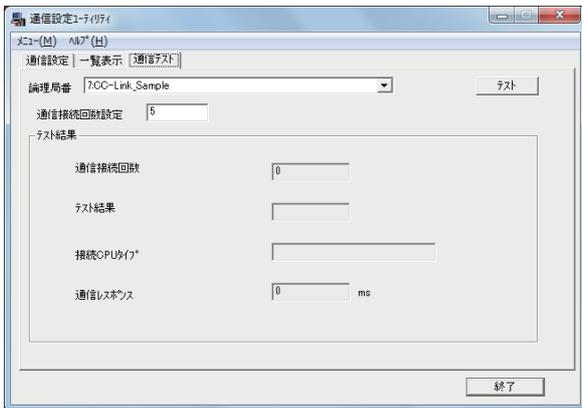
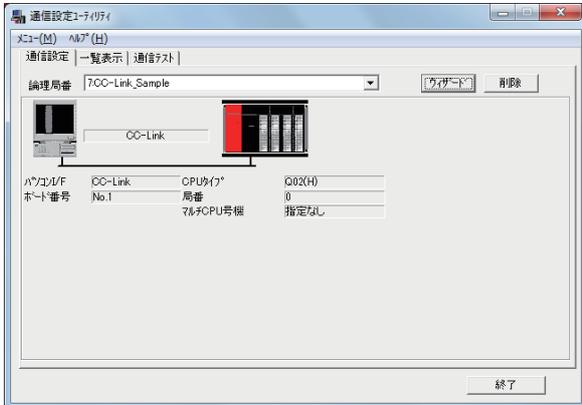
5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
CPUタイプ: Q02(H)  
局番: 5  
マルチCPU号機: 指定なし

6. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(176ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、CC-Link通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"7"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"7"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.9 CC-Link G4通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link G4通信を行う手順、および設定例について説明します。

### CC-Link G4ユニットのスイッチ設定

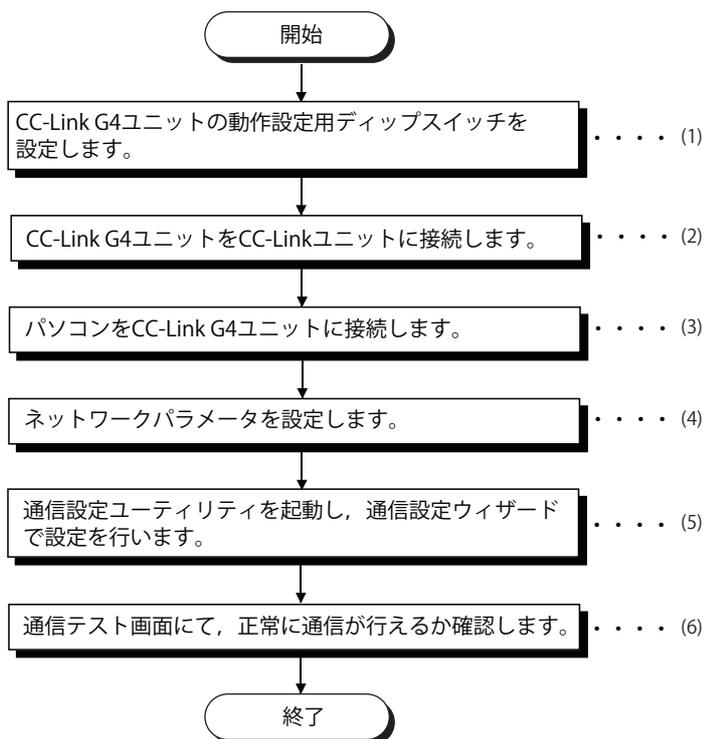
MX Componentを使用する際のCC-Link G4ユニットのスイッチ設定について、下記のシステム構成で説明します。  
MX Component側の設定はユニット側の設定に合わせてます。



スイッチ(スイッチ番号)		設定内容
		Qモード
局番設定スイッチ		1(ローカル局)
データリンク伝送速度設定スイッチ		4(10Mbps) (CC-Linkユニットの伝送速度を合わせる)
動作設定用ディップスイッチ	動作モード設定(SW1, SW6)	SW1: OFF SW6: ON
	周辺機器間伝送速度設定(SW2, SW3)	設定不要(自動設定)
	パリティビットの有無設定(SW4, SW5)	あり, 奇数 SW4: OFF SW5: OFF
	—(SW7)	OFF
	テストモード設定 (SW8)	OFF(オンラインモード)

## アクセスまでの手順

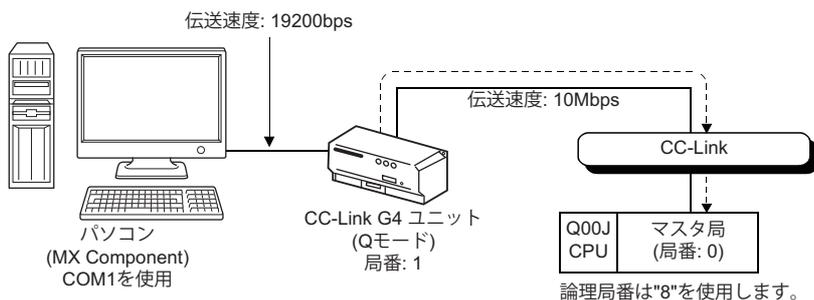
CC-Link G4通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 179ページ CC-Link G4ユニットのスイッチ設定
- (2) 181ページ CC-Link G4ユニットの配線を行う
- (3) 30ページ システム構成
- (4) 181ページ ネットワークパラメータの設定を行う
- (5) 183ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (6) 185ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

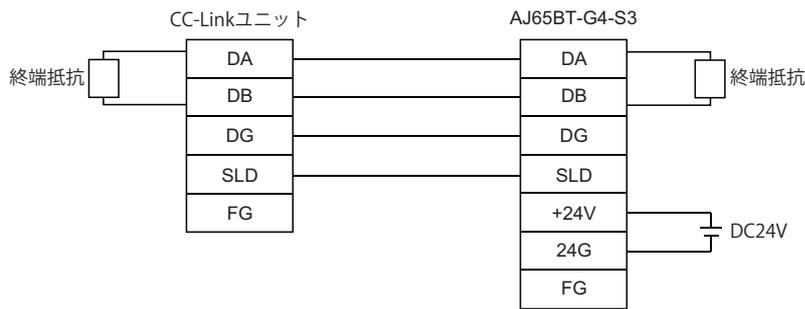
## システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## CC-Link G4ユニットの配線を行う

CC-Link G4ユニットのCC-Linkユニットへの配線図を下記に示します。



## ネットワークパラメータの設定を行う

パラメータ設定は、GX Works2のネットワークパラメータCC-Link一覧設定画面から行う方法と、シーケンスプログラムから行う方法の2種類があります。

### ■CC-Link設定画面でパラメータ設定を行う場合

先頭I/O No., 種別, 総接続台数および局情報を設定してください。

他の設定項目は、必要に応じて設定してください。

<CC-Linkパラメータ設定画面>

ユニット枚数	1	枚	ブランク: 設定なし	<input type="checkbox"/> 局情報をCC-Link構成ウィンドウで設定する
先頭I/O No.	1	2	0000	
動作設定	動作設定			
種別	マスタ局			
データリンク種別	マスタ局CPUパラメータ自動起動			
モード設定	リモートネット-Ver.1モード			
総接続台数	1			
リモート入力(RX)				
リモート出力(RY)				
リモートレジスタ(RWr)				
リモートレジスタ(RWw)				
Ver.2リモート入力(RX)				
Ver.2リモート出力(RY)				
Ver.2リモートレジスタ(RWr)				
Ver.2リモートレジスタ(RWw)				
特殊リレー(SB)				
特殊レジスタ(SW)				
リトライ回数	3			
自動復列台数	1			
待機マスタ局番号				
CPUダウン指定	停止			
スキャンモード指定	非同期			
デレイ時間設定	0			
局情報設定	局情報			
リモートデバイス局インisial設定	インisial設定			

<局情報設定画面>

台数/局番	局種別	拡張サイクル	占有局数	リモート局点数	予約/無効局指定	インテリジェント用バッファ指定(ワード)		
		設定				送信	受信	自動
1/1	インテリジェントデバイス局	1倍設定	1局占有	32点	設定なし	64	64	128

局種別のインテリジェントデバイス局は、ローカル局および待機マスタ局を含みます。

デフォルト    チェック    設定終了    キャンセル

CC-Linkパラメータ設定後、シーケンスCPUにパラメータを書き込んでください。

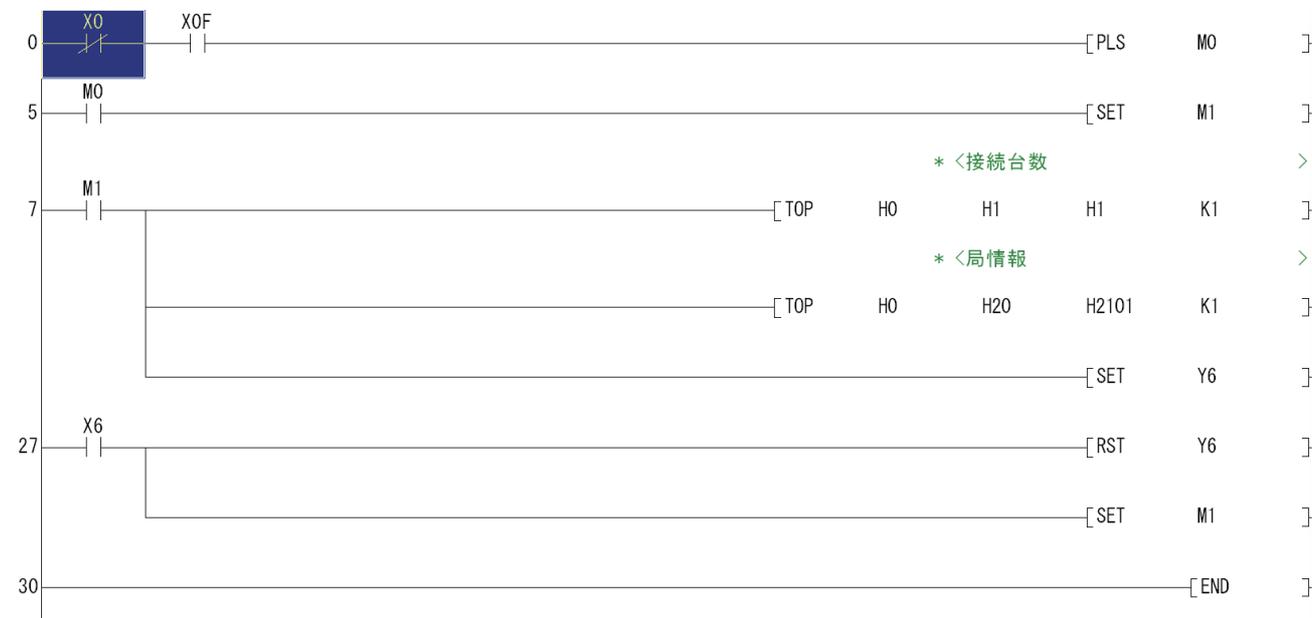
## ■シーケンスプログラムでパラメータ設定を行う場合

データリンクを行うためのパラメータ設定項目と、シーケンスプログラム例を下記に示します。

<パラメータ設定項目>

アドレス	項目	内容	設定値
1H	接続台数	接続されているリモート局/ローカル局のユニット台数を設定します。	1H
20H	局情報	AJ65BT-G4-S3	2101H

<シーケンスプログラム>



### Point

本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記のフォルダにインストールされます。

[ユーザ指定フォルダ]-[Act]-[Samples]-[GppW]-[CCG4A]

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(180ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"8"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: シリアル  
接続ポート: COM1  
タイムアウト: 10000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサ側I/F: G4ユニット  
モード: Q  
伝送速度: 19200  
伝送制御: DTR or RTS Control



登録完了

5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

局番タイプ: 自局

CPUタイプ: Q00J

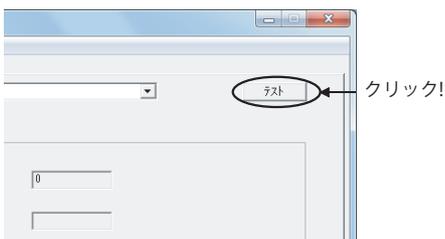
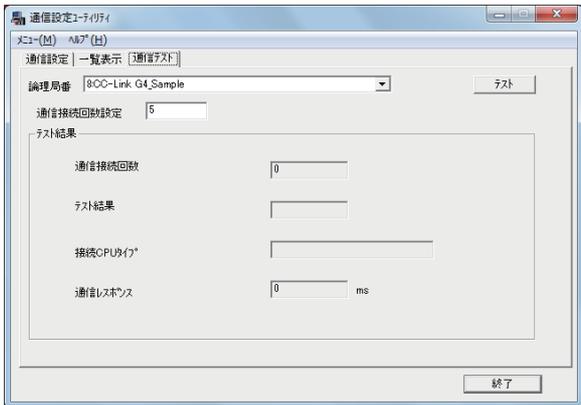
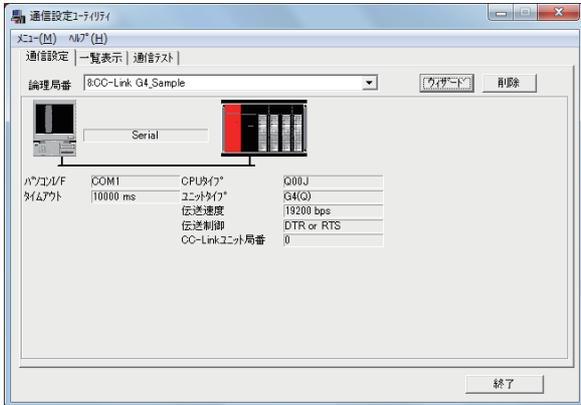
CC-Linkユニット局番: 0

6. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(183ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、CC-Link G4通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"8"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"8"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

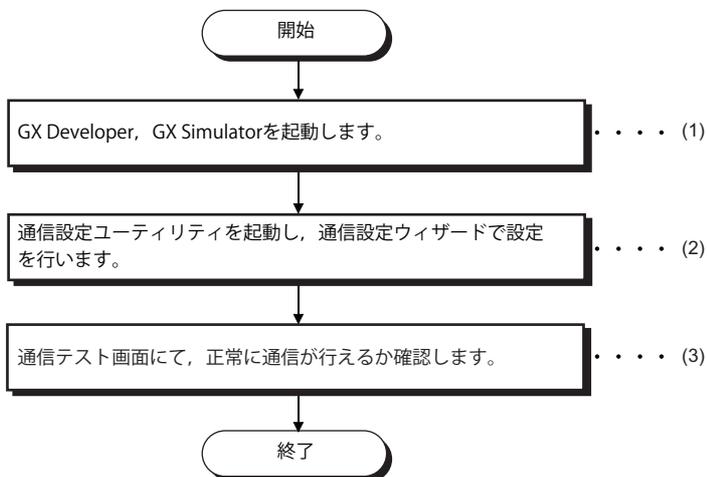
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.10 GX Simulator通信

ユーティリティ設定タイプで、GX Simulator通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

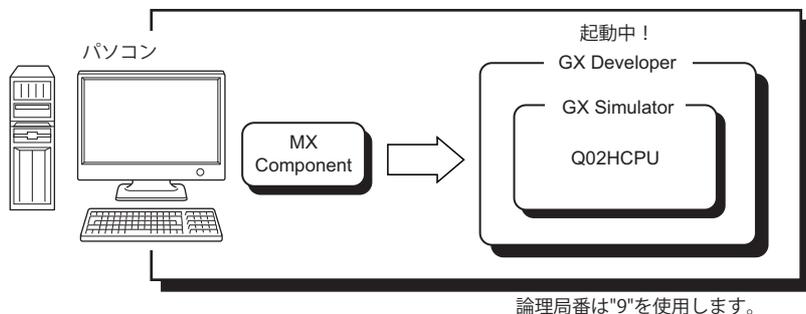
GX Simulator通信を使用してGX Simulatorにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 187ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 188ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(186ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



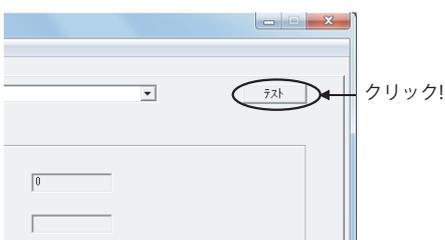
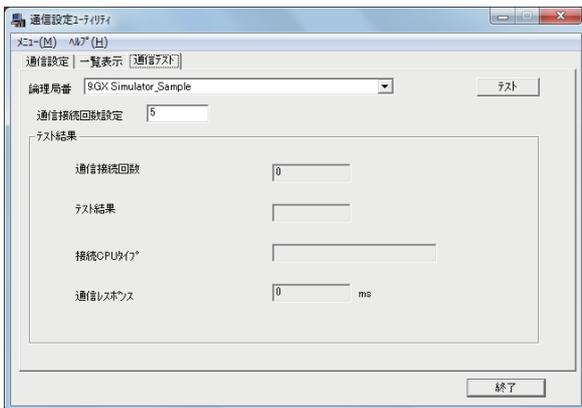
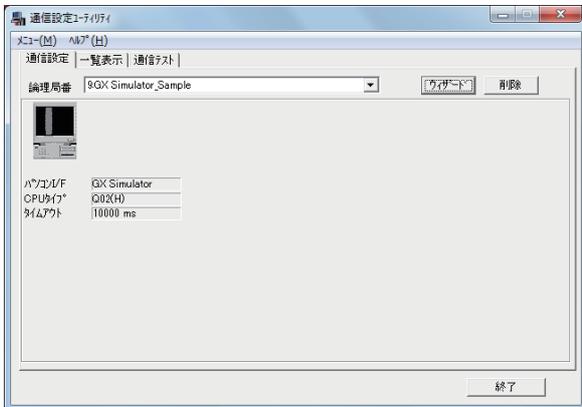
登録完了

1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"9"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: GX Simulator  
局番タイプ: 自局  
CPUタイプ: Q02(H)  
タイムアウト: 10000
4. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(187ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、GX Simulator通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"9"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"9"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

# 8.11 GX Simulator2通信

ユーティリティ設定タイプで、GX Simulator2通信を行う手順、および設定例について説明します。

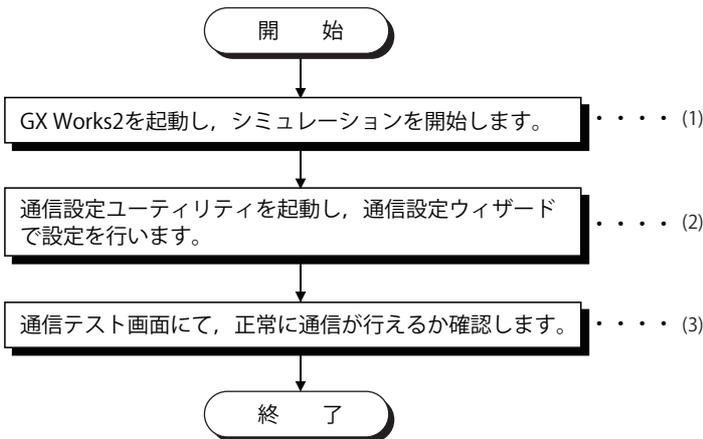
## Point

MX Componentと接続中はGX Works2からシミュレーションの停止を行っても、GX Works2のシミュレーション機能は終了しません。(GX Works2を終了してもGX Works2のシミュレーション機能は終了しません。)

MX Componentとの接続を切断したときに終了します。

## アクセスまでの手順

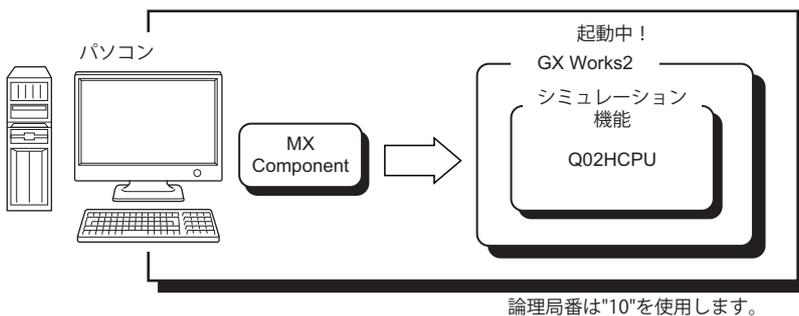
GX Simulator2通信を使用してGX Works2のシミュレーション機能にアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 190ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 191ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

## システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(189ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



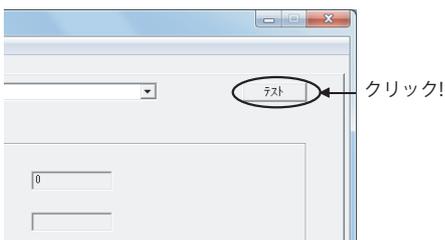
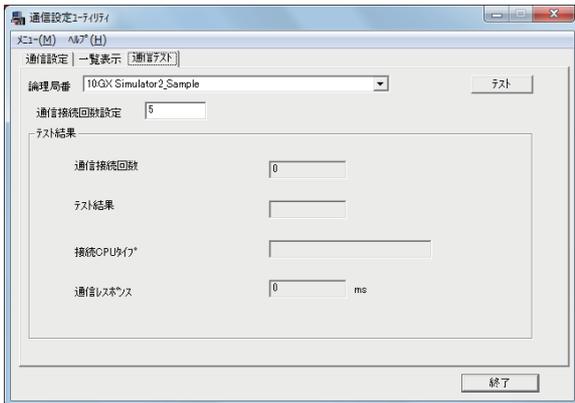
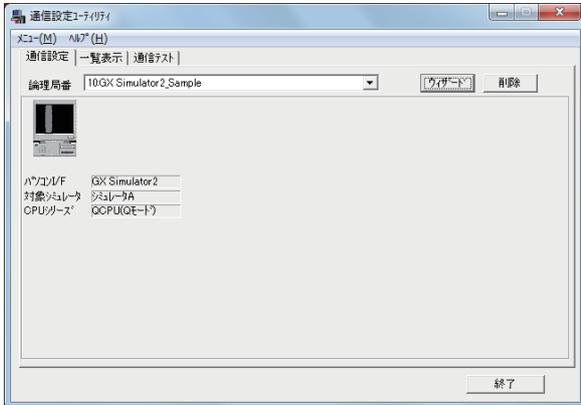
登録完了

1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"10"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: GX Simulator2  
対象シミュレータ: シミュレータA  
CPUシリーズ: QCPU(Qモード)
4. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

190ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)で設定した論理局番を使用し、GX Simulator2通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"10"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"10"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.12 GX Simulator3通信

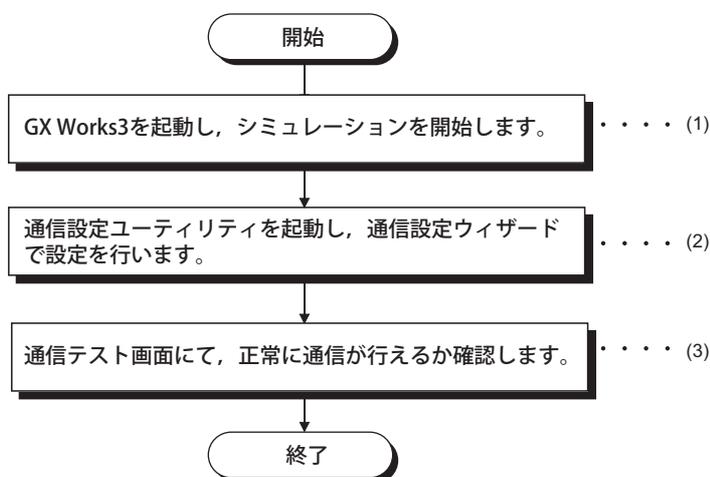
ユーティリティ設定タイプで、GX Simulator3通信を行う手順、および設定例について説明します。

### Point

- MX Component接続中に、GX Works3のシミュレーション機能を停止した場合  
GX Simulator3では、MX Component接続中に、GX Works3のシミュレーション機能を停止できます。  
ただし、GX Works3のシミュレーション機能を再開するには、MX Componentの通信回線でクローズ後にオープンする必要があります。  
MX Componentの通信回線でクローズしないまま、GX Works3のシミュレーション機能を開始してもエラーが発生します。

## アクセスまでの手順

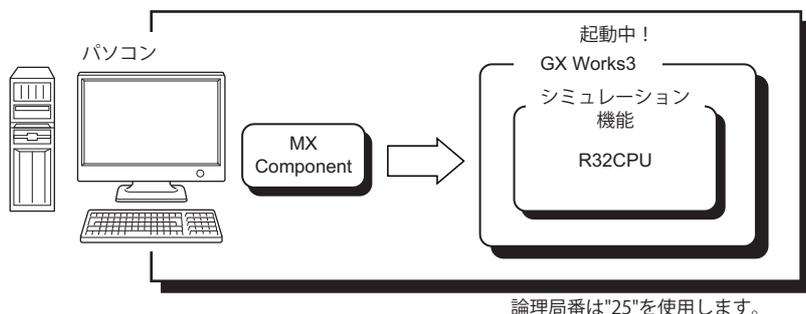
GX Simulator3通信を使用してGX Works3のシミュレーション機能にアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 193ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 194ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

## システム例

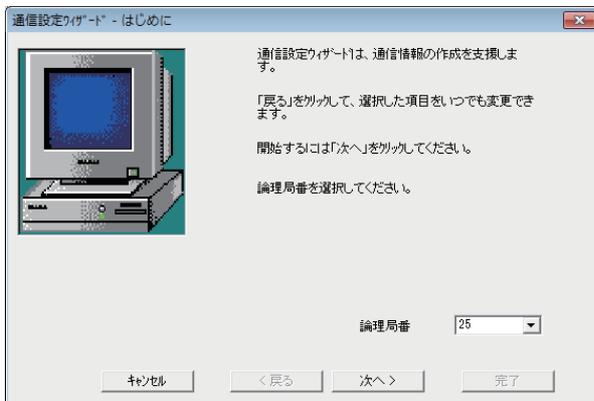
本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(192ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



登録完了

1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"25"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

パソコン側/F: GX Simulator3  
CPUタイプ: R32  
ポート番号設定<sup>\*1</sup>: チェックなし  
システム番号: 1  
号機番号<sup>\*2</sup>: 1  
タイムアウト: 10000

<sup>\*1</sup> ポート番号を指定する場合はチェックボックスにチェックを入れ、ポート番号を指定してください。対象先のポート番号は、下記の計算式で算出します。

ポート番号=5500+システムNo.×10+号機No.

<例>システムNo.=1, 号機No.=1の場合

5511=5500+1×10+1

<sup>\*2</sup> システム番号および号機番号については、下記のマニュアルを参照してください。

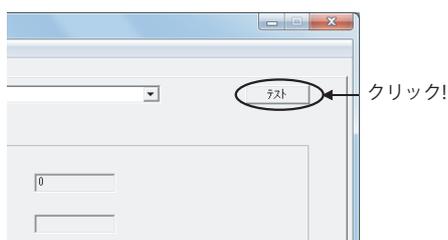
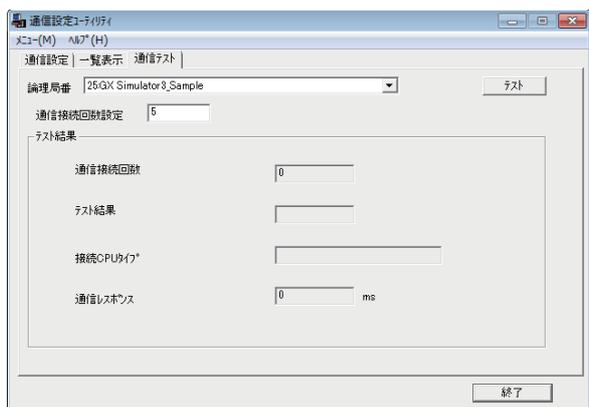
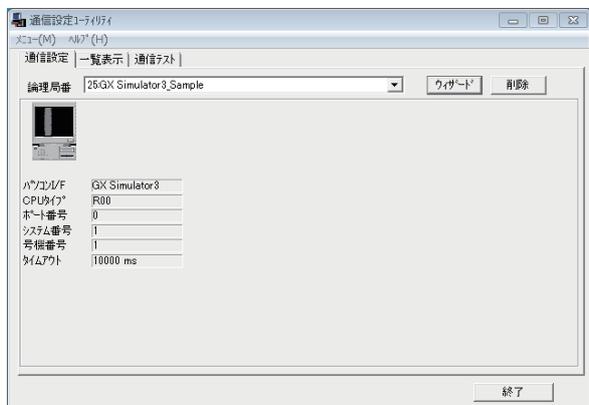
GX Works3オペレーティングマニュアル

4. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(193ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、GX Simulator3通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"25"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"25"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.13 MT Simulator2通信

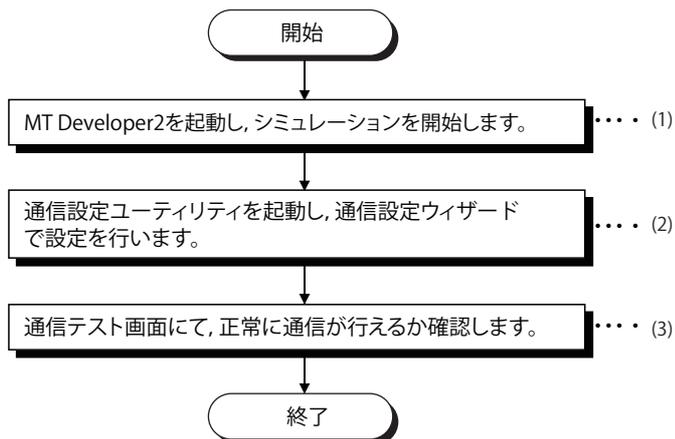
ユーティリティ設定タイプで、MT Simulator2通信を行う手順、および設定例について説明します。

### Point

MX Componentと接続中にMT Developer2からシミュレーションの停止を行うと接続が切断されます。

### アクセスまでの手順

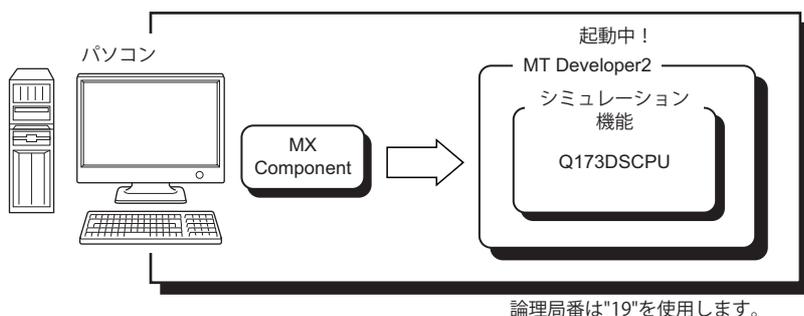
MT Simulator2通信を使用してMT Developer2のシミュレーション機能にアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 196ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 197ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(195ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



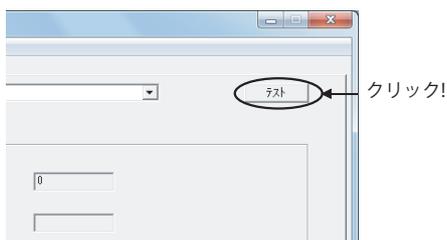
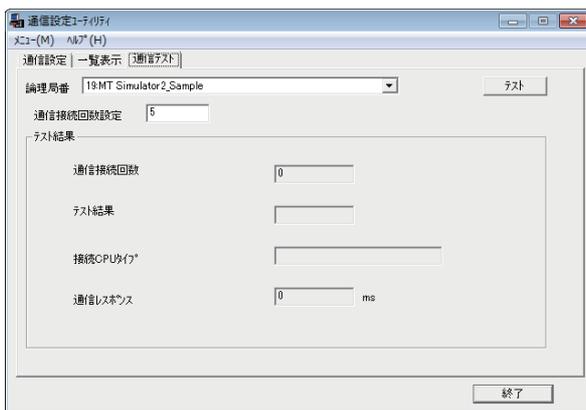
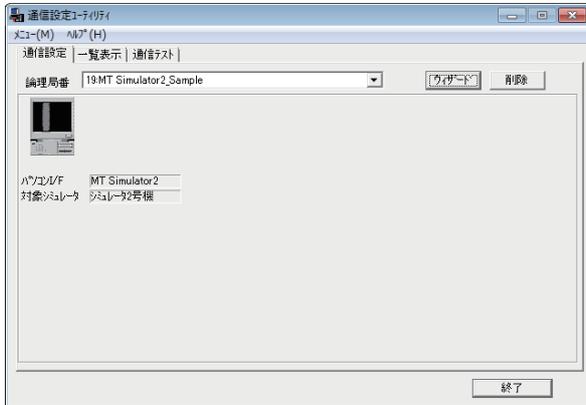
登録完了

1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"19"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: MT Simulator2  
対象シミュレータ: シミュレータ2号機
4. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(196ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、MT Simulator2通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"19"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"19"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

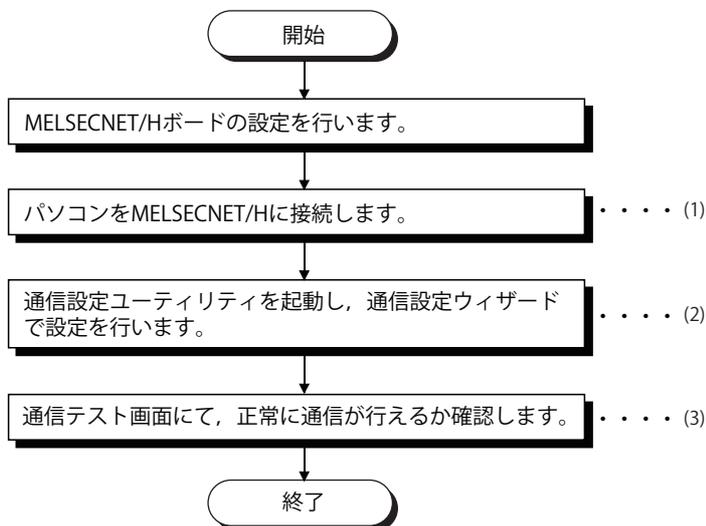
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.14 MELSECNET/H通信

ユーティリティ設定タイプで、MELSECNET/H通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

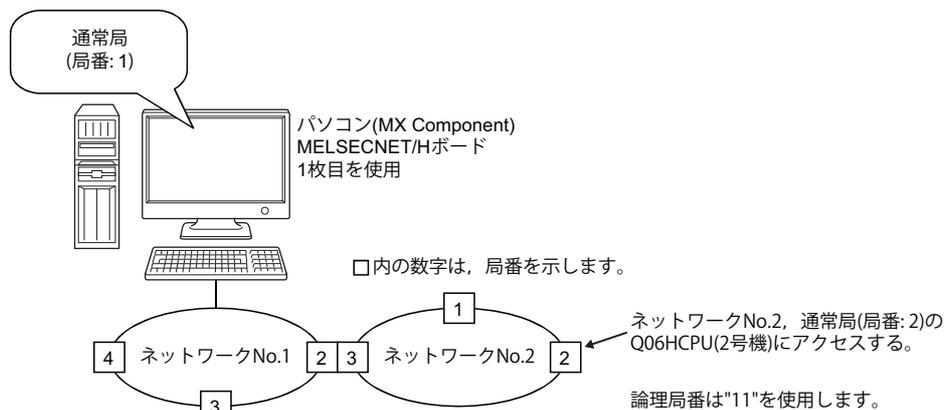
MELSECNET/H通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成, 199ページ MELSEC/Hボードの確認
- (2) 200ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 191ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

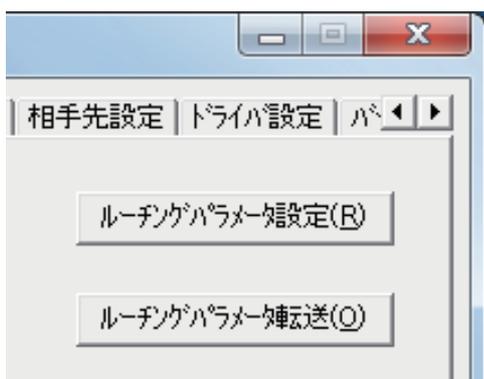
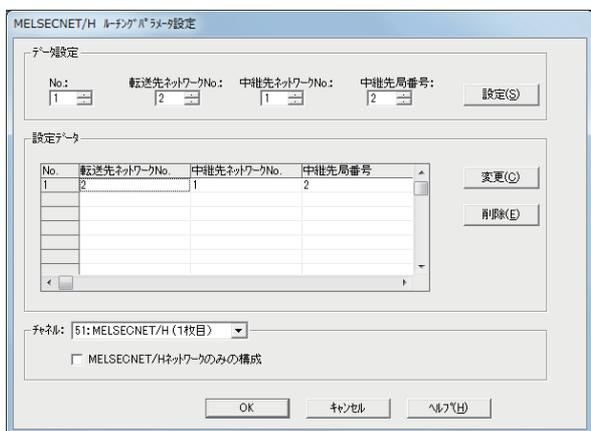
本項で使用するシステム例を下記に示します。



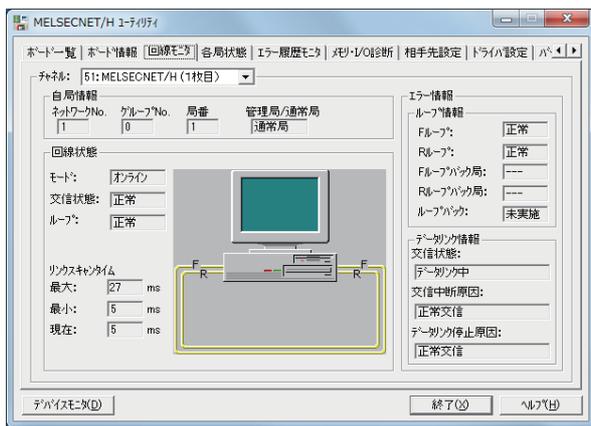
## MELSEC/Hボードの確認

パソコンがMELSECNET/Hに正しく接続されているか確認します。

### 操作手順



1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSEC]⇒[MELSECNET\_H Utility]を選択します。
2. [ボード情報]タブをクリックし、下記のように設定を行い、[更新]ボタンをクリックします。  
チャンネル: 51:MELSECNET/H(1枚目)  
モード: オンライン自動復列有り  
ボーレート: 任意(ここでは10Mbps)  
NETモード: MNET/Hモード  
その後、[ルーチングパラメータ設定]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[設定]ボタンをクリックします。  
転送先ネットワークNo.: 2  
中継先ネットワークNo.: 1  
中継先局番号: 2  
その後、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。
4. [ルーチングパラメータ転送]ボタンをクリックして、MELSECNET/Hボードにルーチングパラメータを転送します。



確認完了

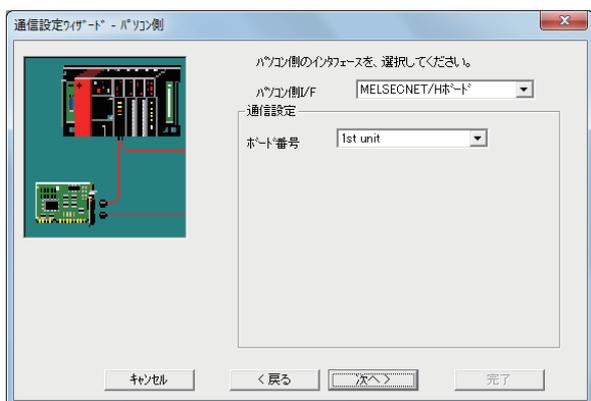
5. [回線モニタ]タブをクリックします。  
回線が正常であることを確認してください。

6. [終了]ボタンをクリックし、MELSECNET/Hユーティリティを終了します。

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

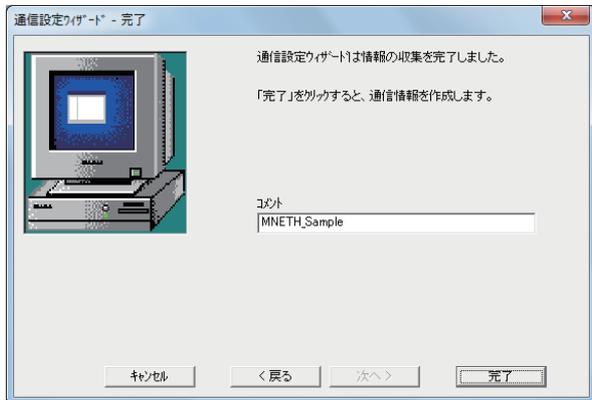
本項のシステム例(198ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"11"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側/F: MELSECNET/Hボード  
ボード番号: 1st unit



登録完了

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
局番タイプ: 他局(単一ネットワーク)

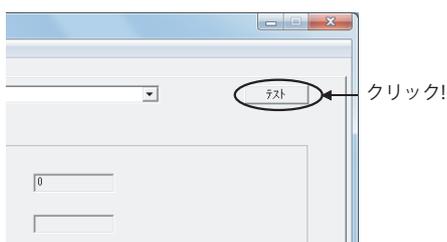
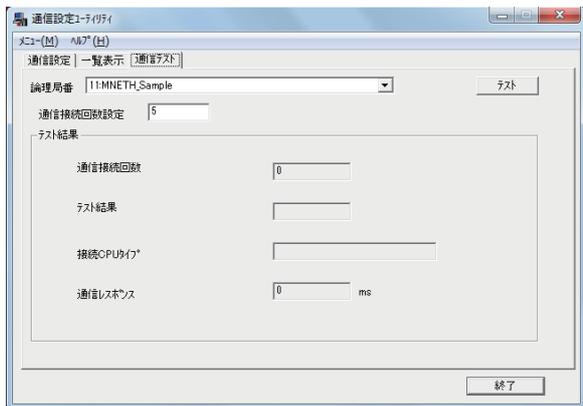
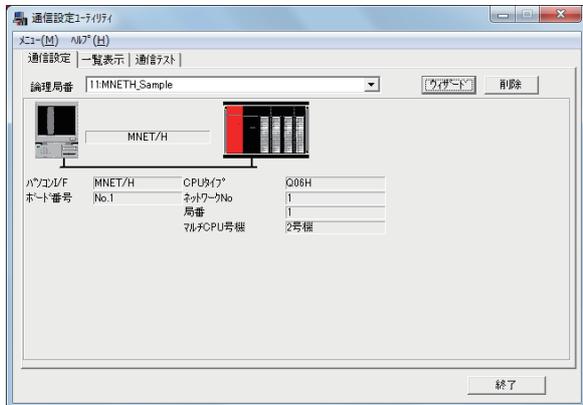
5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
CPUタイプ: Q06H  
ネットワークNo.: 2  
局番: 2  
マルチCPU号機: 2号機

6. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(200ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、MELSECNET/H通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"11"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"11"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

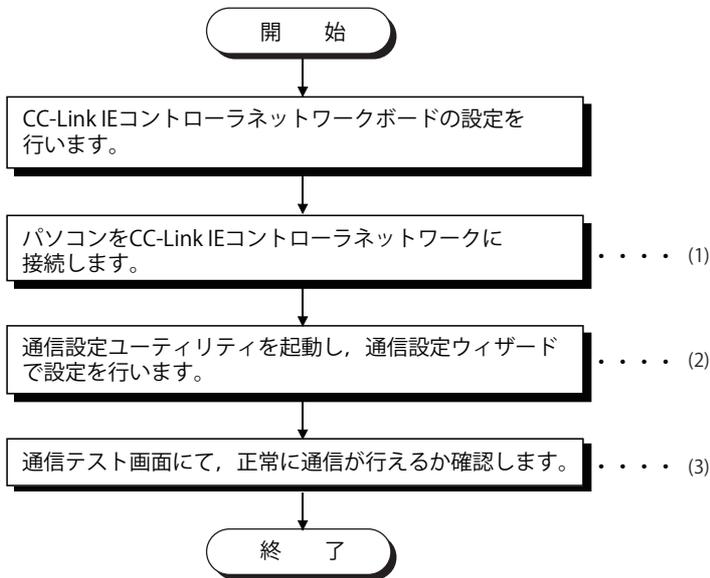
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

# 8.15 CC-Link IEコントローラネットワーク通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link IEコントローラネットワーク通信を行う手順、および設定例について説明します。

## アクセスまでの手順

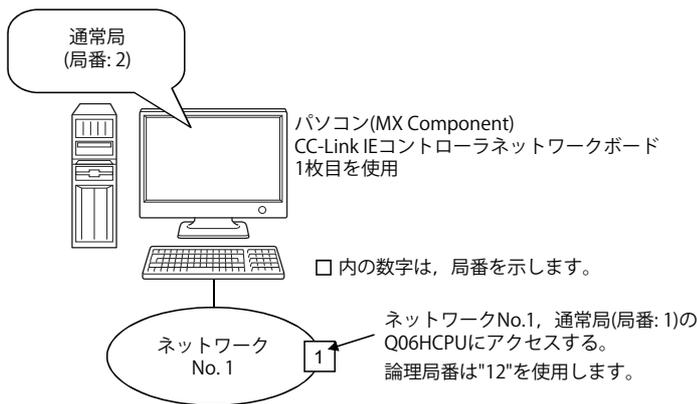
CC-Link IEコントローラネットワーク通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成, 204ページ CC-Link IEコントローラネットワークボードの確認
- (2) 205ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 207ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

## システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



RCPUのパソコンボード経由のCC-Link IEコントローラネットワーク接続において、サポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

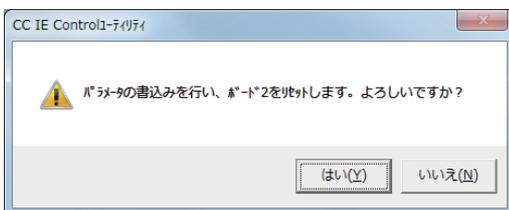
CC-Linkユニット	対応CPU	局番
RJ71GP21-SX	RCPU	1~63
RJ71EN71*1	RCPU	1~120

\*1 CCIEC設定 or CCIEC+Ether設定のみ

## CC-Link IEコントローラネットワークボードの確認

パソコンがCC-Link IEコントローラネットワークに正しく接続されているか確認します。

### 操作手順

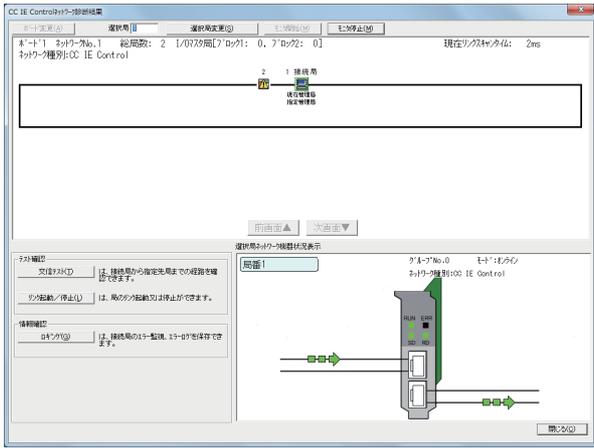


1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSEC]⇒[CC IE Control Utility]を選択します。
2. [設定]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[設定終了]ボタンをクリックします。

チャンネルNo.: 151  
ネットワーク種別: CC IE Control(通常局)  
モード: オンライン  
ネットワークNo.: 1  
グループNo.: 0  
局番: 2

4. [はい]ボタンをクリックして、CC-Link IEコントローラネットワークボードにルーチングパラメータを転送します。



確認完了

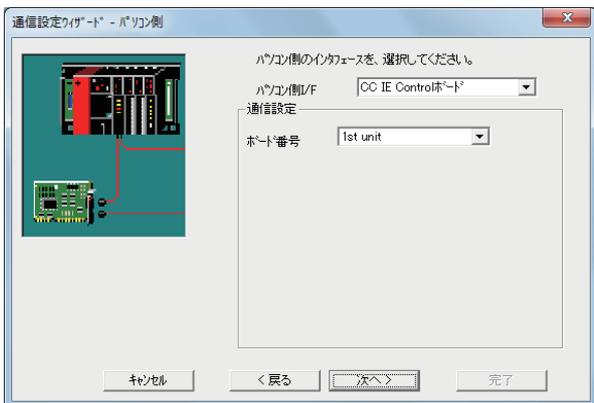
5. CC IE Controlユーティリティ画面の[診断]ボタンをクリックします。  
回線が正常であることを確認してください。

6. [閉じる]ボタンをクリックし、CC IE Controlユーティリティを終了します。

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 203ページ システム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"12"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側/F: CC IE Controlボード  
ボード番号: 1st unit



登録完了

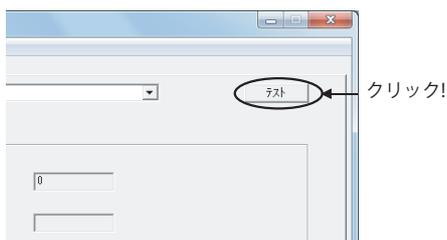
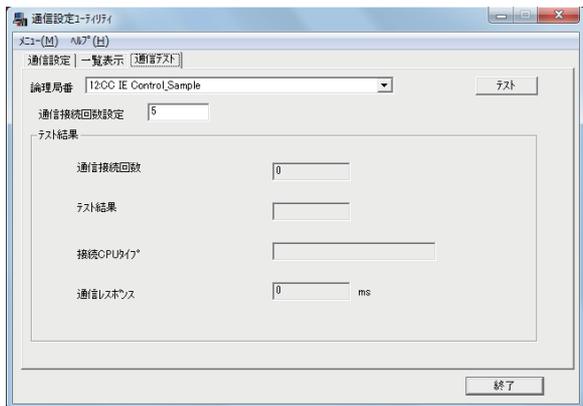
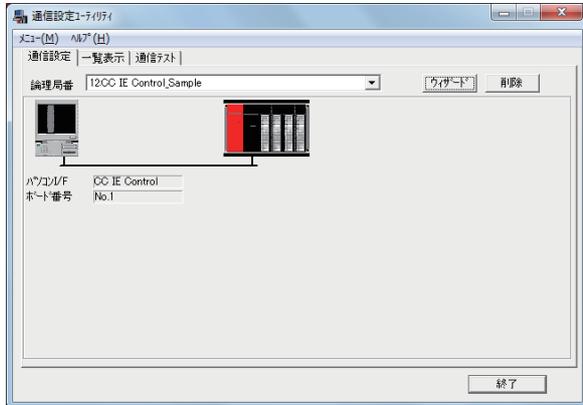
4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
局番タイプ: 自局

5. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(205ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、CC-Link IEコントローラネットワーク通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"12"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"12"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

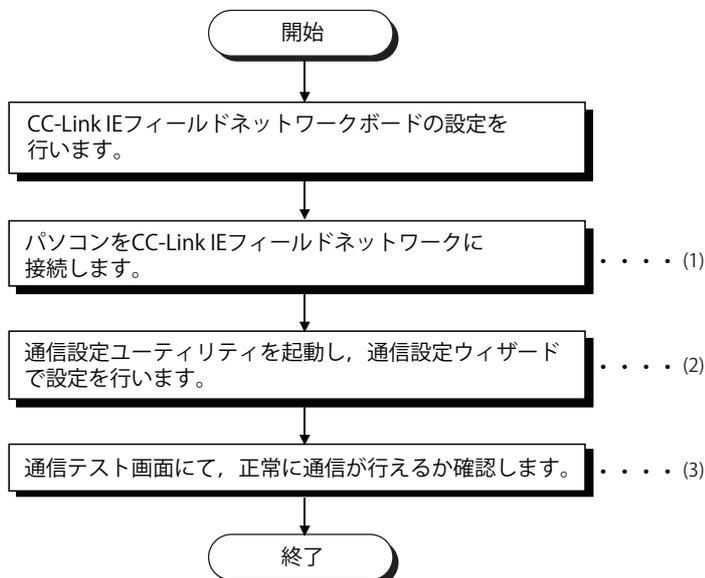
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

# 8.16 CC-Link IEフィールドネットワーク通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link IEフィールドネットワーク通信を行う手順、および設定例について説明します。

## アクセスまでの手順

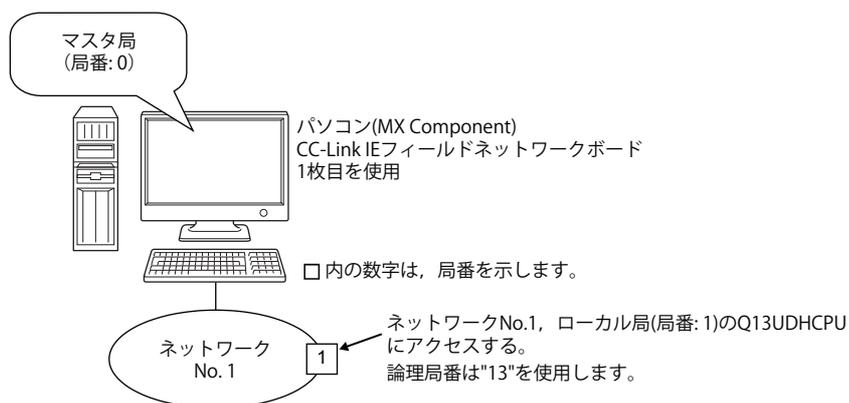
CC-Link IEフィールドネットワーク通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成, 209ページ CC-Link IEフィールドネットワークボードの確認
- (2) 210ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 212ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

## システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



RCPUのパソコンボード経由のCC-Link IEフィールドネットワーク接続において、サポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

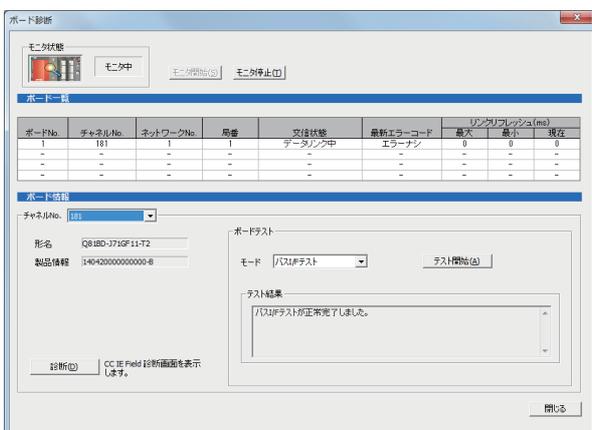
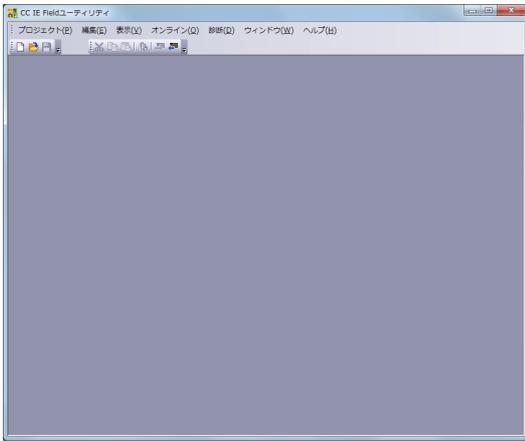
CC-Linkユニット	対応CPU	局番
RJ71GF11-T2	RCPU	1~63
RJ71EN71*1	RCPU	1~120

\*1 CCIEF設定 or CCIEF+Ether設定のみ

## CC-Link IEフィールドネットワークボードの確認

パソコンがCC-Link IEフィールドネットワークに正しく接続されているか確認します。

### 操作手順



確認完了

1. [スタート]⇒[すべてのプログラム]⇒[MELSEC]⇒[CC IE Field Board]⇒[CC IE Fieldユーティリティ]を選択します。
2. [プロジェクト]⇒[プロジェクトの新規作成]を選択します。

3. 下記のように設定を行い、[設定終了]ボタンをクリックします。

ネットワーク種別: CC IE Field(マスタ局)

チャネルNo.: 181

ネットワークNo.: 1

総(子)局数: 1

モード: オンライン(標準モード)

4. [オンライン]⇒[ボード書込]を選択します。  
プロジェクトのパラメータ設定をCC-Link IEフィールドネットワークボードに書き込みます。
5. [診断]⇒[ボード診断]を選択します。  
回線が正常であることを確認してください。

6. [閉じる]ボタンをクリックし、CC IE Fieldユーティリティを終了します。

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 208ページ システム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"13"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: CC IE Fieldボード  
ボード番号: 1st unit
4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
局番タイプ: 他局(単一ネットワーク)



登録完了

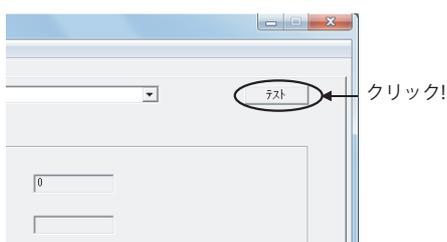
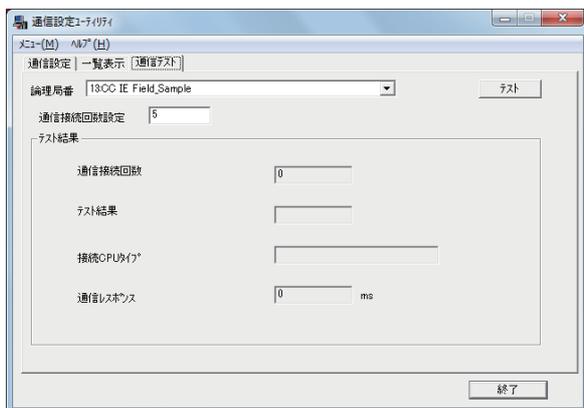
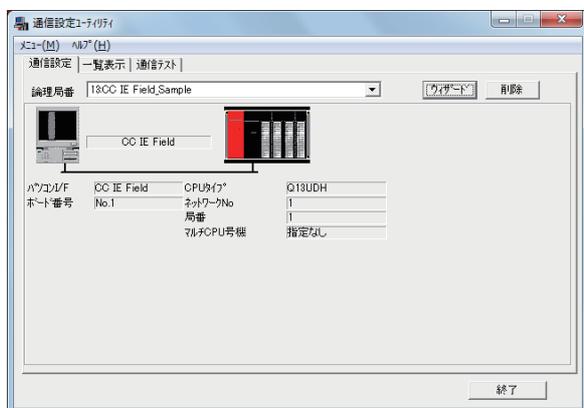
5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
CPUタイプ: Q13UDH  
ネットワークNo.: 1  
局番: 1  
マルチCPU号機: 指定なし

6. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(210ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、CC-Link IEフィールドネットワーク通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"13"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"13"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

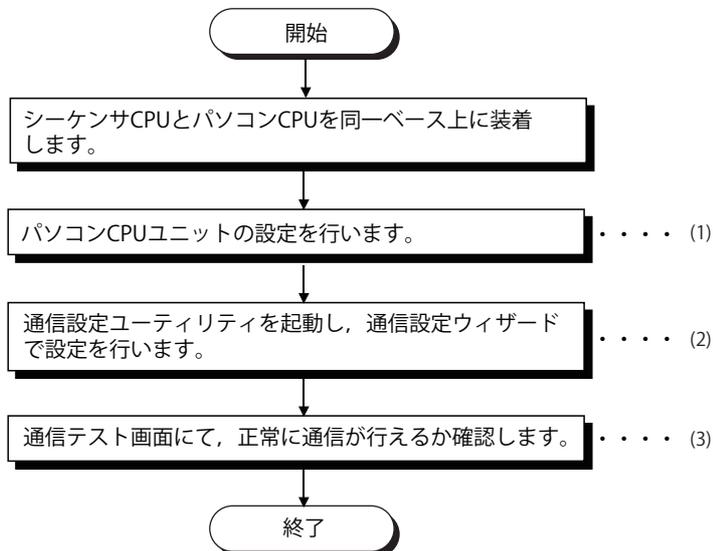
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.17 Qシリーズバス通信

ユーティリティ設定タイプで、Qシリーズバス通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

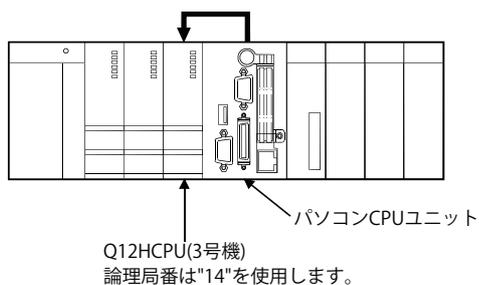
Qシリーズバス通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) パソコンCPUユニットのマニュアル
- (2) 214ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 216ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 213ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"14"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: Qシリーズバス

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
CPUタイプ: Q12H  
マルチCPU号機: 3号機



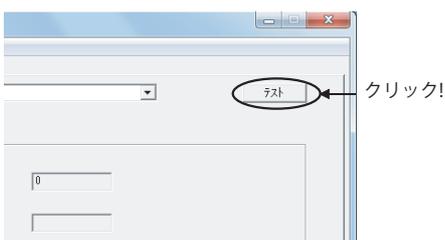
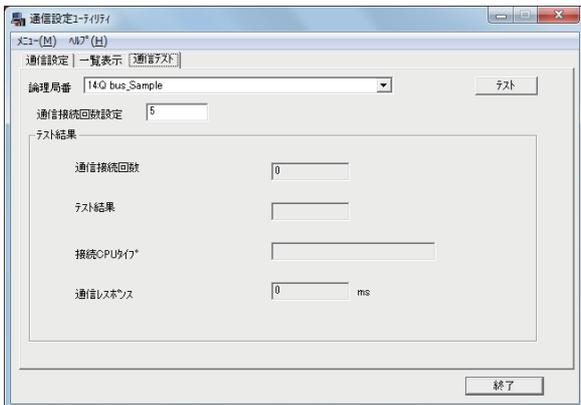
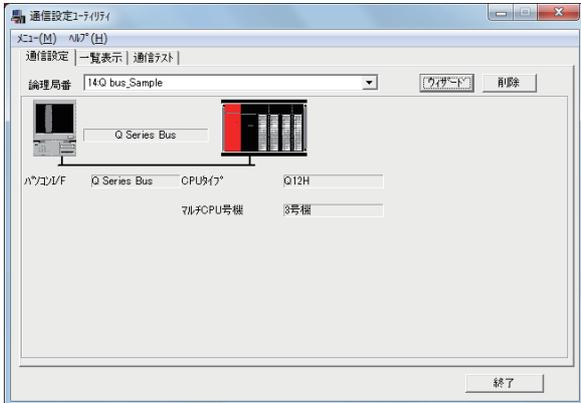
登録完了

5. コメントを入力し, [完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(214ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、Qシリーズバス通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"14"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"14"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.18 モデム通信

ユーティリティ設定タイプで、モデム通信を行う手順、および設定例について説明します。

### Point

MX Componentにおいて初めてモデム通信を行う場合、GX Works2にて正常にモデム通信が行えるか確認してから通信を行ってください。

上記の確認を行うことにより、モデム通信が行えない場合の原因を容易に発見できます。

## Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0, Lシリーズ対応C24のスイッチ設定

MX Componentを使用する際の各ユニットのスイッチ設定について説明します。

MX Component側の設定はユニット側の設定に合わせます。

### Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24(CH1側でモデム通信を行う場合)

項目	設定内容		設定値
	b15~b8	b7~b0	
スイッチ1	CH1通信速度*1	CH1伝送設定*2	*1*2
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0005H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	ユーザ任意
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	ユーザ任意
スイッチ5	ユニット局番		0000H(ユーザ任意)

\*1 モデムの仕様に合わせて設定を行ってください。

\*2 CH1の伝送設定内容を下記に示します。

伝送設定	設定内容
動作設定	独立
データビット	8
パリティビット	なし
奇数/偶数パリティ	奇数
ストップビット	1
サムチェックコード	あり
RUN中書込	許可
設定変更	禁止/許可

## QシリーズCMO

項目	設定内容		設定値
	b15~b8	b7~b0	
スイッチ1	回線選択	CH1伝送設定*1	*2
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0005H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	ユーザ任意
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	ユーザ任意
スイッチ5	ユニット局番		0000H(ユーザ任意)

\*1 CH1の伝送設定内容を下記に示します。

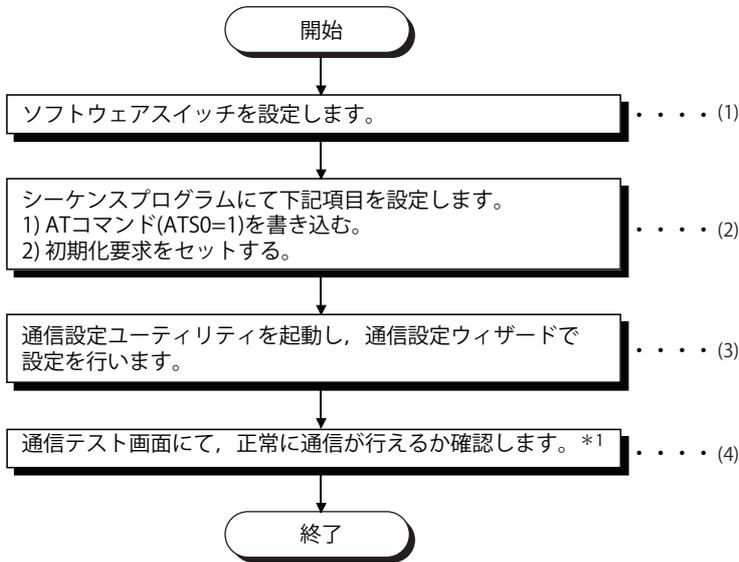
\*2 回線選択およびCH1伝送設定の設定内容を確認し、設定値を入力してください。

伝送設定	設定内容
データビット	8
パリティビット	なし
奇数/偶数パリティ	奇数
ストップビット	1
サムチェックコード	あり
RUN中書込	許可

## アクセスまでの手順

モデム通信を使用してシーケンスCPUにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。

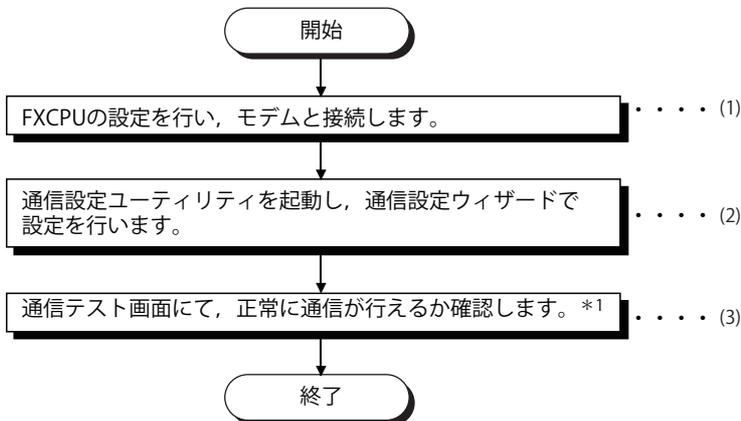
<Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24使用時>



\*1 正常に通信が行えない場合、モデム通信時にアクセスできない場合のフロー (☞ 402ページ モデム通信時にアクセスできない場合のフロー)に従って対処を行ってください。

- (1) ☞ 217ページ Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24のスイッチ設定
- (2) ☞ 221ページ Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24とモデムとの接続を行う
- (3) ☞ 232ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (4) ☞ 234ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

<FXCPU使用時>

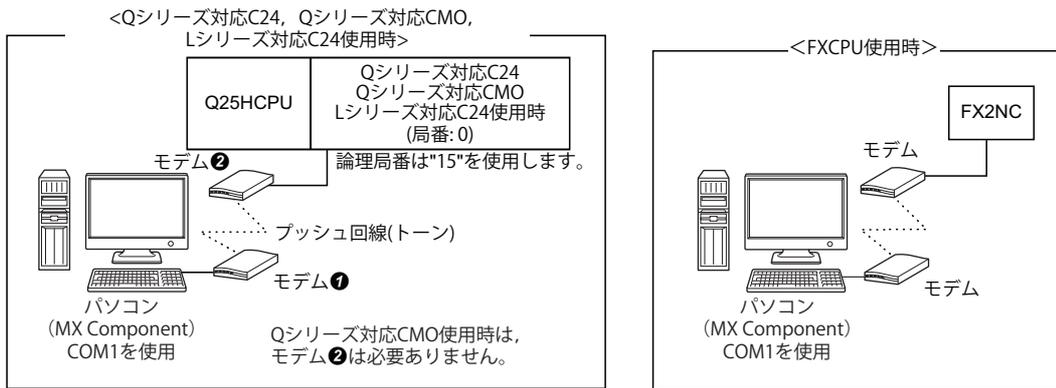


\*1 正常に通信が行えない場合、モデム通信時にアクセスできない場合のフロー (☞ 402ページ モデム通信時にアクセスできない場合のフロー)に従って対処を行ってください。

- (1) ☞ GX Works2 Version 1オペレーティングマニュアル (共通編)
- (2) ☞ 232ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) ☞ 234ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

## システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24とモデムとの接続を行う

Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMOおよびLシリーズ対応C24を使用する場合, 下記のバッファメモリを設定するためのシーケンスプログラムが必要となります。

設定必要なバッファメモリとシーケンスプログラムを下記に示します。

設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容
モデム接続チャンネル指定(2EH)*1	0: 接続しない(モデム機能を使用しない) 1: CH1側インタフェース 2: CH2側インタフェース
初期化用データNo.指定(34H)*2	0H: 送信用ユーザ登録フレーム指定エリアで指定の初期化データ送信 7D0H~7DDH: 初期化用データNo.
GX Developer/MELSOFT接続指定(36H)	0: 接続しない 1: 接続する
コールバック機能指定(2001H)	0H: 自動 1H: コールバック接続(固定時) 3H: コールバック接続(番号指定時) 7H: コールバック接続(番号指定時(最大10台)) 9H: 自動(コールバック固定時) BH: 自動(コールバック番号指定時) FH: 自動(コールバック番号指定時(最大10台))

\*1 Qシリーズ対応CMO使用時は, モデム接続チャンネル指定を設定する必要はありません。

\*2 Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CMOには出荷時に, 下記に示す初期化用データが登録されています。

使用するモデムが初期化用データ(7D0H~7DAH)に該当する場合, 下記の登録No.を指定してください。

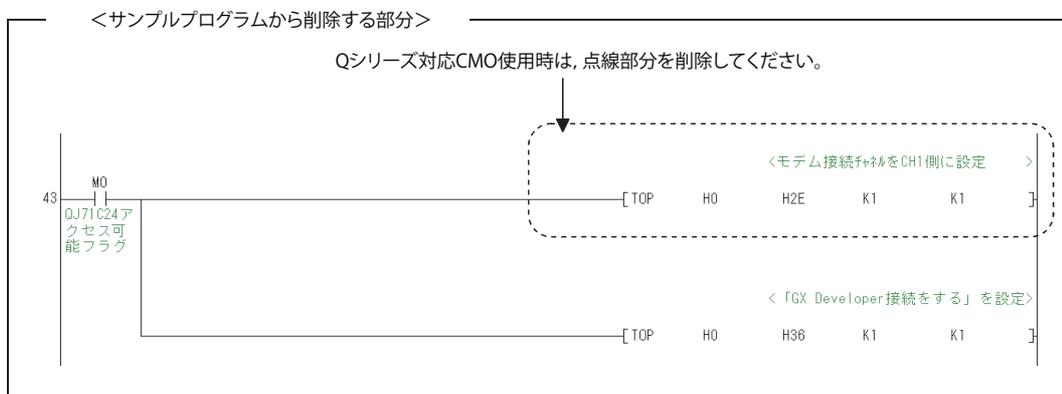
初期化用データが登録されていないモデムを使用する場合, ATコマンドをQシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CMOのバッファメモリアドレス(1B00H)に登録してください。

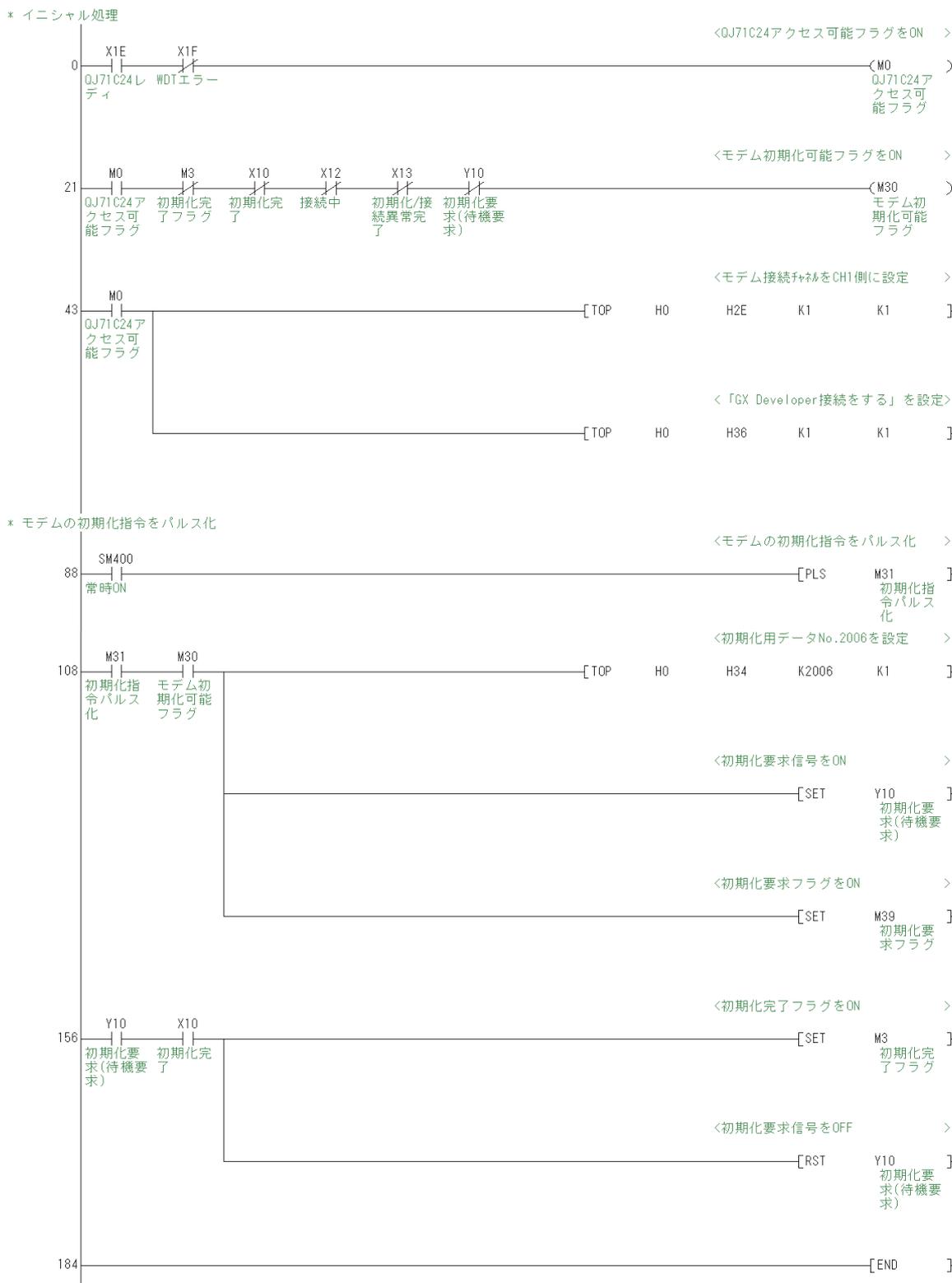
登録No.		初期化コマンド	該当機器	
16進数	10進数		メーカー	形名
7D0H	2000	ATQ0V1E1X1\J0\Q2\N3S0=1	アイワ株式会社	PV-AF2881WW PV-BF288M2
7D1H	2001	ATQ0V1E1X1\Q2\N3S0=1	株式会社マイクロ総合研究所	MC288XE MC288X1
7D2H	2002	ATQ0V1E1X1&K3\N3S0=1	マイクロコム株式会社	DESKPORTE22.8S DESKPORTE33.6S
7D3H	2003	ATQ0V1E1X1&H1&R2&A3&D2S0=1	オムロン株式会社	ME3314B
7D4H	2004	ATQ0V1E1X1\J0\Q2\N3S0=1	サン電子株式会社	MS336AF
7D5H	2005	ATE1Q0V1&C1&D2&H1&I0&R2&S0S0=1	オムロン株式会社	ME5614B
7D6H	2006	ATE1Q0V1&C1&D2&K3&S0S0=1	サン電子株式会社	MS56KAF
			株式会社マイクロ総合研究所	MRV56XL
			パナソニックモバイル コミュニケーションズ株式会社	VS-2621A VC-173
7D7H	2007	ATE1Q0V1&C1&D2&K3&S1S0=1	オムロン株式会社	MT128B II -D
7D8H	2008	ATE1Q0V1&C1&D2&K3&S0S0=1	オムロン株式会社	MT128B II -D
7D9H	2009	ATE1Q0V1&C1&D1\Q2&S0S0=1	サン電子株式会社	TS128JX II
7DAH	2010	ATE1Q0V1&C1&D2\Q3&S0S0=1	シャープ株式会社	DN-TA1
7DCH	2012	AT&S0S0=1	汎用	*動作確認用に使用してください。 動作しない場合は, ユーザでモデム仕様に合わせた初期化コマンドを作成してください。
7DDH	2013	ATX1&S0S0=1		

## ■コールバック機能を使用しない場合

設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容
モデム接続チャンネル指定(2EH)*1	1(CH1)
初期化用データNo.指定(34H)	2006(No. 2006)
GX Developer/MELSOFT接続指定(36H)	1(接続する)
コールバック機能指定(2001H)	—

\*1 Qシリーズ対応CMO使用時は、モデム接続チャンネル指定を設定する必要はありません。  
サンプルプログラムを使用する場合、下記に示す部分を削除してください。





### Point

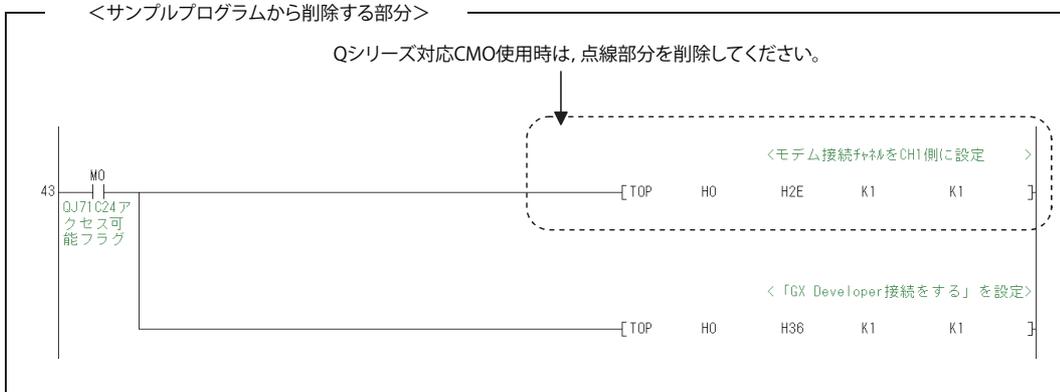
本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記のフォルダにインストールされます。

[ユーザ指定フォルダ]-[Act]-[Samples]-[GppW]-[QJ71C24TEL]

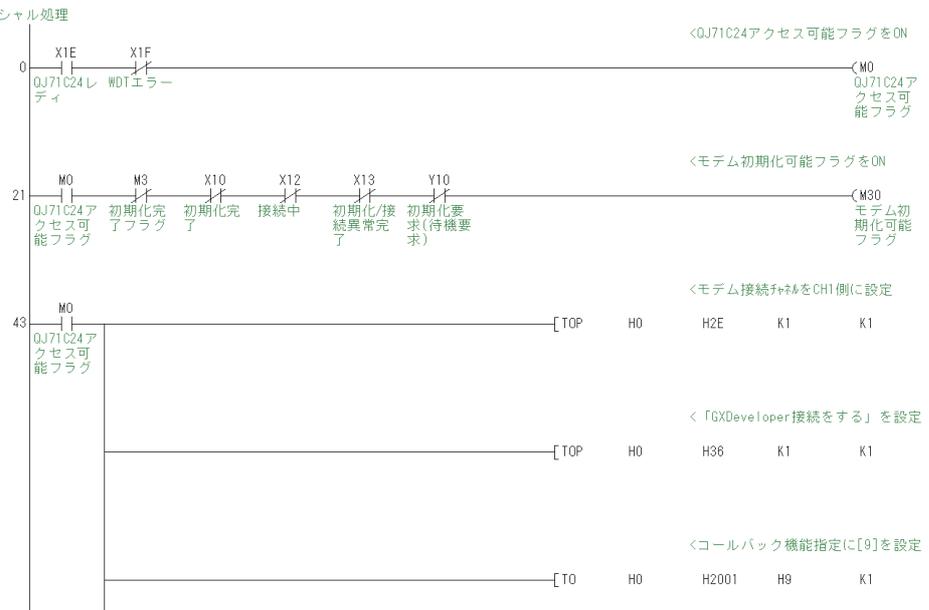
## ■コールバック機能に"自動(コールバック固定時)"を使用する場合

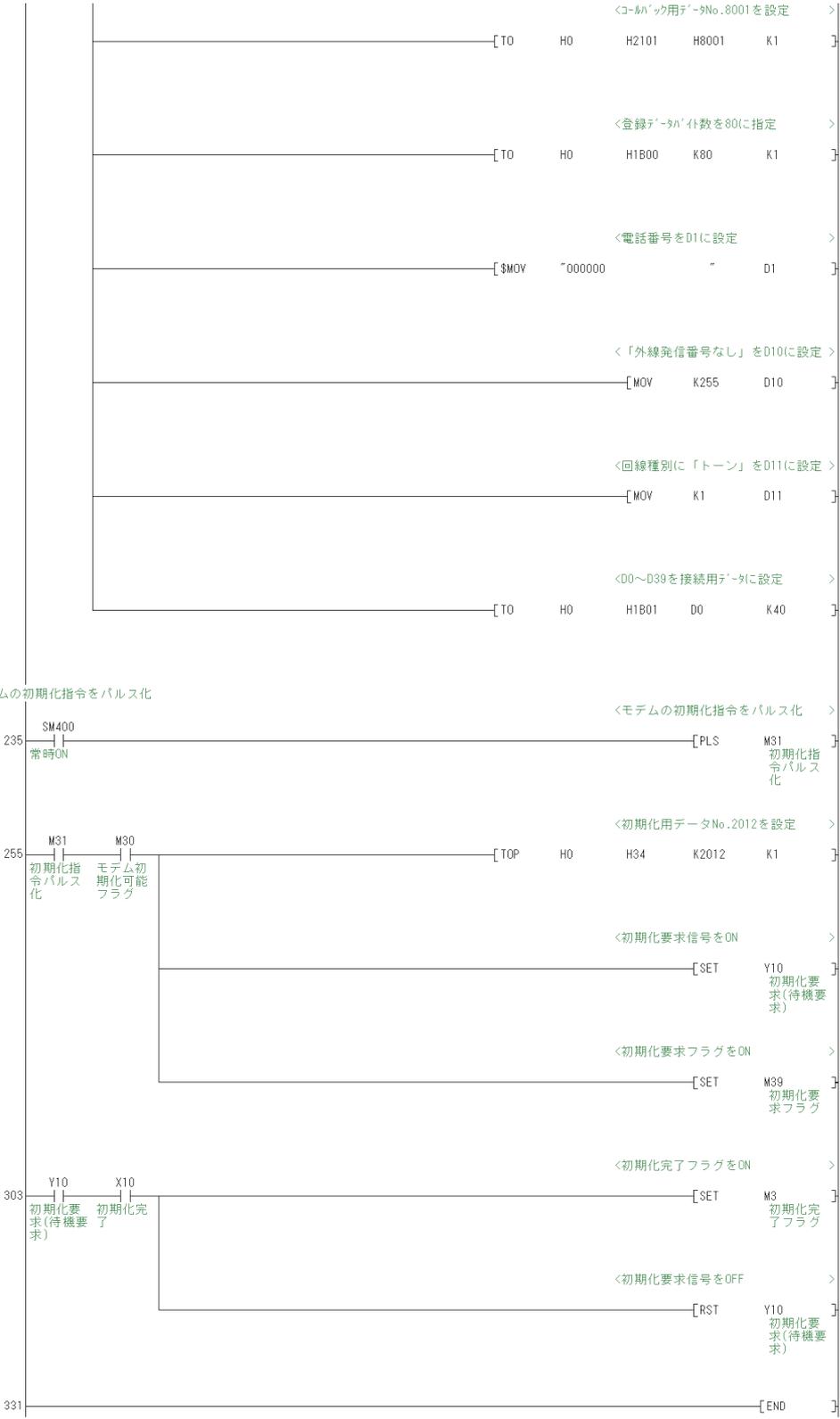
設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容
モデム接続チャンネル指定(2EH)*1	1(CH1)
初期化用データNo.指定(34H)	2012(No. 2012)
GX Developer/MELSOFT接続指定(36H)	1(接続する)
コールバック機能指定(2001H)	9H(自動(コールバック固定時))

\*1 Qシリーズ対応CMO使用時は、モデム接続チャンネル指定を設定する必要はありません。  
サンプルプログラムを使用する場合、下記に示す部分を削除してください。



\* イニシャル処理





**Point** 

---

本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記のフォルダにインストールされます。

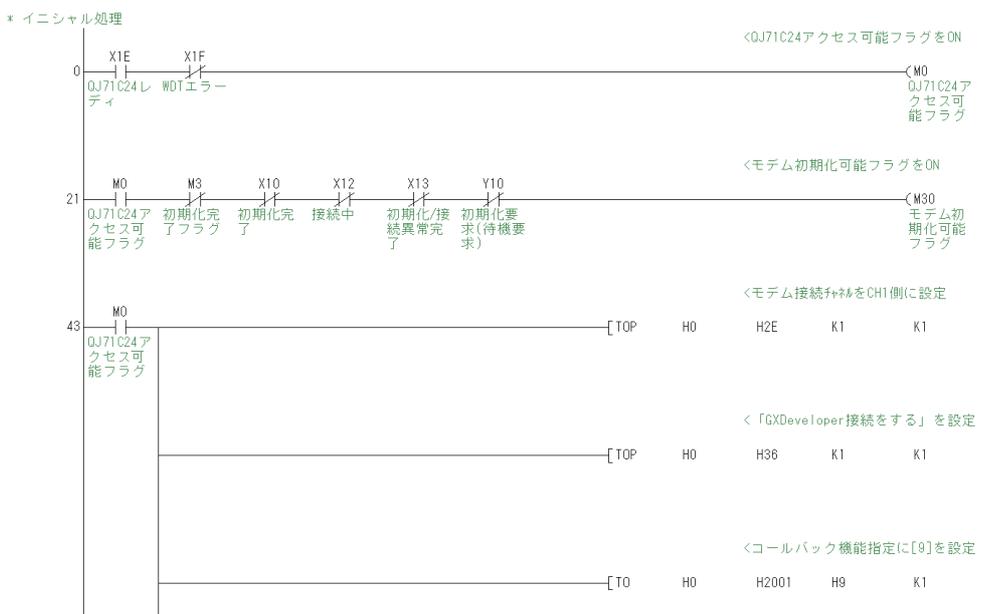
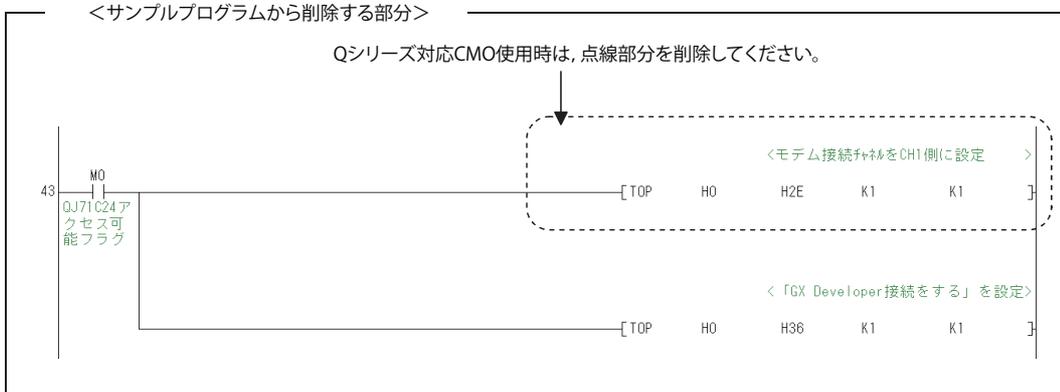
[ユーザ指定フォルダ]-[Act]-[Samples]-[GppW]-[QJ71C24Callback]

---

## ■コールバック機能に"自動(コールバック番号指定時(最大10台))"を使用する場合

設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容
モデム接続チャンネル指定(2EH)*1	1(CH1)
初期化用データNo.指定(34H)	2012(No. 2012)
GX Developer/MELSOFT接続指定(36H)	1(接続する)
コールバック機能指定(2001H)	FH(自動(コールバック番号指定時(最大10台)))

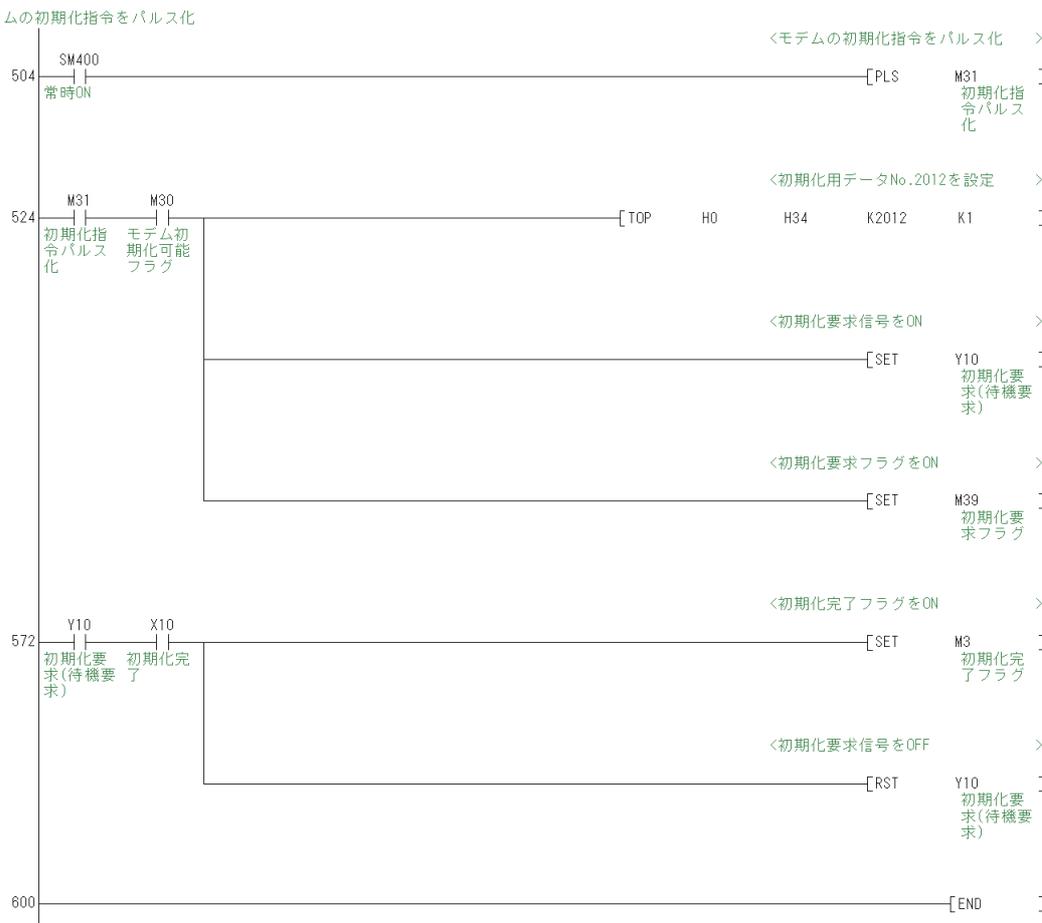
\*1 Qシリーズ対応CMO使用時は、モデム接続チャンネル指定を設定する必要はありません。  
サンプルプログラムを使用する場合、下記に示す部分を削除してください。



					<コールバック用ダイヤルNo.8001を設定 >
	[ TO	H0	H2101	H8001	K1 ]
					<コールバック用ダイヤルNo.8002を設定 >
	[ TO	H0	H2102	H8002	K1 ]
					<コールバック用ダイヤルNo.8003を設定 >
	[ TO	H0	H2103	H8003	K1 ]
					<登録ダイヤル回数80に指定 >
	[ TO	H0	H1B00	K80	K1 ]
					<電話番号をD1に設定 >
	[ \$MOV	"1	"	"	D1 ]
					<「外線発信番号なし」をD10に設定 >
	[ MOV		K255		D10 ]
					<回線種別に「トーン」をD11に設定 >
	[ MOV		K1		D11 ]
					<D0~D39の値を接続ダイヤルに設定 >
	[ TO	H0	H1B01	D0	K40 ]
					<登録ダイヤル回数80に指定 >
	[ TO	H0	H1B29	K80	K1 ]
					<電話番号をD1に設定 >
	[ \$MOV	"2	"	"	D1 ]
					<「外線発信番号なし」をD10に設定 >
	[ MOV		K255		D10 ]
					<回線種別に「トーン」をD11に設定 >
	[ MOV		K1		D11 ]
					<D0~D39の値を接続ダイヤルに設定 >
	[ TO	H0	H1B2A	D0	K40 ]
					<登録ダイヤル回数80に指定 >
	[ TO	H0	H1B52	K80	K1 ]
					<電話番号をD1に設定 >
	[ \$MOV	"3	"	"	D1 ]
					<「外線発信番号なし」をD10に設定 >
	[ MOV		K255		D10 ]
					<回線種別に「トーン」をD11に設定 >
	[ MOV		K1		D11 ]
					<D0~D39の値を接続ダイヤルに設定 >
	[ TO	H0	H1B53	D0	K40 ]



\* モデムの初期化指令をパルス化



**Point**

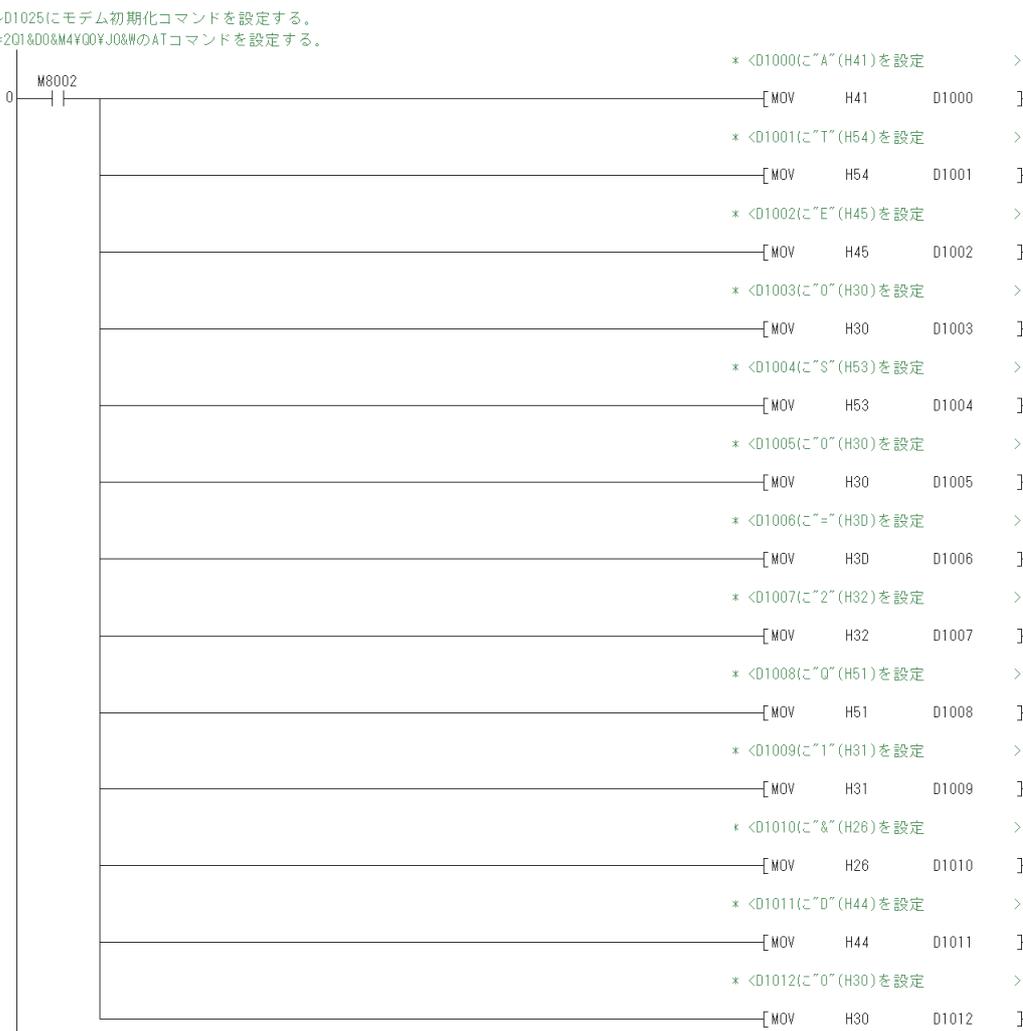
本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記のフォルダにインストールされます。

[ユーザ指定フォルダ]-[Act]-[Samples]-[GppW]-[QJ71C24Callback\_Number]

## FXCPUとモデムとの接続を行う

FXCPUを使用する場合、シーケンスプログラムが必要です。

- \* D1000~D1025にモデム初期化コマンドを設定する。
- \* ATE0S0=2Q1&D0&M4¥Q0¥J0&WのATコマンドを設定する。





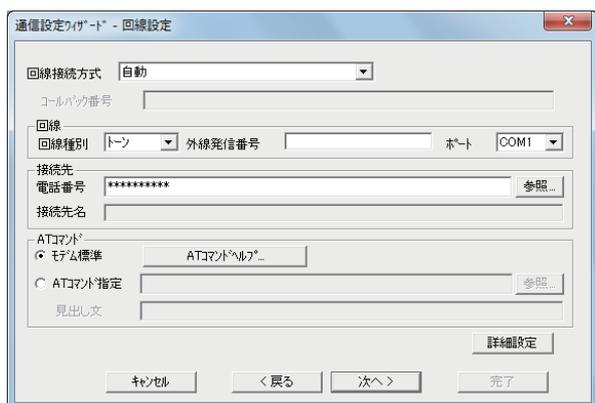
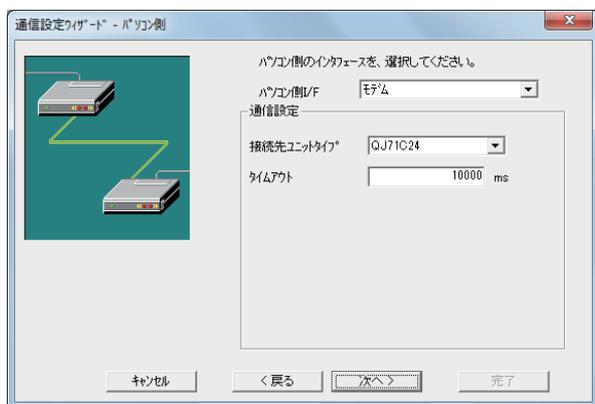
**Point**

本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記のフォルダにインストールされます。  
 [ユーザ指定フォルダ]-[Act]-[Samples]-[GppW]-[FXCPU TEL]

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 220ページ システム例)を使用し、Qシリーズ対応C24の論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



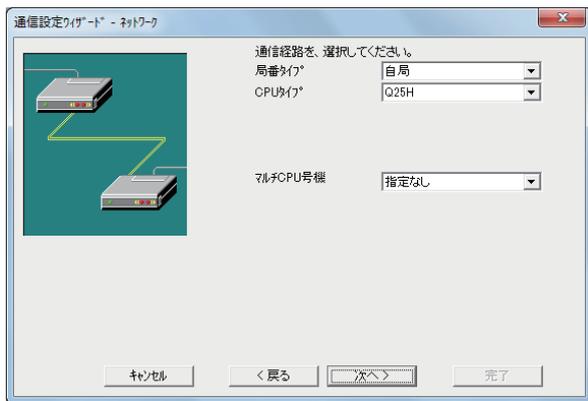
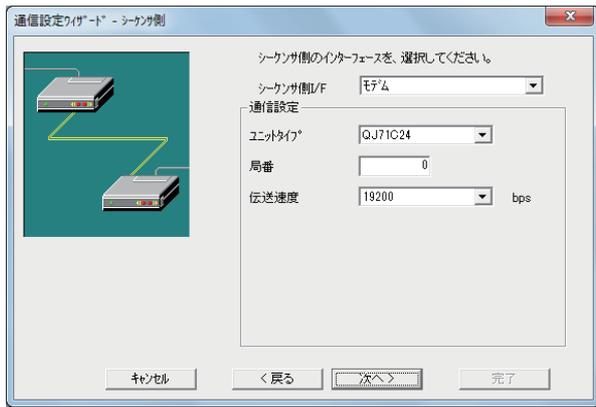
1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"15"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

パソコン側I/F: モデム  
接続先ユニットタイプ: QJ71C24  
タイムアウト: 10000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

回線種別: トーン  
外線発信番号: なし  
ポート: COM1  
電話番号: \*\*\*\*\*  
(シーケンサ側の電話番号を入力してください。)  
ATコマンド: モデム標準



登録完了

5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 シーケンサ側I/F: モデム  
 ユニットタイプ: QJ71C24  
 局番: 0  
 伝送速度: 19200

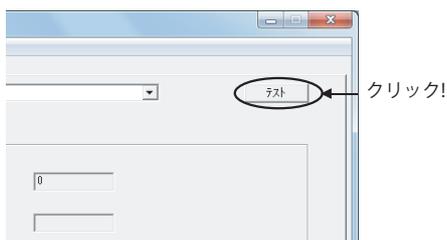
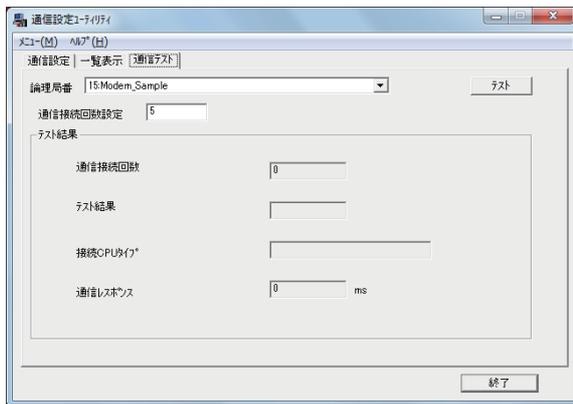
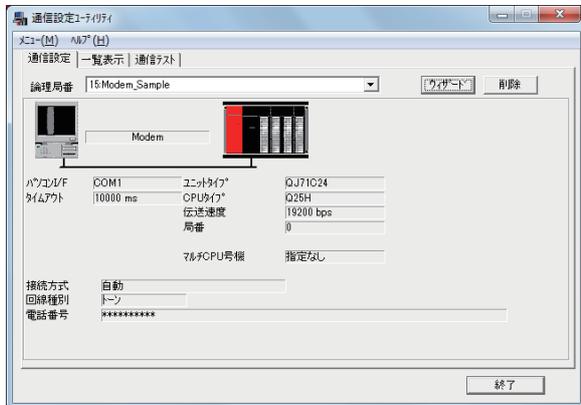
6. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 局番タイプ: 自局  
 CPUタイプ: Q25H  
 マルチCPU号機: 指定なし

7. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(232ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、モデム通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"15"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"15"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

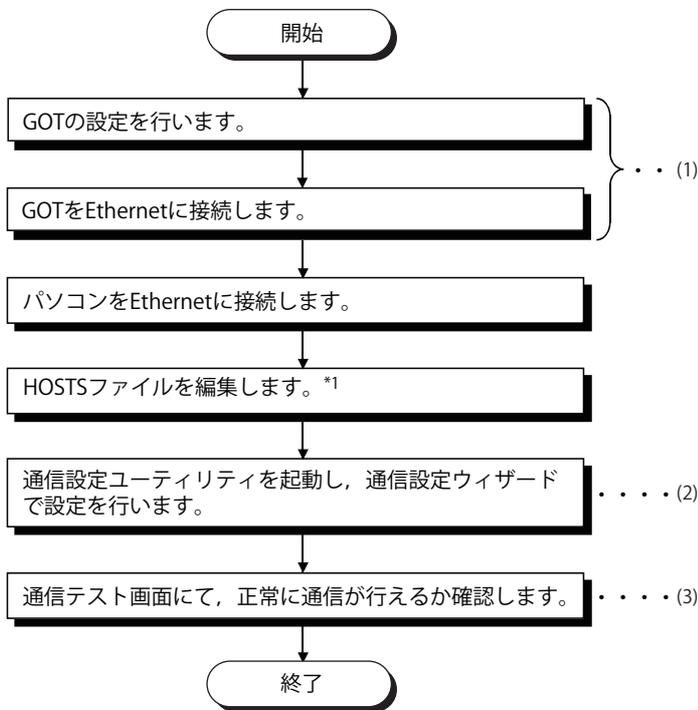
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.19 ゲートウェイ機能通信

ユーティリティ設定タイプで、ゲートウェイ機能通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

ゲートウェイ機能通信を使用してGOTにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。

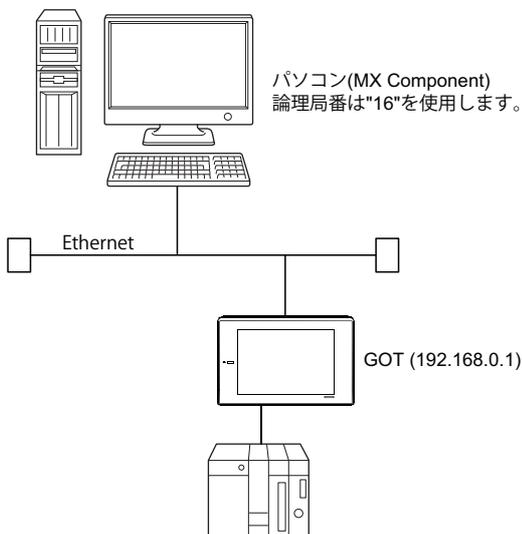


\*1 通信設定ユーティリティのホスト名(IPアドレス)およびActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

- (1) GOTオペレーティングマニュアル
- (2) 236ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 238ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 交信確認を行う

ゲートウェイ機能通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで交信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

- 正常時の場合  
C:¥>ping 192.168.0.1  
Reply from 192.168.0.1:bytes=32 time<10ms TTL=32
- 異常時の場合  
C:¥>ping 192.168.0.1  
Request timed out.

pingが通らない場合は、ケーブルおよびユニットの接続や、Windows側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 235ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"16"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: Ethernetボード  
接続先ユニットタイプ: GOT  
ポート番号: 5011  
タイムアウト: 60000



登録完了

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

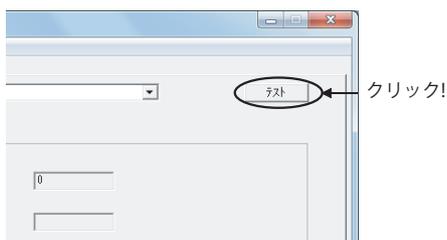
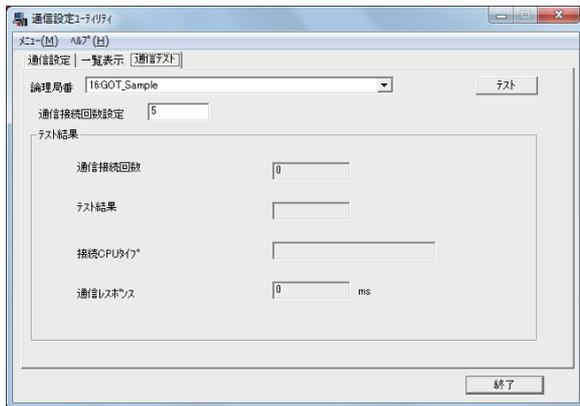
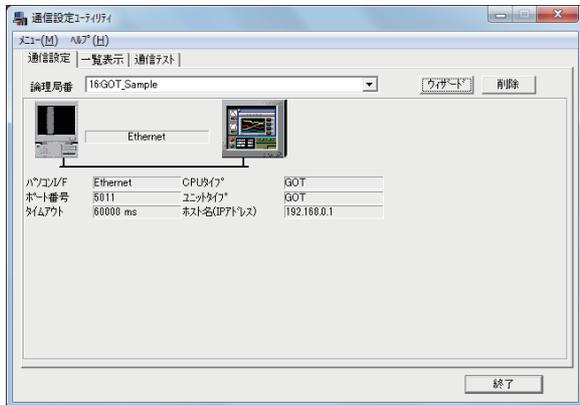
シーケンサ側I/F: Ethernetユニット  
ユニットタイプ: GOT  
ホスト名(IPアドレス):192.168.0.1

5. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番( 236ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、ゲートウェイ機能通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"16"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"16"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.20 GOTトランスペアレント通信

ユーティリティ設定タイプで、GOTトランスペアレント通信を行う手順、および設定例について説明します。

### Point

使用可能なシステム構成については、下記のマニュアルを参照してください。

📖 GOT2000 シリーズの各接続マニュアル

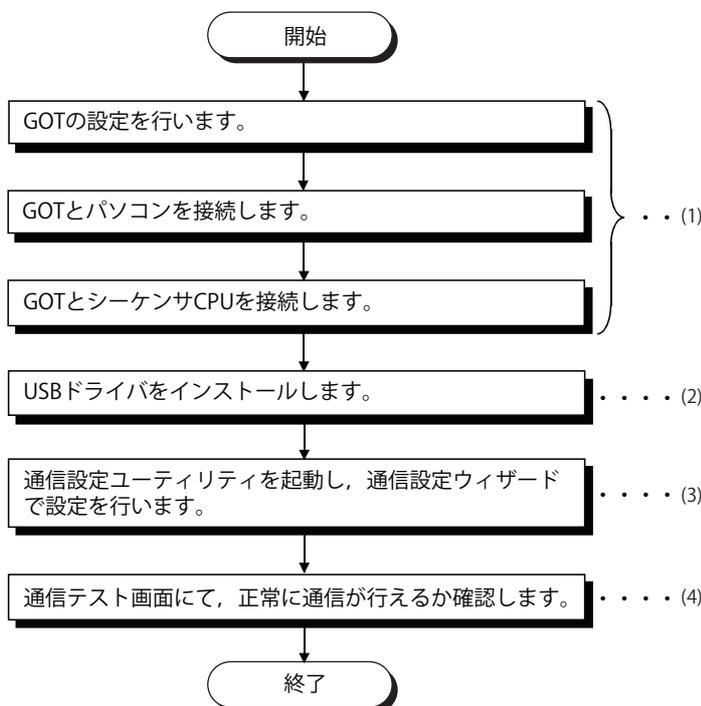
(三菱電機機器接続編, 他社機器接続編1, 他社機器接続編2, マイコン・MODBUS/フィールドバス・周辺機器接続編)

📖 GOT1000 シリーズの各接続マニュアル

(三菱電機機器接続編, 他社機器接続編1, 他社機器接続編2, マイコン・MODBUS・周辺機器接続編)

## アクセスまでの手順

GOTのトランスペアレント機能を使用してGOTにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



(1) 📖 GOTオペレーティングマニュアル

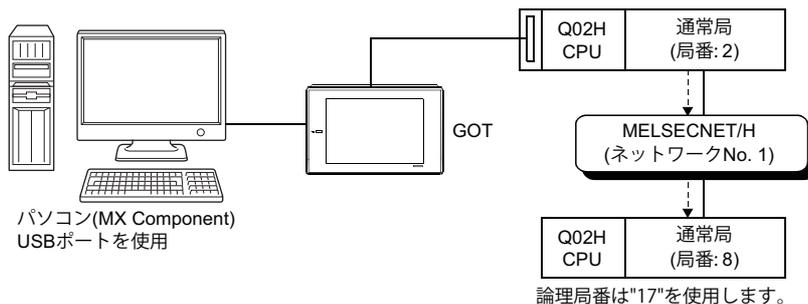
(2) 📄 421ページ USBドライバのインストール

(3) 📄 240ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

(4) 📄 243ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

## システム例

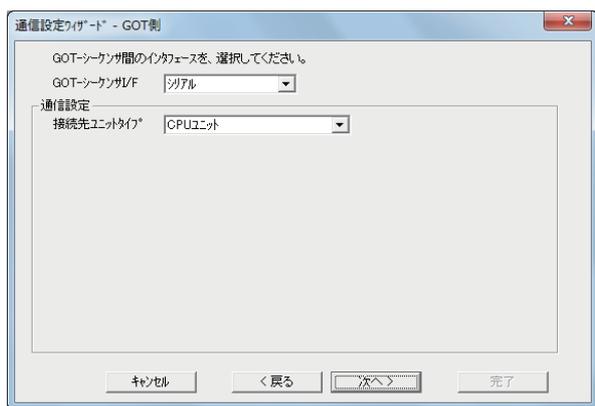
本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 239ページシステム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

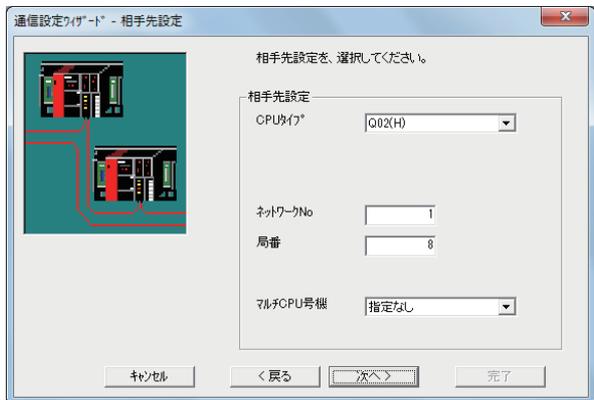
### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"17"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: USB(GOT経由)  
タイムアウト: 10000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
GOT - シーケンサI/F: シリアル  
接続先ユニットタイプ: CPUユニット



5. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 シーケンサ側I/F: CPUユニット  
 CPUタイプ: Q02(H)

6. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 局番タイプ: 他局  
 通信経路: MELSECNET/10(H)  
 モード: MELSECNET/H

7. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
 CPUタイプ: Q02(H)  
 ネットワークNo.: 1  
 局番: 8  
 マルチCPU号機: 指定なし



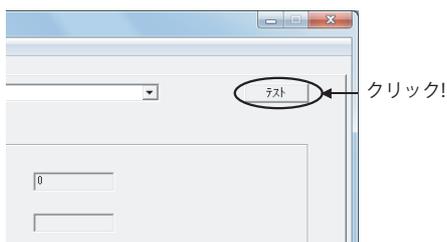
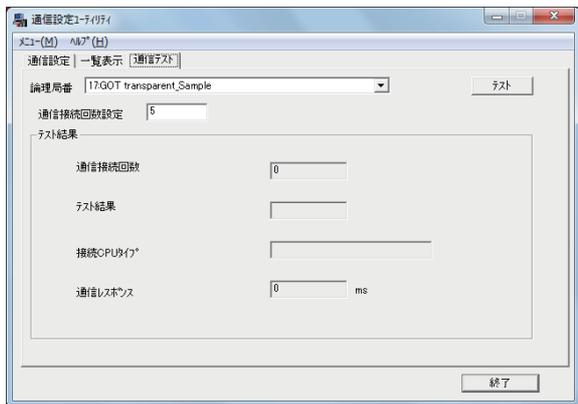
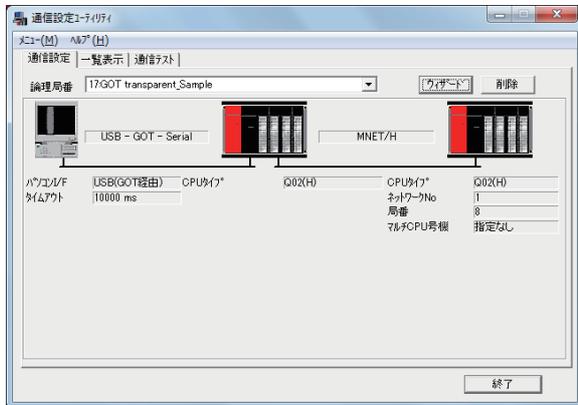
登録完了

8. コメントを入力し, [完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(240ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、GOTトランスペアレント通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"17"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"17"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

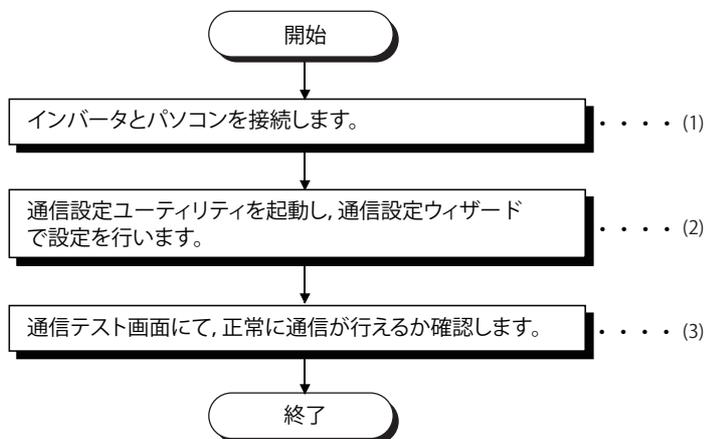
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.21 インバータCOM通信

ユーティリティ設定タイプで、インバータCOM通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

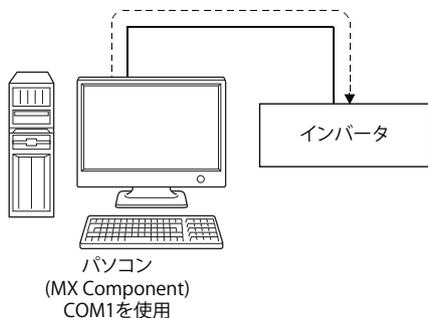
インバータCOM通信を使用してインバータにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 245ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 247ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 244ページ システム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"20"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

パソコン側I/F: シリアル  
接続ポート: COM1  
タイムアウト: 10000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

シーケンサ側I/F: インバータ  
インバータ: A800  
局番: 0  
伝送速度: 19200  
パリティ: Even  
データビット: 8  
ストップビット: 1  
デリミタ: CR  
送信待ち時間: 0



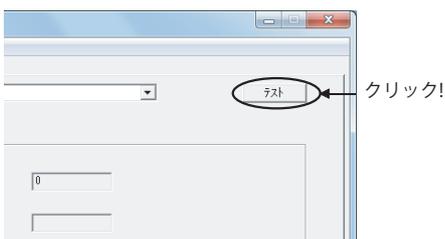
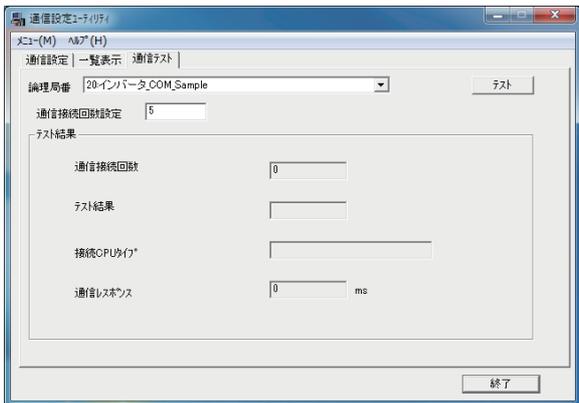
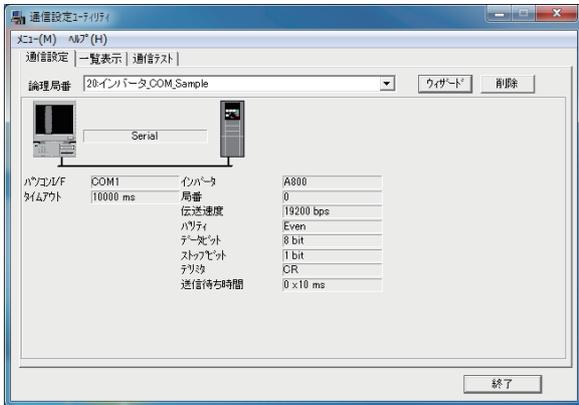
登録完了

5. コメントを入力し, [完了]ボタンをクリックします。

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(245ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、インバータCOM通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"20"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"20"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

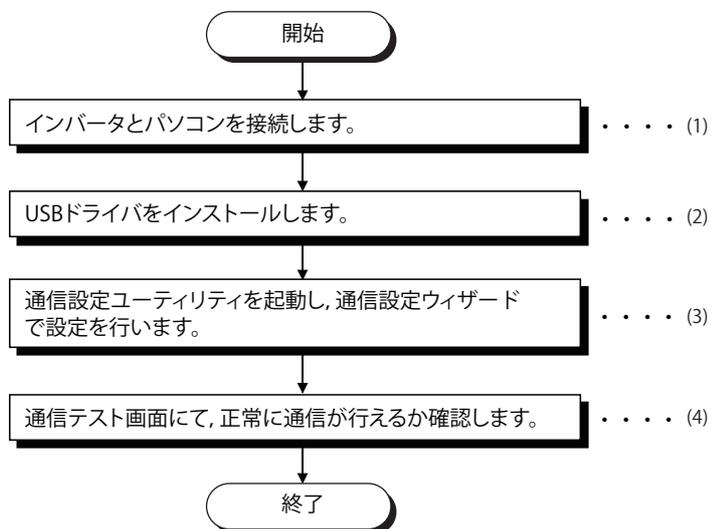
IMX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成で本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.22 インバータUSB通信

ユーティリティ設定タイプで、インバータUSB通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

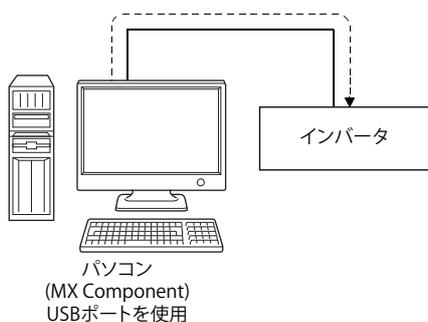
インバータUSB通信を使用してインバータにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 421ページ USBドライバのインストール
- (3) 249ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (4) 251ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

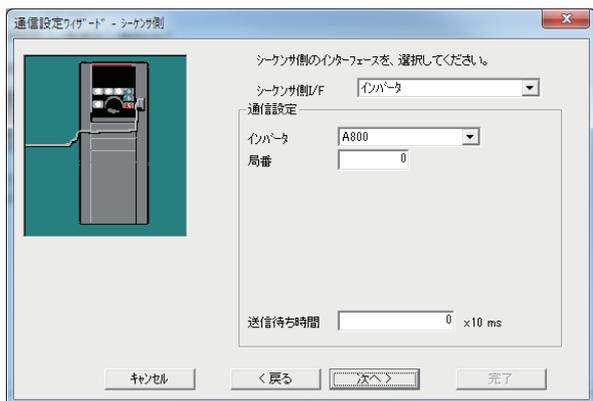
本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 248ページ システム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"24"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: USB  
タイムアウト: 10000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサ側I/F: インバータ  
インバータ: A800  
局番: 0  
送信待ち時間: 0



5. コメントを入力し, [完了]ボタンをクリックします。

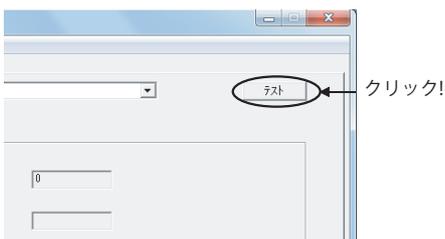
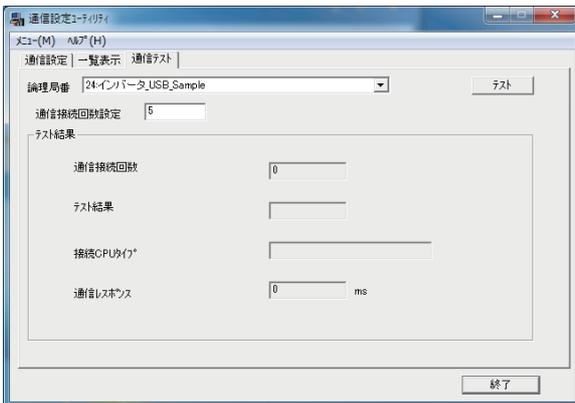
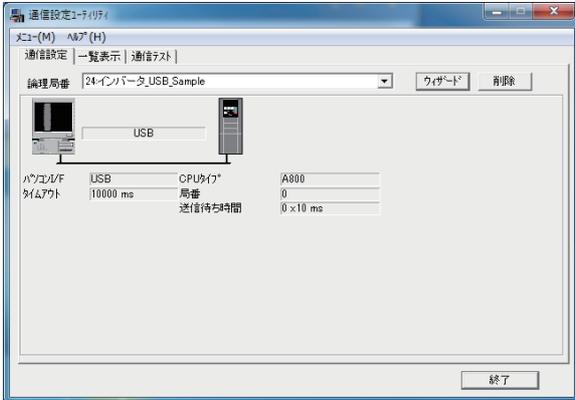


登録完了

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番( 249ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、インバータUSB通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"24"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"24"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

MX Component Version 4 プログラミングマニュアル  
以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。

ユーザプログラムの作成で本論理局番が使用可能になります。

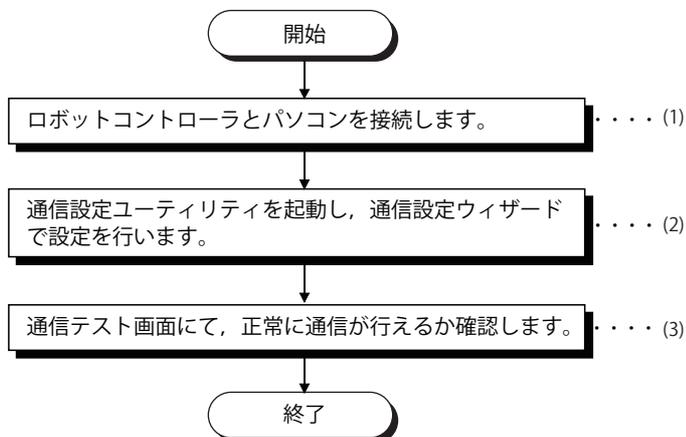
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.23 ロボットコントローラCOM通信

ユーティリティ設定タイプで、ロボットコントローラCOM通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

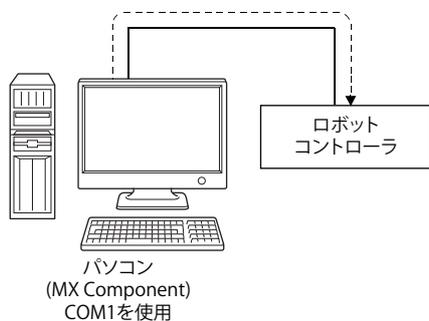
ロボットコントローラCOM通信を使用してロボットコントローラにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 253ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 255ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 252ページ システム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"22"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: シリアル  
接続ポート: COM1  
タイムアウト: 10000
4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサ側I/F: ロボットコントローラ  
コントローラ: CRnD-7xx/CR75x-D  
伝送速度: 19200  
パリティ: Even  
文字サイズ: 8  
ストップビット: 1  
送信タイムアウト時間: 5000  
受信タイムアウト時間: 30000  
リトライ回数: 3  
使用プロトコル: Procedural



5. コメントを入力し, [完了]ボタンをクリックします。

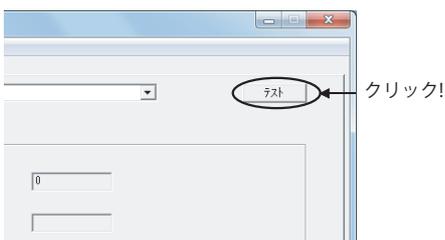
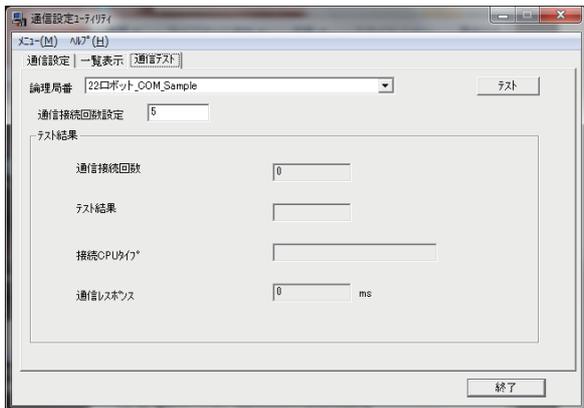


登録完了

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(253ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、ロボットコントローラCOM通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"22"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"22"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

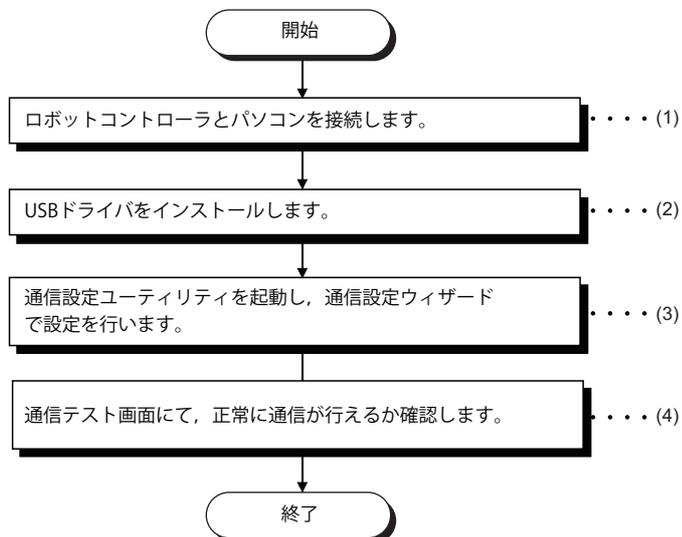
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成で本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.24 ロボットコントローラUSB通信

ユーティリティ設定タイプで、ロボットコントローラUSB通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

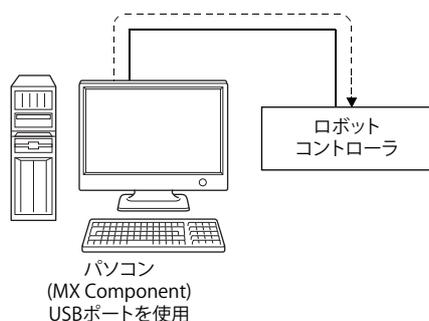
ロボットコントローラUSB通信を使用してロボットコントローラにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) 30ページ システム構成
- (2) 421ページ USBドライバのインストール
- (3) 257ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (4) 259ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

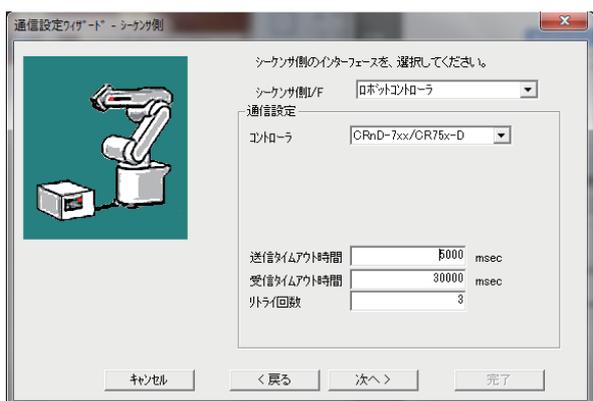
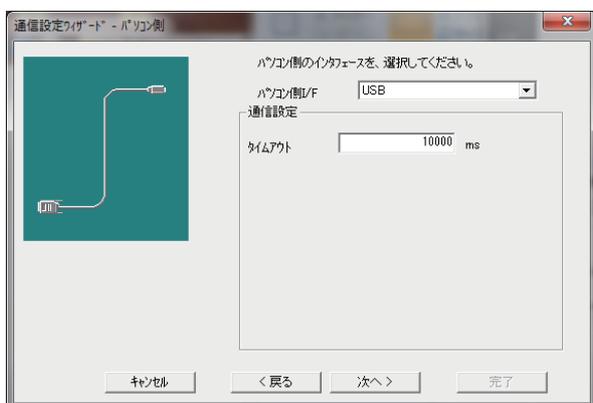
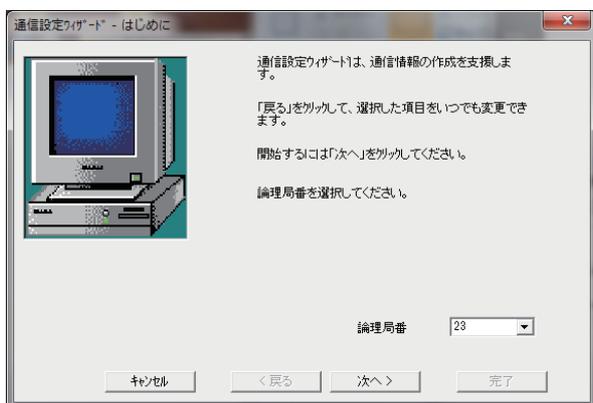
本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 256ページ システム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"23"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
パソコン側I/F: USB  
タイムアウト: 10000

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。  
シーケンサ側I/F: ロボットコントローラ  
コントローラ: CRnD-7xx/CR75x-D  
送信タイムアウト時間: 5000  
受信タイムアウト時間: 30000  
リトライ回数: 3



5. コメントを入力し, [完了]ボタンをクリックします。

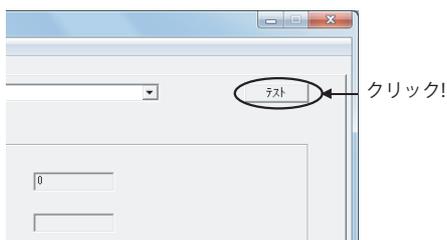
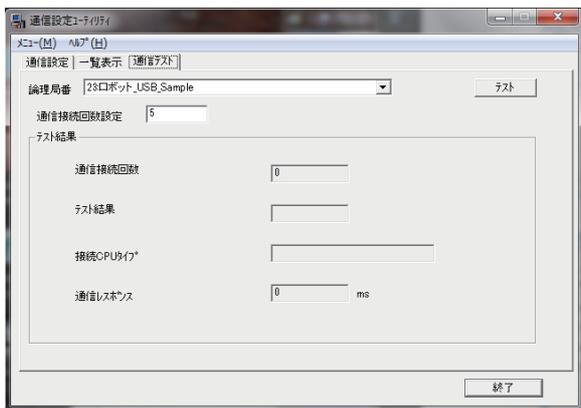
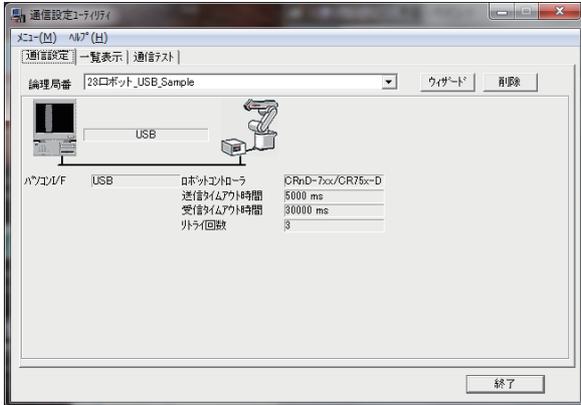


登録完了

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

本項で設定した論理局番(257ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定))を使用し、ロボットコントローラUSB通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"23"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"23"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

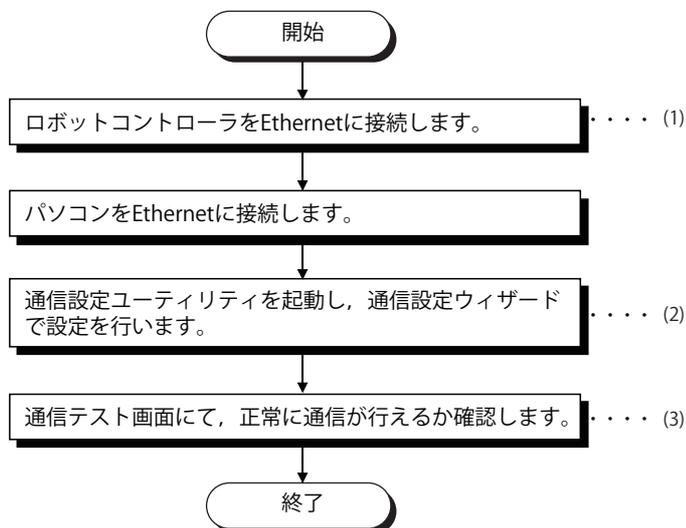
MX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成で本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

## 8.25 ロボットコントローラEthernet通信

ユーティリティ設定タイプで、ロボットコントローラEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。

### アクセスまでの手順

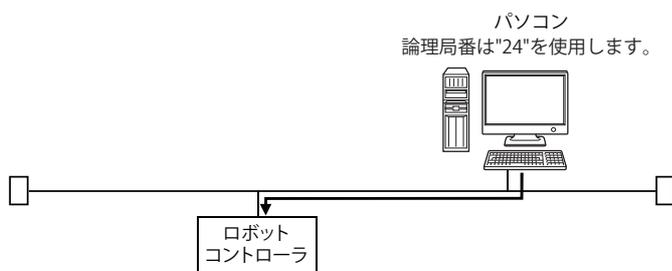
ロボットコントローラEthernet通信を使用してロボットコントローラにアクセスするまでの手順を、下記の順序で説明します。



- (1) ロボットコントローラのマニュアル
- (2) 261ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)
- (3) 263ページ 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

### システム例

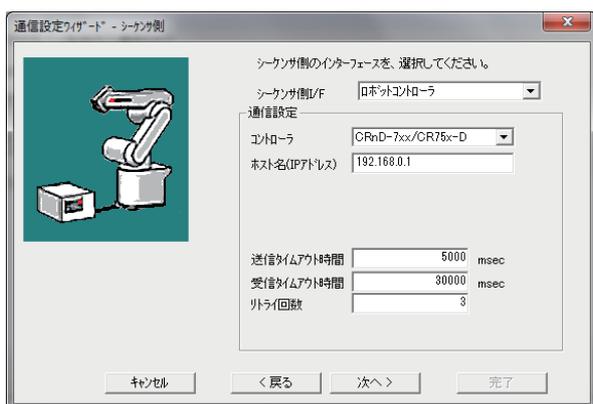
本項で使用するシステム例を下記に示します。



## 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)

本項のシステム例(☞ 260ページ システム例)を使用し、論理局番の設定について説明します。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動し、[ウィザード]ボタンをクリックします。
2. 論理局番に"24"を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

パソコン側I/F: Ethernetボード  
接続先ユニットタイプ: ロボットコントローラ  
ポート番号: 10001

4. 下記のように設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。

シーケンサ側I/F: ロボットコントローラ  
コントローラ: CRnD-7xx/CR75x-D  
ホスト名(IPアドレス): 192.168.0.1  
送信タイムアウト時間: 5000  
受信タイムアウト時間: 30000  
リトライ回数: 3



5. コメントを入力し, [完了]ボタンをクリックします。

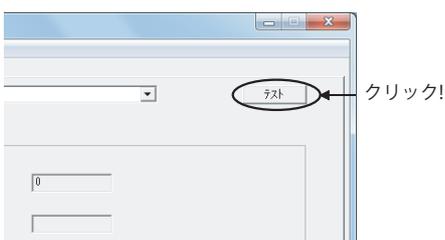
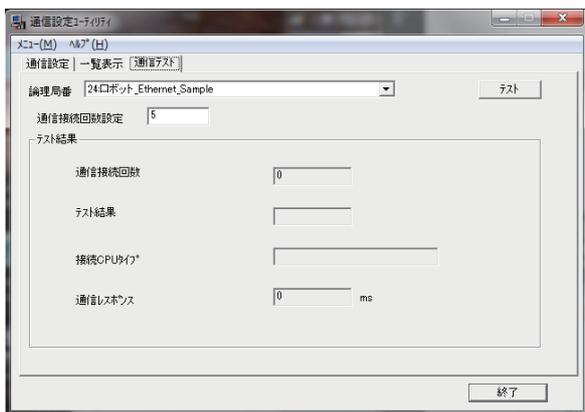
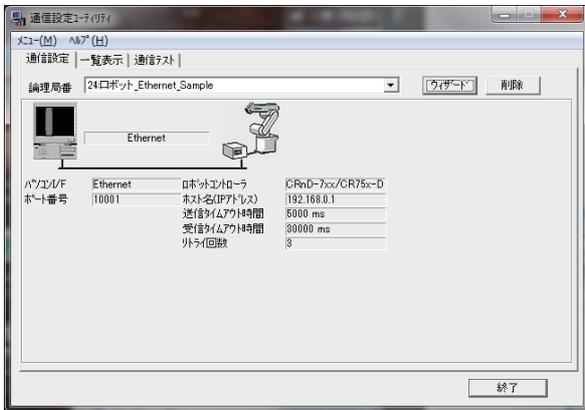


登録完了

## 論理局番の設定内容を確認する(通信テストを行う)

261ページ 論理局番を設定する(通信設定ウィザードの設定)で設定した論理局番を使用し、ロボットコントローラEthernet通信の設定が正しいか確認を行います。

### 操作手順



通信テスト完了

1. [通信設定]タブをクリックし、論理局番"24"を選択します。  
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。

2. [通信テスト]タブをクリックし、論理局番"24"を選択します。

3. [テスト]ボタンをクリックし、通信が正常に行われていることを確認します。  
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。  
エラーコードはテスト結果に表示されます。  
(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)  
エラーコードの詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

IMX Component Version 4 プログラミングマニュアル以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。  
ユーザプログラムの作成で本論理局番が使用可能になります。  
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

# 9 プログラム設定タイプの通信設定例

プログラム設定タイプで通信を行うためには、各ACTコントロールのプロパティを設定する必要があります。各ACTコントロールのプロパティは、プロパティウィンドウで直接入力、またはユーザプログラム内部でプロパティの設定変更を行ってください。

各ACTコントロールで設定必要なプロパティについての詳細は、下記のマニュアルを参照してください。

📖 MX Component Version 4 プログラミングマニュアル

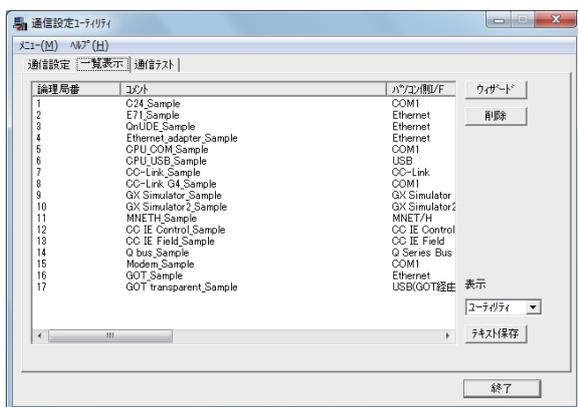
また、MX Componentを使用する際のユニットの設定については、下記を参照してください。

項目	参照
シリアルコミュニケーション通信	134ページシリアルコミュニケーション通信
Ethernet通信(Ethernetユニット使用時)	144ページ Ethernet通信(Ethernetユニット使用時)
CC-Link G4通信	179ページ CC-Link G4通信
モデム通信	217ページ モデム通信

## 通信設定ウィザードでプロパティを設定する

MX Componentでは、プロパティ設定に慣れていない人のために、下記に示すプロパティの設定方法を用意しています。

### 操作手順



1. 通信設定ユーティリティの"通信設定ウィザード"で、プロパティを設定する通信経路の設定を行います。通信設定ウィザードの詳細は、下記を参照してください。

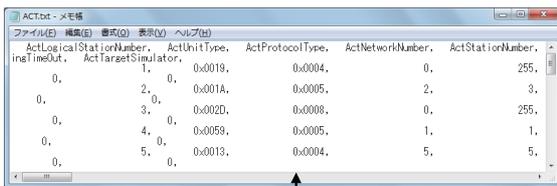
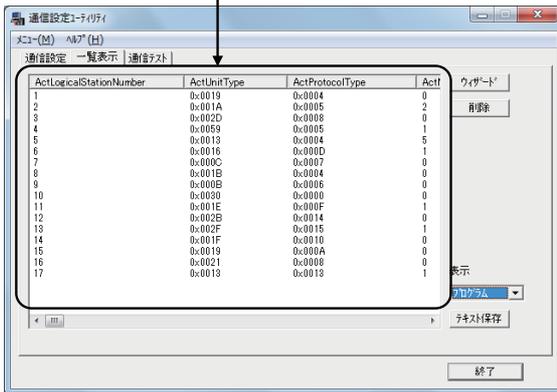
📖 98ページ 通信設定ウィザード画面の操作

2. [一覧表示]タブをクリックします。一覧表示画面の詳細は、下記を参照してください。

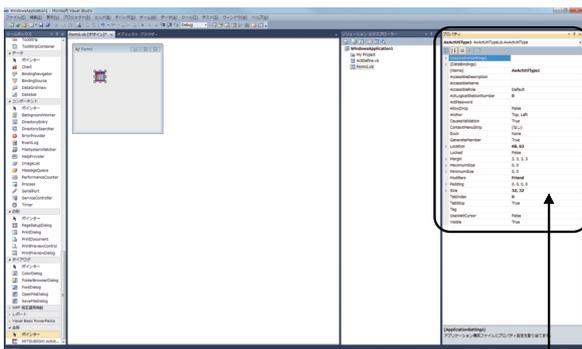
📖 94ページ 一覧表示画面の操作



使用すべきコントロール名と、  
設定が必要なプロパティを  
表示します。



.txt形式でファイルに  
保存します。



プロパティウィンドウで直接入力またはユーザ  
プログラム内部でプロパティの変更を行います。

3. 表示を"プログラム"に設定します。

4. スクロールバーを操作し、プロパティの確認を行って  
ください。

[テキスト保存]ボタンをクリックすることにより、.txt形式  
でファイルの保存を行うことが可能です。

5. ユーザプログラム作成の際に、確認を行ったプロパ  
ティ値をプロパティウィンドウのプロパティ値に直接  
入力、またはユーザプログラム内部でプロパティの設  
定変更を行ってください。

左記の画面は、Visual Basicを使用しています。

# 10 アクセス可能範囲

---

各通信形態におけるアクセス可能範囲について説明します。

## 10.1 アクセス時の注意事項

---

下記は、MX Componentでサポートしていません。指定しないようにしてください。

- アクセス可能デバイスの一覧表に記載されていないデバイス
- アクセス可能範囲の一覧表に記載されていない接続局CPUおよび経由局CPU

## 10.2 シリアルコミュニケーション通信時

シリアルコミュニケーション通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

### アクセス可能デバイス

シリアルコミュニケーション通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

#### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	×	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	×	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	×	○	×	×
エッジリレー (V)		○	×	○	○	×	○	×	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○ <sup>*2</sup>	○	×	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○ <sup>*2</sup>	○	×	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	コイル(TC)	○	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(TN)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	コイル(CC)	○	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(CN)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	×	○	×	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	×	○	×	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	×	○	×	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	×	○	×	×
ステップリレー (S)		×	×	×	×	×	×	×	○ <sup>*1</sup>
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	○ <sup>*1</sup>
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	○ <sup>*4</sup>
	(ZR)	○	○	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (J*¥SW)	○	○	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○ <sup>*5</sup>	○	○	○	×

\*1 FX拡張ポート使用時、FX0CPU, FX0SCPU, FX1CPU, FX2CPU, FX2CCPUに対してはアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*3 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*4 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。  
FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみ、拡張レジスタ(R)指定が可能です。

\*5 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読み出しは行えません。  
また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書き込みは行えません。

## アクセス先がモーションCPUの場合

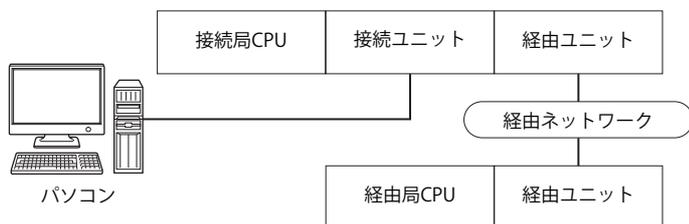
デバイス(デバイス名)	アクセス先			
	R16MT/R32MT	Q172/Q173/ Q172H/Q173H	Q172D/Q173D	Q172DS/Q173DS
入力リレー (X)	○	○	○	○
出力リレー (Y)	○	○	○	○
内部リレー (M)	○	○	○	○
ラッチリレー (L)	×	○	×	×
アナンシェータ(F)	○	○	○	○
リンクリレー (B)	○	○	○	○
データレジスタ(D)	○	○	○	○
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○
デバイス特殊M(SPM)	×	○	×	×
デバイス特殊D(SPD)	×	○	×	×
モーションデバイス(#)	○	○	○	○
フリーランタイム(FT)	×	×	×	×
特殊レジスタ(SD)	○	×	○	○
特殊リレー (SM)	○	×	○	○
CPUバッファメモリアクセスデバイス	マルチCPU間共有デバイス (U3En¥G)	×	×	○ <sup>*1</sup>
	CPUバッファメモリ (U3En¥G)	○	×	×
	CPUバッファメモリ定周期通信エリア(U3En¥HG)	○	×	×
ユニットアクセスデバイス(U*¥G)	○	×	×	×

\*1 マルチCPU構成時，自号機の共有メモリから読出しは行えません。  
また，自号機/他号機にかかわらず，共有メモリへの書込みは行えません。

# アクセス可能範囲

シリアルコミュニケーション通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	○	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○*2	○	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×
		マルチドロップ(独立モード)	○	×	×	×	×
		マルチドロップ(連動モード)*6	○	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Q モード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーシヨン CPU	FXCPU
RCPU	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	×	○*2	×	×	×
		MELSECNET/H	○	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	×	○	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)	○	×	○	×	×	×
		マルチドロップ(連動モード)*6	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU
RCCPU*3	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCCPU*3	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RモーションCPU*3*8	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RモーションCPU*3*8	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード), QCCPU*3	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(連動モード)*6	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード), QCCPU*3	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*1	○*2	○*1	○*1	×
		MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
		Ethernet	○	×	×	○	○	×
		シリアルコミュニケーション	○*4	×	○	×	○	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	○*5
		マルチドロップ(独立モード)	○*4	×	○	×	×	×
		マルチドロップ(連動モード)*6	○*4	×	○	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
QモーションCPU	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QモーションCPU	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
		マルチドロップ(独立モード)	×	×	×	×	×	
		マルチドロップ(連動モード)	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○*1	○	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○*4	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)	○*4	×	○	×	×	×
		マルチドロップ(連動モード)	○*4	×	○	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
FXCPU	FX拡張ポート	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FXCPU	FX拡張ポート	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	○ <sup>*7</sup>
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

- \*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*2 RCPU, LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
- \*3 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。
- \*4 二重化CPUの場合, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。
- \*5 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。
- \*6 Rシリーズ対応C24, Qシリーズ対応C24のパラメータの伝送仕様ソフトウェアスイッチ設定"SW6(サムチェック)"は, 必ず"あり"にしてください。
- \*7 FX0CPU, FX0SCPU, FX1CPU, FX2CPU, FX2CCPUはアクセスできません。
- \*8 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

# 10.3 Ethernet通信時

Ethernet通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

Ethernet通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU* 1	FXCPU* 2
ファンクション入力(FX)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー(SM)		○	○	○	○	○	○	○	○	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	○	○	×
入力リレー(X)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
出力リレー(Y)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
内部リレー(M)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
ラッチリレー(L)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
エッジリレー(V)		○	×	○	×	○	×	○	○	×
リンクリレー(B)		○	○	○	○	○	○ <sup>*3</sup>	○	○	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○	○ <sup>*3</sup>	○	○	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	コイル(TC)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	現在値(TN)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	コイル(CC)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	現在値(CN)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
ステップリレー(S)		×	×	×	○	×	×	×	×	○
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×	○
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU(Q モード)	QCCPU	LCPU	QSCPU <sup>*1</sup>	FXCPU <sup>*2</sup>
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○	○ <sup>*4</sup>	×	○	×	○
	(ZR)	○	○	○	×	○ <sup>*4</sup>	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (J*¥SW)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
ユニットアクセスデバイス(U*¥G)		○	○	○	○	○ <sup>*5</sup>	○	○	○	○

\*1 書き込むことはできません。

\*2 対応するFXCPUおよびデバイスについては、ご使用のEthernetユニットおよび設定ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

\*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*4 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*5 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書き込みは行えません。

## アクセス先がRnSFCPUの場合

RnSFCPUは、下記の安全デバイスにもアクセス可能です。

セーフティモードでは、読出しのみ可能です。書込みはできません。エラーが発生します。

デバイス(デバイス名)	アクセス先
	RnSFCPU
安全入力(SA¥X)	○
安全出力(SA¥Y)	○
安全内部リレー (SA¥M)	○
安全リンクリレー (SA¥B)	○
安全タイマ(SA¥T)	○
安全積算タイマ(SA¥ST)	○
安全カウンタ(SA¥C)	○
安全データレジスタ(SA¥D)	○
安全リンクレジスタ(SA¥W)	○
安全特殊リレー (SA¥SM)	○
安全特殊レジスタ(SA¥SD)	○

## アクセス先がモーションCPUの場合

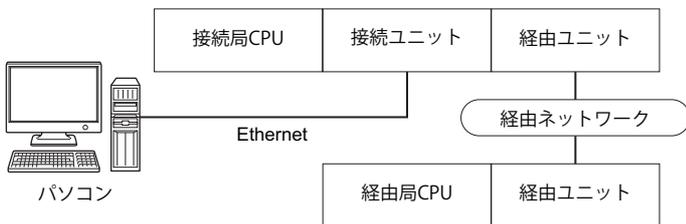
モーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

# アクセス可能範囲(Ethernetユニット使用時)

Ethernetユニットを使用するEthernet通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

### Point

GX Works2/GX Works3のパラメータ設定でEthernet/パラメータを設定する必要があります。

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCPU, RモーションCPU <sup>*4*7</sup>	Rシリーズ対応E71 <sup>*8</sup>	CC IE TSN	○	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	○	×	○	×	×	
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	
		CC-Link	○	○	○	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU, RモーションCPU <sup>*4*7</sup>	Rシリーズ対応E71 <sup>*8</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	×	○	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCCPU <sup>*4</sup>	Rシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーショ ンCPU	FXCPU
RCCPU*4	Rシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	Rモーショ ンCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCPU(Qモード), QCCPU*4	Qシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーショ ンCPU	FXCPU
QCPU(Qモード), QCCPU*4	Qシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	○*2	○*2	×
		MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
		Ethernet	○*5	×	×	○	○	×
		シリアルコミュニケーション	○*6	×	○	×	○	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	Rモーショ ンCPU	LHCPU	FX5CPU	
QSCPU*1, Qモーショ ンCPU*4*5	Qシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーショ ンCPU	FXCPU
QSCPU*1, Qモーショ ンCPU*4*5	Qシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	Lシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Q モード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU <sup>*5</sup>	FXCPU
LCPU	Lシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*3</sup>	○ <sup>*1*2</sup>	○ <sup>*2</sup>	×
		MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
		Ethernet	○	×	○	○ <sup>*1</sup>	○	×
		シリアルコミュニケーション	○ <sup>*6</sup>	×	○ <sup>*6</sup>	×	○ <sup>*6</sup>	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	×

\*1 QSCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*4 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*5 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。

\*6 二重化CPUの場合, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

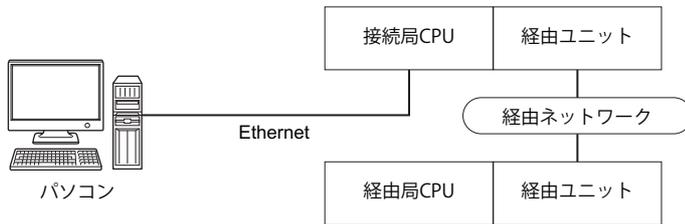
\*7 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*8 Rシリーズ対応E71と直結接続で接続している場合, 経由局CPUにアクセスできません。

# アクセス可能範囲(Ethernet内蔵形CPU使用時)

Ethernet内蔵形CPUを使用するEthernet通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

### Point

Ethernet内蔵形CPUでTCP/IPを使用する場合は、GX Works2/GX Works3のPCパラメータ設定でEthernetパラメータを設定する必要があります。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU	CC IE TSN	○	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○ <sup>*2</sup>	○	×	×	○ <sup>*8</sup>
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	×	○ <sup>*2</sup>	×	×	×
	MELSECNET/H	○	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCCPU <sup>*5</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○ <sup>*2</sup>	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RCCPU*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
RモーシヨCPU*5*7	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RモーシヨCPU*5*7	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
LHCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
LHCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○*8
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QnUDE(H)CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QnUDE(H)CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*1	○*2	○*1	○*1	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	○	×	×	○	○	×
	シリアルコミュニケーション	○*3	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU*4*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QCCPU*4*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*1	○*2	○*1	○*1	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QモーシヨCPU*5*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QモーシヨCPU*5*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○*3	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

\*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーシヨCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*2 RCPU, LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*3 二重化CPUの場合, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

\*4 QCCPUはMELSOFT直結接続に対応していません。Ethernetポート直結接続ではアクセスできません。

\*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*6 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。

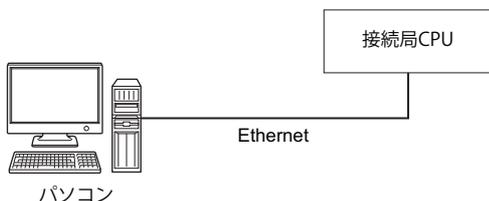
\*7 RモーシヨCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

\*8 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(ロギングファイル転送-Ethernet内蔵形CPU使用時)

Ethernet内蔵形CPUを使用するロギングファイル転送時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

本項に記載のある接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

### Point

Ethernet内蔵形CPUでTCP/IPを使用する場合は、GX Works3でCPUのユニットパラメータを設定する必要があります。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LHCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

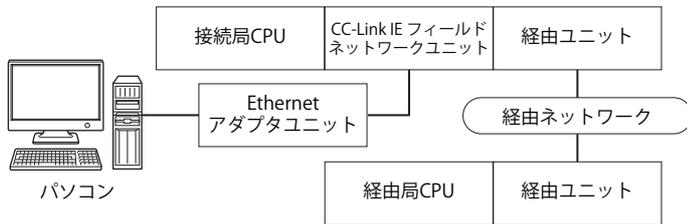
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LHCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 RnPCPU(二重化モード)は対応していません。

# アクセス可能範囲(Ethernetアダプタユニット使用時)

Ethernetアダプタユニットを使用するEthernet通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QnUDE(H)CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QnUDE(H)CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*1	○*2	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

- \*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*2 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

# アクセス可能範囲(Ethernetアダプタ使用時)

Ethernetアダプタを使用するEthernet通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
FXCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

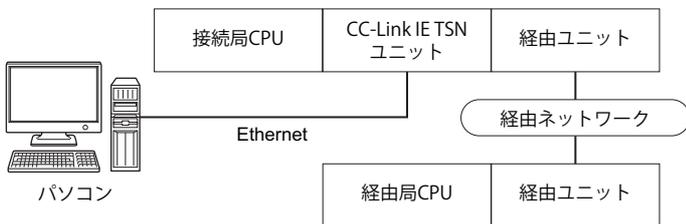
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FXCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 FX3SCPU, FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(CC-Link IE TSNユニット使用時)

CC-Link IE TSNユニットを使用するEthernet通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU*1	CC IE TSN	○	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	×	×	×
	CC-Link	○	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 CC-Link IE TSNユニットへの直結接続によるアクセスは未サポートです。

# 10.4 CPU COM通信時

CPU COM通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

CPU COM通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	○	×	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	○	×	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	○	×	○
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	○	×	○
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	○	×	○
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
エッジリレー (V)		○	×	○	×	○	×	○	×	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○	○ <sup>*1</sup>	○	×	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	○	×	○
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○	○ <sup>*1</sup>	○	×	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	コイル(TC)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	現在値(TN)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	コイル(CC)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	現在値(CN)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	○	×	○	×	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	○	×	○	×	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	○	×	○	×	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
ステップリレー (S)		×	×	×	○	×	×	×	×	○
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×	○
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○	○ <sup>*2</sup>	×	○	×	○ <sup>*3</sup>
	(ZR)	○	○	○	×	○ <sup>*2</sup>	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (J*¥SW)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
ユニットアクセスデバイス(U*¥G)		○	○	○	○	○ <sup>*4</sup>	○	○	○	○ <sup>*5</sup>

\*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*2 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*3 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。  
FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみ、拡張レジスタ(R)指定が可能です。

\*4 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

\*5 FX3U(C)CPUの場合のみアクセス可能です。

## アクセス先がモーションCPUの場合

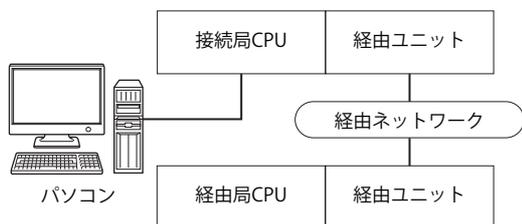
モーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

# アクセス可能範囲

CPU COM通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○*7
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード), QCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QCPU(Qモード), QCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*1	○*2	○*1	○*1	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	○	×	×	○	○	×
	シリアルコミュニケーション	○*4	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	○*5

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QモーシヨCPU*3*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QモーシヨCPU*3*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○*5

\*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*2 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*3 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。

\*4 二重化CPUの場合, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

\*5 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

\*6 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*7 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

# 10.5 CPU USB通信時

CPU USB通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

CPU USB通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU (FX5UJ)	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU*1	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	○	○	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	○	○	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	○	○	○*2
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	○	○	○*2
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	○	○	○*2
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
エッジリレー (V)		○	×	○	×	○	×	○	○	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○	○*3	○	○	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	○	○	○*2
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○	○*3	○	○	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	○	×	○	○	○*2
	コイル(TC)	○	×	○	○	○	×	○	○	○*2
	現在値(TN)	○	×	○	○	○	×	○	○	○*2
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	○	×	○	○	○*2
	コイル(CC)	○	×	○	○	○	×	○	○	○*2
	現在値(CN)	○	×	○	○	○	×	○	○	○*2
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
ステップリレー (S)		×	×	×	○	×	×	×	×	○*2
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	○	×	○	×	○*2
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×	○*2
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU (FX5UJ)	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU*1	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○	○*4	×	○	×	○*2
	(ZR)	○	○	○	×	○*4	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (J*¥SW)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○	○*5	○	○	○	×

\*1 書き込むことはできません。

\*2 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。  
FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみ、拡張レジスタ(R)指定が可能です。

\*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*4 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*5 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。  
また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

## アクセス先がRnSFCPUの場合

RnSFCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 276ページ アクセス先がRnSFCPUの場合

## アクセス先がモーションCPUの場合

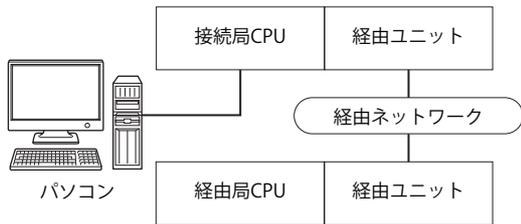
モーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

# アクセス可能範囲

CPU USB通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU, RモーションCPU <sup>*4*9</sup>	CC IE TSN	○	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○ <sup>*3</sup>	○	×	×	○ <sup>*5</sup>
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU, RモーションCPU <sup>*4*9</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	×	○ <sup>*3</sup>	×	×	×
	MELSECNET/H	○	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LHCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
LHCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
FX5CPU*10	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○*11
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
FX5CPU*10	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード), QSCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QCPU(Qモード), QSCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	○*2	○*2	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	○	×	×	○	○	×
	シリアルコミュニケーション	○*6	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	○*7

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	○*2	○*2	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○*6	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QモーションCPU*8	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QモーションCPU*8	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○ <sup>*7</sup>

\*1 QSCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*3 RCPU, LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*4 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*5 接続局CPUがRCPUのCC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

\*6 二重化CPUの場合, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

\*7 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

\*8 Q172, Q173, Q172H, Q173H以外は, マルチCPU構成時の2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*9 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

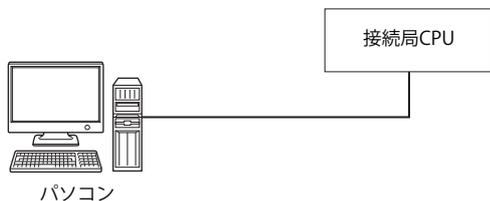
\*10 FX5UJCPUのみアクセス可能です。

\*11 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(ロギングファイル転送)

USB接続でのロギングファイル転送時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

本項に記載のある接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LHCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LHCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 RnPCPU(二重化モード)は対応していません。

# 10.6 CC-Link通信時

CC-Link通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

CC-Link通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### 他局アクセス時

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	×	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	×	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	×	○	×	×
エッジリレー (V)		○	×	○	○	×	○	×	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○ <sup>*2</sup>	○	×	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○ <sup>*2</sup>	○	×	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	コイル(TC)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	現在値(TN)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	コイル(CC)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	現在値(CN)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	×	○	×	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	×	○	×	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	×	○	×	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	×	○	×	×
ステップリレー (S)		×	×	×	×	×	×	×	○ <sup>*1</sup>
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	○ <sup>*1</sup>
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×
	(ZR)	○	○	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (J*¥SW)	○	○	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○ <sup>*4</sup>	○	○	×	○ <sup>*5</sup>

\*1 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*3 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*4 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

\*5 FX3U(C)CPUの場合のみアクセス可能です。

## 自ボードアクセス時

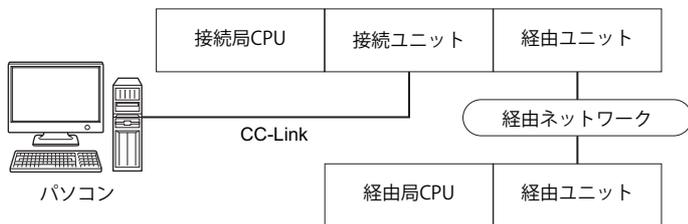
自ボードアクセス時のみ、下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リンク特殊リレー (CC-Link用)	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ(CC-Link用)	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	RX
リモート出力	Y	RY
リモートレジスタ(CC-Link用書込みエリア)	WW	RWw
リモートレジスタ(CC-Link用読出しエリア)	WR	RWr
バッファメモリ	ML	自局CC-Linkユニットのバッファメモリ
ランダムアクセスバッファ	MC	自局CC-Linkユニットのバッファメモリにあるランダムアクセスバッファ

# アクセス可能範囲

CC-Link通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード(CC-Link Ver.2ボード)はすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU	CC IE TSN	○	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	×	○ <sup>*3</sup>	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード), QモーションCPU <sup>*1*4</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード), QモーションCPU <sup>*1*4</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*3</sup>	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*2</sup>	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	○	×	×	○	○	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU <sup>*5</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU <sup>*5</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○ <sup>*2</sup>	×	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*2</sup>	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 QモーションCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*4 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*5 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

# 10.7 CC-Link G4通信時

CC-Link G4通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

CC-Link G4通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー(SM)		○	○	○	○	○	○	×	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	×	×
入力リレー(X)		○	○	○	○	○	○	×	×
出力リレー(Y)		○	○	○	○	○	○	×	×
内部リレー(M)		○	○	○	○	○	○	×	×
ラッチリレー(L)		○	×	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	×	○	×	×
エッジリレー(V)		○	×	○	○	×	○	×	×
リンクリレー(B)		○	○	○	○	○ <sup>*1</sup>	○	×	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	×	×
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○ <sup>*1</sup>	○	×	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	×	○	×	×
	コイル(TC)	○	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(TN)	○	×	○	○	×	○	×	×
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	×	○	×	×
	コイル(CC)	○	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(CN)	○	×	○	○	×	○	×	×
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	×	○	×	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	×	○	×	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)		○	×	○	○	×	○	×	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	×	○	×	×
ステップリレー(S)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	×	○	×	×
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○*2	×	○	×	×
	(ZR)	○	○	○	○*2	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (J*¥SW)	○	○	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○	○	○	○	×

\*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*2 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

## アクセス先がモーションCPUの場合

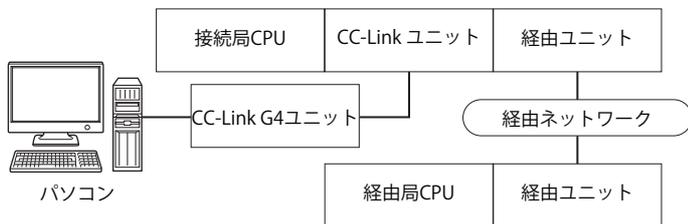
モーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

# アクセス可能範囲

CC-Link G4通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード), QモーションCPU <sup>*1*5</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード), QモーションCPU <sup>*1*5</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*3</sup>	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*2</sup>	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	○	×	×	○	○	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU <sup>*4</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU*4	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	○*2	○*2	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	○	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*4 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

\*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

# 10.8 MELSECNET/H通信時

MELSECNET/H通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

MELSECNET/H通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU*1	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	○	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	○	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	○	×
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	○	×
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	○	×
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	×	○	○	×
エッジリレー (V)		○	×	○	○	×	○	○	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○*2	○	○	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	○	×
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○*2	○	○	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(TC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(TN)	○	×	○	○	×	○	○	×
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(CC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(CN)	○	×	○	○	×	○	○	×
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	×	○	○	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	×	○	○	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	×	○	○	×
ステップリレー (S)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	×	○	×	×
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU*1	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○*3	×	○	×	×
	(ZR)	○	○	○	○*3	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	○	○	○	×	×
リンク特殊レジスタ(J*¥SW)		○	○	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○*4	○	○	×	×

\*1 書き込むことはできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*3 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*4 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。  
また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

## 自ボードアクセス時

自ボードアクセス時のみ、下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リンクリレー	B	自ボードのリンクリレー
リンクレジスタ	W	自ボードのリンクレジスタ
リンク特殊リレー	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	LX
リモート出力	Y	LY

## アクセス先がモーションCPUの場合

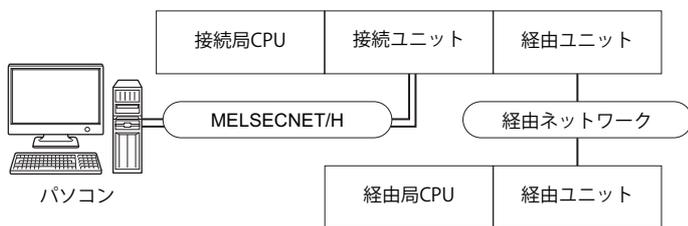
モーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

# アクセス可能範囲

MELSECNET/H通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード(MELSECNET/Hボード)はすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード), QSCPU <sup>*1*6</sup> , QモーションCPU <sup>*1*6</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H <sup>*4</sup>	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード), QSCPU <sup>*1*6</sup> , QモーションCPU <sup>*1*6</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*3</sup>	○ <sup>*2</sup>	×	×
	MELSECNET/H <sup>*4</sup>	○	○	×	○	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	×
	シリアルコミュニケーション	○ <sup>*5</sup>	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU <sup>*7</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H <sup>*4</sup>	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU*7	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H*4	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

\*1 QSCPU, QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*4 接続局のMELSECNET/HユニットがMELSECNET/Hモード時にアクセス可能です。

\*5 二重化CPUの場合, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

\*6 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*7 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

# 10.9 CC-Link IEコントローラネットワーク通信時

CC-Link IEコントローラネットワーク通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

CC-Link IEコントローラネットワーク通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU*1	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	○	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	○	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	○	×
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	○	×
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	○	×
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	×	○	○	×
エッジリレー (V)		○	×	○	○	×	○	○	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○*2	○	○	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	○	×
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○*2	○	○	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(TC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(TN)	○	×	○	○	×	○	○	×
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(CC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(CN)	○	×	○	○	×	○	○	×
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	×	○	○	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	×	○	○	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	×	○	○	×
ステップリレー (S)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	×	○	×	×
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU <sup>*1</sup>	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×
	(ZR)	○	○	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	○	○	○	×	×
リンク特殊レジスタ(J*¥SW)		○	○	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○ <sup>*4</sup>	○	○	×	×

\*1 書き込むことはできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*3 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*4 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

## 自ボードアクセス時

自ボードアクセス時のみ、下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リンクリレー	B	自ボードのリンクリレー
リンクレジスタ	W	自ボードのリンクレジスタ
リンク特殊リレー	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	LX
リモート出力	Y	LY
バッファメモリ	ML	自ボードのバッファメモリ

## アクセス先がモーションCPUの場合

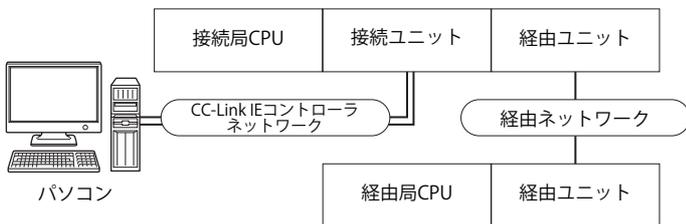
モーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

# アクセス可能範囲

CC-Link IEコントローラネットワーク通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード(CC-Link IEコントローラネットワークボード)はすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○*8	×	×	×	×
	CC-Link	○	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU*6	FXCPU
RCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○*8	×	○*8	×	×	×
	CC-Link	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード), QSCPU*1*6, QモーションCPU*1*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H*4	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード), QSCPU <sup>*1*6</sup> , QモーションCPU <sup>*1*6</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*3</sup>	○ <sup>*2</sup>	×	×
	MELSECNET/H <sup>*4</sup>	○	○	×	○	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	×
	シリアルコミュニケーション	○ <sup>*5</sup>	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU <sup>*7</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H <sup>*4</sup>	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU <sup>*7</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H <sup>*4</sup>	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

\*1 QSCPU, QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*4 接続局のMELSECNET/HユニットがMELSECNET/Hモード時にアクセス可能です。

\*5 二重化CPUの場合, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

\*6 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

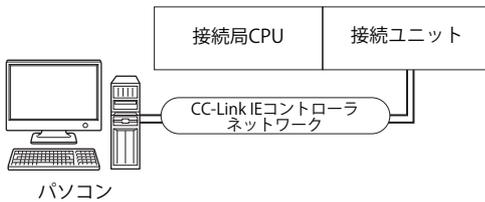
\*7 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

\*8 二重化CPUの場合, マルチドロップ接続ができないため, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

# アクセス可能範囲(ロギングファイル転送)

CC-Link IEコントローラネットワーク通信でのロギングファイル転送時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

本項に記載のある接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RnCPU, RnENCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RnCPU, RnENCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

# 10.10 CC-Link IEフィールドネットワーク通信時

CC-Link IEフィールドネットワーク通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

CC-Link IEフィールドネットワーク通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU*1	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	○	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	○	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	○	×
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	○	×
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	○	×
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	×	○	○	×
エッジリレー (V)		○	×	○	○	×	○	○	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○*2	○	○	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	○	×
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○*2	○	○	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(TC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(TN)	○	×	○	○	×	○	○	×
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(CC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(CN)	○	×	○	○	×	○	○	×
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	×	○	○	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	×	○	○	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	×	○	○	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	×	○	○	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	×	○	○	×
ステップリレー (S)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	×	○	×	×
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU <sup>*1</sup>	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×
	(ZR)	○	○	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ(J*¥SW)	○	○	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○ <sup>*4</sup>	○	○	×	×

\*1 書き込むことはできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*3 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*4 マルチCPU構成時, 自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また, 自号機/他号機にかかわらず, 共有メモリへの書込みは行えません。

## 自ボードアクセス時

自ボードアクセス時のみ, 下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リモートレジスタ	W	W0000~W1FFF=RWw0~RWw1FFF 自ボードのリモートレジスタ(送信用) W2000~W3FFF=RWr0~RWr1FFF 自ボードのリモートレジスタ(受信用)
リンク特殊リレー	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	RX
リモート出力	Y	RY
バッファメモリ	ML	自ボードのバッファメモリ

## アクセス先がモーションCPUの場合

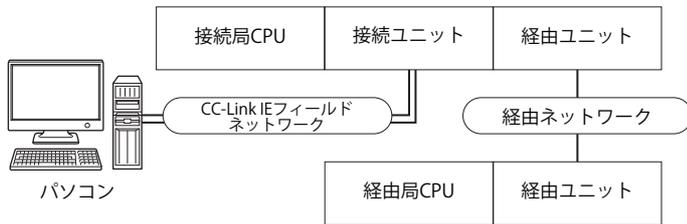
モーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は, 下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

# アクセス可能範囲

CC-Link IEフィールドネットワーク通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード(CC-Link IEフィールドネットワークボード)はすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○*3	×	×	×	×
	CC-Link	○	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○*3	×	○*3	×	×	×
	CC-Link	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモードCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*1	○*2	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモードCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモードCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	×	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

\*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*2 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*3 二重化CPUの場合、マルチドロップ接続ができないため、基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

# 10.11 Qシリーズバス通信時

Qシリーズバス通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

Qシリーズバス通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

デバイス(デバイス名)		アクセス先
		Q02(H), Q06H, Q12H, Q25H, Q02PH, Q06PH, Q12PH, Q25PH
ファンクション入力(FX)		○
ファンクション出力(FY)		○
ファンクションレジスタ(FD)		○
特殊リレー (SM)		○
特殊レジスタ(SD)		○
入力リレー (X)		○
出力リレー (Y)		○
内部リレー (M)		○
ラッチリレー (L)		○
アナンシェータ(F)		○
エッジリレー (V)		○
リンクリレー (B)		○
データレジスタ(D)		○
リンクレジスタ(W)		○
タイマ(T)	接点(TS)	○
	コイル(TC)	○
	現在値(TN)	○
カウンタ(C)	接点(CS)	○
	コイル(CC)	○
	現在値(CN)	○
積算タイマ(ST)	接点(STS)	○
	コイル(STC)	○
	現在値(STN)	○
リンク特殊リレー (SB)		○
リンク特殊レジスタ(SW)		○
ステップリレー (S)		×
ダイレクト入力(DX)		×
ダイレクト出力(DY)		×
アキュムレータ(A)		×
インデックスレジスタ	(Z)	○
	(V)	×
ファイルレジスタ	(R)	○
	(ZR)	○
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○
	リンク出力(J*¥Y)	○
	リンクリレー (J*¥B)	○
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○
	リンクレジスタ(J*¥W)	○
	リンク特殊レジスタ(J*¥SW)	○
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○*1

\*1 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。  
また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

## アクセス可能範囲

Qシリーズバス通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

### アクセス可能範囲

■同一ベース上の他号機にアクセスできます。

ただし、他号機のネットワークを経由して他のCPUへアクセスすることはできません。

■パソコンCPUユニットが管理するMELSECNET/Hユニット経由で、他のCPUへアクセスすることができます。

この場合のアクセス可能範囲は、MELSECNET/H通信時と同様になります。(☞ 313ページ アクセス可能範囲)

MELSECNET/H通信時のパソコンがパソコンCPUユニットにあたり、MELSECNET/HボードがMELSECNET/Hユニットにあたります。

■パソコンCPUユニットが管理するCC-Linkユニット経由で、他のCPUへアクセスすることができます。

この場合のアクセス可能範囲は、CC-Link通信時と同様になります。(☞ 305ページ アクセス可能範囲)

CC-Link通信時のパソコンがパソコンCPUユニットにあたり、CC-Link Ver.2ボードがCC-Linkユニットにあたります。

# 10.12 モデム通信時

モデム通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

モデム通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	×	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	×	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	×	○	×	×
エッジリレー (V)		○	×	○	○	×	○	×	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○ <sup>*2</sup>	○	×	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	×	○ <sup>*1</sup>
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○ <sup>*2</sup>	○	×	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	コイル(TC)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	現在値(TN)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	コイル(CC)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	現在値(CN)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	×	○	×	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	×	○	×	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	×	○	×	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	×	○	×	×
ステップリレー (S)		×	×	×	×	×	×	×	○ <sup>*1</sup>
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×
アキュムレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	×	○	×	○ <sup>*1</sup>
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	○ <sup>*1</sup>
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	×	×	×	×	×
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	○ <sup>*4</sup>
	(ZR)	○	○	○	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先							
		RCPU	RCCPU	LHCPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (J*¥SW)	○	○	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○*5	○	○	×	○*6

\*1 FX0CPU, FX0SCPU, FX0NCPU, FX1CPU, FX2CPU, FX2CCPUはアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*3 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*4 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。  
FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみ、拡張レジスタ(R)指定が可能です。

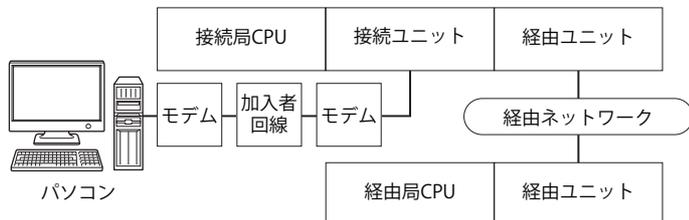
\*5 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。  
また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

\*6 FX3U(C)CPUの場合のみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24使用時)

モデム通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	接続ユニット	経路ネットワーク	経路局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCPU(Qモード)	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
		マルチドロップ(独立モード) <sup>*4</sup>	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経路ネットワーク	経路局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○ <sup>*1</sup>	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*1</sup>	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×
		Ethernet	○	×	×	○	×	×
		シリアルコミュニケーション	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード) <sup>*4</sup>	○ <sup>*3</sup>	×	○	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経路ネットワーク	経路局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCPU(Qモード)	Qシリーズ対応CMO	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)	Qシリーズ対応CMO	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*1	○*2	○*1	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×
		Ethernet	○	×	×	○	×	×
		シリアルコミュニケーション	○*3	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*4	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○*1	○	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○*3	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*4	○*3	×	○	×	×	×

\*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

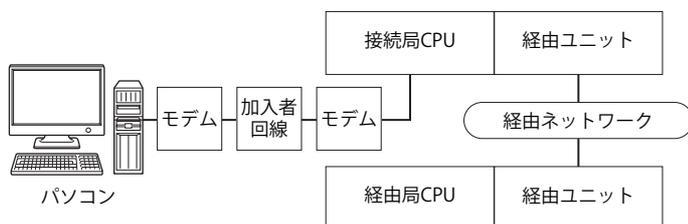
\*2 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*3 二重化CPUの場合, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

\*4 CH2側の設定を示します。(CH1側は独立モード固定です。)

# アクセス可能範囲(FXCPU使用時)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU
FXCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨンCPU	FXCPU
FXCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 FX0CPU, FX0SCPU, FX0NCPU, FX1CPU, FX2CPU, FX2CCPUはアクセスできません。

# 10.13 ゲートウェイ機能通信時

ゲートウェイ機能通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

ゲートウェイ機能通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

下記のデバイスのみアクセス可能です。

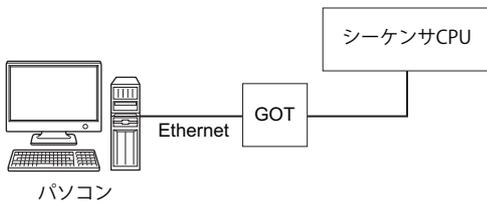
デバイス: ゲートウェイデバイス

デバイス名: EG

## アクセス可能範囲

ゲートウェイ機能通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

### 構成



### アクセス可能範囲

接続しているGOTにのみアクセス可能です。

# 10.14 GX Simulator接続

GX Simulator通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

GX Simulator通信時における他局のアクセス可能デバイスは、GX Simulatorのデバイスマネージャの他局デバイス設定に依存します。

他局デバイス設定については、下記のマニュアルを参照してください。

 GX Simulator Version 7 オペレーティングマニュアル

## アクセス可能範囲

GX Simulator通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

接続先CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

対象局	接続先CPU										
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
自局	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○
他局	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×

# 10.15 GX Simulator2通信時

GX Simulator2通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

GX Simulator2通信時における他局のアクセス可能デバイスは、GX Simulator2がサポートするデバイスに依存します。詳細については、下記のマニュアルを参照してください。

📖 GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル(共通編)

## アクセス可能範囲

GX Simulator2通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

接続先CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

対象局	接続先CPU										
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
他局	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○

# 10.16 GX Simulator3通信時

GX Simulator3通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

GX Simulator3通信時における他局のアクセス可能デバイスは、GX Simulator3がサポートするデバイスに依存します。詳細については、下記のマニュアルを参照してください。

📖 GX Works3 オペレーティングマニュアル

## アクセス可能範囲

GX Simulator3通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

接続先CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

対象局	接続先CPU										
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
他局	○*1	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×	×

\*1 対応しているCPUタイプを下記に示します。

接続先CPU	CPUタイプ
RCPU	R00, R01, R02, R04, R04EN, R08, R08EN, R08P, R08PSF, R08SF, R16, R16EN, R16P, R16PSF, R16SF, R32, R32EN, R32P, R32PSF, R32SF, R120, R120EN, R120P, R120PSF, R120SF
FX5CPU	FX5U, FX5UJ

# 10.17 MT Simulator2通信時

MT Simulator2通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

MT Simulator2通信時における他局のアクセス可能デバイスは、MT Simulator2がサポートするデバイスに依存します。

QモーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

## アクセス可能範囲

MT Simulator2通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

接続先CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

対象局	接続先CPU										
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
他局	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×

# 10.18 GOTトランスペアレント通信時

GOTトランスペアレント通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

## アクセス可能デバイス

GOTトランスペアレント通信時におけるアクセス可能デバイスを下記に示します。

### アクセス先がシーケンサCPUの場合

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー(SM)		○	○	○	○	○	○	○	×	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	○	×	×
入力リレー(X)		○	○	○	○	○	○	○	×	○
出力リレー(Y)		○	○	○	○	○	○	○	×	○
内部リレー(M)		○	○	○	○	○	○	○	×	○
ラッチリレー(L)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
エッジリレー(V)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
リンクリレー(B)		○	○	○	○	○	○ <sup>*1</sup>	○	×	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	○	×	○
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○	○ <sup>*1</sup>	○	×	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	コイル(TC)	○	×	○	×	○	×	○	×	○
	現在値(TN)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	コイル(CC)	○	×	○	×	○	×	○	×	○
	現在値(CN)	○	×	○	○	○	×	○	×	○
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	○	×	○	×	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	×	○	×	○	×	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	○	×	○	×	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ(LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
ステップリレー(S)		×	×	×	○	×	×	×	×	○
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
アキュームレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	×	○	×	○	×	○
	(V)	×	×	×	○	×	×	×	×	○
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	○	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○	○ <sup>*2</sup>	×	○	×	○ <sup>*3</sup>
	(ZR)	○	○	○	×	○ <sup>*2</sup>	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクトリンク	リンク入力(J*¥X)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(J*¥Y)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (J*¥SB)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(J*¥W)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (J*¥SW)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ(U*¥G)		○	○	○	○	○ <sup>*4</sup>	○	○	○	○ <sup>*5</sup>

\*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

\*2 Q00JCPU, Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

\*3 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。  
FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみ、拡張レジスタ(R)指定が可能です。

\*4 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

\*5 FX3U(C)CPUの場合のみアクセス可能です。

## アクセス先がモーションCPUの場合

モーションCPUの場合のアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

☞ 269ページ アクセス先がモーションCPUの場合

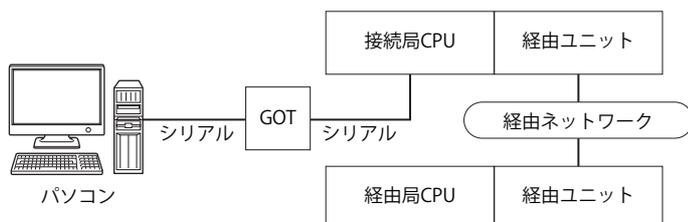
# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:直結)

GOTトランスペアレント通信時におけるアクセス可能範囲を下記に示します。

## Point

使用可能なシステム構成は、ご使用になるGOTシリーズの接続マニュアルを参照してください。

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○*7
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)*1, QモーションCPU*2, QCCPU*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1, QモーションCPU*2, QCCPU*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	○*3	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	×
	Ethernet	○	×	×	×	○	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○*6

\*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

\*2 QモーションCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

\*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*4 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

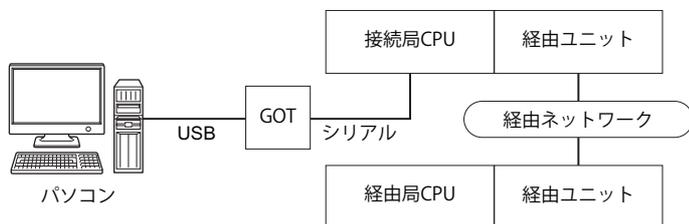
\*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*6 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

\*7 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:直結)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○*7
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨンCPU	FXCPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)*1, Qモーシヨン CPU*4*6, QCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1, Qモーション CPU*4*6, QCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	○*2	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	×
	Ethernet	○	×	×	×	○	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○*5

\*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

\*2 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*4 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

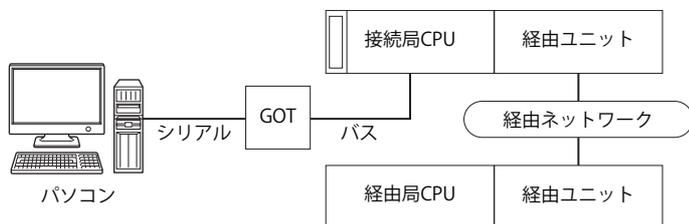
\*5 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

\*6 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*7 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:バス)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)*1, QモーシヨCPU*2*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1, QモーシヨCPU*2*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	○*3	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	×
	Ethernet	○	×	×	×	○	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

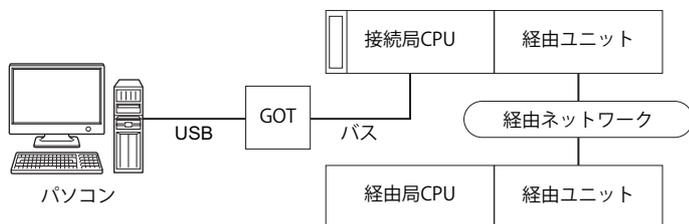
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	○*3	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

- \*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
- \*2 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。
- \*3 Q12DHCCPU-V(基本機能モード), QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*4 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
- \*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。
- \*6 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:バス)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)*1, QモーションCPU*4*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1, QモーションCPU*4*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	○*2	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	×
	Ethernet	○	×	×	×	○	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
	CC-Link	○	○	○	×	○	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

\*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

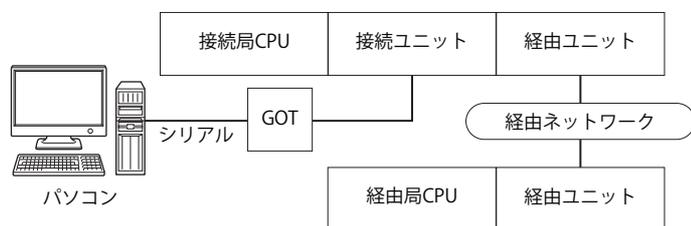
\*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*4 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCPU	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	○*4	○	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	○	×	○	×	×	
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	
		CC-Link	○	○	○	×	×	
		マルチドロップ(独立モード)*5	○	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Q モード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーシヨ CPU	FXCPU
RCPU	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	×	○*4	×	×	×
		MELSECNET/H	○	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	×	○	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*5	○	×	○	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCCPU*7	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
		マルチドロップ(独立モード)*5	×	×	×	×	×	

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RCCPU*7	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*5	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
RモーシヨCPU*6*7	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*5	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RモーシヨCPU*6*7	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*5	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)*1, QモーシヨCPU*2*7	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*5	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1, QモーシヨCPU*2*7	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	○*3	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	○	×
		Ethernet	○	×	×	×	○	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	×
		マルチドロップ(独立モード)*5	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*5	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○*3	○	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	×
		マルチドロップ(独立モード)*5	○	×	○	×	×	×

\*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

\*2 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*4 RCPU, LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

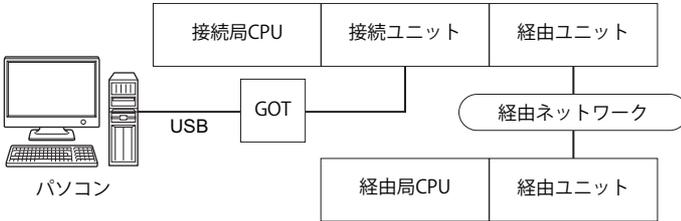
\*5 CH2側の設定を示します。(CH1側は独立モード固定です。)

\*6 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*7 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCPU	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	○ <sup>*3</sup>	○	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	○	×	○	×	×	
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	
		CC-Link	○	○	○	×	×	
		マルチドロップ(独立モード) <sup>*4</sup>	○	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Q モード) <sup>*1</sup>	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
RCPU	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	×	○ <sup>*3</sup>	×	×	×
		MELSECNET/H	○	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	×	○	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード) <sup>*4</sup>	○	×	○	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCCPU <sup>*7</sup>	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
		マルチドロップ(独立モード) <sup>*4</sup>	×	×	×	×	×	

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシオンCPU	FXCPU
RCCPU*7	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*4	×	×	×	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーシオンCPU	LHCPU	FX5CPU	
RモーシオンCPU*5*7	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
		マルチドロップ(独立モード)*4	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシオンCPU	FXCPU
RモーシオンCPU*5*7	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*4	×	×	×	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーシオンCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCPU(Qモード)*1, QモーシオンCPU*6*7	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
		マルチドロップ(独立モード)*4	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシオンCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1, QモーシオンCPU*6*7	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	○*2	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	○	×
		Ethernet	○	×	×	×	○	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	×
		マルチドロップ(独立モード)*4	○	×	○	×	×	×

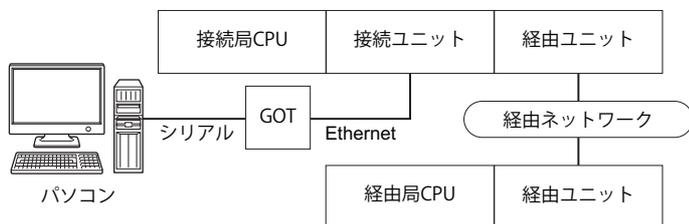
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×
		マルチドロップ(独立モード)*4	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○*2	○	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	○	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	×
		マルチドロップ(独立モード)*4	○	×	○	×	×	×

- \*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
- \*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*3 RCPU, LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
- \*4 CH2側の設定を示します。(CH1側は独立モード固定です。)
- \*5 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。
- \*6 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。
- \*7 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:Ethernetユニット)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU	Rシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	×	×	×
		CC-Link	○	○	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU	Rシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCCPU*5	Rシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーショングCPU	FXCPU
RCCPU*5	Rシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーショングCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)*1	Qシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーショングCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1	Qシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×

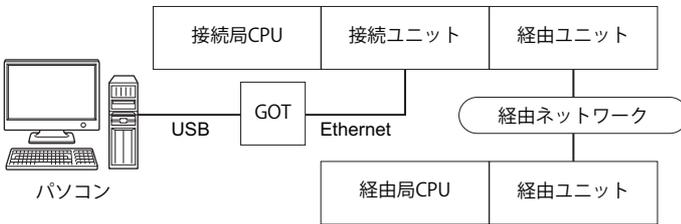
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	RモーショングCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU*1	Lシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーショングCPU	FXCPU
LCPU*1	Lシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
		Ethernet	○	○	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○*6	○*6	○*6	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×

- \*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
- \*2 接続局のRシリーズ対応E71, Qシリーズ対応E71, Lシリーズ対応E71にリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。
- \*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*4 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
- \*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。
- \*6 二重化CPUの場合, マルチドロップ接続ができないため, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:Ethernetユニット)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

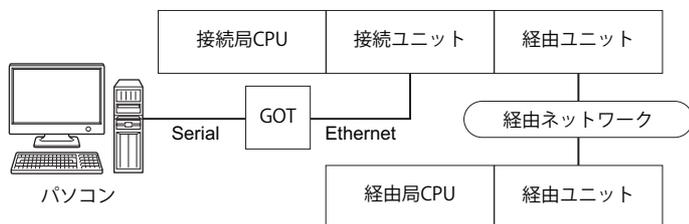
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCPU	Rシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	○	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	○	×	×	×	×	
		CC-Link	○	○	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU	Rシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	×	○	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCCPU*5	Rシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RCCPU*5	Rシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCPU(Qモード)*1, QCCPU*5	Qシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1, QCCPU*5	Qシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU	
LCPU*1	Lシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
LCPU*1	Lシリーズ対応E71*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
		Ethernet	○	○	○	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○*6	○*6	○*6	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×

- \*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
- \*2 接続局のRシリーズ対応E71, Qシリーズ対応E71, Lシリーズ対応E71にリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。
- \*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*4 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
- \*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。
- \*6 二重化CPUの場合, マルチドロップ接続ができないため, 基本ベース上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:Ethernetポート)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU, RモーシヨCPU <sup>*5*7</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○ <sup>*4</sup>	○	×	×	○ <sup>*8</sup>
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	×	×	○

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード) <sup>*2</sup>	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RCPU, RモーシヨCPU <sup>*5*7</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	×	○ <sup>*4</sup>	×	×	×
	MELSECNET/H	○	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
RCCPU <sup>*5</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○ <sup>*4</sup>	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RCCPU*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○*9
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QnUDE(H)CPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QnUDE(H)CPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
LCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

\*1 接続局CPUにリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。

\*2 二重化CPUの場合はアクセスできません。

\*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*4 RCPU、LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*5 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*6 Q24DHCCPU-V、Q24DHCCPU-LS、Q24DHCCPU-VG、Q24DHCCPU-LSは、通信経路が未サポートのためアクセスできません。

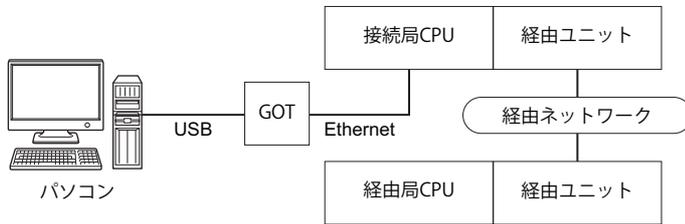
\*7 RモーシヨCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

\*8 接続局CPUがRCPUのCC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

\*9 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:Ethernetポート)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCPU, RモーションCPU <sup>*5*6</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○ <sup>*4</sup>	○	×	×	○ <sup>*7</sup>
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	×	×	○

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード) <sup>*2</sup>	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU, RモーションCPU <sup>*5*6</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	×	○ <sup>*4</sup>	×	×	×
	MELSECNET/H	○	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	×	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
RCCPU <sup>*6</sup>	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○ <sup>*4</sup>	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
RCCPU*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○*8
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QnUDE(H)CPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QnUDE(H)CPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QCCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*4	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	○	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

\*1 接続局CPUにリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。

\*2 二重化CPUの場合はアクセスできません。

\*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*4 RCPU、LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

\*5 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

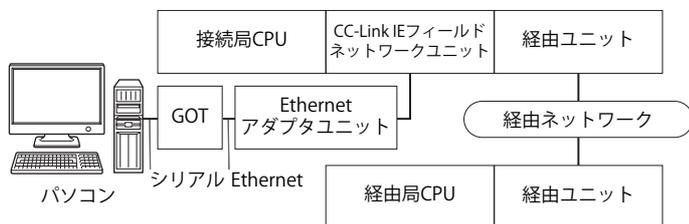
\*6 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

\*7 接続局CPUがRCPUのCC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

\*8 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:Ethernetアダプタユニット)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
QnUDE(H)CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QnUDE(H)CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

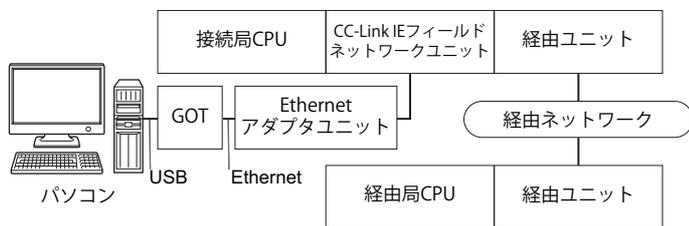
接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

- \*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
- \*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:Ethernetアダプタユニット)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QnUDE(H)CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QnUDE(H)CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

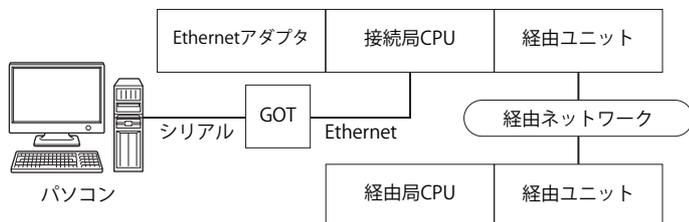
接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

- \*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
- \*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

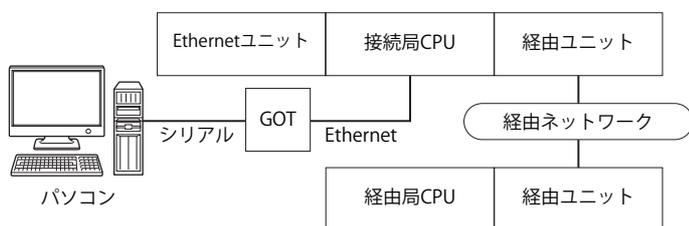
# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:シリアル, GOT1000側ポート:シリアル, CPU側ポート:Ethernetアダプタ/ユニット)

## 構成

Ethernetアダプタ:FX3U-ENET-ADPの場合



Ethernetユニット:FX3U-ENET(-L)の場合



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

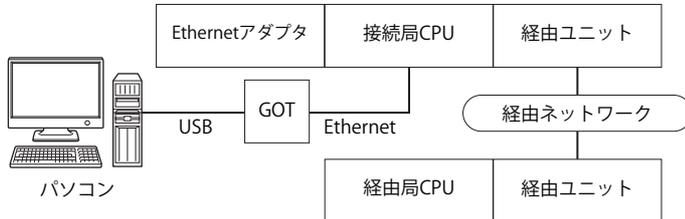
接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
FXCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FXCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 FX3SCPU(FX3U-ENET-ADP), FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

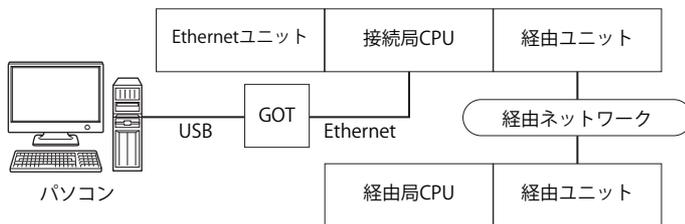
# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:USB, GOT2000/1000側ポート:USB, CPU側ポート:Ethernetアダプタ/ユニット)

## 構成

Ethernetアダプタ:FX3U-ENET-ADPの場合



Ethernetユニット:FX3U-ENET(-L)の場合



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

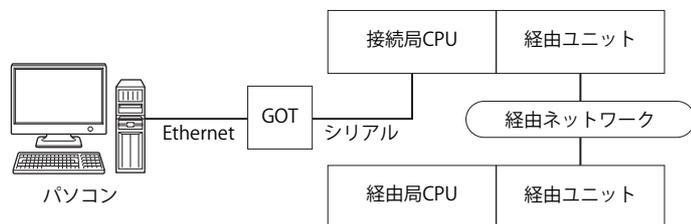
経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
FXCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
FXCPU*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

\*1 FX3SCPU(FX3U-ENET-ADP), FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/ 1000側ポート:Ethernetポート, CPU側ポート:シリアル)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○*5
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
FX5CPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)*1, QCCPU*4	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1, QCCPU*4	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
LCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

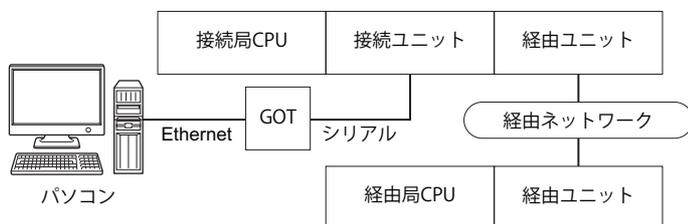
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
FXCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。  
 \*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。  
 \*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。  
 \*4 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは、マルチCPU構成時の2号機以降の場合のみアクセス可能です。  
 \*5 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/1000側ポート:Ethernetポート, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
RCPU, RモーションCPU*4*5	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	○*3	○	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	○	×	×	×	×	
		CC-Link	○	○	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
RCPU, RモーションCPU*4*5	Rシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	×	○*3	×	×	×
		MELSECNET/H	○	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	×	○	×	×	×
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCPU(Qモード)*1, QCCPU	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモード) <sup>*1</sup>	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーショ ンCPU	FXCPU
QCPU(Qモード) <sup>*1</sup> , QCCPU	Qシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○	○ <sup>*2</sup>	○ <sup>*3</sup>	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×

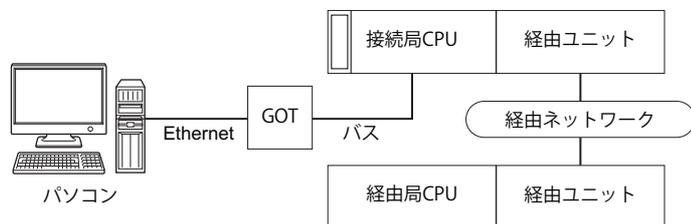
接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU				
			RCPU	RCCPU	Rモーショ ンCPU	LHCPU	FX5CPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	接続ユニット	経由ネットワーク	経由局CPU					
			QCPU(Qモー ド) <sup>*1</sup>	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーショ ンCPU	FXCPU
LCPU	Lシリーズ対応C24	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○ <sup>*2</sup>	○	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×

- \*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
- \*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- \*3 RCPU, LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
- \*4 Rモーショ  
ンCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。
- \*5 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/ 1000側ポート:Ethernetポート, CPU側ポート:バス)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCPU(Qモード)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨンCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCCPU	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×

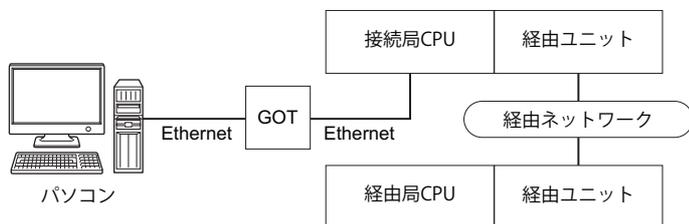
\*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

\*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

\*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/1000側ポート:Ethernetポート, CPU側ポート:Ethernetポート)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
		RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU
QCPU(Qモード)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

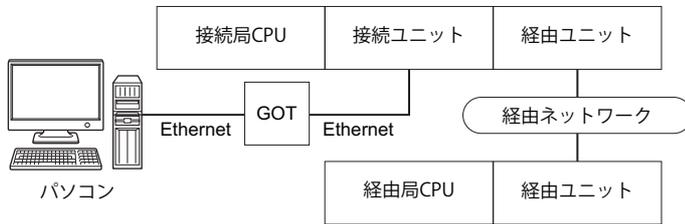
  

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨンCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 Qn(U)(J)(P)(D)(E)(V)(H)の場合のみ動作します。QnPRHCPUは、未サポートのためアクセスできません。

# アクセス可能範囲(パソコン側ポート:Ethernetボード, GOT2000/ 1000側ポート:Ethernetポート, CPU側ポート:Qシリーズ対応E71)

## 構成



## アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路局CPUのアクセスの可否を○(アクセス可能), ×(アクセス不可)で示します。

接続局CPU	接続ユニット	経路ネットワーク	経路局CPU					
			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
QCPU(Qモード)*1	Qシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
		CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	接続ユニット	経路ネットワーク	経路局CPU					
			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
QCPU(Qモード)*1	Qシリーズ対応E71	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

\*1 Qn(U)(J)(P)(D)(E)(V)(H)の場合のみ動作します。QnPRHCPUは、未サポートのためアクセスできません。

# 10.19 インバータ通信時

インバータ通信時のアクセス可能モニタタイプについて説明します。

## アクセス可能モニタタイプ

インバータ通信時におけるアクセス可能モニタタイプを下記に示します。

モニタタイプ(10進)	内容
1	出力周波数/回転速度
2	出力電流
3	出力電圧
5	周波数設定値/回転速度設定
6	運転速度
7	モータトルク
8	コンバータ出力電圧
9	回生ブレーキ使用率
10	電子サーマル負荷率
11	出力電流ピーク値
12	コンバータ出力電圧ピーク値
13	入力電力
14	出力電力
17	ロードメータ
18	モータ励磁電流
19	位置パルス
20	積算通電時間
22	オリエンステータス
23	実稼働時間
24	モータ負荷率
25	積算電力
32	トルク指令
33	トルク電流指令
34	モータ出力
35	フィードバックパルス
40	シーケンス機能ユーザモニタ1
41	シーケンス機能ユーザモニタ2
42	シーケンス機能ユーザモニタ3
50	省電力効果
51	省電力積算
52	PID目標値
53	PID測定値
61	モータサーマル負荷率
62	インバータサーマル負荷率
64	PTCサーミスタ抵抗値
67	PID測定値2
87	リモート出力値1
88	リモート出力値2
89	リモート出力値3
90	リモート出力値4
91	PID操作量
92	第2PID目標値
93	第2PID測定値
94	第2PID偏差
95	第2PID測定値2

モニタタイプ(10進)	内容
96	第2PID操作量
97	ダンサ主速設定値

## 10.20 ロボットコントローラ通信時

ロボットコントローラ通信時のアクセス可能モニタタイプについて説明します。

### アクセス可能モニタタイプ

ロボットコントローラ通信時におけるアクセス可能モニタタイプを下記に示します。

モニタタイプは、(要求ID).(データタイプ).(引数)の形式で指定します。

モニタタイプ			取得される値
要求ID	データタイプ	引数	
231	1	(1)入力信号読み出し開始番号	入力信号情報(16点分)
	2	(1)出力信号読み出し開始番号	出力信号情報(16点分)
237	1	(1)レジスタ番号	入力レジスタ内容
238	1	(1)レジスタ番号	出力レジスタ内容

# 付録

## 付1 ルーティングパラメータの考え方

ルーティング機能とは、多階層システムにおいてシーケンサCPUの局が他のネットワークNo.の局へトランジェント伝送する機能です。

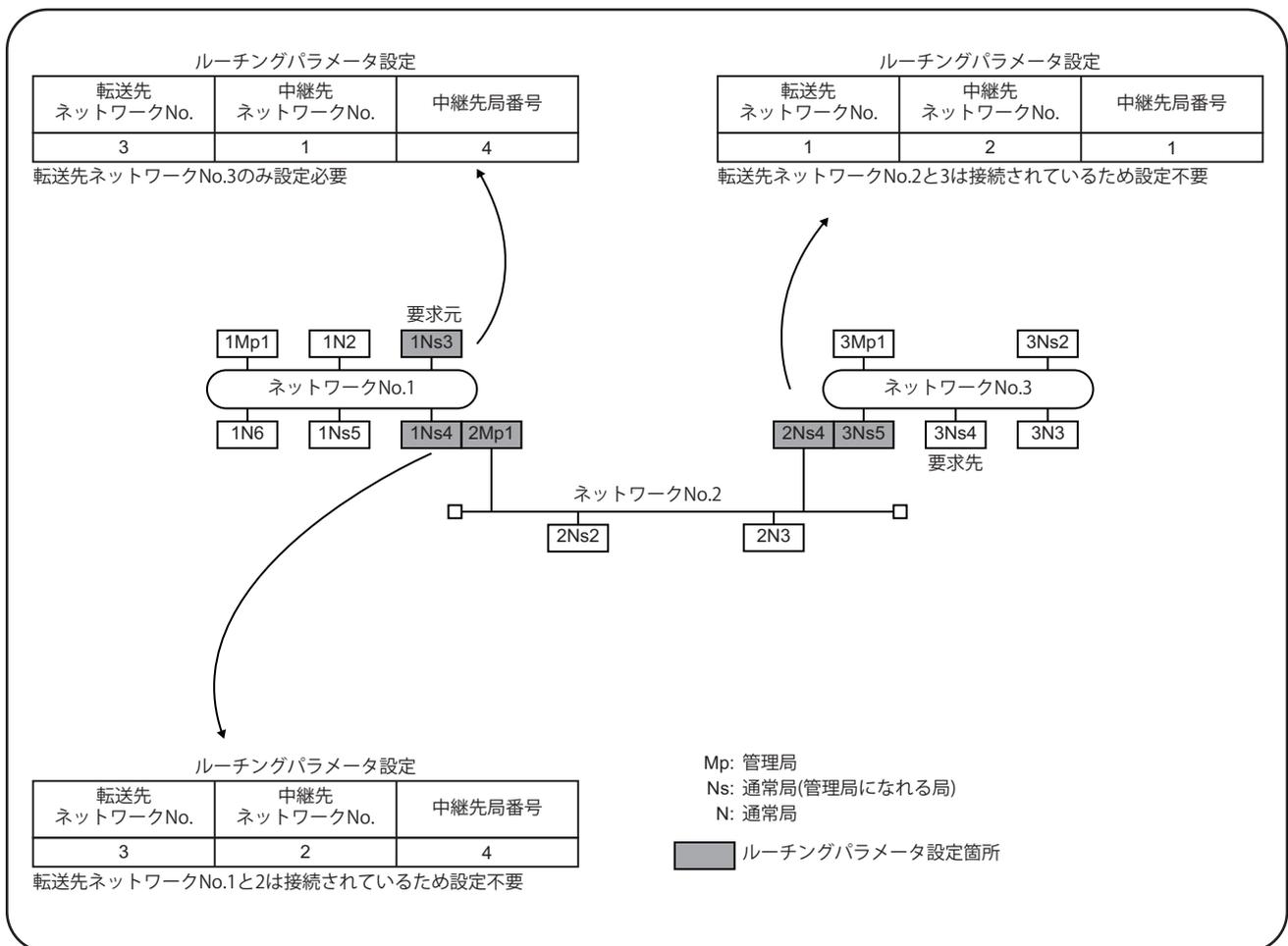
ルーティング機能を実行するには、"ルーティングパラメータ"を設定し、ネットワークNo.とブリッジの役割を行う局の対応付けが必要です。

### ルーティングパラメータの設定

■ルーティングパラメータは、シーケンサCPUの要求元と中継局に設定が必要です。

- ・要求元には、要求先へ行くための設定が必要です。
- ・中継局には、要求元から要求先へ行くための設定と、要求先から要求元へ行くための設定が必要です。
- ・要求先には設定が不要です。

たとえば、下図の1Ns3から3Ns4に対してトランジェント伝送するためには、トランジェント伝送を実行する1Ns3とブリッジの役割をする1Ns4および2Mp1のシーケンサCPU、2Ns4および3Ns5のシーケンサCPUにルーティングパラメータの設定が必要です。



■シーケンサCPUには、最大16個の"転送先ネットワークNo."が設定できます。

自局が要求元になったり、自局を経由して他局へアクセスできたりするのは、16種類のネットワークNo.です。

## ルーティングパラメータの設定箇所と内容

トランジェント伝送を行う場合、システムによりルーティングパラメータの設定箇所が異なります。

### ■2階層システム

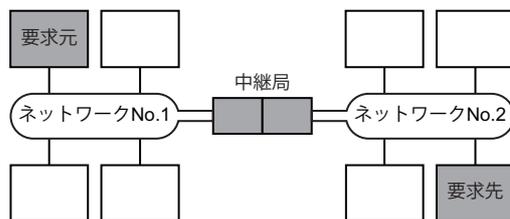
同一ネットワーク内へのトランジェント伝送のため、ルーティングパラメータは設定不要です。



### ■多階層1(2つのネットワーク)

要求元の局にのみルーティングパラメータを設定します。<sup>\*1</sup>

要求元には、要求先(ネットワークNo.2)へ行くための内容を設定します。



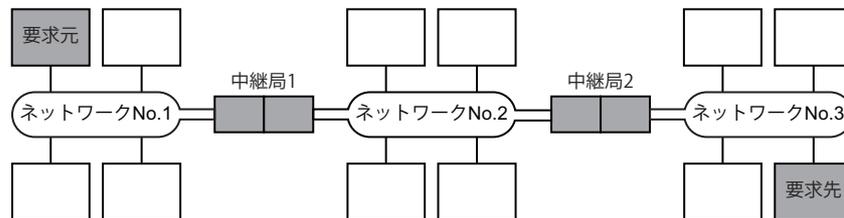
### ■多階層2(3つのネットワーク)

要求元と中継局にルーティングパラメータを設定します。<sup>\*1</sup>

要求元には、要求先(ネットワークNo.3)へ行くための内容を設定します。

中継局1には、要求先(ネットワークNo.3)へ行くための内容を設定します。

中継局2には、要求元(ネットワークNo.1)へ行くための内容を設定します。



### ■多階層3(4つ以上のネットワーク)

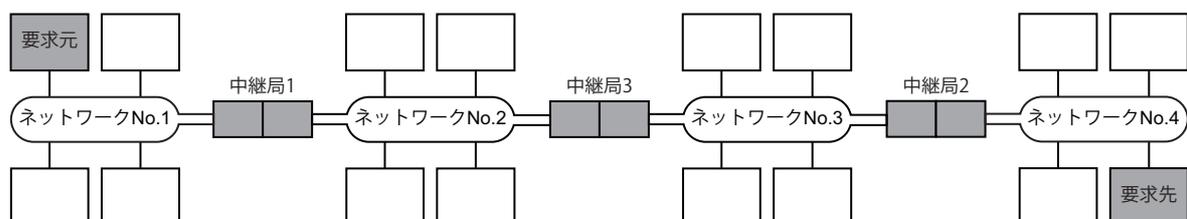
要求元と中継局にルーティングパラメータを設定します。<sup>\*1</sup>

要求元には、要求先(ネットワークNo.4)へ行くための内容を設定します。

中継局1(要求元に一番近い中継局)には、要求先(ネットワークNo.4)へ行くための内容を設定します。

中継局2(要求先に一番近い中継局)には、要求元(ネットワークNo.1)へ行くための内容を設定します。

中継局3(中継局1と中継局2以外の中継局)には、要求先(ネットワークNo.4)と要求元(ネットワークNo.1)へ行くための内容を設定します。



<sup>\*1</sup> Ethernetに接続されたパソコンが要求元の場合について示します。

要求元へのルーティングパラメータの設定は不要です。

中継局には、要求先へ行くためのルーティングパラメータの設定が必要です。

下記のマニュアルを参照し設定してください。

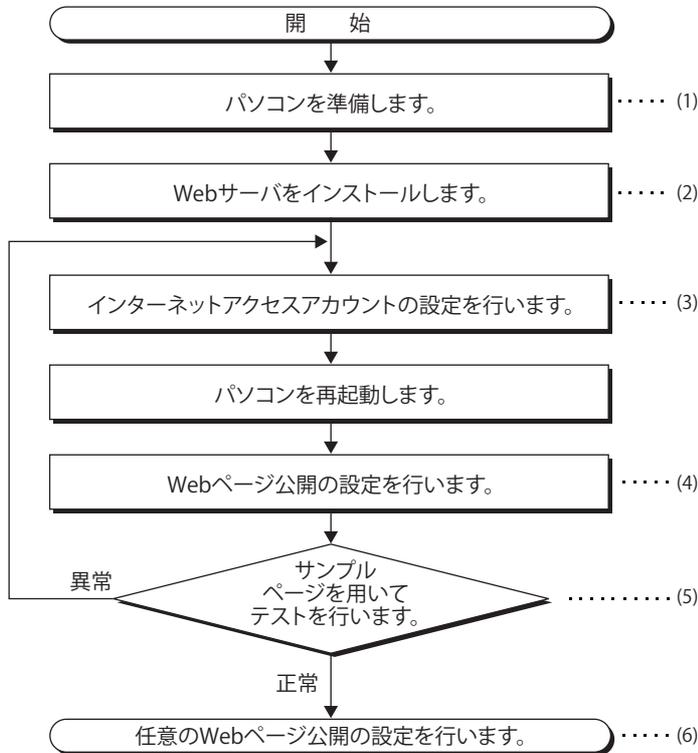
📖 Q対応Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル(応用編)

## 付2 インターネット/イントラネット環境の立上げ方法

MX Componentを使用してシーケンサCPUと通信を行うホームページ(HTML, ASP)を作成し、インターネット/イントラネットを経由して、ブラウザ(Internet Explorer)で表示するシステムの構築例について説明します。

### 操作手順

インターネット/イントラネット環境を立ち上げるまでの手順を下記に示します。



- (1) 384ページ 使用可能なパソコンの条件
- (2) 385ページ Webサーバのインストール方法
- (3) 386ページ インターネットアクセスアカウントの設定
- (4) 392ページ Webページの公開
- (5) 397ページ Webサーバに正常にアクセスできるかを確認する
- (6) 392ページ Webページの公開

#### Point

サンプルページを用いたテストが正常に動作しない環境では、MX Componentを利用したWebページでも正常に動作しません。

通信回線の混み具合(トラフィック)やノイズなどを確認し、サンプルページが正常に動作するようにしてください。

## 使用可能なパソコンの条件

Webサーバ、Webクライアントとして使用できるパソコンの条件を下記に示します。

### Webサーバとして使用できるパソコン(工場側)

Webサーバとして使用する場合、下記に示す条件1~4をすべて満たしたパソコンを使用してください。

条件No.	内容
条件1	下記のいずれかのOSが動作していること。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows XP Professional Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Home Premium Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Business Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Ultimate Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Enterprise Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Home Premium Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Professional Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Ultimate Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Enterprise Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8 Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8 Pro Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8 Enterprise Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8.1 Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8.1 Pro Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8.1 Enterprise Operating System</li><li>• Microsoft Windows 10 Home Operating System</li><li>• Microsoft Windows 10 Pro Operating System</li><li>• Microsoft Windows 10 Education Operating System</li><li>• Microsoft Windows 10 Enterprise Operating System</li></ul>
条件2	インターネットまたはイントラネットに接続できること。
条件3	インターネットにWebページを公開する場合は、ファイアウォールなどによって外部からのアクセスが禁止されていないこと。
条件4	MX Componentがインストールされていて、シーケンサCPUと通信を行うための設定がされていること。

### Webクライアントとして使用できるパソコン(事務所側)

Webクライアントとして使用する場合、下記に示す条件1、条件2をともに満たすパソコンを使用してください。

条件No.	内容
条件1	下記のいずれかのOSが動作していること。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows XP Professional Operating System</li><li>• Microsoft Windows XP Home Edition Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Home Basic Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Home Premium Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Business Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Ultimate Operating System</li><li>• Microsoft Windows Vista Enterprise Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Starter Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Home Premium Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Professional Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Ultimate Operating System</li><li>• Microsoft Windows 7 Enterprise Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8 Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8 Pro Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8 Enterprise Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8.1 Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8.1 Pro Operating System</li><li>• Microsoft Windows 8.1 Enterprise Operating System</li><li>• Microsoft Windows 10 Home Operating System</li><li>• Microsoft Windows 10 Pro Operating System</li><li>• Microsoft Windows 10 Education Operating System</li><li>• Microsoft Windows 10 Enterprise Operating System</li></ul>
条件2	インターネットまたはイントラネットに接続できること。

# Webサーバのインストール方法

---

Webサーバのインストール方法は下記のとおりです。

## Windows XP Professional使用時

---

### 操作手順

1. [スタート]⇒[コントロールパネル]⇒[プログラムの追加と削除]を選択します。
2. Windowsコンポーネントの「インターネットインフォメーションサービス(IIS)」をインストールしてください。  
インストール時には、Windows XP ProfessionalセットアップCDが必要です。

## Windows Vista以降使用時

---

### 操作手順

1. [スタート]⇒[コントロールパネル]⇒[プログラム]⇒[Windows機能の有効化または無効化]を選択します。
2. 「インターネットインフォメーションサービス」をインストールしてください。

### Point

各OSに対応したWebサーバの詳しいインストール方法については、各OSに添付されているインストール手順を参照してください。

---

# インターネットアクセスアカウントの設定

インターネットアクセスアカウントに特別な権利の設定が必要となります。

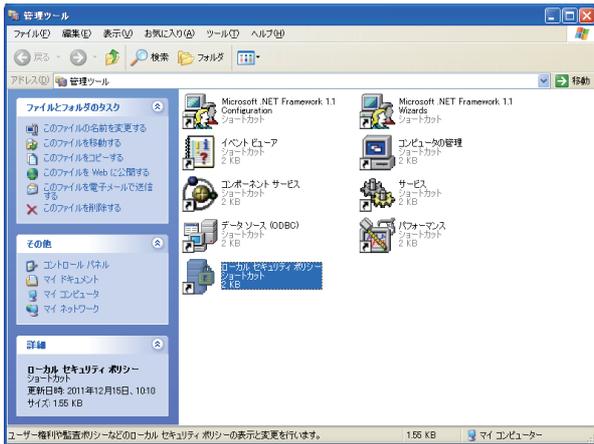
## Windows XP Professionalを使用する場合

MX Componentを利用したActive Server Pages(ASP)ページを公開する場合は、IUSR\_コンピュータ名(インターネットサーバ匿名アクセス)に「プログラムのデバッグ」権利を与える必要があります。

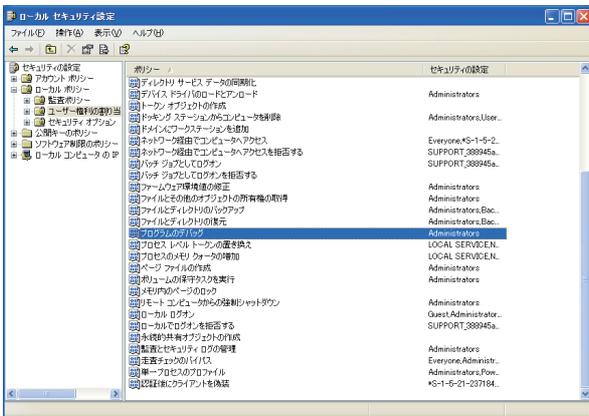
下記の手順にて設定してください。

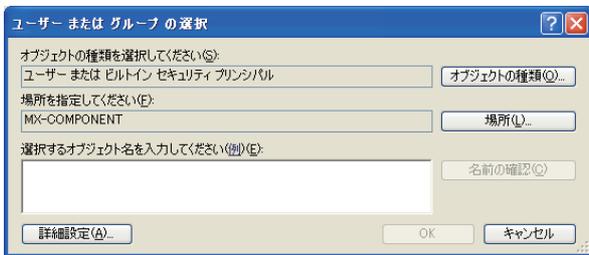
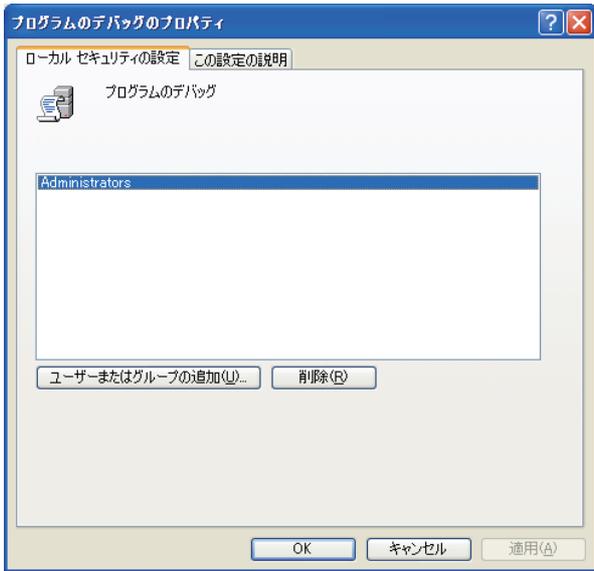
### 操作手順

1. [スタート]⇒[コントロールパネル]⇒[管理ツール]⇒[ローカルセキュリティポリシー]を選択します。



2. ツリーの[ローカルポリシー]⇒[ユーザー権利の割り当て]の"プログラムのデバッグ"をダブルクリックします。





3. [ユーザーまたはグループの追加]ボタンをクリックします。

4. "場所"の表示がコンピュータ名(インターネットインフォメーションサービスをセットアップしたコンピュータ名)になっていない場合は、コンピュータ名を選択します。  
上記の設定を確認後、[詳細設定]ボタンをクリックします。

5. [今すぐ検索]ボタンをクリックし、"名前"リストボックスから、"IUSR\_コンピュータ名(インターネットサーバ匿名アクセス)"アカウントを選択し、[OK]ボタンをクリックします。

付



設定完了

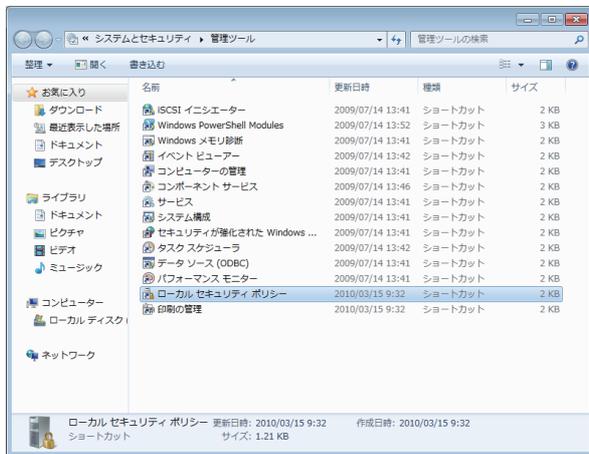
6. アカウントが追加されていることを確認してから、パソコンの再起動を行います。

## Windows Vista以降を使用する場合

MX Componentを利用したActive Server Pages(ASP)ページを公開する場合は、IUSRに「プログラムのデバッグ」権利を与える必要があります。

下記の手順にて設定してください。

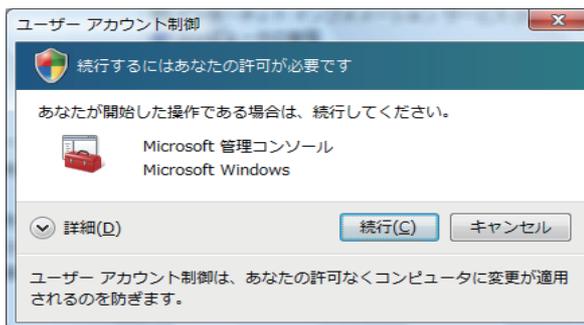
### 操作手順



1. [スタート]⇒[コントロールパネル]⇒[管理ツール]⇒[ローカルセキュリティポリシー]を選択します。ユーザーアカウント制御が有効な場合は下記の画面が表示されます。

[続行]ボタンまたは[はい]ボタンをクリックします。

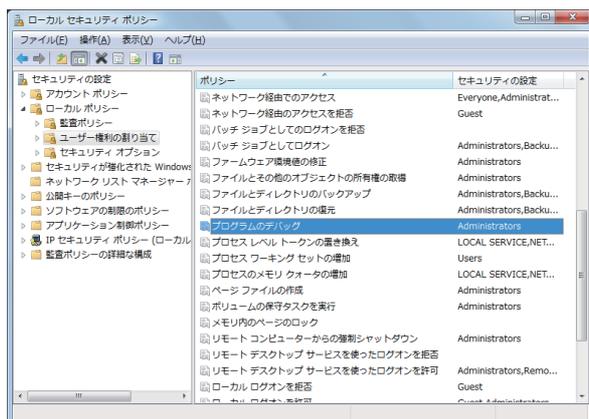
<Windows Vista使用時>



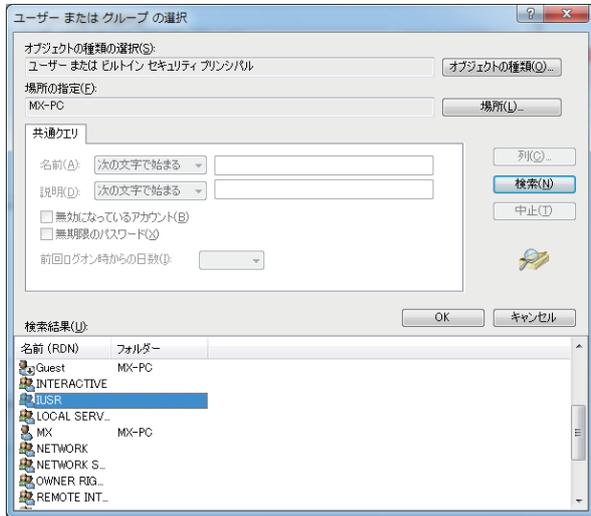
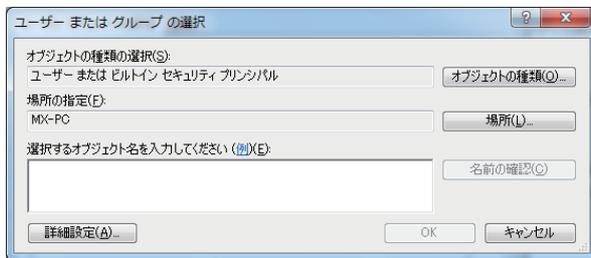
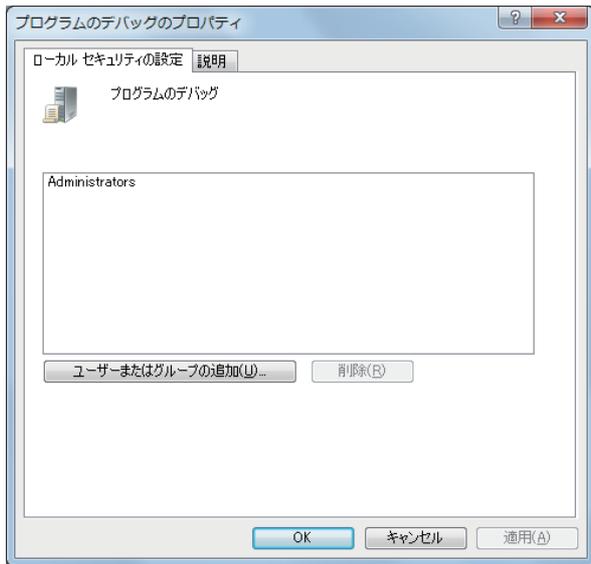
<Windows 7以降使用時>



2. ツリーの[ローカルポリシー]⇒[ユーザー権利の割り当て]の"プログラムのデバッグ"をダブルクリックします。



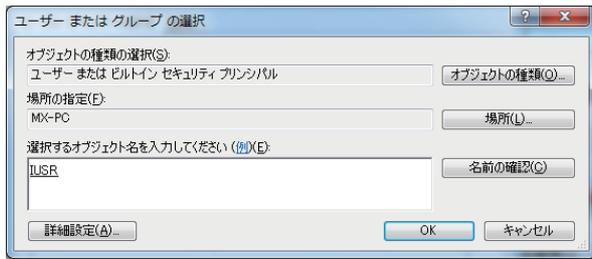
付



3. [ユーザーまたはグループの追加]ボタンをクリックします。

4. "場所"の表示がコンピュータ名(インターネットインフォメーションサービスをセットアップしたコンピュータ名)になっていない場合は、コンピュータ名を選択します。  
上記の設定を確認後、[詳細設定]ボタンをクリックします。

5. [検索]ボタンをクリックし、"名前"リストボックスから、"IUSR"アカウントを選択し、[OK]ボタンをクリックします。  
Windows Vista使用時は、[今すぐ検索]ボタンをクリックしてください。



設定完了

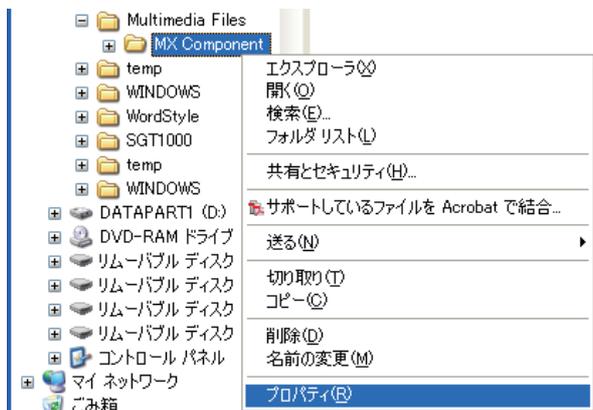
6. アカウントが追加されていることを確認してから、パソコンの再起動を行います。

# Webページの公開

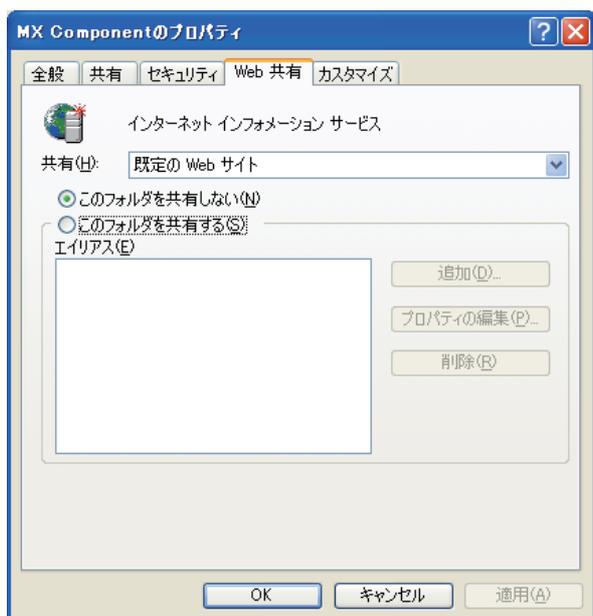
Webページをインターネット/イントラネットで公開するためには、フォルダをWeb共有にする必要があります。フォルダをWeb共有する手順を下記に示します。  
なお、WebサーバのOSにより画面が若干異なりますが、設定手順は同様です。

## Microsoft Windows XP Professionalを使用する場合

### 操作手順

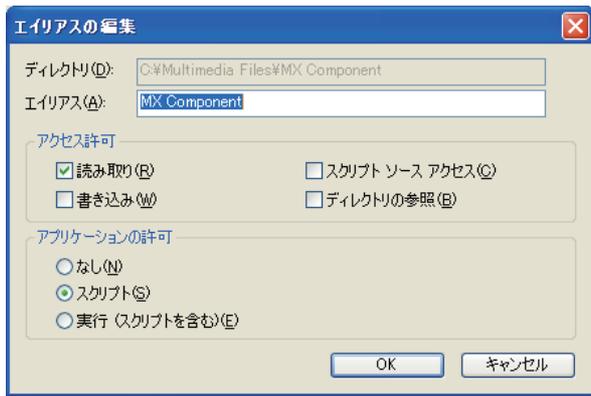


1. エクスプローラを起動して、公開するWebファイル (\*.html, \*.asp)が格納されている任意のフォルダを右クリックし、[プロパティ]を選択します。



2. [Web共有]タブをクリックし、"このフォルダを共有する"を選択します。



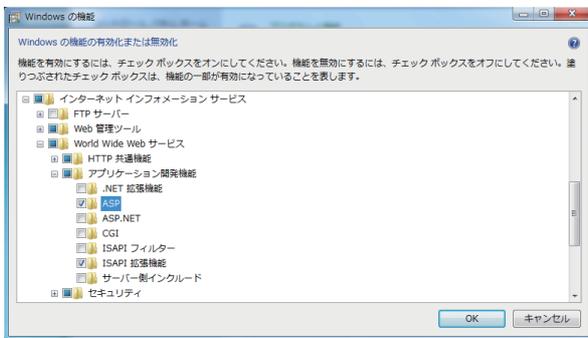
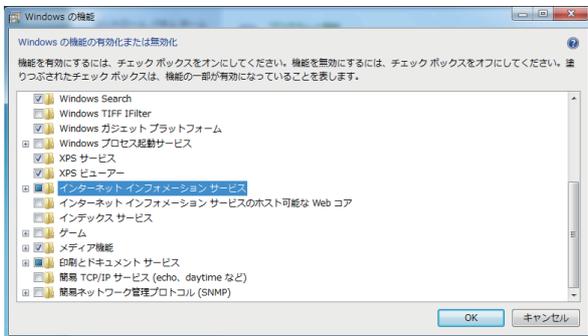


設定完了

3. エイリアスを変更する場合はここで変更します。  
エイリアスとは、WebブラウザにてURLを指定する場合の下線部分にあたります。  
[http://\\*\\*.\\*\\*.\\*\\*.\\*\\*/Mxcomponent/NetTest.asp](http://**.**.**.**/Mxcomponent/NetTest.asp)

# Windows Vista以降を使用する場合

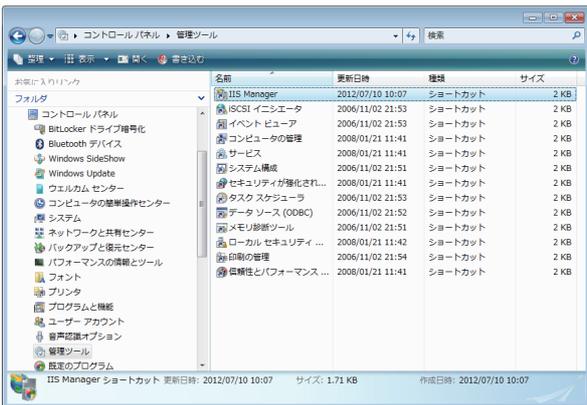
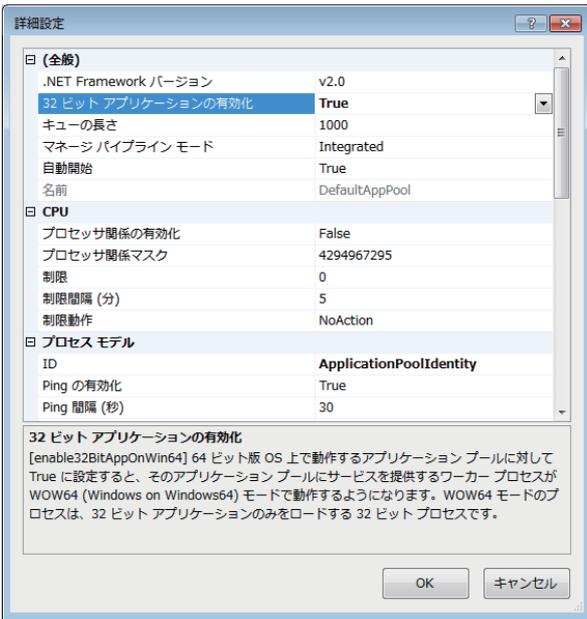
## 操作手順



1. [スタート]⇒[コントロールパネル]⇒[プログラム]⇒  
[Windowsの有効化または無効化]を選択します。

2. [インターネットインフォメーションサービス]にチェ  
ックを入れます。

3. [インターネットインフォメーションサービス]⇒[World  
Wide Webサービス]⇒[アプリケーション開発機能]のツ  
リをを展開し、"ASP"にチェックを入れ、[OK]ボタンを  
クリックします。



Windows 7(64ビット版)/Windows 8(64ビット版)/Windows 8.1(64ビット版)/Windows 10(64ビット版)を使用する場合のみ、手順4, 5を実施します。

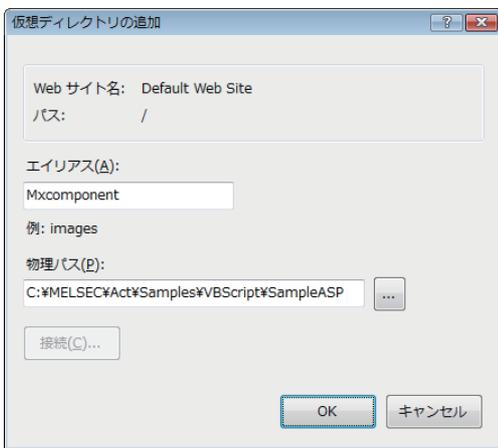
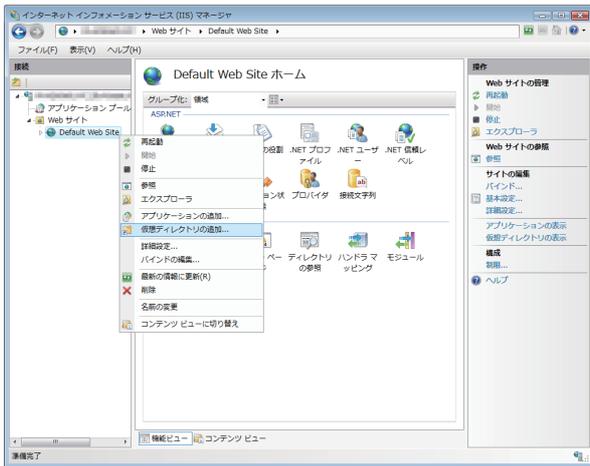
4. [スタート]⇒[管理ツール]⇒[インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャー]を起動し、左側のウィンドウから[アプリケーションプール]を選択します。変更するアプリケーションプールを選択し、右側のウィンドウから[詳細設定]を選択します。

5. [32ビット アプリケーションの有効化]を"True"に設定し、[OK]ボタンをクリックします。

6. [スタート]⇒[コントロールパネル]⇒[クラシック表示]⇒[管理ツール]⇒[IIS Manager]をダブルクリックします。ユーザーアカウント制御が有効な場合は下記の画面が表示されます。[はい]ボタンをクリックします。



付



設定完了

7. [接続]ウィンドウのツリーを展開し, [Default Web Site]を右クリックし, [仮想ディレクトリの追加]をクリックします。

8. "エイリアス"に任意の名前を指定し, "物理パス"に公開するフォルダのパス名を指定し, [OK]ボタンをクリックします。

エイリアスとは, WebブラウザにてURLを指定する場合の下線部分にあたります。

[http://\\*\\*.\\*\\*.\\*/Mxcomponent/NetTest.asp](http://**.**.*/Mxcomponent/NetTest.asp)

## Webサーバに正常にアクセスできるかを確認する

インターネット経由にて確認を行う場合は、Webサーバをインストールしたパソコンをインターネットに接続する必要があります。

Webサーバがインターネット/イントラネットに接続されたことを確認後、Webクライアント側のパソコンでWebブラウザ (Internet Explorer) を起動して次のようにURLを入力し、Webページが正常に表示されることを確認してください。

(URL入力例) `http://192.168.0.1/Mxcomponent/NetTest.asp`

The diagram shows the URL `http://192.168.0.1/Mxcomponent/NetTest.asp`. An arrow points from the text '付2.5にて設定したエイリアス' to the domain part '192.168.0.1'. Another arrow points from the text 'WebサーバのIPアドレス' to the same domain part.

NetTest.aspはMX Componentが提供しているWebサーバ動作確認用テストページです。

Webブラウザ上に、サーバのシステム日時が表示されることを確認してください。

### Point

- NetTest.aspへ正常にアクセスできない場合は、MX Componentを使用したWebページへもアクセスできません。  
このような場合は、Webサーバの設定やWebクライアントのブラウザの設定を再度確認してください。  
また、各設定は正しい場合でも、通信回線の混雑度などにより正常に通信が行えないため、Webページが表示できない場合もあります。  
この場合は、通信回線の状態を確認してください。
- NetTest.aspは、下記のフォルダに格納されています。  
[ユーザ指定フォルダ]-[Act]-[Sample]-[VBScript]-[SampleASP]

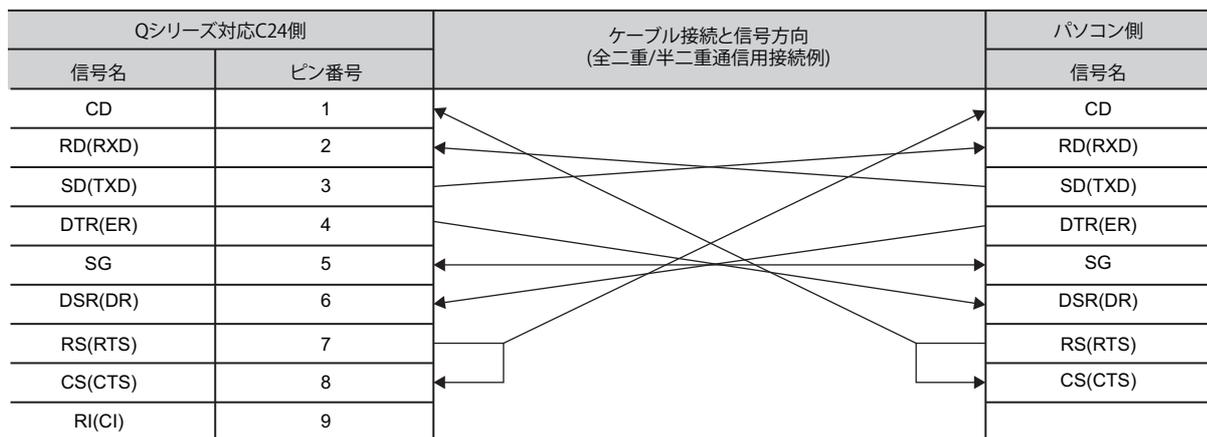
# 付3 シリアルコミュニケーション通信をする場合のRS-232ケーブルの配線例

## Qシリーズの場合

コネクタ仕様を下記に示します。

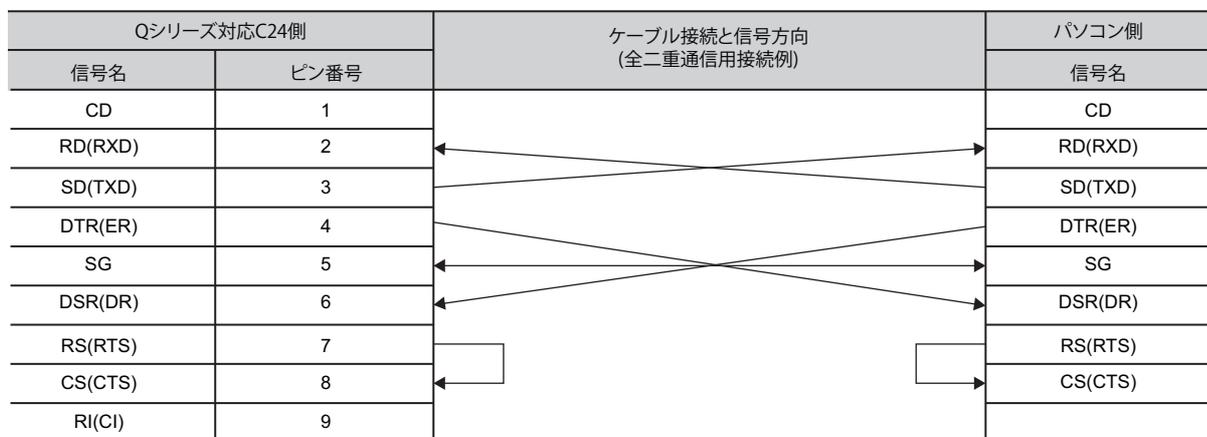
ピン番号	信号名	信号方向
1	CD	受信キャリア検出
2	RD(RXD)	受信データ
3	SD(TXD)	送信データ
4	DTR(ER)	データターミナルレディ
5	SG	送信グラウンド
6	DSR(DR)	データセットレディ
7	RS(RTS)	送信要求
8	CS(CTS)	送信可
9	RI(CI)	被呼表示

### CD信号(1番ピン)をON/OFFできる接続例



### CD信号(1番ピン)をON/OFFできない接続例

DCコード制御またはDTR/DSR制御を行うときの接続例



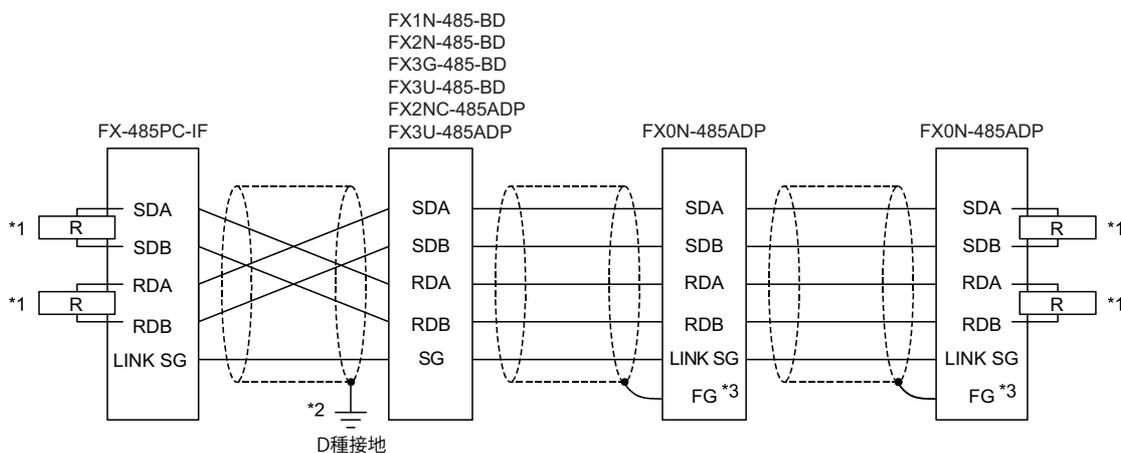
# FXシリーズの場合

パソコンとFX拡張ポートの接続例を下記に示します。

## パソコンとFX-485PC-IF変換器間のRS-232ケーブル接続例

パソコン側 信号名	ケーブル接続と信号方向 (全二重/半二重通信用接続例)	FX-485PC-IF側	
		信号名	ピン番号
SD(TXD)	→	SD(TXD)	2
RD(RXD)	←	RD(RXD)	3
RS(RTS)	→	RS(RTS)	4
CS(CTS)	←	CS(CTS)	5
DR(DSR)	→	DR(DSR)	6
SG(GND)	←	SG(GND)	7
ER(DTR)	→	ER(DTR)	20

## FX-485PC-IF変換器とFX拡張ポート間の接続例(2ペア配線の場合)



\*1

は、終端抵抗を示します。

終端抵抗は、必ず回線の両端に設けてください。

(2ペア配線時は330Ω 1/4Wの終端抵抗を使用します。)

FX3G-485-BD, FX3U-485-BD, FX3U-485ADPは、終端抵抗を内蔵しています。

終端抵抗を切換えスイッチにより設定してください。

FX0N-485ADP, FX1N-485-BD, FX2N-485-BD, FX2NC-485ADPは、付属の終端抵抗を使用してください。

\*2 FX1N-485-BD, FX2N-485-BD, FX2NC-485ADP, FX3G-485-BD, FX3U-485-BD, FX3U-485ADPに接続されるシールド線のシールドは、必ずD種接地してください。

\*3 FG端子は、必ずD種接地されたシーケンサ本体のアース端子に接続してください。

付

# 付4 マルチCPUシステムについて

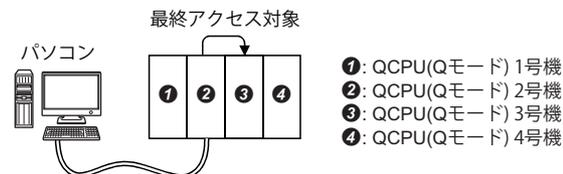
マルチCPUの号機指定は、最終アクセス局に対してのみ有効となります。

また、アクセス局の経由ユニットの非管理CPUへアクセスする場合は、自局、すべての中継局およびアクセス局の経由ユニットとQCPU(Qモード)を機能バージョンBのユニットにしてください。

## CPU COM通信の場合

### 例

シーケンサCPUの3号機(0x3E2)を指定してアクセスした場合は、③のCPUに対してアクセスします。



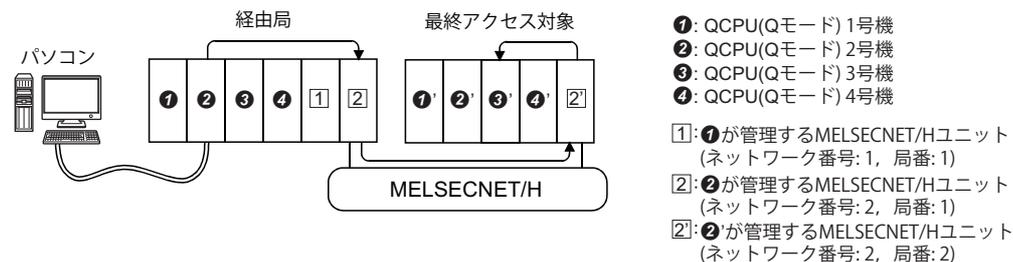
## CPU COM通信(MELSECNET/H経由)の場合

### 例

シーケンサCPUの3号機(0x3E2)、ネットワーク番号: 2、局番: 2を指定してアクセスした場合は、③'のCPUに対してアクセスします。

経由局に対しては、CPU号機指定はできません。

したがって、下記の場合にネットワーク番号: 1に対してアクセスしても、②のCPUに管理されたネットワーク番号は"2"しか存在しないため、エラーとなります。



# 付5 Q00JCPU, Q00UJCPU, Q00CPU, Q00UCPU, Q01CPU, Q01UCPU使用時のネットワークユニットの装着可能枚数について

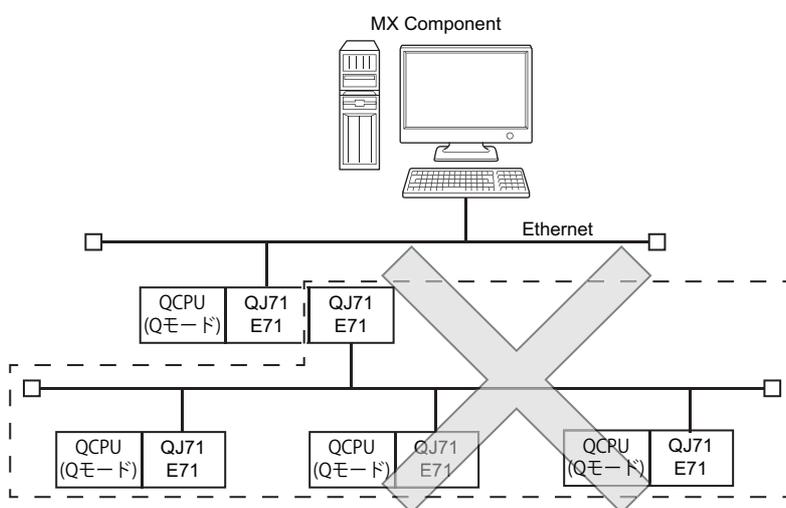
Q00JCPU, Q00UJCPU, Q00CPU, Q00UCPU, Q01CPU, Q01UCPU使用時に接続できるネットワークユニットの装着可能枚数を下記に示します。

ネットワークユニット	装着可能枚数
MELSECNET/Hユニット	1枚
Ethernetユニット	1枚
CC-Linkユニット(機能バージョンB以降品)	2枚
CC-Link IEコントローラネットワークユニット	1枚

したがって、下記のようなシステムは構築することができません。

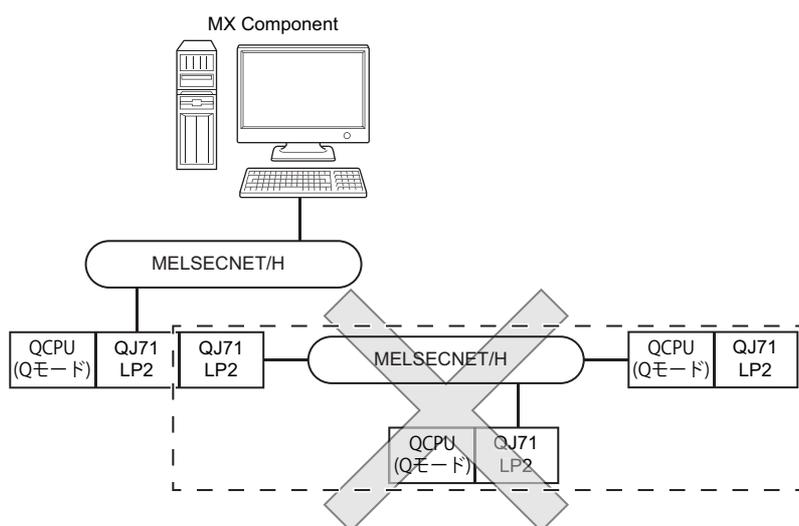
## 例

Ethernetユニットは装着可能枚数が1枚のため、破線部のシステム構築はできません。



## 例

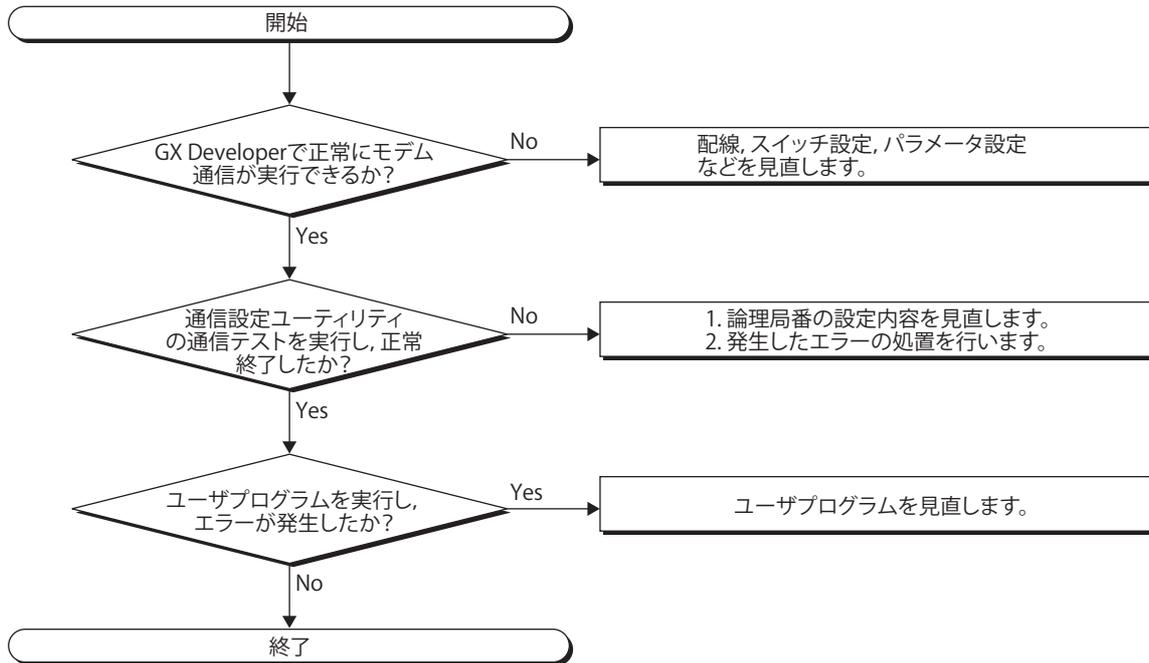
MELSECNET/Hユニットは装着可能枚数が1枚のため、破線部のシステム構築はできません。



付

# 付6 モデム通信時にアクセスできない場合のフロー

モデム通信を使用してシーケンサCPUへアクセスできない場合、下記のフローを参考に対処を行ってください。



# 付7 二重化CPUへの対応について

MX Componentの二重化CPUへの対応について説明します。

## RnPCPU(二重化モード)またはRnPSFCPUの場合

### 二重化CPU指定

iQ-Rシリーズの二重化CPU指定では、「指定なし」のみ選択することができます。

二重化CPU指定の設定は、ユーティリティ設定タイプの通信設定ウィザードによるものと、プログラム設定タイプのコントロールのプロパティによるものがあります。

- 指定なし: 従来と同様に、接続先のシーケンサCPUに接続します。

MX Componentが二重化CPUシステムにアクセスしている場合、どちらの系にアクセスしているかを判断するには、下記の特種リレーをモニタしてください。

- A系/B系のどちらであるかを確認するとき

二重化システムのA系/B系を示します。

トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しません。

—	A系	B系	系未決定
SM1632(A系判別フラグ)	ON	OFF	OFF
SM1633(B系判別フラグ)	OFF	ON	OFF

- 運転系状態を確認するとき

CPUユニットの運転状態を示します。

トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しません。

—	制御系	待機系	系未決定
SM1634(制御系判別フラグ)	ON	OFF	OFF
SM1635(待機系判別フラグ)	OFF	ON	OFF

### 系切替えが発生したときの動作

iQ-Rシリーズは系切替えに対応していません。

# QnPRHの場合

## 二重化CPU指定

二重化CPU指定では、「制御系」、「指定なし」のいずれかを選択して、対応する二重化CPUにアクセスすることができます。二重化CPU指定の設定は、ユーティリティ設定タイプの通信設定ウィザードによるものと、プログラム設定タイプのコントロールのプロパティによるものがあります。

- ・ 制御系:制御系に接続し、系切替えに追従して制御系へのアクセスを継続します。
- ・ 指定なし:従来と同様に、接続先のシーケンサCPUに接続します。

MX Componentが二重化CPUシステムにアクセスしている場合、どちらの系にアクセスしているかを判断するには、下記の特種リレーをモニタしてください。

- ・ A系/B系のどちらであるかを確認するとき  
二重化システムのA系/B系を示します。

トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しません。

—	A系	B系	系未決定(TRK.CABLE ERR.(エラーコード: 6120)発生時)
SM1511(A系判別フラグ)	ON	OFF	OFF
SM1512(B系判別フラグ)	OFF	ON	OFF

- ・ 運転系状態を確認するとき

CPUユニットの運転状態を示します。

トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しません。

—	制御系	待機系	系未決定(TRK.CABLE ERR.(エラーコード: 6120)発生時)
SM1515(制御系判別フラグ)	ON	OFF	OFF
SM1516(待機系判別フラグ)	OFF	ON	OFF

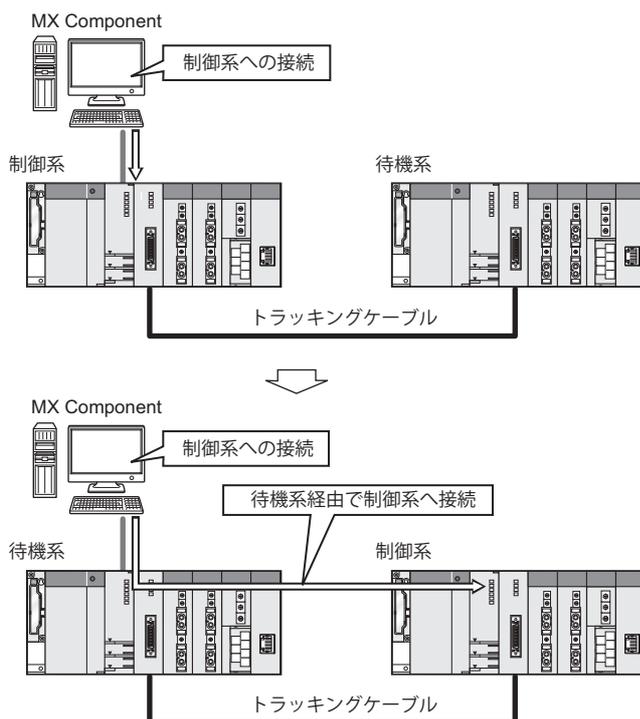
## 系切替えが発生したときの動作

「制御系」を選択して二重化CPUにアクセスしているときに系切替えが発生した場合は、次のようにアクセスを継続します。

### ■MELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワーク以外で接続している場合

系切替え後の制御系へのアクセスを継続します。

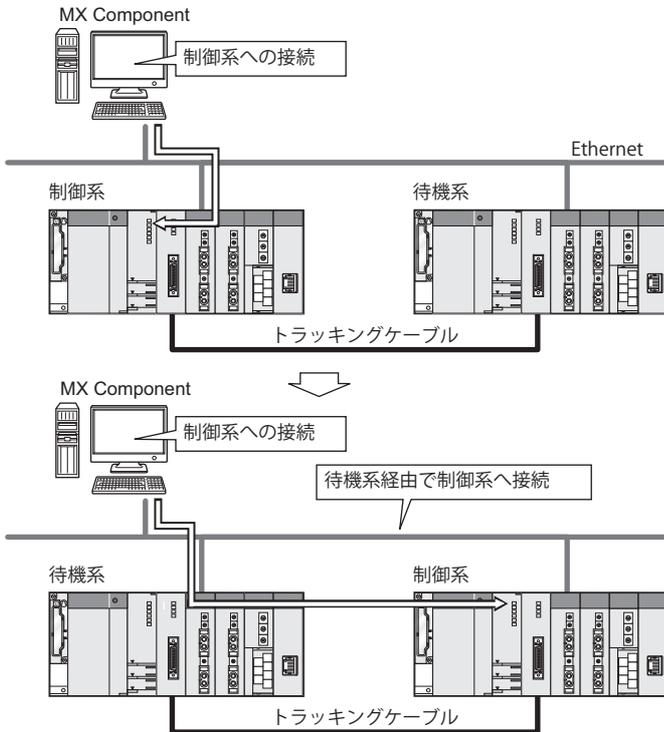
CPU直結時の例を下記に示します。



■MELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワークに接続している場合  
 通信異常の有無により、下記のように系切替え後の制御系へのアクセスを継続します。  
 Ethernet接続時の例を下記に示します。

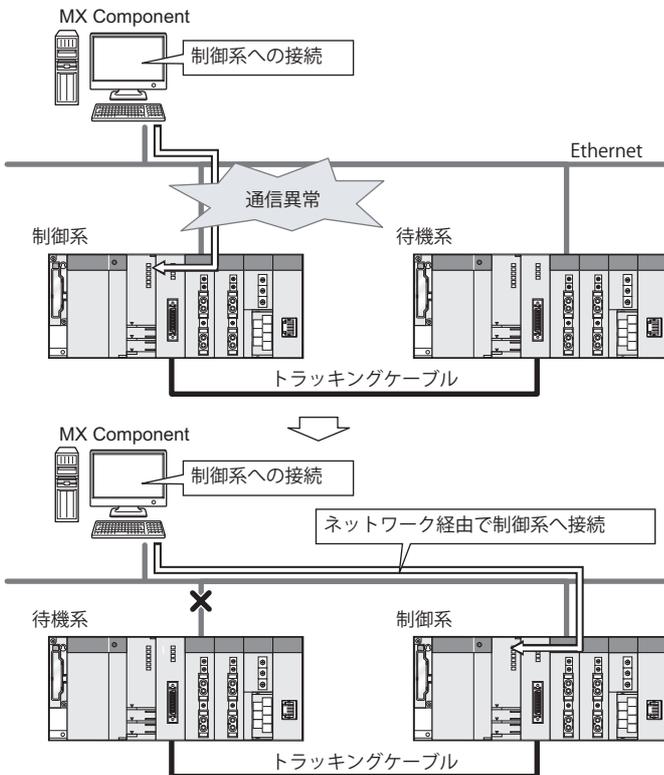
**例**

通信が正常に行われているとき



**例**

通信異常が発生したとき



Ethernet接続の場合、通信異常の発生から制御系へ接続して通信を開始するまでに、時間がかかる場合があります。

## 通信経路の自動切替え

制御系指定でMELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワークに接続されている二重化CPUに対してアクセスしている場合、通信異常が発生すると通信経路を自動的に切り替え、制御系へのアクセスを継続します。

この通信経路の自動切替えを以下、「経路切替え」と言います。

経路切替えが行われる条件、経路切替え発生有無の確認方法と経路切替えによるアクセス例を下記に示します。

### ■経路切替えが行われる条件

下記の条件でアクセスしているときは、通信異常が発生しても経路切替えにより、二重化CPUへのアクセスが継続されます。

—	アクセスの継続が可能な条件
運転モード	バックアップモード、セパレートモード*1
二重化CPU指定	制御系

\*1 セパレートモードの場合、制御系の電源OFF/リセット時にはシステムによる系切替えは行われません。

ただし、通信を開始時にトラッキング異常が発生していた場合、その後にトラッキングが復旧しても、経路切替えによる制御系へのアクセスの継続は行われません。

どちらか一方の二重化CPUが電源OFFまたはリセット状態も含まれます。

### ■経路切替え発生有無の確認方法

二重化CPU指定で通信している場合、通信異常の発生による経路切替えで通信が継続されているか否かを推測することができます。

モニタする特殊リレー・特殊レジスタと推測される経路切替えの可能性について、下記に示します。

SM1600*1	SD1590*2	SD1690*2	経路切替えの発生の可能性	参照
OFF	いずれかが0以外		ネットワークユニットからの系切替え要求が検出されたため、経路切替えが行われた可能性があります。	407ページ 経路切替えによるアクセス例 通信異常で系切替えが発生した場合
ON	0	0	他系異常が発生しているため、経路切替えが行われた可能性があります。	407ページ 経路切替えによるアクセス例 待機系異常が発生した場合
ON	いずれかが0以外		他系異常が発生している、もしくはネットワークユニットからの系切替え要求が検出されたため経路切替えが行われた可能性があります。	407ページ 経路切替えによるアクセス例 通信異常で系切替えが発生した場合、待機系異常が発生した場合

\*1 SM1600がONしていても、トラッキングケーブル経由でCPUにアクセスしていない場合は、経路切替えは発生しません。

\*2 Ethernetに接続されている二重化CPUに対して、SM1600, SD1590, SD1690により経路切替えの発生の有無を推測するときは、GX Works2のネットワークパラメータの二重化設定で下記の項目をチェックしてください。

- 断線検出で系切替え要求を発行する
- 通信異常で系切替え要求を発行する

上記特殊リレーと特殊レジスタの状態をもとに下記の確認を行い、異常の要因を取り除いてください。

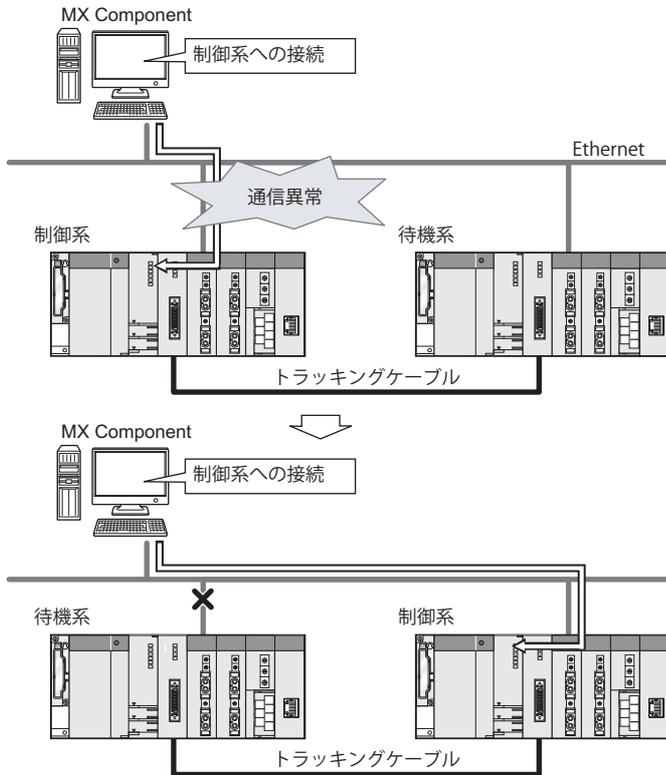
- 二重化CPUでエラーが発生していないか。
- トラッキングケーブルの状態、およびトラッキングケーブルが正しく接続されているか。
- 該当ネットワークユニットでエラーが発生していないか、および該当ネットワークユニットが接続されているネットワークでエラーが発生していないか。

## ■経路切替えによるアクセス例

Ethernet接続にて制御系へアクセスしている場合の経路切替えの例を下記に示します。

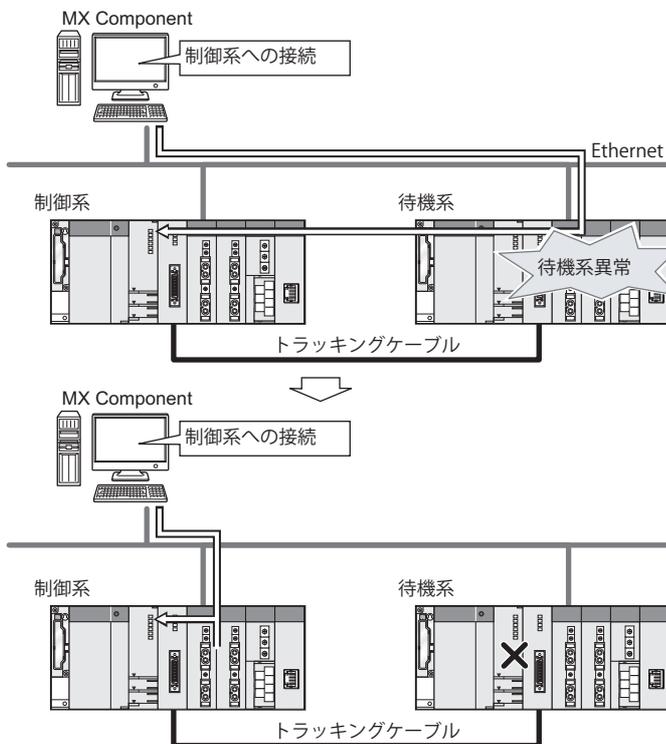
### 例

通信異常で系切替えが発生した場合



### 例

待機系異常が発生した場合



- 通信を開始する時点で相手先指定の二重化CPUに対して通信異常が発生している場合は、経路切替えが行われません。(通信エラーとなります。)
- Ethernet接続の場合、通信異常の発生から制御系へ接続して通信を開始するまでに、時間がかかる場合があります。
- 通信異常が発生している場合は、下記を参照し、通信の障害を取り除いてください。

☞ 406ページ 経路切替え発生有無の確認方法

☞ 407ページ 経路切替えによるアクセス例

## 経路切替えの発生の有無を推測するときモニタする特殊リレー、特殊レジスタ

経路切替えの発生の有無を推測するときモニタする特殊リレー、特殊レジスタの詳細を示します。

番号	名称	内容	内容詳細
SM1600	他系異常フラグ	OFF:異常なし ON:異常あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 二重化システム用エラーチェックでエラーが生じればONします。(SD1600のいずれかのビットONでONします。)</li> <li>• 以後、異常がなくなればOFFします。</li> </ul>
SD1590	自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自系のネットワークユニットからの系切替え要求が発行されたユニットNo.ごとに下記ビットがONします。</li> <li>• ユーザにより該当ユニットの異常を取り除いたあと、システムにてOFFします。</li> </ul> <p>各ビット 0: OFF 1: ON</p> <p>SD1590</p> <p>ユニット0: CPUユニットは2スロット品のため無効 ユニット1: CPUユニットの右隣のユニット } ユニット11: 12スロットベース(Q312B)の最右端のユニット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.はSD1690を参照します。</li> </ul>
SD1690	他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 他系のネットワークユニットからの系切替え要求が発行されたユニットNo.ごとに下記ビットがONします。</li> <li>• ユーザにより該当ユニットの異常を取り除いたあと、システムにてOFFします。</li> </ul> <p>各ビット 0: OFF 1: ON</p> <p>SD1690</p> <p>ユニット0: CPUユニットは2スロット品のため無効 ユニット1: CPUユニットの右隣のユニット } ユニット11: 12スロットベース(Q312B)の最右端のユニット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.はSD1590を参照します。</li> </ul>

## 組合せ可否表

Qシリーズの二重化増設ベース(Q65WRB)経由の通信をサポートします。

組合せの可否を下記に示します。

○:使用可能, ×:使用不可

品名	形名	機能バージョン	組合せ可否	
			基本ベース装着の場合	増設ベース装着の場合
MELSECNET/Hユニット	QJ71LP21-25	D以降	○	×
	QJ71LP21S-25	D以降	○	×
	QJ71LP21G	D以降	○	×
	QJ71BR11	D以降	○	×
	QJ72LP25-25	—	×	×
	QJ72LP25G	—	×	×
	QJ72BR15	—	×	×
	QJ71LP21	—	×	×
Ethernetユニット	QJ71E71	—	×	×
	QJ71E71(N1)-B2	D以降	○	○
	QJ71E71(N1)-B5	D以降	○	○
	QJ71E71-100	D以降	○	○
モデムユニット	QJ71CMO	B以降	×	○
シリアルコミュニケーションユニット	QJ71C24N	—	×	○
	QJ71C24N-R2	—	×	○
	QJ71C24N-R4	—	×	○
CC-Linkユニット	QJ61BT11	—	×	○
	QJ61BT11N	—	○ <sup>*1</sup>	○
CC-Link IEコントローラネットワークユニット	QJ71GP21-SX	D以降	○	×
	QJ71GP21S-SX	D以降	○	×

\*1 シリアルNo.の上5桁が06052未満の場合は使用できません。

# 付8 従来品との相違点について

## MX Component Version 3との比較

本項では、MX Component Version 3とVersion 4.00Aの相違点について示します。

Version 4.00A以降のバージョンで追加、変更になった機能については下記を参照してください。

☞ 443ページ 以前のバージョンより追加/変更になった機能

### コントロール

コントロールについて、以下の追加、変更がありました。

- ACTコントロール名の変更(プログラム設定タイプのコントロールを統合しました。ロギングファイル転送用のコントロールを追加しました。)
- .NETコントロールの追加(ラベルが使用できるようになりました。)

コントロールの種類		コントロール名			
		Version 3		Version 4.00A	
ACT コントロール	プログラム設定タイプ	ActCCBD ActCCG4A ActCCG4Q ActCCG4QnA ActCCIEFADPTCP ActCCIEFADPUUDP ActCCIEFBD ActFX485BD ActFXCPU ActFXCPUUSB ActFXENETTCP ActGOT ActGOTTRSP ActLCP ActLCPUTCP ActLCPUUDP ActLCPUUSB ActLJ71C24 ActLLT ActMnet10BD ActMnet2BD ActMnetGBD ActMnetHBD ActQCP ActQCPUQ ActQCPUQBus ActQCPUQUSB ActQJ71C24 ActQJ71E71TCP ActQJ71E71UDP ActQnACPU ActQNUDECPUTCP ActQNUDECPUUDP ActSIM	ActMLCCBD ActMLCCG4A ActMLCCG4Q ActMLCCG4QnA ActMLCCIEFADPTCP ActMLCCIEFADPUUDP ActMLCCIEFBD ActMLFX485BD ActMLFXCPU ActMLFXCPUUSB ActMLFXENETTCP ActMLGOT ActMLGOTTRSP ActMLLCP ActMLLCPUTCP ActMLLCPUUDP ActMLLCPUUSB ActMLLJ71C24 ActMLLLT ActMLMnet10BD ActMLMnet2BD ActMLMnetGBD ActMLMnetHBD ActMLQCP ActMLQCPUQ ActMLQCPUQBus ActMLQCPUQUSB ActMLQJ71C24 ActMLQJ71E71TCP ActMLQJ71E71UDP ActMLQnACPU ActMLQNUDECPUTCP ActMLQNUDECPUUDP ActMLSIM	ActProgType	ActMLProgType

コントロールの種類		コントロール名			
		Version 3		Version 4.00A	
ACT コントロール	プログラム設定タイプ	ActFXCPU TEL ActLJ71C24 TEL ActQ6 TEL ActQJ71C24 TEL	—	—	—
		ActSupport	ActMLSupport	ActSupportMsg	ActMLSupportMsg
		ActACPU ActAFBD ActAJ71C24 ActAJ71E71TCP ActAJ71E71UDP ActAJ71QC24 ActAJ71QE71TCP ActAJ71QE71UDP ActAJ71UC24 ActAnUBD	ActMLACPU ActMLAFBD ActMLAJ71C24 ActMLAJ71E71TCP ActMLAJ71E71UDP ActMLAJ71QC24 ActMLAJ71QE71TCP ActMLAJ71QE71UDP ActMLAJ71UC24 ActMLAnUBD	—	—
		ActA6TEL ActAJ71QC24TEL	—	—	—
		—	—	ActProgDataLogging	—
		—	—	ActUtilType	ActMLUtilType
	ユーティリティ設定タイプ	ActEasyIF	ActMLEasyIF	ActUtilType	ActMLUtilType
	—	—	ActUtilDataLogging	—	
.NET コントロール	ユーティリティ設定タイプ	—	—	DotUtilType DotSupportMsg	—

**Point**

- MX Component Version 3のコントロールについて  
MX Component Version 4をインストールすると、MX Component Version 3のコントロールも使用できません。  
☞ 413ページ 置き換えについて
- 対応しなくなった通信経路を使用したい場合  
MELSEC-Aシリーズシーケンサへのアクセスなど、MX Component Version 4で対応していない通信経路を使用したい場合は、MX Component Version 3のコントロールを使用してください。
- コントロールと通信経路の詳細について  
下記を参照してください。  
  - 📖 MX Component Version 4 プログラミングマニュアル
  - 📖 MX Component Version 3 プログラミングマニュアル
 マニュアルは、MX Component Version 4のCD-ROMにPDFファイルで格納されています。

## 開発環境

MX Component Version 3の開発環境に対するMX Component Version 4.00Aでの対応は、以下のとおりです。

○: 対応, ー: 非対応

項目	Version 3で使用できるソフトウェア	Version 4.00Aでの対応		
OS	Microsoft Windows 95 Microsoft Windows 98 Microsoft Windows Millennium Edition Microsoft Windows NT Microsoft Windows 2000	ー		
	Microsoft Windows XP Microsoft Windows Vista	○*1		
	Microsoft Windows 7	○		
プログラミング言語	Visual Basic	Microsoft Visual Basic 6.0 Microsoft Visual Basic .NET 2003	ー	
		Microsoft Visual Studio 2005 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2008 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2010 Visual Basic	○	
		Visual C++	Microsoft Visual C++ 6.0 Microsoft Visual C++ .NET 2003	ー
	Visual C++	Microsoft Visual Studio 2005 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2008 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2010 Visual C++	○	
		VBScript	テキストエディタおよび市販のHTMLツール	○
		VBA	Microsoft Excel 2000 Microsoft Excel 2002	ー
	Microsoft Excel 2003 Microsoft Excel 2007 Microsoft Excel 2010(32ビット版)		○	
	Microsoft Access 2000 Microsoft Access 2002		ー	
	Microsoft Access 2003 Microsoft Access 2007 Microsoft Access 2010(32ビット版)		○	

\*1 対応しているService Packに制約があります。

### 制約事項

- 対応しなくなった開発環境を使用したい場合  
MX Component Version 4で対応していない開発環境を使用したい場合は、MX Component Version 3を使用してください。MX Component Version 3はMX Component Version 4のCD-ROMに格納されています。
- 開発環境の詳細について  
下記を参照してください。  
  - ☞ 49ページ 動作環境
  - 📖 MX Component Version 3 オペレーティングマニュアル  
マニュアルは、MX Component Version 4のCD-ROMにPDFファイルで格納されています。

## 通信設定ユーティリティ

通信設定ユーティリティに関する変更はありませんが、MX Component Version 3, MX Component Version 4で対応している通信経路に対する設定が可能です。

## 置き換えについて

MX Component Version 3で作成したプログラムや通信設定は、MX Component Version 4で流用できます。

### インストール

MX Component Version 4には、MX Component Version 3と同時にインストールできません。  
MX Component Version 3をアンインストールしてから、インストールしてください。

### プログラムの流用

MX Component Version 4には、MX Component Version 3のコントロールが含まれています。  
このため、MX Component Version 3のコントロールを使用して作成したプログラムは、変更することなくMX Component Version 4で動作します。

### 通信設定の流用

MX Component Version 3の設定ファイル(.ACTファイル)を、MX Component Version 4の通信設定ユーティリティでインポートしてください。( 96ページ 通信設定のインポート)

MX Component Version 3およびMX Component Version 4のコントロールで使用できます。

# 付9 バージョン互換について

---

## ACT版インストール

ラベルを使用しない場合は、同梱されている別のインストーラを使用して、.NET Frameworkおよびラベル機能をインストールしないようにすることができます。

CD-ROMのVerACTフォルダ下にあるSETUP.EXEを実行してください。

ACT版で使用できる通信経路は下記のとおりです。

- 接続局がシーケンサまたはモーションコントローラ

# 付10 ラベル名で使用できない文字列

## 予約語

予約語は、ラベル名として使用できません。

予約語の一覧を下記に示します。

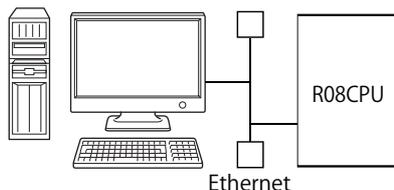
カテゴリ	文字列
クラス識別子	VAR, VAR_RETAIN, VAR_ACCESS, VAR_CONSTANT, VAR_CONSTANT_RETAIN, VAR_INPUT, VAR_INPUT_RETAIN, VAR_OUTPUT, VAR_OUTPUT_RETAIN, VAR_IN_OUT, VAR_IN_EXT, VAR_EXTERNAL, VAR_EXTERNAL_CONSTANT, VAR_EXTERNAL_CONSTANT_RETAIN, VAR_EXTERNAL_RETAIN, VAR_GLOBAL, VAR_GLOBAL_CONSTANT, VAR_GLOBAL_CONSTANT_RETAIN, VAR_GLOBAL_RETAIN
データ型	BOOL, BYTE, INT, SINT, DINT, LINT, UINT, USINT, UDINT, ULINT, WORD, DWORD, LWORD, ARRAY, REAL, LREAL, TIME, STRING, TIMER, COUNTER, RETENTIVETIMER, POINTER, ビット, ワード[符号なし]/ビット列[16ビット], ダブルワード[符号なし]/ビット列[32ビット], ワード[符号付き], ダブルワード[符号付き], 単精度実数, 倍精度実数, 文字列, 時間, タイマ, カウンタ, 積算タイマ, ポインタ
データタイプ階層	ANY, ANY_NUM, ANY_BIT, ANY_REAL, ANY_INT, ANY_DATE ANY_SIMPLE, ANY16, ANY32
デバイス名	X, Y, D, M, T, B, C, F, L, P, V, Z, W, I, N, U, J, K, H, E, A, SD, SM, SW, SB, FX, FY, DX, DY, FD, TR, BL, SG, VD, ZR, ZZ
デバイスとして認識される文字列 (デバイス名+数字)	X0など
ST演算子	NOT, MOD (, ), -
IL演算子	LD, LDN, ST, STN, S, S1, R, R1, AND, ANDN, OR, ORN, XOR, XORN, ADD, SUB, MUL, DIV, GT, GE, EQ, NE, LE, LT, JMP, JMPC, JMPCN, CAL, CALC, CALCN, RET, RETC, RETCN LDI, LDP, LDF, ANI, ANDP, ANDF, ANB, ORI, ORP, ORF, ORB, MPS, MRD, MPP, INV, MEP, MEF, EGP, EGF, OUT(H), SET, RST, PLS, PLF, FF, DELTA(P), SFT(P), MC, MCR, STOP, PAGE, NOP, NOPLF
SFC命令	SFCP, SFCPEND, BLOCK, BEND, TRANL, TRANO, TRANA, TRANC, TRANCA, TRANOA, SEND, TRANOC, TRANOCA, TRANCO, TRANCOC, STEPn, STEPd, STEPSC, STEPSE, STEPST, STEPR, STEPc, STEPg, STEPI, STEPID, STEPISC, STEPISE, STEPIST, STEPIR, TRANJ, TRANOJ, TRANOCJ, TRANCJ, TRANCOJ, TRANCOCJ
STコードボディ	RETURN, IF, THEN, ELSE, ELSIF, END_IF, CASE, OF, END_CASE, FOR, TO, BY, DO, END_FOR, WHILE, END_WHILE, REPEAT, UNTIL, END_REPEAT, EXIT, TYPE, END_TYPE, STRUCT, END_STRUCT, RETAIN, VAR_ACCESS, END_VAR, FUNCTION, END_FUNCTION, FUNCTION_BLOCK, END_FUNCTION_BLOCK, STEP, INITIAL_STEP, END_STEP, TRANSITION, END_TRANSITION, FROM, UNTILWHILE
応用関数のファンクション名	AND_E, NOT_Eなどの応用関数のファンクション名
応用関数のファンクションブロック名	CTD, CTUなどの応用関数のファンクションブロック名
記号	/, ¥, *, ?, <, >,  , ", :, [ ], ,, =, +, %, ', ~, @, {, }, &, ^, ., タブ文字 ; !, #, \$, `
日付時刻リテラル	DATE, DATE_AND_TIME, DT, TIME, TIME_OF_DAY, TOD
その他	ACTION, END_ACTION, CONFIGURATION, END_CONFIGURATION, CONSTANT, F_EDGE, R_EDGE, AT, PROGRAM, WITH, END_PROGRAM, TRUE, FALSE, READ_ONLY, READ_WRITE, RESOURCE, END_RESOURCE, ON, TASK, EN, ENO, BODY_CCE, BODY_FBD, BODY_IL, BODY_LD, BODY_SFC, BODY_ST, END_BODY, END_PARAMETER_SECTION, PARAM_FILE_PATH, PARAMETER_SECTION, SINGLE, RETAIN, INTERVAL
K1～K8で始まる文字列	K1AAAなど
ラダー言語でのステートメント	;FB BLK START, ;FB START, ;FB END, ;FB BLK END, ;FB IN, ;FB OUT, ;FB_NAME, ;INSTANCE_NAME, ;FB, ;INSTANCE
共通命令	MOVなど
Windows予約語	COM1, COM2, COM3, COM4, COM5, COM6, COM7, COM8, COM9, LPT1, LPT2, LPT3, LPT4, LPT5, LPT6, LPT7, LPT8, LPT9, AUX, CON, PRN, NUL
サロゲートペア	0xD800～0xDBFF, 0xDC00～0xDFFF
制御コード	U+0000～U+001F, U+0080～U+009F, U+00A0～U+00BF, U+FFFE, U+FFFF
環境依存文字	

## その他、ラベル使用時の注意事項

- システムラベルVer.1のラベルでは、33文字以上の文字列は使用できません。
- システムラベルVer.2のラベルでは、257文字以上の文字列は使用できません。  
(システムラベルリスト名では33文字以上、構造体名では247文字以上の文字列は使用できません。)
- 半角カナ文字は使用できません。
- スペースは使用できません。
- 先頭文字に半角の数字は使用できません。
- ラベル名の太文字、小文字は区別されません。
- \_(アンダーバー)は、ラベル名の先頭および最後には使用できません。  
また、連続する\_(アンダーバー)は、データ名およびラベル名には使用できません。
- ビットデバイスの桁付は使用できません。
- インデックス修飾は使用できません。
- バッファメモリは指定できません。
- ラベル登録時に、デバイスチェックを行いません。

# 付11 性能

下記のシステム構成における各性能を示します。



OS : Windows Vista®  
 CPU : Intel Core 2Duo (2GHz)  
 メモリ : 2.00GB  
 対象CPU: R08CPU(パソコンと対象CPUは1対1で接続)  
 通信経路: TCP/IP  
 システムラベル登録数: 1000件

## MX Component(コントロール)の性能

### 時間性能

デバイスおよびラベルの読み込み/書き込み性能を示します。

処理/ラベル登録数		処理時間(ms)				
		デバイス	システムラベルVer.1		システムラベルVer.2	
			1回目	2回目	1回目	2回目
一括読出し	1ワード(1ラベル)	5.9	230.5	10.7	174.4	12.5
	960ワード(1ラベル)	12.3	227.3	17.3	182.0	19.8
	12288ワード(1ラベル)	157.9	353.5	164.5	330.3	166.9
一括書き込み	1ワード(1ラベル)	5.6	218.1	11.0	177.5	12.0
	960ワード(1ラベル)	17.6	232.0	22.6	189.9	24.6
	12288ワード(1ラベル)	161.4	367.7	170.1	327.3	171.6
ランダム読出し	1ワード(1ラベル)	5.6	31.0	4.5	40.8	5.0
	128ワード(128ラベル)	24.1	1802.7	38.2	2381.9	45.3
	256ワード(256ラベル)	42.3	3550.2	136.3	4866.6	169.8
ランダム書き込み	1ワード(1ラベル)	5.0	26.2	4.3	38.5	5.0
	128ワード(128ラベル)	30.5	1817.0	41.8	2334.5	47.0
	256ワード(256ラベル)	52.6	3550.1	140.2	4799.8	166.1

### メモリ性能

DotUtilTypeコントロールのキャッシュメモリ使用量を示します。

処理		メモリ使用量(KB)	
		システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
一括読出し	1000ラベル	(160)*1	(160)*1
一括書き込み			
ランダム読出し			
ランダム書き込み			

\*1 ()内は理論値です。

キャッシュサイズ(バイト)=160×使用したシステムラベル数  
 160(バイト)=システムラベルあたりのキャッシュデータのサイズ  
 システムラベル数=累計1000件の異なるシステムラベルを指定

# ラベル管理サービスの性能

## 時間性能

ラベル管理サービスの時間性能を示します。

処理	システムラベル定義	処理時間(ms)
パソコン起動時のサービスによるメモリ展開処理	構造体型のシステムラベル	4101
	構造体型以外のシステムラベル	6161
システムラベルデータの最新化	構造体型のシステムラベル	5064
	構造体型以外のシステムラベル	7081

## メモリ性能

ラベル管理サービスのメモリ使用量(ワーキングセット)を示します。

- 測定条件: システムラベル登録数:1000件

システムラベル定義	メモリ使用量(KB)	
	システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
構造体型のシステムラベル	30256	30268
構造体型以外のシステムラベル	31604	32156

### Point

測定条件のシステムラベル登録数は、構造体型以外の場合と、構造体型の場合で計算式が異なります。

- 構造体型以外の場合: システムラベル登録数=ラベル管理ユーティリティで登録したシステムラベル数
- 構造体型の場合: システムラベル登録数=(1+構造体要素数)×ラベル管理ユーティリティで登録したシステムラベル数

構造体型のシステムラベル登録数:1000件については、構造体要素が9つの構造体型のシステムラベルを100件定義して、 $(1+9) \times 100 = 1000$ 件としています。

# ラベル管理ユーティリティの性能

## 時間性能

ラベル管理ユーティリティの時間性能を示します。

処理	システムラベル定義	処理時間(秒)	
		システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
ラベルスペースの変更(読出し)	構造体型のシステムラベル	7.2	6.2
	構造体型以外のシステムラベル	7.7	8.0
ラベルスペースの保存	構造体型のシステムラベル	8.7	6.8
	構造体型でないシステムラベル	9.2	9.1
インポート	構造体型のシステムラベル	0.9	0.6
	構造体型でないシステムラベル	0.8	0.9
エクスポート	構造体型のシステムラベル	0.8	0.9
	構造体型でないシステムラベル	0.8	0.9

「ラベルスペースの保存」の処理時間は、システムラベルの登録数が増えるほど保存前のチェック処理に時間がかかるようになるため、登録数の増加率以上に処理時間が増加します。

## メモリ性能

ラベル管理ユーティリティのメモリ使用量(ワーキングセット)を示します。

- 測定条件: システムラベル登録数:1000件

システムラベル定義	メモリ使用量(KB)	
	システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
システムラベル未定義	4108	4316
構造体型のシステムラベル	8608	7500
構造体型以外のシステムラベル	12872	12256

## DISK占有サイズ

ラベル管理ユーティリティが生成するシステムラベルデータベースのDISK占有サイズを下記に示します。

システムラベル定義	DISK占有サイズ(KB)	
	システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
ラベル未定義(システムラベル登録数: 0件)	1756	24
構造体型のシステムラベル(システムラベル登録数: 1000件)	2310	89
構造体型以外のシステムラベル(システムラベル登録数: 1000件)	2370	246

### Point

測定条件のシステムラベル登録数は、構造体型以外の場合と、構造体型の場合で計算式が異なります。

- 構造体型以外の場合: システムラベル登録数=ラベル管理ユーティリティで登録したシステムラベル数
- 構造体型の場合: システムラベル登録数=(1+構造体要素数)×ラベル管理ユーティリティで登録したシステムラベル数

構造体型のシステムラベル登録数:1000件については、構造体要素が9つの構造体型のシステムラベルを100件定義して、 $(1+9) \times 100 = 1000$ 件としています。

# 付12 USBドライバのインストール

シーケンサCPUとUSB通信を行うには、USBドライバのインストールが必要になります。  
USBドライバのインストール手順を説明します。

## Point

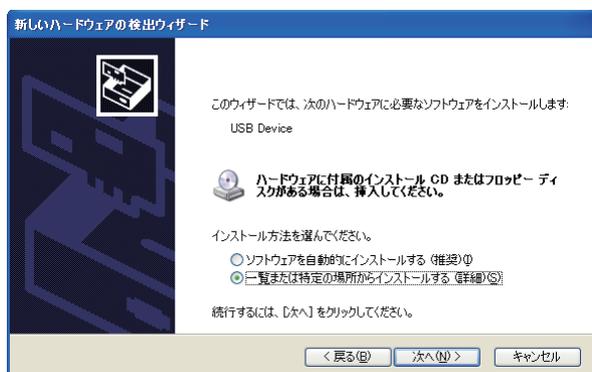
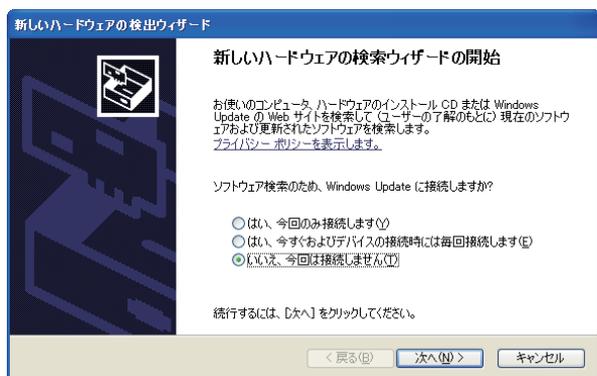
複数のMELSOFT製品がインストールされている場合、USBドライバは最初にインストールした製品のインストール先フォルダに格納されています。

本項では、USBドライバの格納先がC:\Program Files\MELSOFT\Easysocket\USBDriversの例で説明します。

## Windows XPの場合

Windows XP使用時のUSBドライバのインストール手順を下記に示します。

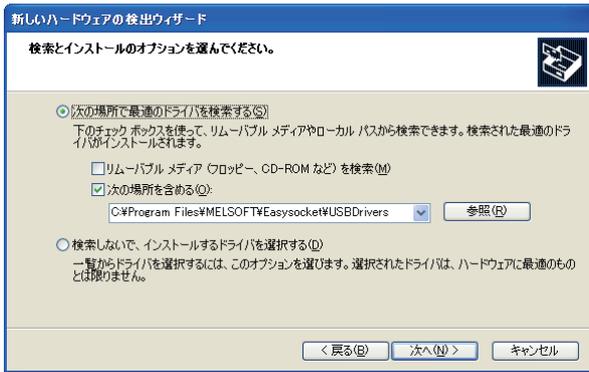
### 操作手順



1. パソコンとシーケンサCPUをUSBケーブルで接続し、シーケンサCPUの電源を入れてください。  
左記の画面が表示されます
2. "いいえ、今回は接続しません"を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

3. "一覧または特定の場所からインストールする(詳細)"を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

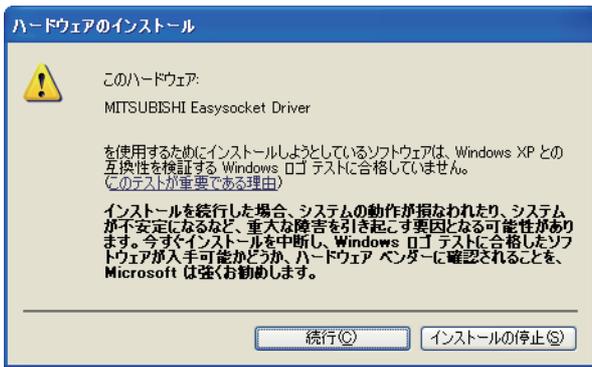
付



4. "次の場所で最適なドライバを検索する"を選択し, "次の場所を含める"にチェックします。
5. [参照]ボタンをクリックします。

6. USBドライバの格納先フォルダを選択し, [Easysocket]⇒[USBDrivers]の順にフォルダを選択し, [OK]ボタンをクリックします。

7. MITSUBISHI Easysocket Driverを選択し, [次へ]ボタンをクリックします。



インストールの完了

**Point**

USBドライバがインストールできない場合は、下記の設定をご確認ください。  
[コントロールパネル]-[システム]-[ハードウェア]-[ドライバの署名]で"ブロック-署名されていないドライバソフトウェアをインストールしない"が選択されているとUSBドライバがインストールできない場合があります。  
[ドライバの署名]で"無視-ソフトウェアをインストールし、確認を求めない"または"警告-毎回、操作の選択を求める"を選択し、USBドライバのインストールを行ってください。

8. [続行]ボタンをクリックします。

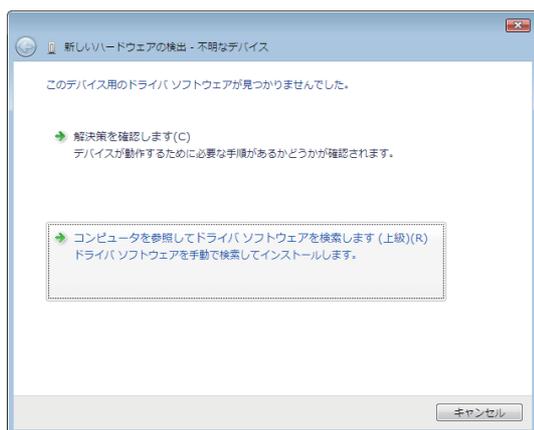
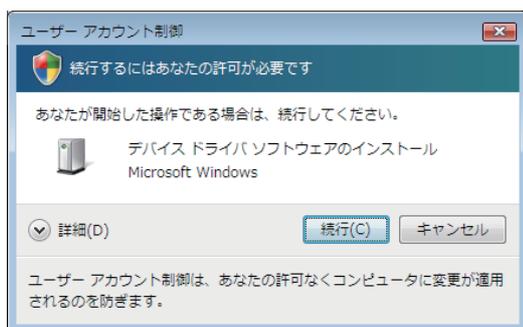
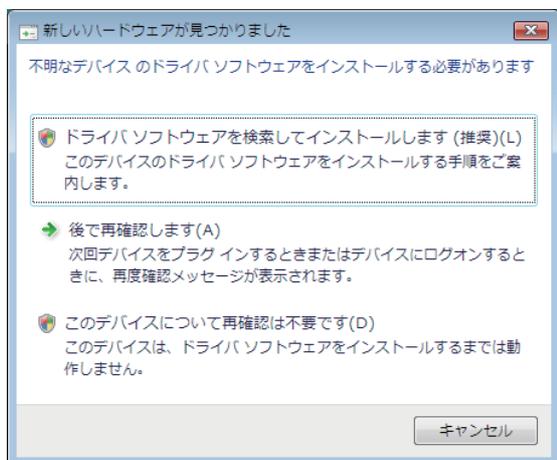
左記の画面が表示され、USBドライバのインストールが完了します。

9. [完了]ボタンをクリックして画面を閉じます。

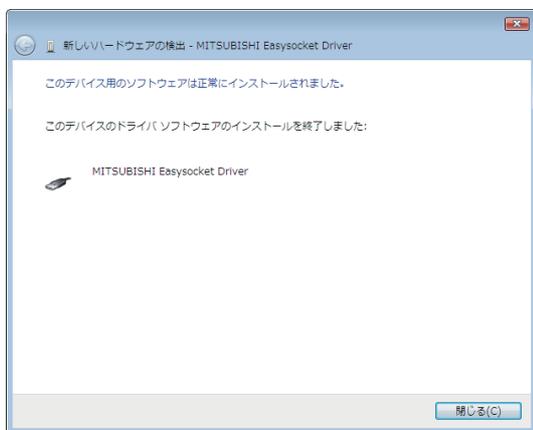
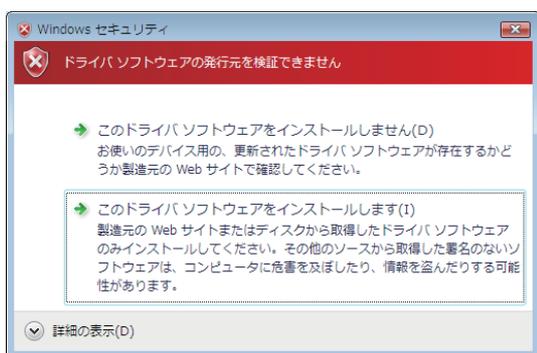
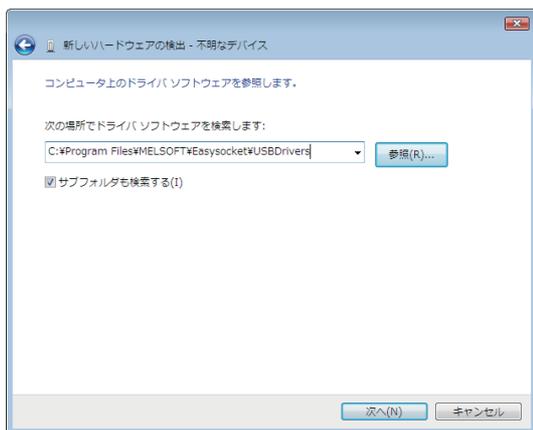
## Windows Vista の場合

Windows Vista 使用時のUSBドライバのインストール手順を下記に示します。

### 操作手順



1. パソコンとシーケンサCPUをUSBケーブルで接続し、シーケンサCPUの電源を入れてください。左記の画面が表示されます。
2. "ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)"を選択し、検索が終了するのを待ちます。
3. ユーザーアカウント制御が有効な場合は、左記の画面が表示されます。  
[続行]ボタンをクリックします。
4. "コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します(上級)"を選択します。



インストールの完了

5. "Easysocket\USBDrivers"を指定し、[次へ]ボタンをクリックします。

6. "このドライバソフトウェアをインストールします"を選択します。

左記の画面が表示され、USBドライバのインストールが完了します。

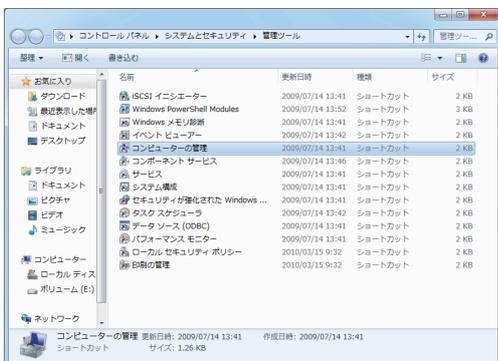
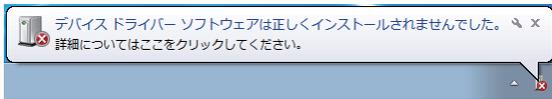
7. [閉じる]ボタンをクリックします。

付

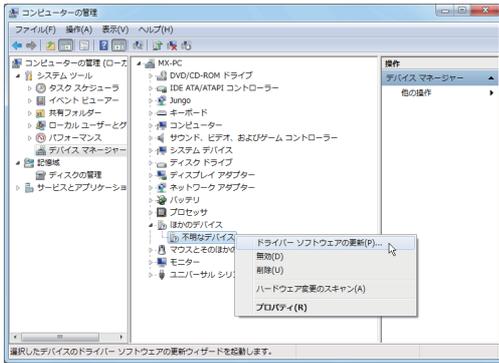
## Windows 7以降の場合

Windows 7以降使用時のUSBドライバのインストール手順を下記に示します。

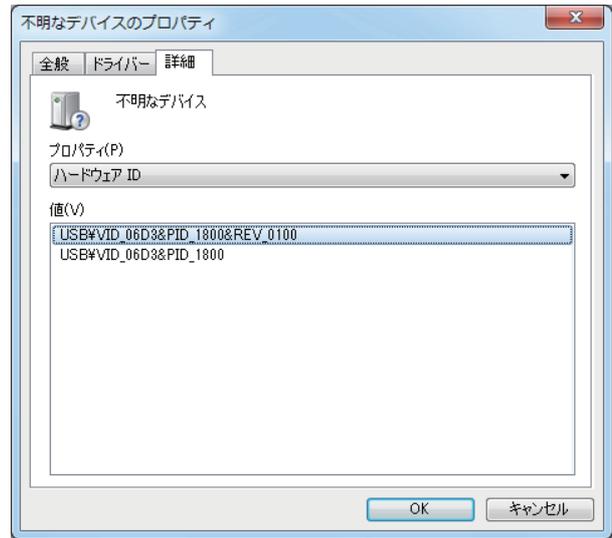
### 操作手順



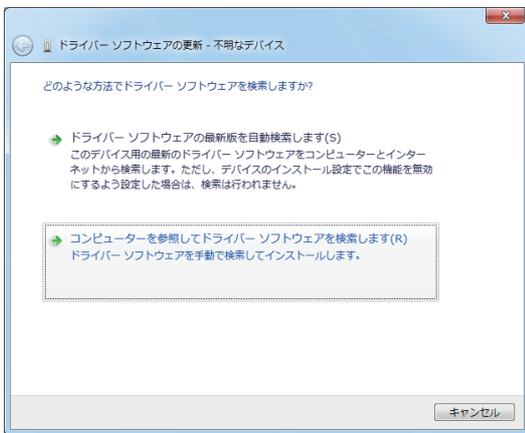
1. パソコンとシーケンサCPUをUSBケーブルで接続し、シーケンサCPUの電源を入れてください。  
<Windows 7 使用時>  
左記の画面が表示されます。  
<Windows 8およびWindows 8.1 使用時>  
表示されません。
2. コントロールパネルの中から[システムとセキュリティ]を選択します。  
(コントロールパネルの表示は[スタート]⇒[コントロールパネル]を選択します。)
3. [管理ツール]を選択します。
4. [コンピューターの管理]を選択してダブルクリックします。

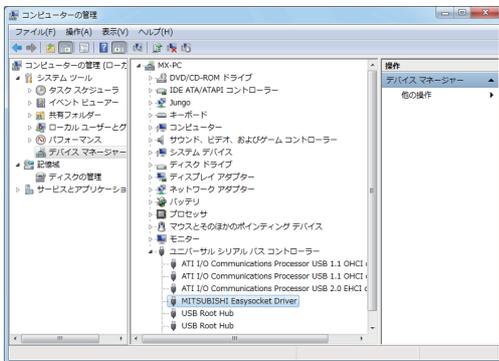
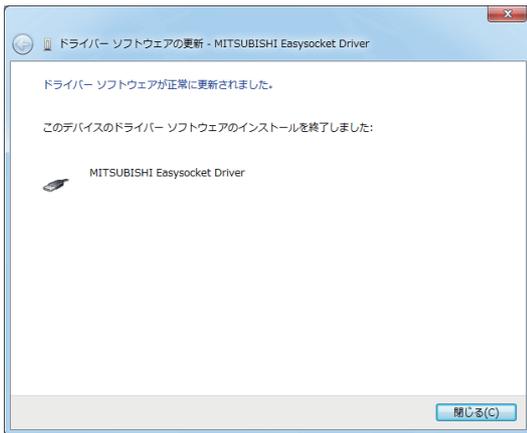
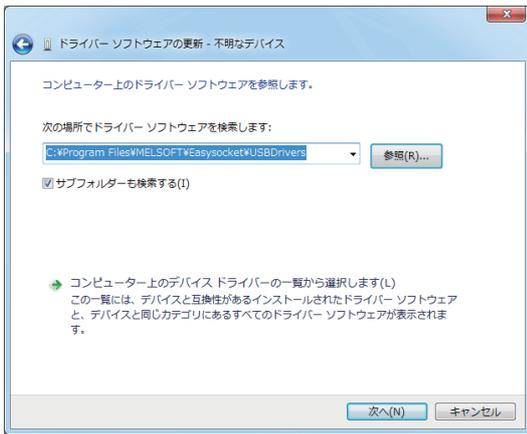


5. デバイスマネージャーで、左記のように"不明なデバイス"を右クリックし、[ドライバーソフトウェアの更新]を選択します。  
"不明なデバイス"が複数存在し、特定できない場合は、"不明なデバイス"を右クリックし、[プロパティ]を選択してください。  
プロパティ画面の[詳細]タブのハードウェアIDの値が"USB\VID\_06D3&PID\_1800"となっているデバイスが更新対象です。



6. "コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します"を選択します。





インストールの完了

7. "Easysocket\USBDrivers"を指定し、[次へ]ボタンをクリックします。  
左記画面は、  
C:\Program Files\MELSEC\Easysocket\USBDriversを指定した例です。  
なお、複数のMELSOFT製品がインストールされている場合は、最初の製品のインストール先を指定してください。

8. [インストール]ボタンをクリックします。

9. [閉じる]ボタンをクリックします。

10. "ユニバーサルシリアルバスコントローラー"に  
"MITSUBISHI Easysocket Driver"が登録されます。

# 付13 USBドライバの更新

Windows Vista以降において、各OSに対応していないMELSOFTをインストールしたあとに、対応したMELSOFTにバージョンアップした場合、USBドライバの更新が必要です。

USBドライバには、下記の2種類があります。

- ・シーケンサ接続用USBドライバ
- ・GOT接続用USBドライバ(GOTトランスペアレント機能で使用)

## シーケンサ接続用USBドライバの更新手順

### ■確認方法

USBドライバのバージョンにより、USBドライバの更新が必要かを確認できます。

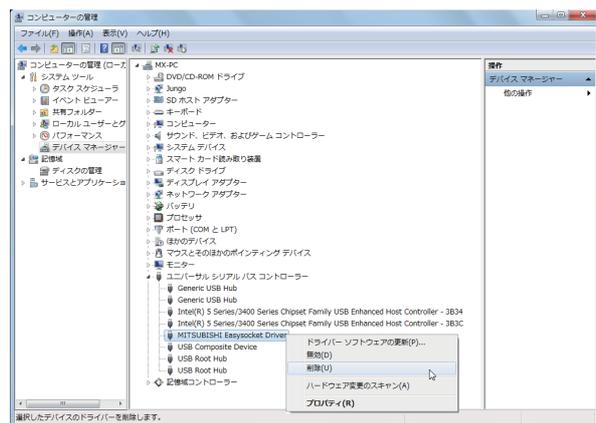
シーケンサとUSB接続した状態にて、OSのデバイスマネージャーを起動し、"MITSUBISHI Easysocket Driver"を右クリックし、[プロパティ]を選択してください。

プロパティ画面の[ドライバー]タブに表示される"バージョン"が下記である場合に、更新が必要です。

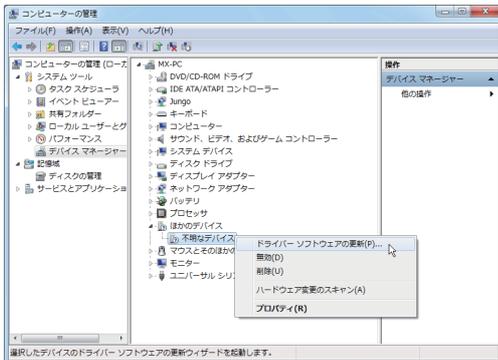
- ・ Windows Vista使用時: "2.0.0.0"以前
- ・ Windows 7使用時: "3.0.0.0"以前
- ・ Windows 8およびWindows 8.1使用時: "4.0.0.0"以前



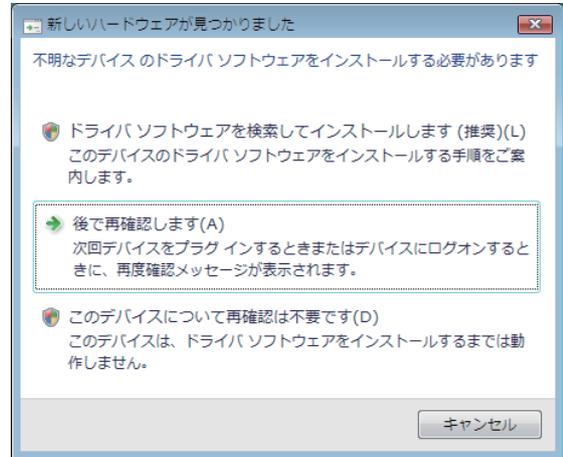
### ■更新手順



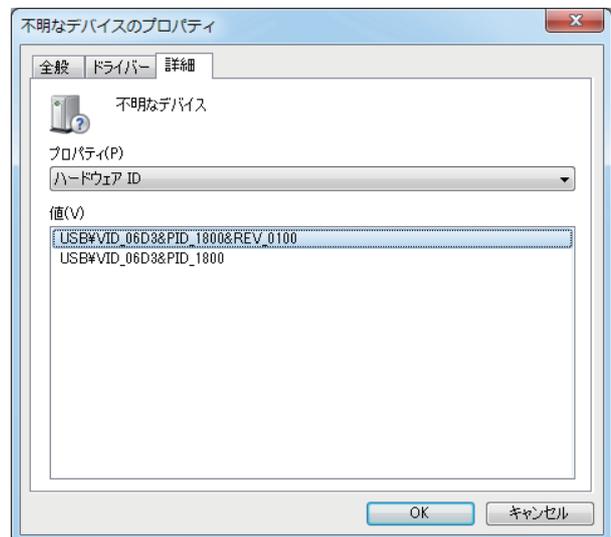
1. パソコンとシーケンサCPUをUSBケーブルで接続します。
2. デバイスマネージャーを起動し、"MITSUBISHI Easysocket Driver"を右クリックし、[削除]を選択します。

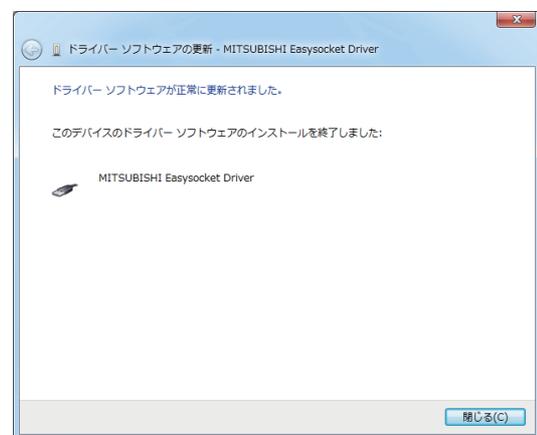
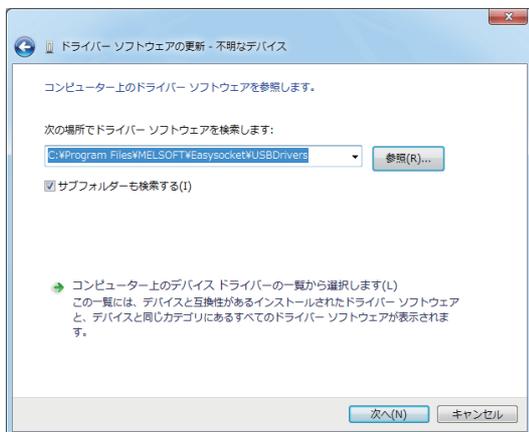
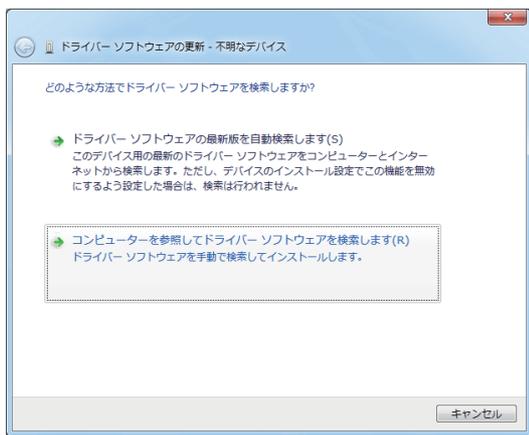


3. "このデバイスのドライバーソフトウェアを削除する" をチェックし, [OK]ボタンをクリックします。
4. USBケーブルを抜き, 5秒後に同一USBポートへ接続します。  
Windows Vista使用時は, 下記の画面が表示されます。  
"後で再確認します"を選択してください。



5. デバイスマネージャーで, "不明なデバイス"を右クリックし, [ドライバーソフトウェアの更新...]を選択します。  
"不明なデバイス"が複数存在し, 特定できない場合は, "不明なデバイス"を右クリックし, [プロパティ]を選択してください。  
プロパティ画面の[詳細]タブのハードウェアIDの値が "USB#VID\_06D3&PID\_1800"となっているデバイスが更新対象です。





更新完了

6. "コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します"を選択します。

7. "Easysocket¥USBDrivers"を指定し、[次へ]ボタンをクリックします。  
左記画面は、  
C:\Program Files\MELSEC\Easysocket¥USBDriversを指定した例です。  
なお、複数のMELSOFT製品がインストールされている場合は、最初の製品のインストール先を指定してください。

8. [インストール]ボタンをクリックします。

9. [閉じる]ボタンをクリックします。

付

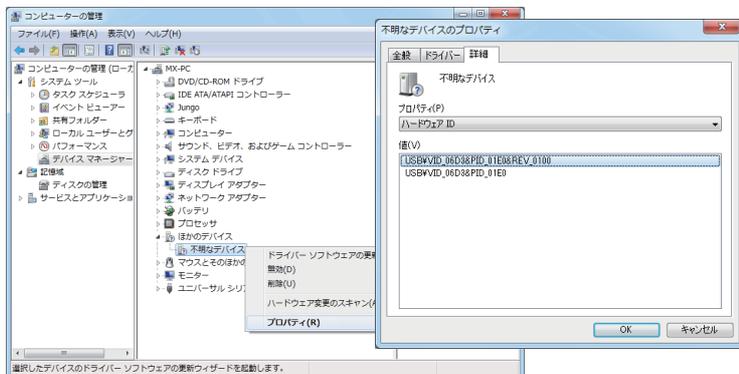
## GOT接続用USBドライバの更新手順

### ■確認方法

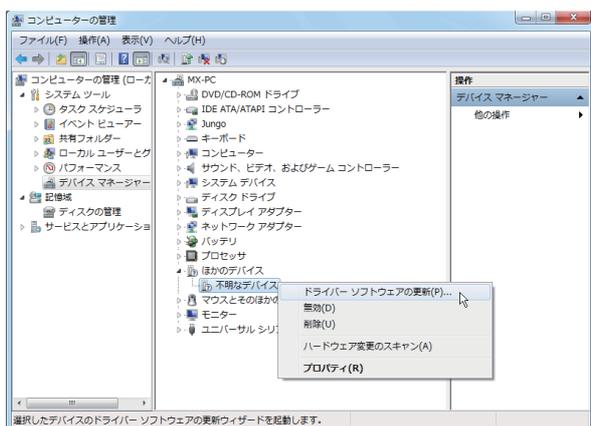
GOTとUSB接続した状態にて、GOTの電源を入れ直し、OSのデバイスマネージャを起動します。

"ユニバーサルシリアルバスコントローラ"に"MITSUBISHI GOT2000 USBController"または"MITSUBISHI GOT1000 USBController"が表示されず、"ほかのデバイス"に"不明なデバイス"が表示される場合、更新が必要です。

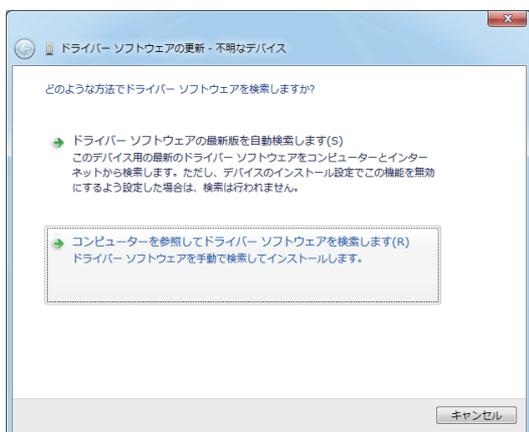
"不明なデバイス"のプロパティ画面の[詳細]タブで、"ハードウェアID"が"USB\VID\_06D3&PID\_01E0"となっている"不明なデバイス"が更新対象です。



### ■更新手順

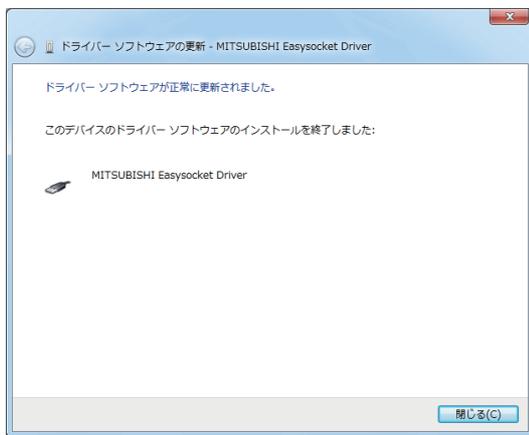
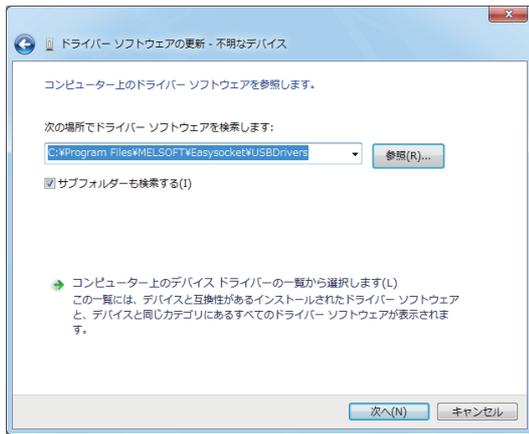


1. パソコンとGOTをUSBケーブルで接続します。
2. デバイスマネージャを起動し、"不明なデバイス"を右クリックし、[ドライバーソフトウェアの更新...]を選択します。



3. "コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します"を選択します。





更新完了

4. "Easysocket\USBDrivers"を指定し、[次へ]ボタンをクリックします。  
左記画面は、  
C:\Program Files\MELSEC\Easysocket\USBDriversを指定した例です。  
なお、複数のMELSOFT製品がインストールされている場合は、最初の製品のインストール先を指定してください。

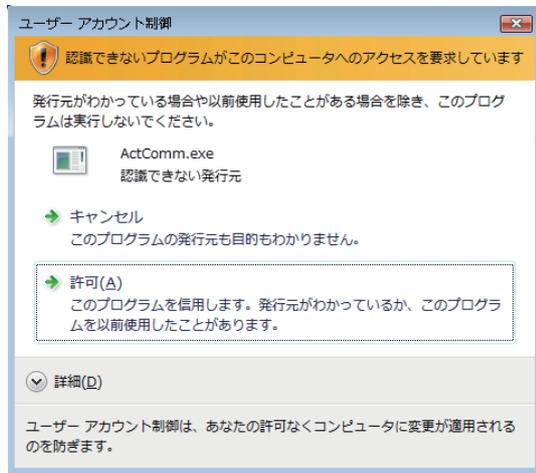
5. [閉じる]ボタンをクリックします。

# 付14 Windowsで表示される警告メッセージについて

## 警告メッセージの概要

Windows Vista以降では、ユーザーアカウント制御機能が追加されており、ユーティリティを管理者として実行するときに、警告メッセージが表示されます。( 88ページ ユーティリティを起動する)

<Windows Vista 使用時>



<Windows7 以降使用時>



# 警告メッセージの抑止方法

## Point

- ユーザーアカウント制御(UAC)は、意図しない操作を実行するプログラムの起動を防止するなど、システムの破壊などを防ぐための機能です。本設定を行う場合は、UACが提供するセキュリティ機能が働かなくなることを認識し、リスクを十分理解したうえで運用してください。
- Windows 8以降では、警告メッセージを出さずに許可する方法は行えません。

警告メッセージを抑止する方法は2つあります。

## ユーザーアカウント制御機能をオフする方法

ユーザーアカウント制御機能をオフする手順を下記に示します。

### ■Windows Vistaを使用する場合

#### 操作手順

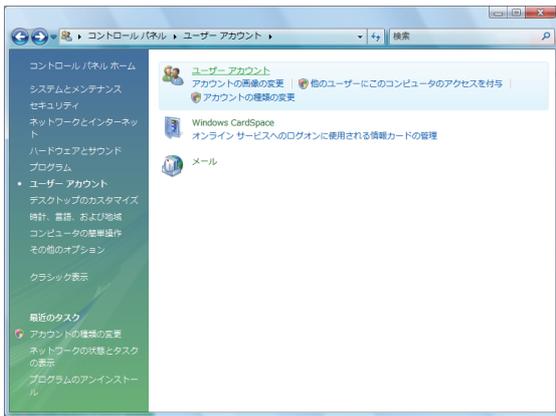


1. [スタート]⇒[コントロールパネル]を選択します。



2. [ユーザーアカウント]を選択します。





3. [ユーザーアカウント]を選択します。



4. [ユーザーアカウント制御の有効化または無効化]を選択します。



5. [ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる]のチェックをはずし, [OK]ボタンをクリックします。



設定完了

## ■Windows 7を使用する場合

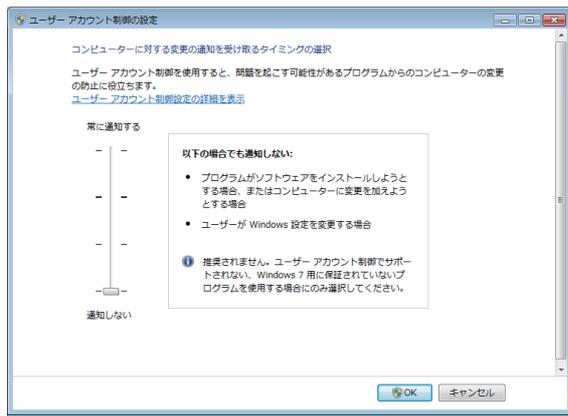
### 操作手順



1. [スタート]⇒[コントロールパネル]を選択します。

2. [システムとセキュリティ]を選択します。

3. [ユーザーアカウント制御設定の変更]を選択します。



4. スライダーを"通知しない"にして[OK]ボタンをクリックします。



設定完了

## 警告メッセージを出さずに許可する方法

警告メッセージを出さずに許可する手順を下記に示します。

### 操作手順



1. [スタート]⇒[コントロールパネル]を選択します。



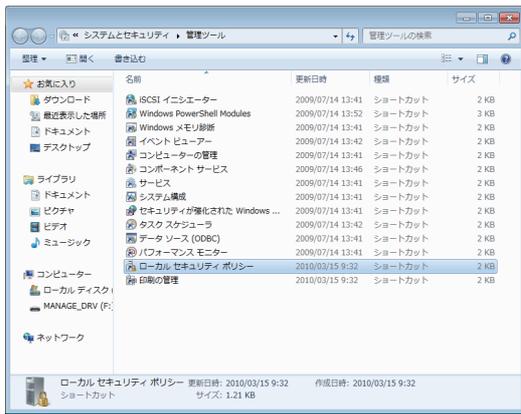
2. [システムとセキュリティ]を選択します。  
Windows Vista使用時は、[クラシック表示]を選択します。



3. [管理ツール]を選択します。



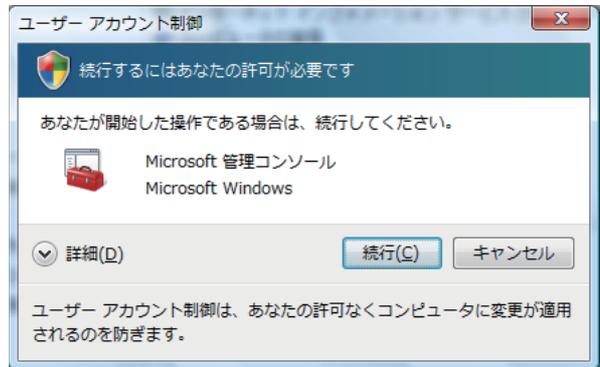
付



4. [ローカルセキュリティポリシー]を選択します。  
ユーザーアカウント制御が有効な場合は下記の画面が表示されます。

[続行]ボタンまたは[はい]ボタンをクリックします。

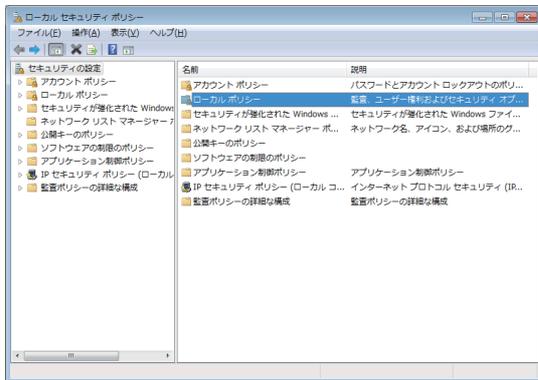
<Windows Vista使用時>



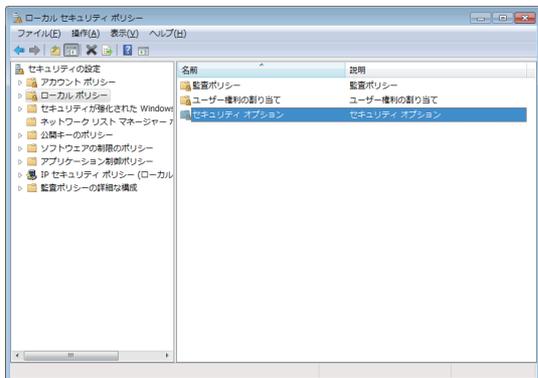
<Windows 7以降使用時>

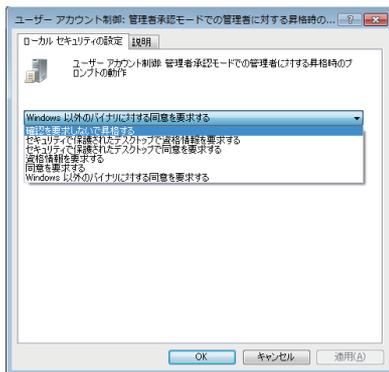
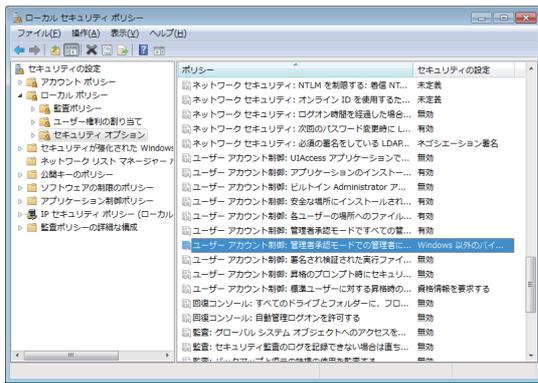


5. [ローカルポリシー]を選択します。



6. [セキュリティオプション]を選択します。





7. [ユーザーアカウント制御: 管理者承認モードでの管理者に対する昇格時のプロンプトの動作]を選択します。

8. [ローカルセキュリティの設定]タブで[確認を要求しないで昇格する]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

# 付15 トラブルシューティング

---

MX Componentを使用する上で発生するエラーの内容、およびトラブルシューティングについて説明します。

## インストーラ実行時に自己登録されない場合

Windows Vista以降のOSで正しくインストールができなくなる設定があります。

対処方法は、下記を参照してください。

☞ 60ページ インストーラ実行時に自己登録されない場合

# 付16 以前のバージョンより追加/変更になった機能

バージョンアップにともない、追加/変更された主な機能を示します。

対応バージョン	追加/変更された主な機能	追加/変更内容	参照
Version 4.00A	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Q172CPU, Q173CPU, Q172HCPU, Q173HCPU, Q172DCPU, Q173DCPU, Q172DSCPU, Q173DSCPU</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	ラベル	システムラベルに対応しました。	71ページ システムラベル
Version 4.02C	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Q03UDVCP, Q04UDVCP, Q06UDVCP, Q13UDVCP, Q26UDVCP</li> <li>Q24DHCCPU-V</li> <li>FX3GCCPU</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
Version 4.04E	PCタイプ	L02SCPU, L06CPU, L26CPUに対応しました。	—
	動作環境	Windows 8に対応しました。	49ページ 動作環境
	プログラミング言語	Visual C# .NETに対応しました。	67ページ Visual C# .NETを使用する場合
	開発ソフトウェア	Visual Studio 2012に対応しました。	49ページ 動作環境
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>接続局がFXCPUのCPU COM通信(CC-Link他局経由)</li> <li>接続局がFXCPUのUSB通信(CC-Link他局経由)</li> <li>接続局がEthernet アダプタのEthernet通信</li> <li>MT Simulator2通信</li> <li>接続局がFXCPUのシリアル接続GOTトランスペアレント通信(CC-Link他局経由)</li> <li>接続局がFXCPUのUSB接続GOTトランスペアレント通信(CC-Link他局経由)</li> <li>接続局がEthernetアダプタ/ユニットのGOTトランスペアレント通信</li> <li>接続局がFXCPUのEthernet接続GOTトランスペアレント通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.05F	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Q04UDPVCPU, Q06UDPVCPU, Q13UDPVCPU, Q26UDPVCPU</li> <li>Q12DCCPU-V(機能拡張モード), Q24DHCCPU-LS</li> <li>FX3SCPU</li> <li>GOT2000</li> <li>インバータ</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	開発ソフトウェア	下記ソフトウェアに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft Excel 2013(32ビット版)</li> <li>Microsoft Access 2013(32ビット版)</li> </ul>	49ページ 動作環境
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>接続局がインバータのインバータ通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.06G	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>R04CPU, R08CPU, R16CPU, R32CPU, R120CPU</li> <li>R16MTCPU, R32MTCPU</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	動作環境	Windows 8.1に対応しました。	49ページ 動作環境
Version 4.07H	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ロボットコントローラ</li> </ul>	36ページ システム構成
	開発ソフトウェア	Visual Studio 2013に対応しました。	49ページ 動作環境
	ラベル	システムラベルVer.2に対応しました。	71ページ システムラベル
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>接続局がロボットコントローラのロボットコントローラ通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.09K	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>FX5UCPU, FX5UCCPU</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>接続局がFX5CPUのEthernet通信</li> <li>接続局がFX5CPUのCPU COM通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.10L	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>R08PCPU, R16PCPU, R32PCPU, R120PCPU</li> <li>R08SFCPU, R16SFCPU, R32SFCPU, R120SFCPU</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>接続局がRnPCPU, RnSFCPUのEthernet通信</li> <li>接続局がRnPCPU, RnSFCPUのCPU USB通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲

対応バージョン	追加/変更された主な機能	追加/変更内容	参照
Version 4.11M	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• R04ENCPU, R08ENCPU, R16ENCPU, R32ENCPU, R120ENCPU</li> <li>• Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LS, R12CCPU-V</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	ラベル	システムラベルVer.2で5階層までの構造体に対応しました。	71ページ システムラベル
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• GX Simulator3通信</li> <li>• 接続局がRnPCPU, RnSF CPU, FX5CPUのGOTトランスペアレント通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.12N	PCタイプ	RnPCPUの二重化に対応しました。	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	動作環境	Windows 10に対応しました。	49ページ 動作環境
	開発ソフトウェア	下記ソフトウェアに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Excel 2016(32ビット版)</li> <li>• Microsoft Access 2016(32ビット版)</li> <li>• Visual Studio 2015</li> </ul>	49ページ 動作環境
	通信経路	下記の通信経路における他局指定にて、CC-Link IEフィールドネットワークを使用したFX5CPUへの接続を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続局がFX5CPU/RCPUのEthernet通信</li> <li>• 接続局がFX5CPUのCPU COM通信</li> <li>• 接続局がRCPUのUSB COM通信</li> <li>• 接続局がFX5CPU/RCPUのGOTトランスペアレント通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.13P	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• GX Simulator3通信(FX5CPU)</li> <li>• 接続局がLCPUのEthernet通信</li> <li>• 接続局がRCPUでパソコンボードを使用したCC-Link通信, CC-Link IEコントローラネットワーク通信, CC-Link IEフィールドネットワーク通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.14Q	PCタイプ	下記のパソコンボードにWindows 10で対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CC-Link Ver.2ボード</li> <li>• MELSECNET/Hボード</li> <li>• CC-Link IEコントローラネットワークボード</li> <li>• CC-Link IEフィールドネットワークボード</li> </ul>	35ページ Windows 10 Operating System使用時
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続局がFX5CPUのシリアル通信/USB通信/Ethernet通信/GOTトランスペアレント通信(CC-Link他局経由)</li> <li>• 接続局がQCPU/QJ71E71のEthernet接続GOTトランスペアレント通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.16S	開発ソフトウェア	Visual Studio 2017に対応しました。	49ページ 動作環境
	プロパティ	FX5CPUシミュレータのデフォルトポート番号を5511に変更しました。	—
	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• R00CPU, R01CPU, R02CPU</li> <li>• R08PSFCPU, R16PSFCPU, R32PSFCPU, R120PSFCPU</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	通信経路	下記のボードを使用して、RnPCPUへ接続する通信経路に対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CC-Link IEコントローラネットワークボード</li> <li>• CC-Link IEフィールドネットワークボード</li> <li>• CC-Link Ver.2ボード</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.17T	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• GX Simulator3通信(RCPU(R00, R01, R02), RnENCPU, RnSF CPU, RnPSFCPU)</li> </ul>	334ページ GX Simulator3 通信時
		CC-Link IEコントローラネットワークインタフェースボード(NZ81BD-GP21-SX)を使用した通信に対応しました。	—
	コントロール	ロギングファイル転送に対応しました。	📖MX Component Version 4 プログラミング マニュアル
	動作環境	Windows 10 IoT Enterprise 2016 LTSBに対応しました。	49ページ 動作環境
Version 4.18U	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続局がRCPUのEthernet通信(CC-Link IE TSNユニットを使用)</li> <li>• 接続局がRCPUのCC-Link IE フィールドネットワーク通信(CC-Link IE TSNユニットを使用)</li> <li>• 接続局がRCPUのUSB通信(CC IE TSN経由)</li> <li>• 接続局がRCPUのシリアルコミュニケーション通信(CC IE TSN 経由)</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲

対応バージョン	追加/変更された主な機能	追加/変更内容	参照
Version 4.19V	開発ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Excel 2019(32ビット版)</li> <li>• Microsoft Access 2019(32ビット版)</li> </ul>	49ページ 動作環境
	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• L04HCPU, L08HCPU, L16HCPU</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	通信経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続局がLHCPUのEthernet通信</li> <li>• 接続局がLHCPUのCPU USB通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲
Version 4.21X	PCタイプ	下記ユニットに対応しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• FX5UJCPU</li> </ul>	52ページ 使用可能シーケンサCPU
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続局がFX5UJCPUのEthernet通信</li> <li>• 接続局がFX5UJCPUのCPU COM通信</li> <li>• 接続局がFX5UJCPUのCPU USB通信</li> <li>• 接続局がFX5UJCPUのGOTトランスペアレント通信</li> </ul>	266ページ アクセス可能範囲

# MEMO

---

# 改訂履歴

\*取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

改訂年月	*取扱説明書番号	改訂内容
2012年7月 ～ 2019年4月	SH(名)-081082-A ～ SH(名)-081082-Q	e-Manual対応に伴う目次構成の見直しにより、改訂内容を削除
2020年1月	SH(名)-081082-R	マニュアルレイアウト変更による全面見直し ■追加・修正箇所 用語、2.2節、3.1節、5.1節、10.2節、10.3節、10.5節、10.6節、10.10節、付16
2020年11月	SH(名)-081082-S	■追加・修正箇所 安全上のご注意、製品の適用について、用語、2.2節、2.3節、2.4節、10.4節、10.5節、10.16節、10.18節、付10、付16
2021年11月	SH(名)-081082-T	■追加・修正箇所 商標

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、当社は一切その責任を負うことができません。

© 2012 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

# 購入に関するお問い合わせ

製品の購入のご検討やご相談はこちらからお問い合わせください。

## 三菱電機株式会社

本社機器営業部	〒110-0016	東京都台東区台東1-30-7 (秋葉原アイマークビル)	(03) 5812-1450
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1 (北海道ビル)	(011) 212-3794
東北支社	〒980-0013	仙台市青葉区花京院1-1-20 (花京院スクエア)	(022) 216-4546
関東支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11-2 (明治安田生命さいたま新都心ビル)	(048) 600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市中央区東大通1-4-1 (マルタケビル)	(025) 241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜市西区みなとみらい2-2-1 (横浜ランドマークタワー)	(045) 224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1 (金沢パークビル)	(076) 233-5502
中部支社	〒450-6423	名古屋市中村区名駅3-28-12 (大名古屋ビルヂング)	(052) 565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10 (矢作豊田ビル)	(0565) 34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区大深町4-20 (グランフロント大阪タワーA)	(06) 6486-4122
中国支社	〒730-8657	広島市中区中町7-32 (ニッセイ広島ビル)	(082) 248-5348
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8 (日本生命高松駅前ビル)	(087) 825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1 (天神ビル)	(092) 721-2247

# サービスのお問い合わせ

修理・サービスに関するお問い合わせはこちらにお問い合わせください。

## 三菱電機システムサービス株式会社

北日本支社	(022) 353-7814	北陸支店	(076) 252-9519
北海道支店	(011) 890-7515	関西支社	(06) 6458-9728
東京機電支社	(03) 3454-5521	京滋機器サービスステーション	(075) 611-6211
神奈川機器サービスステーション	(045) 938-5420	姫路機器サービスステーション	(079) 269-8845
関東機器サービスステーション	(048) 859-7521	中四国支社	(082) 285-2111
新潟機器サービスステーション	(025) 241-7261	岡山機器サービスステーション	(086) 242-1900
中部支社	(052) 722-7601	四国支店	(087) 831-3186
静岡機器サービスステーション	(054) 287-8866	九州支社	(092) 483-8208

# 商標

Intelは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの登録商標または商標です。

Javaは、Oracle Corporationおよび/またはその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft, Microsoft Access, Excel, Visual Basic, Visual C++, Visual C#, Visual Studio, Windows, Windows Vista, およびWindows XPは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本文中における会社名、システム名、製品名などは、一般に各社の登録商標または商標です。

本文中で、商標記号(™, ®)は明記していない場合があります。

SPREAD

Copyright © 2004 FarPoint Technologies, Inc.

VSFlexGrid8 Pro

Copyright © 2008 ComponentOne LLC, All rights reserved



# 三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)

## 仕様・機能に関するお問い合わせ

製品ごとにお問い合わせを受け付けております。

●電話技術相談窓口 受付時間\*1 月曜～金曜 9:00～19:00、土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

対象機種	電話番号	自動窓口案内 選択番号*7	
自動窓口案内	052-712-2444	-	
エッジコンピューティング製品	産業用PC MELIPC Edgecross対応ソフトウェア (NC Machine Tool OptimizerなどのNC関連製品を除く)	052-712-2370*2	
シーケンサ	MELSEC iQ-R/Q/L/QnAS/AnSシーケンサ(CPU内蔵Ethernet機能などネットワークを除く)	052-711-5111	
	MELSEC iQ-F/FXシーケンサ全般	052-725-2271*3	
	ネットワークユニット(CC-Linkファミリー/MELSECNET/Ethernet/シリアル通信)	052-712-2578	
	MELSOFTシーケンサエンジニアリングソフトウェア	MELSOFT GXシリーズ(MELSEC iQ-R/Q/L/QnAS/AnS)	052-711-0037
	MELSOFT統合エンジニアリング環境 iQ Sensor Solution	MELSOFT Navigator	052-799-3591*2
	MELSOFT通信支援ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ	
	MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど	052-712-2370*2
	C言語コントローラ/C言語インテリジェント機能ユニット		2→4
	MESインタフェースユニット/高速データロガーユニット/高速データコミュニケーションユニット/OPC UAサーバユニット システムレコーダ		052-799-3592*2
	2→5		
MELSEC計装/iQ-R/Q二重化	プロセスCPU/二重化機能 SIL2プロセスCPU (MELSEC iQ-Rシリーズ)	052-712-2830*2*3	
	プロセスCPU/二重化CPU (MELSEC-Qシリーズ) MELSOFT PXシリーズ		
MELSEC Safety	安全シーケンサ (MELSEC iQ-R/QSシリーズ) 安全コントローラ (MELSEC-WSシリーズ)	052-712-3079*2*3	
電力計測ユニット/絶縁監視ユニット	QEシリーズ/REシリーズ	052-719-4557*2*3	
2→8			
2→9			
FAセンサ MELSENSOR	レーザ変位センサ ビジョンセンサ コードリーダ	052-799-9495*2	
6			
表示器 GOT	GOT2000/1000シリーズ MELSOFT GTシリーズ	052-712-2417	
4→1 4→2			
SCADA GENESIS64™		052-712-2962*2*6	
サーボ/位置決めユニット/モーションユニット/ シンプルモーションユニット/モーションコントローラ/ センシングユニット/組込型サーボシステムコントローラ	MELSERVOシリーズ	1→2	
	位置決めユニット (MELSEC iQ-R/Q/L/AnSシリーズ)	1→2	
	モーションユニット (MELSEC iQ-R/iQ-Fシリーズ)	1→1	
	モーションソフトウェア	1→1	
	シンプルモーションユニット (MELSEC iQ-R/iQ-F/Q/Lシリーズ)	1→2	
	モーションCPU (MELSEC iQ-R/Q/AnSシリーズ)	1→1	
	センシングユニット (MR-MTシリーズ)	1→2	
	シンプルモーションボード/ポジションボード	1→2	
	MELSOFT MTシリーズ/MRシリーズ/EMシリーズ	1→2	
	052-712-6607		
センサレスサーボ	FR-E700EX/MM-GKR	052-722-2182	
インバータ	FREQROLシリーズ	052-722-2182	
三相モータ	三相モータ225フレーム以下	0536-25-0900*2*4	
産業用ロボット	MELFAシリーズ	052-721-0100	
電磁クラッチ・ブレーキ/テンションコントローラ		052-712-5430*5	
データ収集アナライザ	MELQIC IU1/U2シリーズ	052-712-5440*5	
7→2			
低圧開閉器	MS-Tシリーズ/MS-Nシリーズ US-Nシリーズ	052-719-4170	
7→1			
低圧遮断器	ノーヒューズ遮断器/漏電遮断器/MDUブレーカ/気中遮断器 (ACB) など	052-719-4559	
電力管理用計器	電力量計/計器用変成器/指示電気計器/管理用計器/タイムスイッチ	052-719-4556	
7→3			
省エネ支援機器	EcoServer/E-Energy/検針システム/エネルギー計測ユニット/ B/NETなど	052-719-4557*2*3	
7→4			
小容量UPS (5kVA以下)	FW-Sシリーズ/FW-Vシリーズ/FW-Aシリーズ/FW-Fシリーズ	052-799-9489*2*6	
7→5			

お問い合わせの際には、今一度電話番号をお確かめの上、お掛け間違いのないようお願いいたします。  
 ※1: 春季・夏季・年末年始の休日を除く ※2: 土曜・日曜・祝日を除く ※3: 金曜は17:00まで ※4: 月曜～木曜の9:00～17:00と金曜の9:00～16:30  
 ※5: 受付時間9:00～17:00 (土曜・日曜・祝日・当社休日を除く) ※6: 月曜～金曜の9:00～17:00  
 ※7: 選択番号の入力は、自動窓口案内冒頭のお客様相談内容に関する代理店、商社への提供可否確認の回答後をお願いいたします。

●FAX技術相談窓口 受付時間 月曜～金曜 9:00～16:00 (祝日・当社休日を除く)

対象機種	FAX番号	対象機種	FAX番号
電力計測ユニット/絶縁監視ユニット (QEシリーズ/REシリーズ)	084-926-8340*10	低圧遮断器	084-926-8280*10
三相モータ225フレーム以下	0536-25-1258*8	電力管理用計器/省エネ支援機器/小容量UPS (5kVA以下)	084-926-8340*10
低圧開閉器	0574-61-1955*9		

三菱電機FAサイトの「仕様・機能に関するお問い合わせ」もご利用ください。  
 ※8: 月曜～木曜の9:00～17:00と金曜の9:00～16:30 (祝日・当社休日を除く) ※9: 月曜～金曜の9:00～15:00 (祝日・当社休日を除く)  
 ※10: 電力計測ユニット/絶縁監視ユニット (QEシリーズ/REシリーズ)、低圧遮断器、電力管理用計器/省エネ支援機器/小容量UPS (5kVA以下) のFAX技術相談窓口は2021年12月末をもってサービスを終了いたします。  
 お問い合わせについては、三菱電機FAサイトの「仕様・機能に関するお問い合わせ」をご利用ください。三菱電機の「FAトップ」お問い合わせ仕様・機能・ウェブページからお問い合わせいただけます。

三菱電機 FA

検索

[www.MitsubishiElectric.co.jp/fa](http://www.MitsubishiElectric.co.jp/fa)

**メンバー  
登録無料!**

### インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

## SH(名)-081082-T(2111)KWIX

形名: SW4DNC-ACT-O-J

形名コード: 13JD53

2021年11月作成  
標準価格 3,000円

本マニュアルは、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。  
 この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が付加されますので承知置き願います。